S-8 婦年
No.12-1

第13回全国婦人会議

17回 婦人団体

私たちの生活と文化

労働省・NHK

東京
婦人少年室
東婦収才 1 号
41.4.12

403 12月 1965

目次

はしがき……二
全国婦人会議の組織……三
全国婦人会議次第……四
記念講演　評論家　笠　信太郎……五
部会
第一部会……一三
第二部会……九三
第三部会……一二七
第四部会……二〇一

はしがき

労働省・NHKでは、第十七回婦人週間（四十年四月十日～十六日）の中央行事として、四月十三日から十六日までの四日間、東京において第十三回全国婦人会議を開催いたしました。

会議は全国から応募した二、八八二名の中から、中央選考委員会の書類選考によつて選ばれた六十名の婦人が参加し、「私たちの生活と文化」をテーマとして行ないました。

第一日目午前の開会式には、全国婦人会議選考委員長　笠　信太郎氏の記念講演や外国からのメッセージ朗読等を行ない、同日午後から第二日目にかけて、リーダーの助言のもと、四つの部会に分かれて話し合が行なわれました。第三日目は都内において、移動会議を実施し、各種施設を訪問し、見学・懇談しました。最終日の総会では、会議員及び部会リーダーによる部会報告ならびに一般傍聴者との質疑応答が行なわれ、続いて第十七回婦人週間の特別来賓として来日された、マリア・ゲパート・メイヤー博士（一九六三年ノーベル物理学賞受賞、米国カリフォルニヤ大学教授）による講演が行なわれました。

なお、全国に組織をもつ婦人団体や労働組合婦人部等から推せんされた方々や、青年の方々に、特別オブザーバーとして参加していただき、話しあいの傍聴と意見発表をお願いして会議を援助していただきました。

ここに会議の速記を集録いたします。婦人問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いと存じます。なお紙数の都合で割愛した部分があることをお断りいたします。

昭和四十年十二月

労働省
NHK

全国婦人会議の組織

名　称　全国婦人会議
　　私たちの生活と文化
主　催　労働省・NHK
期　日　昭和四十年四月十三日～十六日
場　所　東京（産経会館・虎ノ門共済会館・NHKホール）
会議員　六十名（全国からの応募者の中から中央選考委員会が決定）

会議の構成　総会、部会、移動会議により構成

部　会
第一部会
第二部会
第三部会
第四部会　「私たちの生活と文化」
急速に進展する今日の社会における文化の現状について検討し、人々が豊かな人間性と誇りをもつて生きうるよう、生活によりよい文化をつちかうとともに、良き文化的遺産を次の世代に伝えるために、婦人がどのように生活を設計しその役わりを果していくべきかについて討議する。

移動会議
第一部会　西新井第一団地
第二部会　日本民芸館
第三部会　警視庁通信指令室・交通情報センター
第四部会　日本点字図書館

中央選考委員
評論家　笠松信太郎
学習院大学教授　小松茂夫
評論家　渡辺智多雄
東京大学助教授　岡部慶三
作家　中里恒子
NHK教育局長　吉田正
NHK教養部長　一戸久
労働省婦人少年局長　谷野せつ
労働大臣官房長　和田勝美

部会リーダー
第一部会　小松茂夫
第二部会　渡辺智多雄
第三部会　岡部慶三
第四部会　中里恒子

特別オブザーバー
全国組織の婦人青年団体役員
全国組織労働組合役員

事務局
労働省婦人少年局婦人課
NHK教育局

全国婦人会議次第

四月十三日（火）
開会式　一〇・三〇～一一・三〇
一合　唱　「世界の花」一
開会のことば
　労働省婦人少年局長　谷野せつ
あいさつ
　労働大臣　石田博英
　NHK会長　前田義徳
来賓祝辞
　一九六三年ノーベル物理学賞受賞
　マリア・ゲパート・メイヤー博士
　（米国カリフォルニヤ大学教授）
選考委員長・会議員・部会リーダー紹介
記念講演　笠信太郎
（全国婦人会議選考委員会委員長）
外国からのメッセージ
部　会　一三・〇〇～一七・〇〇
四月十四日（水）
部　会　一〇・〇〇～一七・三〇
（全体での話し合い一六・〇〇～一七・三〇）
四月十五日（木）
移動会議
　第一部会　西新井第一団地（婦人の自治会活動）
　第二部会　日本民芸館（庶民の生活文化財の美と保存）
　第三部会　警視庁、通信指令室・交通情報センター
（住民の安全、交通の調整）
　第四部会　日本点字図書館（身体不自由な人々の文化と民間人のボランタリーサービス）
四月十六日（金）
総　会
一合　唱　「世界の花」一
第一部
あいさつ
　NHK教育局長　吉田正
経過報告
　労働省婦人少年局婦人課長　高橋展子
全体での話し合い　部会リーダー・会議員・傍聴者
司　会　鈴木健二アナウンサー
第二部
特別講演　一九六三年度ノーベル物理学賞受賞
　マリア・グパート・メイヤー博士
　（米国カリフォルニヤ大学教授）
アトラクション
　歌　坂本博士ほか
　伴奏　寺島尚彦とリズムシャンソネット
閉会のことば
　労働省婦人少年局長　谷野せつ

記念講演

「文化と生活
―会議の主題にちなんで―」

評論家　笠信太郎

この度の全国婦人会議の主題は大変に大きく、そして非常にむつかしいものであります。生活と申しますと、生きている私どもの一切合切という感じであり、文化というのも、私たちをして生甲斐あらしめるもの、そのために創り出す一切のものだというふうに考えると、まるで取りとめがありません。特に私は、学問が浅いので、この会議の主題にちなんで何かいえというお話がありましたとき、全く当惑いたしました。

しばらく考えておりました末、ついに私は、こんどの会議にこの問題についてお考えをお出しになつた皆さんの所感文に、すがろうと思いつきました。

大変ずるい話でありますが、本日ここに全国の応募者約三千人の中から選ばれて御出席になつている六十名の皆さまの文章が整理されるのを待つて、それを全部、改めて読ましていただきました。

そして、その中から、生活とは何であるか、文化とは何であるか、そしてこの二つの言葉のもつ内容は、実際の中では、どういうふうにからみ合つているのか。それを、皆さま方に教えていただいたのであります。

それにもとづいて、ここに多少の感想を申上げようとするのでありますが、まるで、先生たちのもつている虎の巻を先によんでおいて、何とか答案を書こうとしている生徒のようなものであります。

しかし、私は、皆さまの文章を拝見して、ともかく大いに感動いたしました。一体、男は何をしているんだといつた感じさえいたします。

第一に、皆さま、実によく皆さまの身辺、周辺を見ておられる。一人の主婦として、あるいは、一人の母親として、一人の教師とし

て、その目が大変鋭いのであります。実は私は、考えることよりも見ることこそ大切だと思つているものです。で、もし戦前におきまして、こういう所感文を募集いたしましたなら――私の想像でありますが――やはり立派な文章が集まつたであろうと思います。しかし、その文章は整つてはいても、書かれる方のすべてが、恐らく頭の中で考えられたことを書かれたろう。

そして恐らく、学校で学ばれた智識にもとずいて書かれただろうと思われます。さらに、もう一つ付け加えますならば、多分、良妻賢母といつた立場から、これを論じられたのではなかろうかと思います。

皆さまの所感は、これとは全く違つております。場合によるとその反対といつてもよろしい。ほとんど、捉われるところがない。少くとも、自分自身の眼を信じて、何ものにも捉われまいと努力しておられることがうかがわれます。これは、まつたく戦後の新しい状況であります。私は、しばらく、文化ということを定義いたしませんが、こうした状況自体、日本の文化が明かに一進展をした一つの証拠だといつて差支えなさそうに思います。

皆さま方の意見の中で、一、二、かなり共通であつて、しかも目立つものを最初に挙げてみたいと思います。

その第一は、文化、文化というが、文化とは一体何であるか、といささか文化に対する疑惑を打出しておられます。

それは例えばこういうことです。「一町や五反の農家が、何十万円という耕うん機を買い込む、それを使える農期といえば、ほんのわずかである。その息子は、バスで通えるのに、オートバイで高校に通う。あまり見ているヒマもないのに、テレビを買い込む。これは、最近の農村にほとんどあまねく流行している傾向ですが、こんどは、こうしてかさむ出費に追われて、現金を得るために、一家の主人か、主婦かが、どこか遠くへ出かせぎに行く。そうなると、まず子供たちの教育に問題が起る。夫婦の間にも問題が起りかねない。これは農村が次第に都会化してきた現在、あちこちに見られるアンバランスですが、このアンバランスを鋭く指摘し、そうしていわば物質的文化が、ほんとうの文化を殺してしまおうとしているといつた一面を、えぐり出しておられます。

この種のことを、「ニセものの文化」が横行しているのではないか、というふうに表現されているかたもあります。

そして同時に、「レジャーや消費文化の宣伝」に抗して、私たちはそういうニセものを見分けて「ものごとの本物を見きわめる目」をもちたいと主張されている。また、ほかのかたは、「文化を取り入れるのに家庭生活や人間性を殺さぬようにしたい」といつておられる。

以上は、今の文化への疑惑を投げかけたものであります。

そしてこれは、電化製品のことばかりを意味いたしません。根深い社会慣習や、迷信や、流行にむかつて、けなげに対抗しておられる態度とも、共通のものがあります。

どこか一軒の家が小型自動車を買い込む。するとそれが、たちまち拡がる。たれかが出稼ぎに行く。するとあつちにもこつちにも出稼ぎが、はやり出す。こういつた日本の社会、農村にも都会にも通じて見られる日本の社会の弱点に対して、ここにお集りの方々は、ほとんどが抗議をしておられます。場合によると、今の社会の「制度」そのものの中で、おかしな点に対しても、これに敢けないで、

対抗し、これを変えようと、働きかける勢いを示しておられます。

これは私、正しいと思います。

もし人間の最初の「文化」が、その文字の原語であるカルチユアとかクルトウアとかが意味しております通り、耕すということ、「自然」にむかつてクワを入れて、ものを養い育て生産する。作り出す、ということであるとしますならば、ここで皆さまがやつておられることは、その対象こそもう粗野な「自然」じやなくて、ずつと進んできている人間社会に、その制度に、その慣習に、その慣れきつている考え方に、クワを入れて、そこから何ものか新しいものをクリエートする。作り出そうとされているわけでありますから、これは、まさしく「文化」を進めつつあるということができるのであります。

文化とは、そこにある資材や材料ではありません。その資材から新しいものをつくり出すということでありましようから、まず、その資材をどのように選択し、より分け、どう受け入れるか、というところに一つの重い意味があります。

それは、皆さまがたの中のどなたかの言葉でいうと「ニセの文化」をふるい落すということでもあります。しかし、そのふるい落し方が問題であります。

いろいろの電気器具がみな文化的な所産でないとはいえません。しかし、これを受け入れるとき、受け入れる側に、まず、いろいろの条件があります。生活がまだ一般的に貧しくて、高価な電気器具を買入れることによつて、出稼ぎを必要とするというようなことになりますと、それは果して家庭生活としてきれいにバランスするものかどうか、電気器具に引ずり回されたりすることにはならないか、それを考えてみる必要がありましよう。

しかしまた一方では、ある主婦のかたがおつしやるには、電気器具などを用いるようになつて、「四年前にくらべると主婦の労働時間を三時間二十五分もきりつめることができるようになつた」というのであります。同時に、そこから生まれた余暇を極めて有効に使つているという報告であります。これは、このかたの家庭に、ある程度の経済的なゆとりがあつたという条件によるものであります。この場合には、電気器具を取入れることによつて確かに生活は文化的に一歩を進められたということができようと思います。

こういう、バランス、アンバランスの考慮がこの場合は、たいへん大切であります。と同時に、皆さまの所感文を通してみますと、皆さん方ご自身は、そうではないけれども、いまの、社会にはほうぼうにひどいアンバランスが出ておつて、そのアンバランスが、むしろ生活に逆襲してきている様子がうかがわれます。これが実際の現状であります。一般的な現実であります。

こういうことが、御報告によつてハツキリわかります。

これに関連して、いま一つ二つ、特にピカリと光つているような体験の報告を取り上げてみたいと思います。

たいていの農家ではいまでもやつているように、井戸が家の外にありますので、雨がふつたり、雪がふつたりするときにも、灯をつけて、寒いところを、遠く離れた外に水くみに行かねばなりません。これは思うだに、大変つらい労働であります。ところが、ある農家の主婦であるかたは、カケヒの水からヒントを得て、落下式簡易水道を自分で作ろうとされました。ところが近所がやかましい。自分のカラダを使えばいいものを、高いお金を出してと、村中の人が注

視と悪口を浴びながら、つくられました。でき上がつたら、もう何の弁解も必要ではなかつた。工事を手伝つてくれた人たちの家からまず順々に、この簡易水道はたちまちにして村中に普及して、いまでは村のどの家でも蛇口一つひねることで、水汲みの重労働から解放されたと報告されています。

私は、これなどは村の現状にふさわしい選択であり、小さなことのようですが独特の創造であると思います。また、そのための一つの積極的な行動であります。生活の真只中から文化の前進に貢献されたと申してよいと思います。

もう一つ—

本土からはるか南方にある一つの島で、地図の上では探しにくいほどの小島ですが、大変おくれた、ハブやハエも多く、水道も便所もまだ共同使用ということですから、およそ普通の想像を越えた僻地であります。そこへ、ご主人と赴任されたかたが、懸命の努力をなさるが、なかなか島の人たちとうまく折合いがつきかねる。これは長い間の島津藩の圧政のしこりで、「大和んちゆ」といつて、本土人に対して、警戒の念が強く、いつも反ばつの気構えを島の人々がもち、その辺が思うようにいかなかつたのです。このかたが、この大変おくれた島にある唯一最大の誇りで、長い伝統をもつ紬織りを自分でも始められたそうです。不思議なことに、紬を織ることで、急にその人たちとの間に親近感と信頼感が深まつてきました。「相互信頼の鍵がここにかくされてあつた」とそのかたは書いておられます。

私はここを読んだとき、いささかハツといたしました。一つの文化が、人間の間を取りもつたのです。島の人たちが非常に大事にしている貴重な文化に対して、身をもつてされた理解が、こうした人間的な心の通いを生んだものだと思います。

この話は、文化とは何であるかということを、端的に示しておりますと同時に、いろいろと深い暗示を与えているように思います。

× × ×

さて、こうしたお話を長くつづけることができないのは残念であります。

というのは、ここにご出席の皆さまは、以上申上げましたようにいまの日本の社会に進行中の一つの大きな変化の過程に、けなげに対処して、ニセものとホンものを見分け、条件に合うものと、合わないものを選別し、吸収し、そこに自主的なもの、自分のからだにぴつたりするものを創り出そうと努力されているわけですが、一般的にはどうかというと、まだまだ低い生活の水準に打勝てないでいると同時に、はんらんする流行や宣伝、激しい競争をしている企業のあつかましい商業主義にまけて、混乱が続いています。これが問題であります。ことに農村の一部では、家の中に流しがなく、主婦たちはみんな腰をかがめて仕事をしているのに、さきほど申しましたようにテレビは買い込んでいるといつた始末で、全く調子の合わない混乱が出ております。都市の団地などでは、レジャーばやりだというばかりでなく、一般に欲望が自分たちの家計とは関係なく高まり、そのために共稼ぎがやめられぬとか、あらたにパートタイマーに迫られたりいたしますが、その子供たちの世話をする準備は、社会的にはできていない。こうしてお互いに文化を求め、お互いにひとのまねをすることによつて、その不調和から何やら、いよいよ気ぜわしい気持になる。しかも、お互いにまねはするが、何かでお互いに協力しようとはしない。お互いに手をつなごうとする社会的な意識

は至つてとぼしい。何か、チグハグで、結極「落ちつけない」というのが、一般の目立つた状況であります。皆さまの中のどなたかが書いておられますように、「買つても買つても次々に買わねばならないような現在の生活」、の「落つきのなさ」がそこにあります。

この落着きのなさ、何かを求めて、しよつちゆう爪立つていたり、何かわからぬけれども、いつも何かを待つているといつた気分は、これは、戦後の社会の一つの特徴でもありますが、よくよく考えてみると、これはまた、この日本と日本人の今日までの長い間の在り方の中にある、一つの極めて注目すべき特質であり欠点であります。

私は、はつきりと自分自身のものと確信される文化をもつということは、非常に重要なことで、国民の自信と落着きは、そこから生まれてくるのだと考えております。しかし、国の歴史的な地位というか、運命というか、その国民自身では容易には変えることのできないような回り合わせがあります。そしてそれは、この文化にも、ついて回ります。

日本人は、過去のいろいろな仕事からいつて、すこぶる能力をもつた国民だということが、私はいえるように思うのですが、しかし今日までまだ十分にその自分の独自の能力を発揮できなかつたように思われます。

例えば、漢字という形象文字を輸入して、そこから、万葉ガナを作り出し、また純粋な表音文字であるカナを作り出して、立派に自分本来の表現方法を確保したということなどを考えますと、もし日本人が、その能力を本当に発揮するなら、大変な仕事ができるということを意味いたしていると考えます。

しかし、日本人はそのチャンスをもたなかつたようであります。歴史の経過は、一つの運命でありまして、日本はいつも、その周辺の外国で先に発展した文化を受入れるような回わり合わせになつておりました。奈良朝時代には唐の最盛期の文化を、鎌倉時代には宋の文化を、徳川時代には明・清の文化を、それぞれ生きたまま輸入することにありました。それも、生きた人間が、向う へ留学したり向うの生きた人間がこちらにやつてきたりして、ナマのままの文化が多くは直接に入つてきております。このことは、自分自身の文化を、根本から育ててゆくだけの、時間的にも、気分の上でも、ゆとりのない状態に運命的におかれていたということでもあります。

明治になつては、それが一層激しくなつて、西欧諸国やアメリカ文化が、時を移さず次から次へと、息をつくまもなく、これまた生々発剌とした生きたままの形で、入つてまいります。こうなると、自分のものを作つているヒマなどはまつたくないことになります。

面白い例を一つ取上げますと、徳川後半期に日本で盛んにはやつたあの南画をご覧になると、みな中国の風景であります。日本にはない突こつたる山が重なり合い、その下をけい流が流れておつて、そこにかかつている橋は中国風の橋で、その上を中国の老人がツエをついて渡つているとか、あるいはこれまた日本にはありそうもない高いがけの上に作られた小さな中国風のあづまやの中で、これまた中国の老人が閑談をやつているといつた風流な画。おそらく、これを画いた人には一度も中国に行つたこともない画家が多かつたろうと思われますが、それが画をかくということになると、こういつた画をかいて一向に不思議ともせず、平気でおりました。そして肝腎の日本の田園風景をこうした方式で画いたものはまことに少いのであります。

これは自分の目でみたものではなく、一つの中国風の観念で絵を画いたといつてもよかろうと思います。

ところで、明治になつて早々、さすがに、こういう画は面白くないという南画排その新しい運動が起りました。岡倉天心などの運動であります。そこで、こんどは油画をかく人がだんだん多くなつてくるのですが、その多くはフランスの印象派を学んだものであります。この日本の洋画を見て、イギリスの詩人ブランデンさんが、ブランデンさんは日本に大変理解をもつ詩人でありますが、もう十年ほど前に日本にやつてきましたときに、申しましたことが面白いのです。

こんなことをいいました。

「日本人はほんとうに画がうまい。どこの小さなレストランに入つても、印象派風の画の一つや二つ、かかつていないということはない。しかし、その画をよくみると、それは印象派の画というよりは、フランス印象派の印象である」と、こういうのです。ものを写生したものではなく、印象派を写生したものだという意味でありましょう。そこで、ブランデンさん、言葉をついでいうには「絵かきさんたちよ、しばらく絵筆をおいて、あなたが画こうとしている対象を、あなたの目で、よくよくご覧なさい」。

こういつたのです。これは大変な皮肉でもあります。自分の目で画いたものではなく、印象派の目で画いているということでありますから、どうもこれは、徳川末期の南画かきが、南画をかいていた姿勢と同じようなところが、ないでもないのであります。

これは、外国の文化を取入れたというよりは、外国の文化を頭から引かぶつて、自分というものが失くなりそうな姿であります。

明治になつてから西洋の文物の流入は、非常に急速で、文字通り応接にいとまがなかつた。むしろ、こんなに早く、こんなにうまく西洋文化を消化したその能力を評価すべきだとも思われるのでありますが、しかしとにかくその結果は私達は、自分で直接に、ものを見、社会を見て、ものごとの根本から自分でやつてみるという、ゆとりを持つことができなかつたのです。そこで長い時間と根気をかけ、ものごとを根本から掘り起こして、前人未踏の大きな仕事をしたというものが、遺憾ながら日本人には欠けております。よく百尺竿頭一歩を進めると申しますが、百尺の土台があると、その上に一歩を進めることは案外うまいのですが、百尺そのものは自分で作り上げようとしないのです。日本の現代の文化には、深い根底が欠けております。学者たちも、丸善の棚に並ぶ外国書を競つて買つてゆくことに忙しかつた。自分自身で根本からものを見、考えるということが少かつたのです。

この戦後ですら、多少の発明、発見はありましたが、多くは外国のパテントを輸入して、あの経済成長をやつたようなものであります。

この状況は丁度、現在の日本の農村に都会のほうから電気ガマや冷蔵庫その他の電気器具がどしどしはいつてくる有様と、よく似ております。極端な場合には、テレビは近所への見栄で、実際には飾りになつているといつた状況であります。むろん、やがては調子がとれるようになりましょう。しかし、それはちょうど明治の初期、中江兆民などによつて「自由」という観念が輸入されたときの調子に、よく似たものがあります。そのころまで、日本には「自由」という言葉すらなかつたのであります。自由、不自由という言葉はあ

つても、いま皆さまが用いておられるような、社会的、政治的意味の「自由」という言葉はなかつたのです。何しろ、この「自由」に当る事実がなかつたのですから。それからいまや百年ですが、「自由」は長いあいだ忙しい農家のテレビ同様、飾りものだつたわけです。自由ばかりではありません。ありとあらゆる思想、制度、法律戦争のやり方に至るまで、次から次に、新しいものが、はいつてくるのですから、国民はいつも何かを外に期待し、何かを待つている気持になります。それでは生活はなかなか落着けないのです。いまの農村が、落つきを失いがちであるのと、よく似ております。この特徴は、大きくは国民、小さくは個人々々に及んでおります。

この点が、自分の文化を築いてゆくに当つて、参考にすべきお手本というものを殆んど持つていなかつた西洋の諸国、イギリス、ドイツ、フランス、イタリーなどの、この千年間の発達と、根本的にめぐり合せがちがいます。かりに、この連中が、参考にしたものがあつたとすれば、ギリシヤ、ローマの古代文化ですが、それはもうとつくに皆な死んでしまつておつて、いわば地の中から掘り起すようなものですから、そこに自分たちとの間に距離があり、したがつてそれを参考にするにしても、十分のゆとりがあります。そして仕事は、ほとんどすべて、自分の力で開発してゆくよりほかはなかつた。千年のあいだ、ちようど、自分のデザインで、煉瓦を一枚一枚積み上げて家を建てていつたようなもので、いつの時代でも、いま自分が足もとにおいた煉瓦が、一ばん高いところにあります。その上にのつて見渡すと、遠くに見えるよその家は、はるかに低いところにあつて、自分の建てようとする家のお手本にはなりません。こうして数世紀のあいだ、お手本をもたずに煉瓦積みをやりながら今日に至つているのでありますから、頼むものはただ自分自身ということになります。文化がそのまま自分の生活と一致していると申してもよさそうであります。

これは一般的に心の落着きをもたせます。私は、真実の文化とは、そのようなものであろうと思います。その上に、自分の気持を安心して乗せていられるようなものであります。

さきほどの紬織の上に、その扇の人たちの心はやすらげていたのでありましよう。そこで、紬を一緒に織るということの中に、「相互信頼の鍵」がみつかつたとおつしやるのは、その辺のところを、よく物語つております。

外からの文化が、吾々の生活圏の中にはいつてくることは、致し方ないというよりは、むしろ有難いことであります。その意味では、この日本は、ちようど地曳き網の底みたいに、ありとあらゆる文化が古くから今日まで、そこにとどまつて、網の底はふくらんでおります。今後も、はいつてまいります。それをどう受止めるか、その受止め方に、私達の賢明と知恵と意志がはたらきます。しかし、できることならば、さつきの落下式簡易水道のように、しかしながらそれがもつと大きな、世界的な規模で、私たち日本人の創意がはたらいた結果として、根本的なものが生み出されてきますならば、それこそいちばん願わしいのであります。こうした自主的な活動の中で、自分自身を頼りとする活動の中で、はじめて生活の落着きが出てまいりますし、心の平安が出てくるのだと思います。たいへん大まかな話ですが、これが私どもの今後の心がけであろうと考えます。

短いお話にもかかわらず、大変ごたごたいたしまして、さぞお聞きづらかつたろうと思います。どうか、この一両日、皆さまのご勉

強を祈りまして、ここにご清聴を感謝すると共に、所感文の皆さまに特に敬意を表する次第であります。

第一部会

会議員

青森	村井喜久子	(無職)
栃木	石川麗子	(会社員)
東京	尾島由紀	(無職)
神奈川	遠山正子	(無職)
福井	幸道八重子	(商店経営)
岐阜	南雲和子	(無職)
静岡	水野シヅ	(会社員)
愛知	鈴木茂子	(無職)
大阪	山名好子	(料理学校講師)
鳥取	吉田信子	(農業)
山口	日下由紀子	(薬剤師)
香川	楠秀子	(無職)
長崎	江里光代	(無職)
大分	柾木道子	(養鶏業)
宮崎	下郡多美子	(無職)

リーダー　小松茂夫（学習院大学教授）

特別オブザーバー

井本幸子（全国友の会）
梶原松子（日本生活協同組合連合会婦人部全国協議会）
佐藤美恵子（全日本労働総同盟）

第一日目　四月十三日　一三・〇〇～一七・〇〇

小松　最初に、まず一切の心配を抜きにして問題を出しましょう。下郡さんに書いてある項目にはとらわれないでいゝわけでしょう？

小松　そうです、それと何々県とお名前をおつしやつて下さい。

下郡　私は女性の人格形成の手段である婦人の話し合いの場を再検討する必要があるのではないかと思います。今日まで婦人の話し合いの場はいろんな形でつくられていると思いますが、団地生活をしておりましても全く私どもにお誘いがない。私が不勉強のせいだと思いますが、もつと建設的な話し合いの場が網羅されるべきではないでしようか。

小松　いわゆる井戸端会議ではなくて有効な集団をつくるにはどういうやり方でやつたらいゝか言つてほしいわけでしよう？

下郡　はいそうです。

小松　それではだんだん北上して下さい。

柾木　私は山の中に住んでおりますが、山林の資源をもつておりますので農村生活よりは比較的豊かな暮しをしており、実生活の面ではいわゆる文化的な生活になつてまいりました。しかし精神面にては私が二十年前に山に入りました時と比べて、少しずつは変つておりますがほとんど変りがない。子供の教育の仕方、しつけ、嫁と姑の問題等家庭環境は少しずつ変つておりますが個人個人の精神面をどうみがくか精神文化の方面にまなこを向けようとするものがいまだに全然なくあの人この人のうわさ話だけが話のたねになつて少しも進歩がありません。人々がなんらかの文化的な方

面に目を向けない限りよりよい環境にならないと思いますしてきさやかな短歌の会をお世話しておりますが、いなかの人のそういう方面の進歩はのろいので困つております。

小松　内面的には依然として貧困状態にとどまつているということで、どうすれば抜け出せるだろうかということを考えようというわけですね。

江里　私は長崎県のわさな島の片いなかにおりますが昔は暮してゆかれた五反百姓もこの頃では暮せなくなつた。物質文化に追いまくられてお父さんとお母さんが別れて働かなければならないという状態に私どもがなりつゝあるわけですが、人間生活の大もとになるのはあたたかい家庭生活だろうと思います。お父さんが半年も働きに出家庭生活にいろんな無理が出てきたり、子供たちが放り出されているのをみて、何とかできないものかと考えて作文を書きました。満潮のように押し寄せてくる経済問題は私どもにはなんともできなくても、せめて子供たちだけでも地域の人々があたたかい目でみてやるとか、できるならお父さんたちが一週間に一ぺんでも家庭に帰つてきて、あたたかい　灯の下で夕食がとられるようになればと思います。

小松　テレビなんか見てもしよつ中私どもの消費慾望をそゝり立てる、消費者がこれにならされているのかもしれないがその中で忘れられがちな子供たちにあたたかい目を向けたいということですね。

楠　私は感想文に「老後の保障について」というテーマで書かせていただきました。人生五〇年でありましたが現在では寿命がのびて老齢人口がふえてまいりました。環境によつても違うでしようが、長生きすることが幸かどうかは一口にいえない現実だと思います。主人は讃岐の伝統工芸の「うるし」の職人です。引きあげてきてからの十年は乏しい生活費の中で、三人の子供を次々と高校へやるのが大変で夢中でしたが、気がついたらすでに初老に足を突つ込んでいる。頭に浮ぶことは、憲法二十五条です。すべての国民が文化の恩恵を受けなければならないのに現在の日本ではそれがなされていない。特に冷たい老人対策にいずれ皆さんも不安に襲われるのではないかと思います、それで現在の僅か千円の老令年金を引上げ今の暗い養老院でなく明るいものを国の力で建てていただきたいと思います。日本の老人対策はこれが福祉国家かと疑います。

小松　一つはわれわれの家庭の在り方が大きく変つてしまつたわけですね。戦前でもおそらく問題があつたでしようが家族制度ということで問題をおおつていた、それが戦後家族制度の在り方が変つて問題が明るみに出た、これは一応「家庭生活の在り方」としましようか、それとも「社会保障の問題」としましようか、

楠　私は社会保障の問題として扱つていただきたいと思います。それと一緒に家族制度の問題もとりあげて。

日下　私は環境の問題について考えてみたいと思います。私どもは工業の発展によつていろいろな恩恵に浴してはおりますが、そこから生じてくる公害から住民は守られるべき権利をもつているのではないか、それから土地の開発、工業の発展によつて子供の遊び場が次々にとられている現在、それを当えてやるのがおとなの、次の世代に対する責任ではないかということから環境改善の必要性を考えてみたいと思います。

小松　工業化はプラスの面もマイナスの面もある、しかしそのマイナスの面を案外人々は見忘れているからこれについて考えようというわけでしょう。

日下　マイナス面を改善したいということです。

吉田　文化は生活をよりよくする手段なのに現在の農村は文化に人が追い回されている、たとえば一ヘクタール未満の耕作者が何十万の耕転機を購入して年間数日しか使わなかつたり、見るひまもないのにテレビを飾りものにしておいたり、オートバイで子供を通学させてみたりしていますが主体性をもつて文化を選択する考え方をどのように農村の人々に植えつけるか、そういう考え方を変えさせてゆくにはどうしたらいゝかという視点に立つた話し合いの場をもつてなんとかいゝ方向を求めてゆかなければならないと思います。

小松　文化に追い回されているというわけですね、こういうことは一部の人は文化のマイナス機能とか逆機能とかいゝますが、文化の逆機能の問題として一応まとめておきましょう。

山名　私はお料理のことを少し勉強しております。皆さんは収入の何割ぐらいを食費にかけていらつしやるでしようか？大体半分前後のところだと思います。私は収入の八〇パーセントをがつちり食費にかけてきました。着るものもなんにも買わないんです。まだ結婚して間がないという条件があるのですが、そうするとだんな様の肩幅が広くなり背も高くなつたような気がします。

会社に行つても「仕事がようできる」と言つています。そういう私の体験をもとにして、それから二年たらず外国をさまよいました、厳しい外国での生活から向うの人の生活態度を学んできましたアメリカの奥さんは皆さん以上にだんな様にかしづいていらつしやる、フランスのボルドーにいた時その家のマダムは洗濯機なんか持つていません、洗濯板の大きいので洗濯しているんですが、そのくせ立派なオーブンを持つている。私の家の近くには松下幸之助さんが住んでいらつしやる、日本一の大金持が食べていらつしやるものは、スペインの中流家庭よりもまだ悪い、それがヨーロッパのレベルなんです、外国の婦人たちが考えるのは住む家を持つと次は満足のゆく食生活です、服でも、家具でも車でもない。ところが文化人の方は外国の話によるとヨーロッパの教育だとか、アメリカ、フランス、ソビエトを見習えとおつしやるが一番身じかな三度の食事についてはふれて下さらない、そういうことを書いたわけです。

小松　とにかくこの衣食住の問題に関しては僕たちはしんけんでないね、食うということは非常に大事なことです。人生を悩む人がいれば食うことから悩まなければならないでしよう、そうなれば力一杯生きるということが問題になつてくる、僕たちも外国の学者に負けまいとお互いに頑張つているが、ある友達がハーバートに行つて向うのやつと競つたが、最初はこつちが出るんだがどうもあとがいけない、それでいろいろ考えてみて肉ばかり食つたがためだ、やはり三代か四代重ねないとためだということになつた。十四世紀にイギリスはぐつと出てくるがそれまではフランスとかオランダが先進国であつた。オランダに追いつけ追い越せと頑張つた、そして彼らは、われわれブリトン人はマトンのいゝやつを食つている、ところがオランダ人はそれが食えないで、それが追い越せた原因だといつているそうです。

鈴木　私は私どもの地方の慣習についての感想文をまとめましたが、絶対に次の世代に踏襲させてはならないという習慣があります、例をいえば結婚が非常に派手に行なわれますが、それに加えて娘の最初の出産の費用を親が負担する、これには相当な見識をもつた人でも異議をいえない有様です。私どもの知恵を生活にとり入れて明るい、正しい生活を立てるためにはどのような運動起したらいゝか皆さんと討議したいと思います。

小松　慣習はやはり受け継がれるものですね、受け継いでよい慣習となるべくなら受け継がないほうがいゝ慣習と選りわけてゆかなければならない。「慣習の伝習による選択の問題」としましようか、

水野　私は、文化の発展に伴なつてその恩恵をこうむりながらもなお大きな問題点があるということを問題としたい。私どもの住んでいる清水港では今まですばらしい海水浴場であつたところが港の工事のために海が使えなくなつた、そして子供たちは遊び場を失なつて、夏休みになつても朝からテレビでも見るほかない有様です。科学の進歩、世の中の進歩と同時に一番問題になつてくるのはこの進歩が人間を阻害するということでしよう。私どもが二十年前の戦争を思うと平和利用にされるべき科学が核兵器を作るとは怖ろしい。従つて文化の進展と同時に婦人が特に考えなければならないのは戦争を繰返すなということだと思います。そのためには私ども婦人が人間的な成長をとげなければならないと思います。平和をいうには今の社会では勇気がいると思いますが、人類を正常に存続させるためにはそれを普通の言葉としてゆかなければならないと思う一人です。この二つの問題について皆さんとのお話し合いをさせていただきたいと思います。

小松　最初の問題は日下さんのと同じ性質のものとみてよろしいでしようね。

水野　はい同じでございます。

小松　工業化の問題は今日では大企業の採算だけを考えて地許の人々の利害は二の次、三の次になつている。地許に金が落ちるとか工業化は世界の大勢だから反対するのはおかしいとかいうが同じ工業化するならやり方がありますね。もう一つはどういうふうにまとめたらあなたのテーマがうまく表現できるかわからないが、

水野　かんたんにいえば科学の平和的利用で、人間阻害のためのものでは困るというわけです。

小松　科学を戦争に利用するなということでしよう。

南雲　私は現在の文化の特徴的な一面として都市と地方の交流がともても活発になつていると思います。それが現在どんなふうに、都市の人や地方の人を変えているか、それがどんな方向にいつているかを考えてみたいと思います。

江里　長崎県の地方婦人会議に昔の家内工業的な、家庭でつくり出す人間のあたゝかみの通つているもの、副食物でもよそでできたものを買つてきたりせずに、心をこめてつくつてやるとか、自分で工夫してやるということを「家庭生産」という言葉を使いました。

小松　こういう方面の文化は急速にすたれていつていますね、おいしい清物とか、おみおつけとかは技術的なものですが、そういうものがなくなつてきている。

柾木　南雲さんのお話は、いろいろな人との交流によつて生活をも

つとゆたかにしたいということでしょう。

南雲　結論は自分の手でものをつくること、育てあげること、その喜びを大切にしたいということです。

小松　家庭における創造の問題ということですね。

南雲　創造の喜びとか、創造の問題とかですね。

幸道　福井県からまいりました、昔から生活環境の中に踏襲されているよくない慣習の打破ということです。私どもの方にはたくさん九州や北海道からきていらっしゃるのですが、そういう人々が福井で結婚するのはこわいとおっしゃる。

小松　とにかく慣習の怖ろしさは結婚の時に一番現われますよ。

遠山　慣習の暴力というか、慣習の伝習における選択の問題でしょう。一言でいえば文化を最も阻害しているものはなんだろうかということです。

小松　大きな問題ですね、文化を阻害するというのは文化の選択とか創造を阻害するということですね。

遠山　文化の創造を阻害する。

小松　どういうことからそういう問題を思いつかれたのですか？

遠山　私は図画教室を開いていますが、お母さんと子供が話をして子供が何げなく答えているなかにも上から押えつけられているような感じがします。

小松　文化創造にはある程度指導することが必要でしょうね、しかしそのかね合いの問題がありますね、ただ押しつけはいかんということだけでなくある人間が文化を創造するだけの力をもつためには、従来の方式、従来の型というものを習得するという形できびしく鍛えられるわけですね。

遠山　鍛練を押しつけるということですね。

尾島　現在の社会福祉の内容を婦人の手でどこまで高められるかということですが、できない、東京の婦人会議では、社会福祉の恩恵を受けることはわれわれの権利だし、制度的には立派にできているのだからあくまでも国にまかせるべきだという意見と、一人一人の力は微々たるものであるが、その微々たる力を積み重ねていったらいいという二つの意見が出ました。私としてはじみでも積み重ねた力を結集してゆきたいと思います。

小松　社会福祉の問題ですね、私は全然門外漢ですが、社会事業の大学に教えにいっているので生活保障関係の法令集を読んでみて驚きましたね、法令集を読んでみると制度的には立派だとおっしゃったがそうでもないですよ。

石川　私は高校を出てすぐにお務めに出ました、身じかの問題、特に服飾の問題では抵抗を感じます、目立ちたいとは思いませんが、全然流行に無関心でいるとかえって目立つ存在になる。それで常に流行を考えていないと安心していられない。昔の流行は時間的、経済的余裕ができてきて生活に変化をもたせるためにできたものだったと思いますが、大企業が売らんかな主義で流行を作っている、そういうことに関して疑問をもちました。

小松　ひと頃スカートの短いのがはやりましたね、話を聞いてみると、短かいスカートはレディーメードで安い、長いスカートはオーダメードにしなければならないから高くつく、それじゃ小づかいを取りあげられてしまうというんですね、はたで見ているとなんて無自覚だろうと思いますね。

村井　皆さんがおっしゃって私はなんにもいうことがないくらいで

す。今のような生活のアンバランスとか、にせ文化などということは、なにが大切か大切でないかということの見きわめがつかないことから生まれてくるひずみだと思います。私は主婦ですが、子供が大きくなつたのでもつと勉強して、女である以前に人間として何を生きがいとするかという根本の問題を見きわめていきたい。電化生活に追いまくられるとが、子供の問題、共かせぎ問題など自分にそぐわない生活をするのは自己がなさ過ぎる結果だと思います。

小松　なにが大事だとか、軽重本末というものゝ区別は一応あるんですが、ある時点においてその社会に通用することでこれはより大事、これはそうでもないという価値秩序がこの頃ではどうもはつきりしなくなつてきている、価値秩序の喪失、価値秩序が見失なわれているといゝますか。

下郡　宮崎県は台風銀座といわれておりますが今日では高層建築が建ちまして、私ども団地に住んでおりますがあまり台風の通過も感じなくなりました。昔は汽車で四十時間かゝつたのですが今はその半分になりました、しかし犯罪もふえ、いろいろな事件もおころようになつて果してこれが文化生活かと思います。それから私結婚前に県の教育庁で学校給食を担当しておりました関係から学児の給食が文化生活にふさわしいかどうかという問題を提起したいと思います。これは学童の体位の向上と切つても切れない問題があると思います。

小松　十五ないし十六の問題が出てきましたが、その前に、文化とはなにか、文化という言葉は、文化、文政の頃というのが講談に出てきますが年号にも文化というのがあつてこれは施政的に意味のある言葉で、ただ抑えつけるより頭を使つた施政を行なうということで昨今とちよつと意味が違う、昨今用いられるのは大正年間以後非常に文化ばやりになつて文化まんじゆうとか、文化なべなどというのがありましたが、これも文化という意味ではつきりしたものが当えられていたわけでない。ドイツの哲学者が文化に見あう言葉で一つの定義を当えておりますが、戦前は熟きない言葉でした。戦後もあまり熟してはいないがアメリカの言葉が入つてきてちよつとわからなくなつてきた。たとえばトイレット文化などは大正年間にも言わなかつた。要するに人間の手によつて人間の生活の仕方が一応規制されてきた、その中には子供の育て方なんかも入るがそんなことを文化と称している、また片方では物質面と精神面とを対比させる、東洋文化は精神面に重点を置き西洋文化は物質面に盛んになつてきている、だがら文化というものを人の心の内側に属することとお考えになれば子供の育て方の問題も出てくるし、生活様式、社会の在り方に関連のあることとして文化が考えられるわけです。生活の様式といつても人間の生活にはいろいろな方面がある。社会保障の問題、工業化の問題、結婚の慣習の問題というように。これを生活の領域に分けると、家庭とか地域社会、地方自治体、国家、国際社会などになる、そういうふうに分けてゆくのも一つの手ですね、ただこれをずらつと取りあげないで。

南雲　問題をとりあげるにはいろいろなやり方があるでしようが、たとえば戦前と戦後、昔と今でもいゝが、これがどういうふうに変つている面か、悪く変つている面、精神的な面では豊かになつているか貧しくなつてきたか？物質的にはどうか？そういうとこ

ろからいゝか悪いかがはつきりしてくるのではないですか、家庭の問題にしても。

小松　それでは戦前と戦後を縦軸として取りあげてゆきますか、アプローチの仕方としてはアンバランスという格好でゆきましよう。いろいろな問題が出てきておりますが、家庭の問題、結婚の問題、老後の保障の問題というのが中心ですね、そこで一つ問題を提起したいんですが、それは今日結婚する場合に両性の合意とか、両性が対等の関係にあるということが大体こゝ十年くらいは両性の合意というものが通用しているようです。この両性の合意、対等な協力者として家庭を築いてゆくというやり方、こういう夫婦の在り方は憲法がそれをうながしたから、あるいは憲法に基いて新しい民法が一つの強制力をもつて国民に臨んだからなつたのだとお考えでしようか、それともわれわれの間に前から機運が熟していたがたまたま憲法とか民法がこれにマッチしたとお考えでしようか。

水野　婦人参政権を考えます場合、やはりその基礎は戦前、先覚者が一生懸命なさつたことだと思いますが、結婚の場合もそうではないでしようか、家と家との間の結婚に対して大きな抵抗を感じて、坂田山心中とか戦前は悲劇が多かつた。理想的な結婚をしようと思つても、その裏づけがない、戦後の憲法がこれを保障してくれた。このゆき方は人間というものを尊重する方向にいつていると思います。

鈴木　憲法の強制力が七割、機運の熟し方は三割だと思います、政党とか、革新的な婦人たちが婦人参政権を要求していたがそれは浮き上つた特殊な階層での運動、末端は自覚しないものが多かつたと思います。当えられた憲法は合理的で前のものは不自由で不合理だつたと考えている人も多いと思います。

小松　鈴木さんの説は比喩的にはこういうことです。バナナは青いうちに持つてきて室に入れて、色づけさせる、室が憲法みたいなものです、女性の相当数は青いバナナだつたということですね。

鈴木　末端には浸透していなかつた。

小松　自信ができたというのですか、青いバナナが黄色くなるには黄色になる素質があつたのではないですか、？

鈴木　ないとはいえないでしようがこれほど強力な素地があつたとは思われませんね。

幸道　憲法がたまたまできた。結婚の案内状で考えますね、主催者が花嫁花婿の名前のものは両性の合意でできておりますが、親側の名前のものは嫁をとつてやりますということで。

村井　歴史は大きな矛盾をはらみながらもいゝ方に動いてゆくと思います。結婚とか、憲法とか、農地の開放とか当えられたものには矛盾がからみ合つてもいゝ方に動いていく。どの時代にもしつかりした批判力をもつた指導者が世論を作つていゝ面へと導いてゆくと思います。

小松　歴史は真直には進まないでしよう。そうするといゝ方向も逆になる。歴史の進む方向がいゝ方向だと大局的にはいえるかもしれないが、局所局所でみているとどうかな。

村井　前より人間尊重という問題は取り上げられていると思います。慣習というものは根強く残つておりますが、私のお姑さんは私がお嫁にきた時によその人が「荷物を見せて下さい」と言つたら、「それは私事にわたることだから」とぱんとはねつけました。

慣習をやぶる勇気をもつていたと思います。

鈴木　やはり人間の歴史は自由とか平等を獲得できる道筋になつていたということはないでしようか、

小松　しかし不自由と不平等に甘んじている時期も長いですからね。

鈴木　しかし大局からみればそういうところに行つているということで松井さんのおつしやたことに合致しますが。

日下　山口県には特殊な気風があるのかもしれないが、憲法が裏づけをしたからか、すでに盛り上つていたからかということに対しては、私は静岡の方のご発言を支持したいと思います。そういう気分があつたところへ憲法で規定したので、堂々とやりましようというふうになつたような気がします。

小松　ところがあれが日本人の手によらなかつたのですね、日本の男性は対等な協力者として女性を考えたくなかつたのでしようね。生活様式は特定な個人がつくるわけでなく時代がつくるとか集団がつくるとかになりますが、もう一つある生活様式がつくられる場合には必ずくずされ、捨てられてゆく、合理的であるとか不合理であるという、択の問題が必ず出てくる、だから価値を抜きにして生活様式の変革は考えられない。そうすると新しい生活様式をよしとし、古い生活様式を非とする根拠はなんなのか、新しいが故に是とするのか、もつと深い根拠があつて是とするのかそこら付近に問題がはらんでおりますが一応こゝでは置くことにして話を本筋に戻しましよう、そうすると戦前戦後という軸と、家庭問題社会問題という軸の二つを考えてみましよう。

鈴木　どうして生活様式がつくられるかということですが、生活の中に可能性をつくり出してゆく場合、エジソンなど優れた人が可能性を現実化し、大衆がそれを普遍化して一つの文化となつてゆくというふうに考えておりますが、いかがでしよう？

小松　僕はあなた方に教わる約束ですからね、石川さん黙つておつてはいけないですよ。

石川　いろんな様式が変化してゆくためには指導者が必要でしようしかし指導者は必ずしも正しいことばかりは言わない。私ども大衆が指導者の間違いやいゝところを選択して、間違えばついてゆかないという自覚が必要なんですね、そういうところから考えてみることも必要だと思います。

南雲　文化を広く考えてみると、特に精神的な面で人間の思想には優れた、強力な指導者にずい分影響されて、引つ張られやすい、だから選ぶ目が必要でしよう。

鈴木　自立性を確立するのが文化的な生活の一端だと思いますが。

石川　それが根本でしよう。

江里　選択の問題ですが長崎の会議で出しましたが、福井の大火事の時に八人の子供とお姑さんとご主人と十一人の家族を持つた方ですが、全部焼けてしまつてまず何を買うかと考えられた、子供たちはテレビ、お母さんは冷蔵庫がほしいとおつしやつた、子供さんたちも賛成して洗濯は八人の子供さんがめいめいでなさることになつた。そしてお母さんは家族が三回分くらい食べられるお魚を一箱買つてきて冷蔵庫に入れておいて、食生活を満足させておいて、レジヤーを楽しむより子供たちに洗濯をさせそれで労働教育を十分にする、文化の選択にはそういうお母さんの知恵が一番大切だと思います。

小松　それでは戦前、戦後の軸を、家庭問題と社会問題の軸に合わ

せて問題を考えてまいりましょう。早い話が結婚された方が、夫や子供のところから放れて東京まできて天下国家を議論するということはえらい変りようですね。これも明治のたとえば津田梅子さんや、福田英子さん、雪島さんとかいろんな先人の労苦がある、それになにか言葉で要約できないような世の動きがあつて今日こういう形の会議がもたれていると思います。こゝでこの変化がどのくらい大きい、どういう方向に進んでいるだろうかということを好むと好まざるにかゝわらず考えなければならない、三番目にはこういうことは望ましいことかどうかということです。

水野　今望ましいこととしては両性の合意に基いて結婚できるということ、それからもう一つは婦人の立場から私は戦前戦後を通じて長いこと職場におりましたが戦後の職場は非常に働きやすくなつている、戦前ですと出産の日まで学校に出て学校で赤ちやんを生んだという人、道で産気づいたというような人がたくさんあつた、ところが戦後産前六週間、産後六週間という最低基準は守られるようになつたので出産される方は当然の権利として職場を休まれることは実質的な変化で、これはすばらしい進歩だと思います、私は戦後に婦人が幸せになつたのは働らくものゝための制度がよくなつたことの一環であり、これはもつといゝ方向にもつてゆかなければならないと思います。

幸道　産休制度などは非常に恵まれた職場だけで、その制度をよくする前に、その恩恵に浴せない職場のことを考えなければならないでしよう。

水野　それにはどうすればよいか、もつと皆さんが休暇をとれるようにしてゆくのが私たちがこれからやらなければならない任務だと思います。

鈴木　中小企業なんかではそれの谷間のようなところですが、企業主が実施したくてもそうすれば会社がつぶれる、経済面から考えてゆかなければならない問題だと思います。経済が過激に発達したところとそうでないところに出ているひずみ、そのアンバランスの問題を一緒に考え合う必要があるのではないでしようか。

尾島　そのあとの問題として、保育面なんかも非常に少ない。外国でも少ないということですがこれは必要がないからだそうです。子供が生まれたら婦人は家庭に帰り、子供から手が放れたらまた社会復帰ができるからです。社会との関係にも問題があると思います。

山名　私としてはリーダーの先生に一本の幹を立てゝいただいて、そこから今の問題なり枝葉にわかれていただきたいと思います。皆さん何をおつしやりたいのか、ちつともわかりません。

梶原（特別オブ）、皆さん一人一人がいゝ問題を出されており一つ一つ取りあげても大きな問題になると思います。戦後と戦前の文化のつながりとその方向に進んだらいゝと思いますが、

井本（特別オブ）、先生はリーダーとしての時間割がおありだと思いますが、今いろいろな問題の提起がありましたが、そういうことの解決からほかの問題に発展したほうがいゝと思います。

柾木　戦前戦後の区別をつけてというより、まず自分のもつてきた問題の解決を得てそれからほかの問題をつくり出してゆくならいいですが、突然あゝいうえらいことをおつしやるとどうしていゝかわかりません。

楠　今までおつしやつた方は職場にいらして発言になれている方が

多いと思いますが、なるべく私ども主婦が発言しやすいようにもつていつてほしいと思います。

小松　出た問題をどう扱うかということについてとつくり話し合いましよう。三時まで十五分あるから。

日下　十五人の発言者の中で私と静岡の方は同じ問題ですからまとめていつたらいゝと思いますが、要点をまとめてゆけば一つ一つ解決してゆくと思います。先生がおまとめになつて手を上げさせて下さつても結構だと思います。自分はどの意見に入るかを大まかに考えて全部は一致しないでしようが、

小松　比較的やさしい問題からゆきましよう。

楠　教育問題をとり上げた方はいらつしやらないと思いますのでその問題にもふれていただきたいと思います。

小松　お出しになつたらよろしい。

幸道　めいめいがもつてきた問題は是が非でもとり上げていただきたい。（笑）

水野　私は結婚の問題から皆さんがお出しになつた問題が出てくるだろうと思います。だからそれを一つずつ解決してゆけばいゝんじやないでしようか。

日下　下郡さんがおつしやつたことを先生がまとめられたのは有効な世論をつくるにはどうすればいゝかということでしよう。

小松　というふうに僕はまとめましたがそれに関係なくどうぞ。

鈴木　さつきおつしやつた話し合いの場をつくるためにご自分で推進していただいた状況を具体的におつしやつて下さい。

下郡　私は三つと五つになる子供がありますが五つになる子供を宮崎の中心部にある幼稚園に出しております。その門の前が宮崎で一番自動車の数が多いというくらいで駐車場化しているのですが雨が降つて傘でもさすと宮崎は歩道と車道の区別が坂道になるとないものですから、非常に危ない、私は市内の団地に住んでおりましてそこからは四人ほど同じ幼稚園に行つております。どうしたらいゝかと話し合つたのですが、職場を退いてから十年近くになり、勉強もしておりませんので、どう解決してよいかわからない、近くの派出所へ行つて伺いたいと思つて、一応それを幼稚園の母の会に訴えたところ、会長さんが母の会の声として当局へ陳情しようと言つて下さつた。私は役員をしておりませんしおまかせしましたが、当局では非常に好意的で、近くこれを考えに入れて駐車禁止区域の再検討するというお答えをいただきました。始めは四、五人のものの声が母の会と当局へ反映し子供を守ることができる結果になりましたので、私どもはその経験を通して、本当に建設的な話し合いの場が必要だということがわかりました婦人会は年輩の人が多くてまだ私どもが属すところではないと思つておりましたが、子供を幼稚園に送り出してから、不合理な問題に私ども自身が勇気を出して努力しなければならない、小さな成功ですが、それを通して婦人の話し合いの場の必要を痛感しましたので、住居すら団地形式に変つておりますから話し合いの場も再検討の必要があると思つて問題を提起しました。

栞米　今までの話し合いの場は井戸端会議的なものであつたが、自分の環境をよくするとか、選挙だとか大きな問題に目を向けて建設的な意見を述べる場にしようということでしよう。

下郡　東京近県で「汚職をなくしましよう」というスローガンで当選した人が汚職をしていたということを新聞で見ましたが、こう

いうことは全国にあるかもしれない。私ども母親の批判力が甘過ぎるのではないか、そういう世論をつくるには私どもがどういうふうに努力していったらいゝかということを考えました。

幸道　あなたのところでは幼稚園の母親の会が基盤になつてお母さんの会をおつくりになつたというのですが、先ほどのお話では誰からもお誘いがないということでしたが。

下郡　ですからその必要性を痛感しましたので書いたわけです。

日下　お宅の場合は自動車をどけてもらつて禁止区域にしていただいたわけですが、私のところは国道をまたいで通学する子供が多いのに建設省は二万台を越えなければブリッジはつけられないという、現在は一万七千、交通班では整理がしきれないので、ブリッジかシグナルかどちらかつけてもらいたいという運動を始めて二年かゝりました。そして去年の九月に立派な鉄橋をつくりました。（写真にて説明）教育委員会からも表彰を受けましたが、始め働きかけた時は町当局は予算がないの一点ばりでしたが、広島の陸橋を視察に行つたり、交通安全協会や警察の交通課に働きかけて、業者も私たちの誠意に二百五十万というのを百七十万でつくつてくれ、皆さんの善意でできたわけなんです。だから私たちは善意は通じるという自信をもちました。子供の遊び場の問題も一人の力ではなんにもできないが、誰かがそれを言い出さないと事は起らないから私はまずその一人にならなければならないと思います。

小松　誰かが一人にならなければならない、その声を大きくする方法は？

日下　ＰＴＡがあと押しをしてくれました。ＰＴＡが名乗りをあげたらある業者が「私たちも協力しましょう」といつてくれましたし、警察の交通課や交通安全協会も精神的には協力的で、お金はブリッジに広告を出すことでまかなおうかということになりましたが、それほどまでに思つているのなら町で予算を組もうということになりました。私たちの子供は東小学ですが他の同じような交通状態にある二か所にもできるという見通しがつきほかの小学校からもありがたがられております。

楠　四、五人の声が大きくなつて当局を動かしたということですが何回くらい陳情なさいましたか？

下郡　私は声を出しただけであとは四、五百人おります、母の会の幹事、役人の方が陳情されました。

楠　なかなか一回や二回ではやつてくれないんですね。

村井　ミルク給食に関する陳情で私も善意が通じました。陳情に行つてみて感じましたことは、私どもには教育問題が一番大切だが町長さんもやはりいろんなビジョンをもつてやつていらつしやるだから予算の配分というものを考えなければ、ただ陳情するだけでは力が弱い、その点を勉強してゆかなければならないと思います。

楠　具体的には、

村井　町の予算とか議会の内容について一般の主婦は知識がない、一応陳情に行く前に教育委員会から教育面に明るい町会議員か市会議員のところへ行つて予算の内容をきいてからいらしたほうが働きかけるにも具体性をおびてゆくし、力も強いと思います。

小松　それはそうですよ、相手をくどくのですからね、

尾島　今の方と同じようなことですが私の場合に不成功の例です。

東京はしなければならない範囲が広いものですから、ガードレールをつくつて下さいといつても危険度の高いところからというわけです。しかし、車が歩道に乗りあげて何人かひき殺されているがいつまでもやつて下さらない。お金は地元の人が出し合つてつくればそれほどの負担もかゝらないのですが、本来は国でやるべきことですからね、自分たちでやるべきかそれとも危くても待つているほうがいゝか、

日下　つくつていゝでしよう、それを当局に寄付して維持は都でする、あの橋にしても町でつくつて建設省に引きとつてもらいあとは維持してもらうことになつたのですが。そういう前例をつくつたらいけないということですか？

小松　行政の怠慢をふやすことになるということですか？

幸道　陸橋の問題にしてもいうだけでは当局は助成してくれないでしようが、地元の寄付はありましたか？

日下　全部町が出しました。個人的な寄付は出しません。

幸道　個人負担の寄付はなんにもないんですか？

日下　はい。

柾木　皆さん方は地方の小都会、県庁の所在地にしてもあまり大きな都会ではない。石を投げれば波紋ができてくるところにいらつしやるのはうらやましい。私どものようないなかでは波紋を作つたものは「ばか」かあばれん坊で、欲していても皆さんの前では口に出さない。この頃中学を統合することになり一つの中学をまん中につくるには距離が遠いところもできるのでもめましたが、反対派の村長さんが立つた結果とうとう中学が統合しました。その結果前の各地区の中学があいたのでその校舎を保育所に使いたいと石を投げて下さいました。私どもの家には小さな子供はいませんが皆さん望んでおりますので、いゝ機会だと思つて発言したのですが誰もほしいとは言つてくれない、投げられた石を受けとめて立ち上ろうとしないいなかの人たちを引き上げてゆくにはどうしたらいゝだろうと悩んでおります。

小松　困るところまで困らなければ口を開かないかな。

柾木　かげでごそごそ言つていますのでそれをまとめて発言しても黙つているので困ります。

江里　でも歌のグループをもつていらつしやるからその人々に話しかけて、始めは小さなあかりでもだんだんに大きなあかりになるのではないでしようか、

小松　それは場所によつても違うし問題によつても違うと思います。大学にいても特定の問題に対しては大学の中でも世論を喚起することはできません、問題の性質、地域の性格によつて世論形成に難易があります。こゝで先ほどから論ぜられているのは成功と失敗の例ですが間もなく時間が終わりますから、また次の時間が始まつたらどういうことで成功したか、どういうことで失敗したかということを考えてほしいと思います。世論を喚起してゆくこと、つくられた世論によつて新しい方向に移す行動の仕方はそれ自体は新しいことなんです。われわれの場合は誰か偉い人が決めてくれたことが決まるようになつて、煮つまつた議論が全体の方向を決定する習慣はなかつたと思う。世論を形成して地方自治体の意志を左右してゆくということは非常に新しい生活様式ですが、それにもまた浸透しにくいところとしやすいところとあると思いますどゝで二十分ほど休憩したいと思います。　―休憩―

小松　世論をもり上げて地域の利害や、公けの利害にかかわる問題を解決してゆくことは非常に新しい生活の様式だろうと思います。そういう生活様式がすぐしみ込んでゆくところもあるし、そうでないところもある。この問題は皆さんおつしやりたいこともおありのようですからいろんな角度から議論を続けたらいいと思います。今まで発言が少かつたのは吉田さん、石川さんですがどうぞ。

吉田　柾木さんが、誰かが石を投げた場合滲透しにくいとおつしやいましたが私のところも似通つたところがあるのです。今までは村や地域をなんとかよくしたいという意慾がありましたが、文化が進むにつれて自分のうち主義になり、うちの外の村や地域を考えることがなくなつた、というのは文明文化をとり入れるためには無理をしても働らかなければならなくなつた。だから文明の発達と相反して精神文化がたち遅れてゆくという傾向です。

鈴木　新聞のコラム欄で見ましたが中央線の沿線に住んでいるある教授が六十年間道が悪くて困つていた。これをコンクリートにするのに六十万かかる、回りには会社の寮なんかがあつて、地域社会の意識が極めて薄い人々が住んでいたが説得して道をつくつた。途中から引越してゆく方は予定の額より少なくし、あとから入つた人がその分負担するということにしてこれで交流ができたということでした。

尾島　陳情しても駄目だつたところですから非常に参考になります。

小松　市役所、村役場、議会などの怠慢をどこまで大目に見るかということですが、片方では原則を貫きながら他方では応急の措置も講ずるという妥協的な線しか手がないでしようね。

幸道　皆さんにもお聞きしたいのですが地域での祭り、幼稚園の施設拡充、小学校、中学校のプール建設に一戸当り二千五百円の負担、こういうのはどのようにしたらいいのでしよう。

楠　仕方なく出しているのでしよう。

日下　プールの事で、私のところでは解決した方法がありますのであとでお教えしましよう。

小松　祭りの費用も困つた困つたと言いながら出して、あとで集まつて議論もしない。既成の組織としては町内会などがあり、ボスが入りたくない。ボスも討論の場をもつてない。結局自分の意見が孤立しているという一種の孤立感に悩む奥さんおやじさんはいると思う。そういう世論はつくつてゆこう、それにはどうすればいいかという角度から論じたらいいと思いますね。

下郡　寄付については宮崎の例もご参考になると思います。私どもは宮崎甲学校の校区になつていますが、そこは体育館をつくるのに子供のいない家庭や幼児のいる家庭からも寄付をつのられた。私の家の横にはPTAの会長さんが住んでいるのですが、会長のほかに役員が二、三人入つていらつしやつた。私のところはその頃子供が二つと四つでいくら校区であつても寄付はおかしいと思うと申しましたが、お宅は銀行員でボーナスが四回あつてゆつくりしているだろうから千円は出してくれとなかなか帰られない。うちのアパートは五階ありますが上から順々にもらつてきてその領収書を見せて是非出してくれと言われる、これはあとで問題になつております。身近かな問題から立ち上つてゆかなければならないと思います。

梶尾（特別オブ）　陸橋のお話、道路のお話、皆さん本当に身近な問題を、誠意のある方に呼びかけて一緒に手をつないでやるのは

立派なことで、一つのよいことをなさるには勇気がいると思います。私のところは中央沿線の高架線で付近の住民が苦労していますが、誰もなんともおっしやいません。都会人は合理的で、自分のことだけしか考えない、その現れでしようが、やはりどなたかお世話係りをする勇気がないといけない。都会でもそういうことで苦労しているものもおります。

日下　私のところはＰＴＡが成功した例ですがこれは役員を選出するのに、交通安全協会に関係のある人や議員を役員にするのです。私どもも促進委員会には入っていますが、先頭に立てて話をすすめる町の行政に明るい方を、一つの事業に関係のある人を集中的に確保してそういう人を常任委員の中に入れて「慾しい、慾しい」というムードをつくり上げると、その人たちがほこ先に立たなければ仕方がないわけですね。

小松　そういう地域の利害を代表する議員なんですね。

日下　それに学校の利害、地域の利害、子供の利害というものを代表していただくのです。その方たちも子供がおりますから親の悩みは一様です。交通や行政に明るい方を選んだのが成功した一つの原因だと思います。私なんかは三下ですが演出が上手だつたといえると思います。

小松　ボタンの押し方がよかつたのですね。

日下　それだけのことです。

水野　私学校におりますが、学校経営に何が必要かということを一応皆さんで考えてゆかなければならないと思います。

たとえば教育課程が変りますと、どこの生徒にも全部水泳を指導しなければならなくなり、教育内容が変つてくる。水泳は今まで正課ではなかつたからプールはいらなかつたがそうなるとどこの学校もプールをつくることになつてくる。ところが実際にプールをつくるのは地方自治団体ですが、市内の学校全部にパッとプールをつくることなどできない、たとえ必要であつてもね、一方ＰＴＡではプールが慾しい慾しいという、お金の裏付けのある制度でないと矛盾が起る。体育館ブームで、ＰＴＡの役員も流行に乗つてうちの学校にもないとはずかしいというふうになります。私たちはなぜ子供の行つていない家庭まで体育館の寄付をしなければならないだろうかという根本を考えないとこの問題は解決できないと思います。それをもう少し進めて、正しいお金の出し方を皆さんで考えてゆかなければならないと思います。

小松　あなたの場合は声が大きくならなかつた、これはどういうところに欠陥があるのでしようね。

尾島　私のところは三つにわかれた形でしたので、私自身が東京都の都政モニターをしている関係で個人的にやつたのと、地域の人が団立の町役場に陳情したのと、都に陳情されたのと三つの要求が出され強力に一本にまとまつたものがなかつた。その結果危険度の高いところからやるということでけられてしまつたのです。地許で多少のお金を出すなりなんなり研究してやつてみたいと思います。

小松　地許でも呼び水は出す、このくらいのことはねー。

日下　少し出せば助成はしますよ。

尾島　私のところは甲州街道ですからつくるとなると全部につくらなければならない。私のところは車が突き当り一年に二回も同じ電信柱をこわされていますがなかなかやつて下さらないのです。

小松　大都会に住む人間は自分の小さな穴にとじこもつてなるべく人様のことにはかかわりたくないというエゴイズムがあるでしょう、これがかなりわざわいをしていますね。たとえば地域の問題でもいわゆる村八分というのがありますね、二分は火事と葬式の時くらいつき合つてあとは一切かかわりはもちたくないという生活意識が壁になつているでしょう。

尾島　私の地域は昔農家だつたところに戦後インテリというかサラリーマンが入り込んだところなので、農家の人が音頭をとるとサラリーマンはそつぽを向くというようなことでー。こういうことも邪魔になつていますね。

小松　あなたのところは石を投げても波紋が立たないというがこつちも同じですね。東京と耶馬渓と同じでしよう。（笑）

柾木　東京の人はそつぽを向くだけでしよう。こつちは悪口が出る、だからこれを開拓したいと思うのです。

井本（特別オブ）　そういう方に物申すという意識をつちかう、意識の向上とか、自分の考えを確めてみる場としての小さなグループでもいいですが組織をつくる、その方法はいろいろ考えられますがいなかで口のうるさい方のところでの組織づくりはむずかしいと思いますが、卑近な例はおはぎとか、おいなりさんでも一緒につくつてみましようと引つ張り出す、お茶のみ話の中から問題が出るように上手にやつてゆかれないでしようか。

柾木　その一つとして短歌のグループをつくつてみんなから浮き上らないように努力して、みんなの苦しみの寄りどころ、なぐさめどころとしておりますが、いつのことかわかりません。けれど物質的なことはある程度できます。生活改善の先生にクリスマスケーキのつくり方を習いましたが、もう四、五年も続き、そういうことなら部落の昔の隣保班単位でよく集ります。しかしそれはそれだけのことでとどまつてしまうんです。

鈴木　そういう機会を有効に利用なさつたらー、婦人会議にお出になつて鉾がおつきになつたのですからね。

柾木　私はこれもあいつは一人だけ偉いんだからとみんなににらまれる種になるのではないかと思うんですがー。

佐藤（特別オブ）　女の方だけではできないだろうと思いますが、青年や若い女性もひつくるめたものでおやりになつたら？

柾木　短歌のグループは誰にでも門戸を開いておりますが限られた人しかなかなか入つてきません、もう一人なんらかの方法で協力をして下さる方があるといいのですがー、なにも短歌だけがいいのではない、なにかいなかの人の心をとめるようなものをしてくれればいいのですが、短歌の会はどうしてもそういう傾向の人の集まりですからほかのことのやり手はないということになる。

佐藤（特別オブ）　映画会なんかは？

柾木　今まではテレビがないので村で教育映画を毎月一回ずつお願いしていました、始めのうちは喜んでみていましたが「つまらない」と言つて見なくなつた、テレビはオリンピックを機会に共同でアンテナを建てたので見られるようになりましたが、テレビも見てほしいところは見てくれない。

小松　困つたことですね。てこでも動かない。

柾木　この調子では二十年たつても駄目だろうと思います。次の時代に引き継ぐにしてもその間にもつと時代が進みます。昔は十年遅れても大したことはなかつたかもしれないが、今は十年が一、

二年で進む時代ですからこれではどうしようもありません。

水野　お母さんのお集まりで皆さんが　力を感じること、学校の先生との懇談会で教育の問題、子供の勉強やしつけの問題で話し合おうといえば私どものほうではよく集まるのですが、先生にきてもらつて少しずつ教育の問題から入つてゆく、私はその立場で皆さんに利用していただいていますが。

柾木　私どものところでもＰＴＡの集まりにはよく集まります。先生とのお話し合いもします。集まる人はいつも集まりますがほかに仕事ができた場合、国有林の伐採とか植え付けとか、何か月か仕事が続けばお金のとれるところへしかゆきません。子供の問題なんかにがりがりしている人はゆくことは行きますが、それだけですね、なにしろ日常生活意識に全然変化が見えないのですから。

小松　大昔から変つていないのですか？

木　少しは変つていますが、なにしろ変り方が少ないんです。

小松　変りにくいでしょうね。

柾木　九十くらいのお婆さんが、言つている悪口が二十代、三十代の人にも直ぐ伝つて当然のように悪口をいう、ＰＴＡに一生懸命にゆく人でもですよ。そのお婆さんがつまらないことをいう人だということは知つていても茶のみ話で次々に伝わるのですね。

梶原（特別オブ）　そのことに関連して、皆さんの組織づくりの苦労は東京の私たちも身近に感じます。

というのは私どもの生活協同組合は地域の奥さんたちに呼びかけて、お花の講習とか、縫いぐるみのお人形、料理の講習なんかを長い間やつてきましたが、近頃では、女の人もこの辺で経済的な面に目を向けなければ向上しないというのでモニター制を利用して、計量モニターというかそういうことに参加した人から目を開いてゆかなければならないと痛感しています。

柾木　そういうことをしてみましようかというとついてくるでしようかね。

梶原（特別オブ）　生活の中から割出していつた問題はいいと思います。ＰＴＡは一定期間がたつと放れてしまう。経済面と結びつけた政治的な問題とか、お米をはかりましようとか、食料品の検査をしましようというところから目を付けないと奥さん方の目も上に向かないでしよう。ただ講習をしましようではいつも同じ状態でしよう。

柾木　ＰＴＡの話は何年も行つているのでこの頃ではあきてしまつたという状態ですね。

鈴木　テレビがあればたとえアチヤラカ劇でも現代の感覚が生かされていますから、そういうことから少しは変つた形になるでしよう。

柾木　隣の猫の話からドラマの話になつたというくらいの違いはありますね。

小松　今女性はもう少し経済的な問題に目を向けなければいけないというお話が出ましたが、ただ「ぜに」の収入をふやすということだけでも困るでしよう、柾木さんの問題と江里さんの問題を合わせて家庭の経済生活の面に目を移して、女性が家計をまかなう場合、おやじから生活費として渡された部分でとりしきるということでしようね、これはいろんな問題を提起してみたいと思いますが少しそれるから……。主婦が経済の問題に目を向ける場合どういう角度から接近してゆかなければならないか。

梶原（特別オブ）　食生活が一番だと思います。最近のように物価が上りますとお母さんは必死ですね、そこに目をとめました。生活協同組合の中で百十組合の中から、五年間五百人を登録しましてずつと家計簿の調査をしておりますが、いつも一定の人だけで全部地域のご婦人です。北海道を始め九州、関西、関東などから五百名がきつちり参加して五年間の統計をとつています。すると栄養の摂取量も家計簿の中からわかつてきますし、教育費が何パーセントを占めるかということで勉強会ができて研究され、家庭の経済の中から一歩前進します。大阪の方も外国を回ると日本の食生活が悪いとおつしやいましたが、私の方のアンケートからもそういうことが出されました。加工食品が七十三パーセントを占めて食料品がインスタントに変つている、お米や野菜が七十六パーセントになつていたのが、物価が上るにつれて十パーセントくらいずつ下つてくる。お母さんたちが家計簿を出し合つてどうして生活してゆくかなどとそんなお話もあるでしよう、経済的な問題は家計簿から出てくると思います。

小松　この問題をどんな角度からとりあげるかを提案したいと思いますが、今までですとおやじが稼いでくる、おふくろは被扶養者となつているがこういう考え方はよろしいのかどうか、僕は子供に僕と女房と二人で協力して稼いでいると言つているのですが、上の子にはわかるが下の子にはわからない、現象的には僕だけが稼いでいるようにみえるが、収入は協力によつて得られるのだという考え方それが一つあると思います。従来は生活費だけを出してあとは男性が遊びに使うということになつていたがこういうやり方がいいかどうか、両方が協力して月給が入つてくるならまず両者が確定できるような状態におかなければならない、その上で今度は家庭の経済生活をなり立たせる主たる責任者は女房です。女房は従来家庭の経済生活においてどういう関心をもつていたか、かんたんに言えばへそくりです。もともとつじつまの合わないものからへそくろうとするのだから無理な話です。しかし一家の経済を考えてゆかなければならないのが女房で、従来は亭主が主体で、表向きはまかされているように思うが実際はそうでない。家庭の経済生活における女性の地位というか在り方というものは変つてきつつある。この問題は皆さんはどうお考えですか？同いたいと思います。たとえば柾木さん、ご主人が俸給とりだとすれば「今月の生活はこれでやつてくれ」ということですか？

柾木　主人は二年前までは勤めに出ていたので月給は私に全部くれました。それは生活費で、そのほかの山林を売つたのやなんかは全部自分の懐に入れてしまうので、私は大層苦労しましたが、「まあ月給だけくれればいいわ」と思つて我慢していましたが、今は養鶏をして私も立派な収入をえていますので威張つています。

小松　山名さんは？

山名　育年実業家というところで、私は月々十五万円使うのですが一べんにというわけにはいかないんです。きようは三万円、あした十万円、きよう二万円というふうです。

小松　それでは亭主がなんぼ持つているかわからないんですね。

山名　自分の会社だからどういうようにしているのか全然わかりません。

小松　しかし夫婦間の誠実は収入源をはつきりさせることから始まるのでしよう。

山名　私もそう思います。だけどぼやかしておくのもいいと思つています。へそくりができて、

小松　亭主がかくし財源をもつているということは、いいと思いますか？

山名　私はかまわないと思つています。いくら月給袋をそつくりもらつたとしても私がやつてもらいたくないことでもやろうと思えばできると思います。お金の問題だけ誠意を要求してもどこか抜けていると思いますから、もつと違つたところでお互いに誠実であればいいと思つています。

尾島　私は結婚して一年間は共稼ぎでしたので明細書をつくつて見せ合つていました。全部家計簿をつけて余つたものは貯金に回すようにしていましたのでその習慣で私が会社をやめてからもオープンです。そういうことは大切だと思います。

小松　今までは共稼ぎでオープンだつた。しかし今稼ぎ手はもつぱら亭主だと思うんですか？

尾島　収入の面は実際には主人が受け持ちますが、支出は奥さんですからやはり両方にバランスがとれなければー。

小松　収入は夫婦の協力によつて得られたとお考えですか？

尾島　もちろんそうです。残業なんかで遅くはなりますが私だけその間のんびりしているわけではない、いろいろな負担があります。つくつたものをあたためたりおろしたりー。そういうことを考えても主人だけが働いているということはあり得ないでしょう。

小松　被扶養者という考え方はあなたの世代ではどうお考えですか？

尾島　なにか割切れない感じがしますね、養なわれているわけではないんですからね、実感として感じていないですね。

小松　あなた方の世代と柾木さん方の世代とは違つていますね、家庭の経済のやり繰りや実際の生活様式は尾島さんたちと柾木さんたちとでは違うでしようね。

吉田　主人が教員をして私が農業をしていますが農業のほうが収入が落ちます。しかし私は妻としての務めをやりながら農業をしているわけですから、洗濯は全部クリーニングに出すとか、料理は食堂にゆくとか、そうでなければ家政婦を頼むとしたらその費用を見積れば主人の月給以上は稼ぐと思います。

鈴木　私どもの家庭では私だけが扶養家族です。主人の月給は少ないのに子供を二人大学にやり、つき合いもあるし主人は私のやり方は神わざくらいに思つて偉敬の念をもつている。（笑）うちの収入は年額百二十万になつている、一月十万円の収入といつても手どりはその半分とちよつとです。その中で子供を二人大学へあげているのは私の神わざによるところが多いのですから、主人のほうが私に気の毒だと思つているぐらいで扶養者どころか家庭の大切な管理者と考えています。形の上では主人のほうが威張つていますが消費をあずかる私のほうが権威があります。奥さんから一日百円もらう人は百円亭主というのだそうですが、主人も百円亭主に甘んじています。私はそれがいいということでなく、それは社会制度からくるものでそういう経済機構を考えさせられます。

小松　新しいやり方と古いやり方では主人の持つてくる収入に関してもずつと意義づけが違つてくるわけですね、それでは本題に帰りますが、内面的な貧困から一向抜け出そうとしない場合、抜け出すきつかけは経済面に関して目を開くことをしたらいいのでは

ないでしょうか。

柾木　この間家計簿をつけ合つて皆さんで検討し合うというということも出したのですが、つけるのはいいが皆さんとの話し合いは絶対いやだというのです、人に自分のところの実体を見せるのはいやだというのですね。

梶原（特別オブ）　その場合はお名前を出さないで、家族の構成を出すだけです。

柾木　いなかはわかりますからね、あの人数でこういう字で書いてあるのはここだろう、うそが書いてあるのだなというふうなことですね。

小松　これは片づかないですね、あすもあさつてもやりましょう、それでは江里さんの問題に移ります。

江里　私は教育、家庭生活も、消費ブームに押し流されそうなことも皆さんで考えていただきたいと思います。皆さんの生活はレベルが高いが、農家の主婦はお父さんと一緒に田畑で一生懸命働きながら、お父さんが旅に働きに出た時にはお父さんにばかり働かせては悪いと、子供にるす番させて道路工事に出てかしづいているという感じです。ちつとも不平等だなんて考えません、本当は時代遅れなのかもしれないがある一面は美しいと思います。女ばかり勉強して、男女同権だといつて家庭に風波をおこすより、お母さんも働いて経済面を助けながらへり下つているのは、家庭をなごやかにしてゆくには悪いことではないと思います。

鈴木　農家経済だけでは収支がつぐなわれないというふうに考えて。

江里　お父さんが地元の工事に出たら六百円くらいですが、旅に出たら残業まで入れれば月四万円から五万円くらいになり、その中から寝床代とか雑費を引いていい方で三万円から二万五千円くらい送つてくる、お母さんたちが工事に出られたら一日平均残業まで入れて五百円、お父さんから送つてくるお金を使うような生活で、お母さんは、自分の働いたお金を、子供が風邪をひいた時とか自分が医者にかかるとかで使うことが大きいのです。小さい子供がいる人は、お守りを頼んで工事に出るのですが、少し大きい子供は放り出されることになる、暖かい間はいいですが寒い時は大変です。米や麦を持つていたら暮せるのではないかとお思いになるでしょうが、前だつたら生活できたのですが、隣りにテレビがあれば子供が承知しません。三十戸のうち半分くらいはテレビが入つたがよそへテレビを見に行つて火事になつたという例もありいなかの生活は皆さんがお考えになるより貧困なんです。

鈴木　五反百姓とか、一反百姓とか言つていらしたんじやないんですか？

江里　一反なんかでは生活できません。村長なんかずつとしていた人は二町くらいありますが分家した人は七反から八反くらい。

鈴木　農家収入だけではなり立たないのですか？

江里　四、五年前までの物が高くなかつた頃はできましたが、この頃では物価は上るし、工場ができてたくさん人を集めにくるし、麦作をつくつて大阪・名古屋方面に出てゆく人が多い、おいもはお母さんがつくつて俵につめて出す、二町も持つている人は煙草をつくるのですね、そういうちには問題はないのですが私が見てやりたいと思うのは、両親が別れ別れに働いている子供たちです。

南雲　たまたまテレビの「現代の映像」でそれによく似たのを見ま

した。それはお母さんがかまぼこ工場で働いている、證いてゆかれた子供を見て胸が痛くなつたのですが、あの中で考えたのですが消費財を買わされる前ならなんとか親子一緒に自分でつくつたものを食べて、なごやかに質素に暮せたのに便利なものを取入れるために家庭が崩壊する、お母さんが長い間うちを明けて子供をあぁいうふうにしてしまうことと、洗濯機やテレビとどつちが大事なんでしよう？もう少し物がほしいという気持が押えられないのでしようか、

小松　テレビや洗濯機を買うために出稼ぎにゆくのでしようか、それとも出稼にゆかなければそもそも生活がなり立たないのか、そこのところはどちらでしよう。

日下　南雲さんのご発言のようなことは都会でもあるでしよう。より以上の収入を得たい、家を持ちたい、ということからお母さんが出る、お父さんの持つてくるものでつつましく暮せばいいのに同じことでしよう。

江里　いろいろなものがほしいから働くというのではなくて働かなければ食生活が十分にとれないのです、きようもきのうもお魚を買わないで過したというような状態でたまたま収入がふえたからお父さんが安いテレビを買つてくるというようなことで、テレビがほしいからではないのです。

小松　働きに出なければ生活がなり立たないのですね。

柾木　いなかの人にもつとちやんとしてもらいたいのは、本当に農家はしいたげられている、皆さんは大根が百円して困るとか白菜が安くていいとかおつしやるが、私どもにしてみればやつと白菜ができた時には値がどつと下るので苦労が終わる時がないんです。豊作の時こそいくらか苦労の穴うめがしたいと願うのですが、百姓は立つ時がないんですね、労働組合みたいにわつさわつさすることもなく、一生懸命こらえているものですからますます下積みにされてしまう、皆さん方のお米をつくつているのは私たち百姓ですからもう少し皆さん方も協力して下さい。

吉田　私は農つ子も農村の別れ別れの生活も、どうしても食べてゆけない時は仕方がないと思いますが、ぜいたくのための共かせぎなら、親子がともども暮してゆくようにしたらいいと思いますが、現在の状況はなかなかそういうようにゆかないわけです。

鈴木　生活のためか電化製品を買うためかということが論議のままになつているようですが、そんなことはあげつらうべきではないと思います。百姓であるからつつましく暮せというのはあたらないと思う、都会で働くサラリーマンよりはるかに労働をするのにどうして代償が少ないか、働けば食べられるという世の中の仕組みにしなければならない、農業政策がまずいのだと思います。

柾木　わつしよわつしよすればとれるのかもしれませんが百姓は忙しい上に低いですからそういうこともできない。

鈴木　むしろ旗を上げるということでなく、政策で所得倍増はどこも同じに認められなければならない。今までの篤農家は米つくり日本一とか少ない反作の中で多くのお米をとつた人が表彰されていたのですが、今年の傾向は一町とか八反とかの畠をもつている人が共同でみかんを植えたり酪農をしたりして立派に暮せるようになつたということで表彰されたそうです。お宅のほうでは協調精神が少ないとおつしやつたが、世の中の情勢を考えて一町百姓、五反百姓でも食つてゆける方法をお百姓さんも考えなければなら

ないと思いますが…。

柾木　その点は主人が村役場の主な役目をしていますので、私どものほうは本当にいなかで、ほかになんにもすることがない、山はあるんだがどんどん値が下りますし牧草もない、養鶏でもすればと村の力を注ごうと村からも農協からも助成してもらつて、うちも卒先して始めました。小さなところですが今四、五万羽くらいになつている。するとよそでも始めるところが多く卵の値段が下り私たちは赤字で泣きました、みかんもそのうち下ります、この資栗を始めていますがこれもそのうち余剰になります。一生懸命かじりついて何か始めるとする余剰になる。

鈴木　計画生産が大事ですね、私どもも都会にいて白菜を一把一からげで二十円という時にはいい気持はしないですよ。これでは植えつけが少なくなつてきつと来年は高くなるだろうと思います。そういう意味で主婦の手で消費局をつくつて、計画生産、計画消費という線を打ち立ててゆかなければいくら話してもよくならないと思います。

柾木　最近でももつと安定した生活ができるように農林大臣に陳情したい気持で一杯です。

鈴木　今は農村の機構が変つているが反作の少ない人は農協の機械の運転者、トラクターのオペレーターになるとか、もつと少なければ農協の専従者になつて百姓団地をつくるとか、農村の方にもそういうことを意識して当局にも働きかけ、両方がタイアップして体質を改善しなければ駄目でしよう。

村井　鈴木さんのご意見とほとんど同じですが、うちはお百姓から品物を買つて市場へ送り出していますがうちのほうは馬鈴薯の産地で、去年はオリンピックがあつたので馬鈴薯とか人参野菜がものすごく高くなつたので、今年も人参をたくさん植えましたがあれでは余剰になつて安くなることはわかつている。テンサイがよければ全部テンサイにしてしまう。そういうところから体質改善が必要になつてくるのではないかと思います。取扱う私たち業者にしても百姓たちが泣き泣き売るのはいい気持がしないし、お使いになる消費者にしてもいい気持はしないでしよう、正当な価格で販売されればいいと思います。

江里　私どものところは鳥ですから鶏の卵を運ぶにも、野菜を運ぶにも船賃がいる、小さな町をかかえた百姓はお野菜くらいに頼つては生きてゆけません。大都会周辺の農村のお話とは違います。

尾島　今のお話は家庭経済から発展したものですが、家庭の中の問題が家庭内で処理できなくなつた場合どうするか、婦人の社会への復起が必要になつてきます。東京の婦人会議では「婦人は家庭に帰れ」という結論だつたのですが、しかし今のお話を聞いていると家庭の中だけでは解決できないので外へ出なければならないなと思います。

山名　ニュージーランド、オーストリヤは一番の金持ちはお百姓さんです。二番目も三番目も四番目もそうです。これは国がお百姓さんの生活が一番豊かで楽しくなるように世界的な目で補助を与えている。一番金持ちのお百姓さんは田畑を耕やすのではなくてマトンをつくつている、羊の肉を世界中に売り出すことに政府がものすごく力を注いでいる、そうすると政治が悪いからということでおしまいになりますがやはり世論を盛り上げていつて大きなものにしてゆくことですが。私は始めていなかの話を伺いました。

まだ私のようなぼんくらが大阪にもほかのところにもいるでしょう、だからこういう人たちに対してあなた方ももっと働きかけてほしいと思います。

江里　私はたくさんの土地をもっていたら農業は一番おもしろいと思います。会社員と違って青空を眺めながら自分の計画したことを家族と一緒に、トラクターや耕うん機などを使って耕地をたがやす。作物の値がよくて労働に対する報酬がよかったら私は本当に農業は楽しいと思います。この問題から派生して、そんなに貧困な青年にはお嫁にくる人がないので若いものが農村を捨ててしまう。あとつぎをさせるためにオートバイを買うとかテーラーを買うとかして、今までつないできた土地を捨ててはお先祖様にすまないからと親たちがおがむようにしてやっとつないでいる状態です。町へ行った人たちは中学卒業で一万三千円から四千円はもらうので、お手伝いさんは全然ありません。修学旅行にゆくような楽しさで工場にゆきますが、機械の糸が切れるのを見て歩いているだけの単調な生活なんです。でも着飾ってお正月やお盆に帰ってくると、また次の中学生がひかれてゆく。工場側でも確保に物を送ったとか親たちの関心をかうとかして、子供たちを呼ばなければ工場がもてないわけです。だから会社側は子供たちを誘うのに何万円もかける。お母さんたちは一万三千円をもらうと貧乏を引いてもうちにお金を送れるから貧乏な百姓よりいいということになる、これをどうして下さいということでなく、いなかの実情をわかっていただきたいのです。あまり問題が大きくて私は子供たちが不良にならないようにとそれだけが手一杯の仕事です。

小松　農村の崩壊ということは、数年前いろんな人が言っておりますね。どういうふうにその問題にとり組むかということはなかなか大きな問題で、名案がすぐに出るものではないでしょうが、そういう問題についてご婦人同士が討議し合うのは非常に新らしいことで戦前の婦人には考えられないことです。このように非常に大きく変っていながら変ったことに気がつかない。今すぐに片づかないでもそういうことで落胆しないほうがいいと思います。少しずつだんだんに動いてゆきます。こういう問題は一部の人が心配してすぐにとけるというものでない。非常に長い時間がかかると思います。気になっていたことはいわゆる「はなやかな」消費生活にあこがれて出かせぎにゆくから家庭生活が崩壊するのかということでしたが、そういう考えでないことがよくわかりました。内面的な貧困からどうして抜け出してゆくかということと江里さんの問題とは討議が不十分ではありましたが、またほかのとき繰り返して討議されることになると思いますからきょうはこの程度にとどめておきます。

江里　子供の教育の問題をおつしやつて下さい。

小松　わかりました。

了

第一部会

第二日目
四月十四日
一〇・〇〇～十七・〇〇

小松　きのうは、下郡さん、江木さん、江里さんのお出しになつた問題をやつてまいりました。一回や二回の会議で解決らしいものを見つけて帰るにはむずかしい性質の問題だと思いました。たとえば下郡さんの場合話し合いの広場を拡げてゆこうということですが、社会の問題、政治の問題にしてもお互いに意見を交換し、共通の意見をもつてすべての問題を解決してゆくというやり方は新しいやり方で、村の寄り合いは前からありましたが、対等な人が意見をもち寄つて解決してゆくという性質のものではありません。話し合いということ自体が新らしい行動の様式であり、生活様式ですから、それを受け入れるのはある場合は容易であるかもしれないが、ある場合はむずかしいと考えるべきだと思います。そうじて新らしいものは入りにくく古いものは安心感を与える。それが生活の根本にかかわつているものであればなおさらです。しかも生活様式は一人の個人や一つの家庭がささえるものでなく、国全体、国民全体が長い歴史を通じて多数の人々によつてささえられているもので、なかなかひつくり返せない。もう一つ話し合いの時に問題になるのは、話の内容だと思います。たとえば創価学会の人々の折伏のように、一つの様式を自らが信ずるだけでなくほかの人々にもその採用を切望するという場合、話し合いというやり方を通じてなにかが実現されるわけですが、その実現されるものに対してやはり一つの考え方がないと駄目だと思います。たとえば子供を交通事故から防ぎたいという場合、なまはんかな事では駄目でとことんまで守り通すという強い要求があつてはじめて、自分の甲の抵抗を押し切つて話し合いの広場を拡げてゆくことがで

きると思う。そういう意味で生活様式は、それによつて実現される目的、内容、価値を抜きにして人に受け入れられる、あるいは広めてゆくことは不可能に近いといつていいと思います。交通事故から子供を守る場合、目先の自分の子供だけでなく自分の本能的な要求をレベルアップしてゆかなければならない、また子供を守るのは、子供に将来めんどうをみてもらう将来の保険のためでなく、さずかつた生命を守り通すことが自分たちの世代の使命であるというように、子供に対する母親の態度が一段と深められ堀り下げられないと、なかなか新しい様式に従つて自分の生活を律してゆくことはむずかしいと思います。そういうことを生活様式、生活理念としたら　、と思います。

おととい私の出したテーマは、皆さんの討議された中に入つております。ついでに申しあげると、江里さんの問題、柾木さんの問題は、僕に言わせれば当分解決策のない問題だと思います。たとえば柾木さんの問題はやはり生活の根底からゆさぶられるような問題が起きて、始めてそこに住まう人々が自覚し、解決しなければならないというふうに考えてくる性質のものだと思います。むしろ柾木さんの場合へたに問題をゆさぶろうとしないで、記録を残されておいて、情勢が熟して実際に解決するという時に資料を提供するという気持でおやりになつたほうがいいと思いますね。

柾木　情けないですね。

小松　僕はそれも一つの態度だと思います。江里さんの問題ももつと深刻化して政府がその問題に本格的に取組まないとどうにもならない事態にゆくまでは具体的な満足される解決策は出てこないと思います。だからなんにもやらんでいいかといえばやはりおやりになつたほうがいいが、過大な期待はおもちにならないほうがいいと思う。無駄だとは知りながらなおかつやるということは人生には絶えずあると思います。

江里　ありがとうございました。

小松　きようは午前中は十二時まで二時間、午後は三時半まで二時間半、四時間半で十二の問題に取組むのですが、皆さんなりのお考えもあるでしようが、オブザーバーから一般的なアドバイス、こういう観点から問題に切り込んでいつたほうがいいということがあれば、伺いたいと思います。

梶原（特別オブ）　各地域で皆さん組織づくりに苦労されて、実のつたお話や実のらなかつたお話もありましたが、ただ娯楽だけを中心にして集まるのでなく、一つの拠点をもつて話し合いの場にのぞんで組織づくりを考えられたほうがいいと思う。

昨日は長崎の江里さんから、今の消費ブームの中に押し流されてそのために出稼ぎするというお話がありましたが、都会といなかの共通な問題だと思います。消費ブームといい、消費者は王様といわれる中で私たちは果して正しい受けとめ方をしているか、消費者は浪費の方向に向つているのではないか、生活が合理化されてゆく世の中で、人と人とのつながりによつて自分たちの社会の様式をいかにして変えてゆくかが、話し合いの場の中でしなければならない問題だろうと思います。生活様式の中でものを考えてゆくということを提案したいと思います。

小松　消費者の主体性を確立するという観点からもつと問題を堀り下げていつたらいいというご提案でございます。

井本（特別オブ）　会議の運び方を気にしておりました。と申し

ますのは皆さんそれぞれに深い思いで問題をもつてきていらつしやるのですから、その問題を解決とまでゆかなくてもなんらかの示唆をえてお帰りになることだと思います。お一人お一人が提起された問題をどういうふうに解決してゆくか、問題の焦点をぼかさないように会議を進めてゆかれたらいいと思います。拝聴していると焦点がぼけたりお話が筋道からそれるのがよくわかるので、そういう場合の発言をお許しいただきたいと思いますがいかがでございますか？

小松　ある程度フィードバックの気味はあつてもしようがないでしよう。焦点がぼけた場合とか、それから解決策を具体的に考えたらどうかという要望があつたらどうぞお手をおあげになつて下さい。その時に時間が許せばご発言願いたいと思います。日本人の会議は、会議なれしないので議事進行に関する発言をしなければならない場合が多いですね。だからはたでそうお感じになつたらどうぞ　。

佐藤（特別オブ）　お昼休みにあるお母さんが、何かをやるには勇気がいる、強さが必要だと言つていらつしやいましたが、これは生活理念をしつかり持つということにつながつていると思います。その上で実際に押し寄せてきた問題をどう解決していつたらいいかというと、さつき新しい生活様式と言われましたが、行動を起す時計画性を持ち、これによつて社会への目を開いてゆくことが必要だと思います。

小松　生活を守る場合、生活や人生に対するいきいきした情熱をもつていないといけないということがありますね。それでは楠さんの老後の保障の問題から入りましよう。

楠　私は年をとつていますので目の前に控えている老後の保障ということが心配になります。現在の物質文明の中でその恩恵に浴さなかつた老人は悲惨な生活を送つている。回りを見ると生活保護を受けている人は老人が多く、その生活の相談相手になつていますが、いろいろなことを末端的な機関や、地方自治体へ持つていくと政府のやることだといい、結局末端では解決できない。失対の場合は一日四百円で一か月に二十日間しか仕事がないし雨が降れば休みになつて困つてしまう。それも打ち切りの方向に進んでいると聞きますが、そういう人々は若い時には世のため国のために働いてきた人でありながら老後は苦しまなければならない。外国のことを聞きますと、日本という国は社会保障がよく届いていないから老人になつて苦しまなければならないということで、怒りを感じて書いたのです。

尾島　老人の問題に限つて申しますと、物質的な裏づけがあつてあとは家族制度の中で解決すればいいですが、それができない時は社会制度が問題になる。考えたいことは社会制度とか社会保障とかは特殊なことで一般には関係ないと思われやすい。しかしサラリーマンの家族で、一月十五万円のうち八割を食費に使うのは誰にもできることではない。老後のこと、子供の教育のことを考えて貯蓄するために生活を切りつめているわけです。特に日本はILOの八条国への移行のため、これからの企業は今までみたいに賃金を年功序列で上げることができなくなる。サラリーマンも、能力給になりますと能力のない人は年をとつていくら子供が多くなつても給料は上らない。児童手当制度などが考えられ四十二、三年頃から実施されるということですが今までは特殊であつた社

会福祉に対して関心をもたなければならなくなる。社会保障制度の確立は専門家におまかせしなければならないが、自分たちの身近かなところでできることは老人ホームを山の中でなく町の中につくつて淋しくないようにしたり、老人だけの団地をつくるとか、保育所の問題も、実際にやつた例ですが陳情すると同時にささやかではあるが皆さんでつくり上げるとか、一歩ずつ積み重ねて社会保障制度をわれわれの権利だといつて国におまかせするだけでなく自分たちの手で高めてゆかなければならないと思います。

水野　老後の問題について、私は採算面と経済面の二面から考えなければならないと思います。一つは子供たちの親に対する扶養の義務、これは子供に責任観が薄れている、現在法律からいえば当然子供は平等に親を見なければならないのに、経済的にむずかしいから親まではめんどう見られないという方もいらつしやる。それから経済面で日本の社会保障のレベルが低いことは文化国家としてははずかしい、老令年金の額をもつとふやす運動を盛り上げなければならない、また医療費をもつと安くすればそうたくさんお金がなくても楽に暮してゆけるだろうと思います。医療費の値上げは、女の人が黙つていてはいけないと思います。もう一つの医療保障の問題は老人が病気になつたら国家が保障してくれるところまでゆかなければならない、安心して生活できるように家庭の子供も社会も考えてゆきたいと思います。

小松　楠さんは引き上げてこられて二人のお子さんを育てるのに苦労してなんとか一本立ちになつたが、察するところご両親のめんどうまではゆかないというところにおられると思う。戦争によつて生活の基盤を失なつた楠さんは社会的な責任から子供の教育に全力を尽された。その結果社会が楠さんにむくいるところはなんにもない。社会保障、社会福祉関係の地方機関にたずねて行つても非常に冷たい、端的にいえば、憲法の条文とは正反対な態度に出くわしてやり切れないところからこの問題を提起されているのでしよう。

楠　そうです。養老年金、養老院を考えてみてもお先まつくらという感じです。県の婦人会議でこの問題が出ましたが、県の婦人青年課長という方が、社会保障は国でやるべきだが、老人の福祉問題は費用がかかるから、二、三世帯の同居方式で解決する方法を基本として検討している。二、三世帯の同居の形にすると生活が豊かになるとおつしやいましたが、果してそれでいいものかどうかと感じましたので一。

小松　楠さんの問題に即して、社会保障は恩恵か権利かを提起されていますが一。

尾島　国で当然やらなければならないことを二、三世帯に押しつけている。社会保障はもちろん権利ではありますが戦いとらなければならない問題ですからそのための積み重ねも必要です。二、三世帯の同居はなかなかうまくゆかないし、第一根本的な解決策でなくむしろ後退している形になると思います。数千億円を軍事費にかけているのになぜ老人対策をやつて下さらないか、婦人や老人が入つて協議する機関があればいいと思います。

楠　革新団体の話し合いなどでは軍事費を社会保障に回せということで終わるのですが、生活白書では国民一人当り十八万円ということですから、この位の保障は妥当でしようが、千億円の軍事費をこつちに回すだけでなくその線で暮せるようにと思うのですが。

鈴木　国民年金が三、四年先には一万円程度支給されるのではないかということですが、今老人年金が月々に千円で、恩給の高い層とかみ合わせると一人平均七千円ということですがこれはずい分少ない数字ですね。私は出資できる層が出して暮せない人がないようにしなければならないと思いますね。そういう世の中の仕組みになつてゆかなければならないでしょう。

尾島　外国では今いくらかかるか計算して、国民一人当りに割つて出すということですが、そうしなければならないと思います。

鈴木　公務員の場合二万円以上もらつているのに、同じように社会に貢献した人がたつた千円で暮さなければならないのは不合理だと思いますね。

小松　楠さん自身老人問題が政治的に発展してゆかないのは不合理だとお思いになりませんか、大変な問題ですよ。総理大臣は口では言わないが。政府の腹は予算でわかる。あれを読めば、死んでほしいということははつきりいえないから少しごまかしていると言つても言い過ぎでない。私自身ケースワーカーを育てている学校に行つておりますからそこからも話を聞いております。

柾木　老人問題はお金が大きな役割をもつておりますが、ただ単にお金だけで解決できないと思います。非常に社会保障の進んでいる外国でも、最も老人の自殺が多いということはそれを示していると思います。都会の方はよほどのお金持ちでなければ広い庭もなく老人の仕事がないでしよう。いなかでは老人は八十、九十になつても必需品ー叱られるかもしれませんがーです。子供のお守りはもちろんのこと畑の仕事、田植えこそできなくてもお茶をわかしたりご飯をたいたりするのはおばあちやんの仕事です。おじいさんも薪を割つたり年寄りのいないうちは本当に不便なんです。だからこそ因襲的でもあるのでしようがこれは老人が力を持つているということでしよう。老人にとつて仕事はささえにもなり、のけものにならない原因なのですね。都会の方は「都会」流に、いなかの人は「いなか」式に今からそれぞれに役立つていい方法を考えてゆきたいと思います。

小松　楠さん社会保障は権利だとお考えでしよう、その権利を行使される場合政府には保障の義務が出てくる、今みたいに年金をくれることが望ましいか、なんらかの形で老人の仕事をもつて社会に参加し存在理由をもつことが望ましいか、どちらでしよう。

楠　今定年は五十五才ですがあと十年くらいは使えると思います。若い人を安く使つて年寄りを追い出そうとするようですが、老人を使うことを提唱するとかー。

小松　老人に職を与えよということですね。

楠　炭坑労務者が職業訓練を受けますが、所帯持ちで三十五才くらいから中、高年令層で、四十で所帯を持つていたら高年令層だそうですが日本は老人には冷たいですね。

小松　若年労働者は使い捨てでひどいところは二十才停年説がありますよ。だから若年労働者は優遇されているわけではないですよ。

日下　老後の保障を別な観点から、今もらつているものを全部使つてしまわないで将来のためにこれだけは自分のもの、これだけは子供に当てるということにしたらどうかと思いますがー。それから時間があつたら医療制度についてのご発言がありましたが、これについては多いに認識していただきたい点があると思うのですがー。

小松　なるべくその時間をとりたいですね。

幸道　私どもの社会保障制度だから戦いとらなければならないし、家庭にいるものはもつと視野を拡めてその問題に関心をもてというお話ですが、私どもが子供を育てて社会に送り出しあとになんにも残らないわけですが、私どもの小さないなかの町でも一番立派な建物が生命保険の会社ですね。消極的ですがやはり政府を信用しないで貯蓄をし、生命保険に入つている。生命保険は収入の何パーセントくらい入つたらいいか教えていただきたいと思います。

尾島　社会保障制度が整えば現在の生活を犠牲にしてまでも貯蓄はしなくてもいいでしようね、将来のことは制度の内容を充実させるためにできるだけのことをしなければならないと思います。

日下　政府に働きかけても動かなければ仕方がない、自分のことは自分たちでしなければならないでしよう。

楠　あなたは余裕があるのでしよう、私の場合余裕がない、そして私よりもつともつと困つている人が多いわけなんです。しかもやらなければならないことが多いのだから赤字でしよう。私のように気がついてみれば、子供は下の子が大学へ行つているのですが子供に頼る気持はもつていないのです。私としては社会保障に対する権利意識を強くもつております。

小松　私の下の子が、五つくらいの時にテレビに養老院が出てきたら「あれはママが年をとつたら行くところでしよう」と言つたそうで女房はがつくりきていましたが、根本的な解決策は政府が制度をつくり変えるほかないでしようが、しかしそれを待つていれば死んでしまうでしようからさし当つての解決策を考えなければならないでしようね。

江里　千円の年金でもとても喜ばれています。病気で寝ていた母が四か月に一ぺんもらつた四千四百円を寝床の下から出してみせて、うれしくて仕方がないと言つていました。食べることは貧しいながら自分たちの手でつくりますし、家族と一緒に暮せれば千円の価値が出てくると思います。

小松　楠さんの場合その千円が焼石に水というわけでしよう。

江里　ここで家族制度の問題が出てくるわけですが年寄りが家族と一緒に暮せばその価値が出てくるのですね。

山名　私が外国に行つた時にまずデンマークに二月いました。向うは年よりだけでなく子供もお金をもらう。小学校に入ると学校の費用を全部くれるのですね、だから両親は子供のために働かないでいい。するとコペンの女性は子供が二人いるのですがとても淋しい、自分の子供でないみたいだというのですね。たとえば娘さんが「ボーイフレンドと遊びにゆくから」と言つてくる、「まだ高等学校だから行つちやいけない」ととめると、「私はお母さんに養つてもらつているのではないから好きなようにする」と出ていつて、結局子供ができてしまうのです。もう一つ、いなかの話ですが年よりはすごく立派な設備の養老院にいるわけですが私が行つた時、私はデンマーク語が全然わからないのに一生懸命蜂の巣を突ついたように話しかけてくる、この施設ができてから八年しかたたないのに海へ入つて自殺した人が百何人かいるそうです。

オーストリヤはとても裕福な国で社会保障がなくとも自分でやつてゆけるのにその上国がやつてくれるのですね、私が居そろうをしていたうちは裕福で男二人、女二人の子供がおり三十七の若

い奥さんなのに、「日本の国が子供と一緒に暮せて一番いい」と淋しそうに言つたその様子がとても私の印象に残つています。

鈴木　私は子供の負担にならないようにしたいと思います。社会保障制度で最低生活を保障して家族と同居するのが理想的ですが、それが望めないならば働ける場を広くしていただきたいと思います。五十五才でぽつきり打ち切られる定年制を考えるとお先真つくらな感じがします。死亡平均年令と定年制の間をマイナスしてみると食費から全部加えると三百五十万という線だそうですが、それだけ退職金をいただける方は少ないだろうと思います。停年制をなるべくなくしていただきたいと考えます。それには賃金を年功序列でなく職能給にすればいつまでも勤められることになる。定年制を廃止して、男はせめて六十五才にでもなればかなりあとの問題が楽になるでしょう。第二の働き場所を考えた場合年功序列と職能給とどちらがよいのでしょう。私は大局的からみていき長く働けたらよいと思うのですが、この点サラリーマンの奥さんたちはどう考えていらつしやるでしようか？

尾島　職業を与えてほしいということと、保障があつても淋しいということもありますがそれをミックスしなければなりませんね。山の中の老人ホームでは淋しいから団地なら団地に建てて、老人にいかにして仕事を与えるか。

吉田　親が子供の厄介にならないというあとずさりするような考えでなく、自分自身が両親に仕えて子供も知らず知らずのうちにそれを見ならつて、離れていても親のめんどうをみてくれると思います。

日下　私も同感です。

石川　子供が親をみるのは義務だと思います。うちの場合子供が女の子ばかり、私が長女ですが私の両親は老後のことを考えておりますが私は親をみたいと思います。しかし将来のことを考えれば両親のことばかり考えてはいられませんし、男の人でも親がいるのといないのとではお嫁さんの来方が違うと思う、そういうところに問題がありますね。

小松　私は楠さんはちつとも明るくならないだろうと思いますが！。

井本（特別オブ）　社会保障はあくまで押し進めてゆかなければならないのですが、私たちはそのほかに何をすべきかといえば、西欧諸国の文化の根底は宗教であり、宗教的な愛による連帯感がある。日本では公立の福祉施設に寄付するという形で今まできておりますが、あちらではまず民間の団体がその施設をつくつて、その上に政府の補助をもらうということを聞いております。

私どもは家計簿の記帳をしておりますがその中から社会にささげる費用を拾つてみるとあまりにもその金額が少ないことを反省して、せめて収入の一パーセントは社会にささげたいとみんなで話し合つて、一日一円運動を提案なさる方があつて今公共費をしきりに集めております。篠名の山麓に安い土地があつたのでそこを買つて老人のおるす番を頼んで「憩いの家」をつくつて若いものも含めてみんながリクリエーションに行つた時にお元気な老人に助けていただいたり話し合つたり、私たちが居ない時も工芸的な仕事が得られるように考えております。

小松　老後の保障の問題は制度的な問題と中みの問題があると思います。制度的な問題では、精神面を忘れて、老人を社会的に隔離してしまう結果になり兼ねないと思う。だから常に、人間は人間

の中にしか喜びを見出せないということを考えるべきだ。人によつても違うでしようが社会の中で自分の生きがいが感じられるような形の保障がなければならない。もう一つ制度的に高めてゆかなければならない。今までは恩恵だつた貧民対策みたいな、だからみんな行きたくなかつた、今でもその名残が残つています。権利というけれど政府の義務ですね、その履行の場合政府のやり方が非常に貧しい。デンマークの場合もレベルは高いが履行の仕方が貧しく、欠陥を含んでいるから自殺の問題が出てくるのでしようね。社会や政府がその義務を履行する場合に内容を豊かにしなければならないということが大事ですね。

柾木　日本には立派な家族制度があるのですから、外国のまねでなく合理的につくつていただきたいですね。

小松　いやそうじやない、つくつてゆくんですよ。（笑）

梶原（特別オブ）　社会保障の問題は厚生年金事業団があつて民間の事業に八十パーセントは貸し付けていただけますから大いに使つていただきたいと思います。

尾島　施設を建てる時に使えるのですか？

梶原（特別オブ）　そうです。八十パーセントは年五分で貸してくれます。老人ホーム、保育所、公共施設、集会場とか二十年の年賦で貸して下さいます。公共事業団は厚生省の中にありますから、ある程度皆さんのお声を厚生事業団や労働組合の中でも扱つていただけます。

楠　昔の家族制度は反対じやないんです。新しい意味の家族制度がほしいですね。

日下　お互いにゆずり合つてね。

小松　それでは尾島さん、楠さんこの辺でいかがでしよう。吉田さん、日下さん、水野さん、石川さんの問題は文化のひずみの問題でしよう、一つ吉田さんからゆきましよう。

吉田　私たちのところは農村としては裕福ではないかと思います。それでも物質文化の進歩によつて社会的に目を拡げるのでなく、小さく家庭に閉じ込もる傾向に移つて、今までは婦人の組織に入つたりして社会的なものに目を向けてきましたが、婦人組織を自分たちの手で崩壊してゆく現象が起つています。文明文化の発達で家庭だけでは処理できない問題をかかえておりますのに、組織が崩壊されてゆく有様ですので、こういう解決があるということを教えていただければ幸いだと思います。

小松　それは農村だけでなく日本国中がどんでん返しで東京周辺も三か月見ないとわからなくなります。われわれの心の中の在り方も生活様式などもべつたりと変ります。だからあなたの悩みはあなたのところに鋭く出ているかもしれないがわれわれのところもみんな同じです。文明文化とおつしやつたが、いろんな新しいもの、たとえばテレビ一つ入つてくると、テレビだけではなくてテレビにまつわるいろんなものが入つてくる、これは目に見えない農村生活のきずなを切つてしまう、ところが切れたという気持ちもこちらにはない、だからなんだかうまくゆかない。部落の集いに前はさつと集まつたのに集まらなくなつた。なにか事をする時に前はその意義に疑問をさしはさむ人もなかつたのに、この頃では異議を出す人が出てきて気持よくゆかない、どうにも見当がつかない問題が出てきて誰に相談していいかわからない、こういうことでしよう。あなたの問題は消費文化にふり回されているとい

う問題ではいけませんが、今までは動いていたのに動かなくなつた例は？

吉田　地域婦人会という全国的な組織があつて末端まで動いていたのに、いろいろ文化的なものを取り入れるために今まで以上働かなければならないので、男はもちろん婦人までが働きに出るのでいろいろな集いがわずらわしい、自分のうちさえ便利なものを取入れていい生活をすればいいという考えです。目を拡げて近所や社会がよくならなければ自分もよくならんということで今までせつかく伸つて来ているのに近年それがくずれ出してきたのですね。婦人の地位の向上も物質文明と離れて、精神文化は伴わずということです。

小松　地域婦人会はこわれちやつたのですか？

吉田　そうです。よそさんのところでもそうだつたら一層考えなければならないし、どうもわからないところがあります。

小松　地域組織がくずれているのを目の前に見て、なんとか対策はないかということですね、原因はなにかあるのですが？

吉田　働かないことには金にならない。住みよい社会にしたいという目に見えないことより、目に見える現金収入に押されるのですね。

柾木　もともと地域婦人会は網羅的で誰も彼も引きずられて入る団体です。私は吉田さんとは別にかえつて皆さんが飛び出して何かをつくることを望むほうです。今までのように「入れ入れ」といつて入り、「右向け」といえば右を向く気持がはがゆい。物質文明や経済的なことで今まで地域婦人会についてきたものがついてこなくなつたというのは、牛耳る人には、団体行動の面からもやりにくいこともあるでしょうが、網羅的な婦人会はもう考える時がきていると思います。

吉田　それに代るもの、自分たちに合う組織をもつならいいですが、世の中とのつながりは考えないんです。

日下　私は婦人会なんかなくてもいいじやないかと言つていたのですが、婦人会の支部長に選ばれまして、思つていたことが偉い小母様方の前に出たらなんにも言えなくなつて「何かしましようよ」ということになりました。私のところは交通事故が多いので交通安全人形をつくつて町の八幡様に祈願して町が安全都市宣言をした日に順番で要所要所に出て自動車を持つている人にあげるのですが、違う意味で婦人会ができてきたような形ですが一。

小松　別な形で婦人会もできるんじやないですか？

吉田　あの手、この手を打つてみてもいけないんですが、

小松　なにか融通面はないんですか、具体的にはどういう形で？

吉田　私のところは農村ですが耕うん機の問題にしても、また男子の高校生が、バスが半時間おきに通つていてもオートバイで通学する。そのオートバイがわざわいのもとになつて交通事故を起したり不良化したりするので、話し合いによつていい方向にもつてゆきたいと思つてもその場がつくれないのです。

柾木　私の問題と同じていなかの人はなかなか自分でそういうものをつくろうとしないのですね。

江里　いろいろなことをお願いするにしても一人一人の場合より組織があると強力なものになると思います。吉田さんの場合は命にかかわるとか、子供が不良になつて困るとか頭を抱えるような問題があれば別ですが、もつと涙を流してなんとかしようという問

題が起らなければ駄目かもしれませんね、そうすれば必要から始めは小さな波紋でもだんだんと拡がつてゆくのではないでしょうか。

小松　その日まで灯を消さないようにー。

吉田　手を上げてしまおうかと思うのですが、皆さんもそういうご意見なら非常に心強く感じますし、その日のくるまで待ちたいと思いますが、皆さんはそんなもの必要じやないとお考えですか？

日下　それは必要でしよう。

鈴木　私どもの地域の婦人会は有名無実でした。大変少ない人数でしたので勉強しやすくお互いに切磋琢磨して内面的に非常に高まつて注目を集めていました。しかし大勢の中に包括されるのがいやになつて放れてゆきましたが、お互いに自主性と能力は持ち合わせているので、毎日の生活には不自由は感じないがなにか手をつないでやろうという時には不便だから組織はなければならないと考えている。つぶれてはいても形はあるのですから新しい自覚が起つて再発足するのではないかとそれを待つています。

尾島　私は組織に入つたことはないんですが、組織が崩壊したというのは、物質文化が押し寄せてきたために起つた現象でしよう。もう少し幅を拡げて起つてきたいろんな問題に入つていつたらどうでしよう。

小松　物質文化にきりきりまいということで石川さんの問題からゆきましようか。

石川　流行はいいことですが流行を押しつける会社に反省していただきたいですね、服装ばかりでなく毎年冷蔵庫や扇風機も変つてゆくでしよう。壊れたものを修理したくても何年型は部品がないといわれて新しいものを買わなければならない。次々に新しいものを買えば会社は繁栄して経済成長になるのかもしれないが何か割り切れない感じがする。特に私は身近かな問題として服飾の流行をとりあげたわけですからー。

小松　石川さん、なぜ会社はそんなことをするんでしよう、昔はそんなにひどくなかつたでしよう、それが最近は流行の先どりまでしてね。

石川　会社は新しいものをつくらなければ大きくならないでしよう。

小松　昔もそうだつたでしよう。なぜこの頃はひどいのでしようね。

日下　私は皆さんがついてゆくからだと思います。程度問題ですが。

石川　私たちにも経済の余裕が出ているんでしよう。

小松　戦前だつたらそういう余裕のある層も多かつたのですがその頃はやれ買え、これ買えといつてこなかつた。

日下　やはりついてゆくんでしよう。

小松　ついてゆくからだという説に賛成の方は手をあげて下さい。

全部ですか？

幸道　それはやはり戦後の高度経済成長で会社は設備投資をしなければなりませんし、そのためには大量生産をしても輸出がきかないから日本のお客さんに買つてもらわなければならないー。

小松　大量生産大量販売であおるわけですね。

幸道　地方会議の助言者はデパートの社長さんでしたが、その方はメーカーが先に流行をつくるのではなくて最近では消費者にどういう流行をつくつたらいいかを相談する形になつているということですがー。ついてゆくという方は考えて下さい。

日下　自分自身を高めて信念をもつてその上で選択すること、三年

前に買つたものより今年のものがいいからといつてそう買い換えはしませんよ。

小松　だけどね、経済的な強制もあるでしょう。きのう話した女子学生が短いスカートをはくのは小づかいがないからだというんですが、今年は長めだそうですね。

石川　靴でも先がとがつているものほかないのですね、洋服の色や形もそうでほかのものがない、だから少ないものより多いものの中から選ぶほうが安いし、いいものがある、その上時間もかからない。

小松　日本人の足は小さいし扁平なのにあちら向きの靴型でつくつている明治以来ね、そして男も女もそれをはいている、軍隊では靴に足を合わせろといつて怒られたものですよ、あなた方は怒られないのに靴を合わせている。

鈴木　合わせたものをつくるとお金が倍かかるので、できないのですね。

小松　だからさつきも言つたように経済的な強制があるんですよ。

鈴木　流行でないものを探すのにはかえつて時間がかかる。犬養道子さんの「女が外に出る時」という本にそういうことが書いてありますね。

南雲　経済的なゆとりができたので物を使い捨てる姿勢もあると思います。メーカーが大量につくるのは安いし新鮮です。そのうえ宣伝する。それと最後いろんな化学製品ができて使い捨てる傾向もある。流行のものを使つて、そして使い捨てればいいという気持のもち方に大分問題があるでしょう。

小松　片方メーカーの宣伝にのせられ、片方余裕が出てきている。下那　すべて近頃は、衣類さえも消耗品化しているが女性にしつかりしたものがないから売れる。だからメーカーがつくる、女性がマイペースでゆけばそうまで流行を追わないでしょう。きのう谷野局長さんのお靴を拝見して感心しました。先も丸くてはき易そうなお靴をはいていらつしやる。東京は道路も整備されていますから「かかと」の尖つたものでも弊害がないと思いますが、宮崎では歩道のごぼん目にハイヒールが入つて靴の皮がむけてしまう。地域に合わないものをはいているわけですがあつらえると高いので仕方がないんですね、私たちが望めば靴屋もそういうものをつくるでしようね。

小松　明治から百年かかつていますが百年目の要求ですね、日本人の足に合わせた靴をつくれと全国の婦人が要求してごらんなさい、大変なことが起きますよ、これはー。

柾木　都会の方に質問したいのですが、都会の方はあれだけ流行の服をおつくりになつて前の洋服はどうなさるのでしよう。まさかすり切れるまで着るわけでもないのでしようにー。

石川　私の場合被服費はかかりますが親がお嫁にゆくのだから買いなさい、そして「たんす」の中に入れてゆきなさいと言いますのでー。

小松　嫁さんになつたらそんなに買わないでしよう。亭主はそんなに出しませんよ。

鈴木　センスでそういうふうに見せているのでしよう。最新流行の服を着ているように見える場合でも、しさいに見れば十年前のものを着ていらつしやると思います。そんなに買いはしないでしよう。ご商売の方や映画女優さんなんかは別ですがー。

小松　僕は最近の女の人をみて下手だなと思いますよ。

遠山　ちよつと襟の形なんかを変えたりすると感じが違つてきますしー。

鈴木　マフラーやアクセサリーなんかでも感じが変りますね。

柾木　頭を使つて変えていらつしやるのですね。

水野　お買物をする時に時期を外して買うと半額で買えますね、流行の時なら高いですが半年ずらせばうんと楽になりますね。

小松　流行に追い回されないためには実践が必要ですが、他方において大企業の売らんかな主義にも抵抗しないとー。

村井　洋服ばかりでなく日常使う消耗品なんかは各家庭での効能に大小があると思います。ある家庭では洗濯機は効能を発揮しある家庭では飾りものになつている、だからマイペースでゆくこと、それから物を買う場合の姿勢が大切でしよう、商品をよくテストして実際の経験をもち寄つて冷蔵庫でも自分のうちに適したものを研究して求めること、そして個性のある生活をすればプラスになるし、流行に追い回されることもない。デパートなんかのアンケートを大いに利用したらいいと思います。

幸道　お一人で家の中で考えたりやつたりしていては駄目です。大きなものを目ざさないで身近の同じ考えのものから始めて二、三人からやつていつたらいかがでしよう。私のところも東洋レーヨンからパンフレットをみてくれといいますので、まずグループに回しております。

南雲　メーカーのほうでも反省期がきているところもありますね。ステレオの形に興味があつてみていましたところあるメーカーではこの型は半永久的にモデルチエンジしないと書いてあるのですね、こうすれば今までのように何年型は部品がなくなつたなどといわなくなります。メーカーも、もつと内容的に質的によいものにすればよいというようになつてきているのでしよう。

小松　五年、十年使えるということで買うのですからその責任を向うにとらさなければねー。

南雲　今までは年々同じ会社で三つ四つの型を出すんですね。だから二、三年たてば壊れても末端のお店では修理ができない、本社に問い合わせるといつて半年もそのままにしておいたりということもありましたが、それがよくなつてきたと思います。

楠　私はいつもベレーをかぶつているがこれを三十年来続けている、流行にとらわれるより個性を生かすこと、そうなれば長く着られます。

小松　では午前中はこれでー。

（再　開）　一三・三〇～一七・〇〇

小松　工業化が生み出したさまざまな問題をどう解決してゆくかということですが、一見今までの問題を関係ないように思いますが話し合つているうちに共通な面があることがはつきりするだろうと思います、では日下さんから一。

日下　工業化による社会環境のプラスの面は置いて、マイナスの面について考えようということですが、物質的なものに振り回されるということは一応すみましたので、自然の環境については静岡の方と全く同じ意見ではないかと思いますのでまとめていただいたらどうでしょう。

水野　結構でございます。

日下　私は一つの経験を通して次のことをしたいとおもつております。この度もそのことで町長に子供の遊び場を考えているかとお聞きしましたところ、「ごもつともなことだが予算がない」とおつしやいました。この問題は各方面からばらばらに出ているらしいんですね。今まで私どもが知らなかつた全く新しいルートからお金が出るとを今日お教えていただきました。私たちが考えている以外の方法があればお教え願いたいと思います。

小松　工業化は運命みたいなものですから、泣きの涙でこらえなければならないということですか？

日下　いえ都市も公害に対して煤塵警報とか騒音防止令とかいろいろつくつていますが、その適用について基礎調査をしましたところ四日市並みという中間発表があるのですね。

小松　工業化というと抽象的ですが大企業がくるとあなた方の土地は大名を迎え入れるように土地もなにも提供する、企業側は前から住んでいる人たちのことは考えない、固定資産は払つているのだ、来てやつた、という態度のところが多いらしいですね、行政法をやつている友達の話ですが学界でも問題になつているらしいですよ。果して工業化はいいことか、周りに住んでいる人間にとつては不幸なことだが国全体としては望ましい、われわれはお国のためにおとなしく泣き寝入りをしたほうがいいというお考えですか？

日下　いいえ。私は政府や県からの騒音防止令とか煤塵警報などで、今まで三本の煙突から出ていた煙や亜硫酸ガスが五本から出るようになつても空気の汚染度が今までと同じならかまわないと思う。今までのように風光明媚な瀬戸内の海で一本づりをやつていればいいというのでなくて、煙突から出る亜硫酸ガスが結果的に同じであれば許そうと思います。

水野　私の場合も清水港が狭くて困つているのですから拡張は仕方がない、また高速道路ができて交通量を緩和することはいい、しかし海を埋める前に子供たちが困ることを考えて、代償的なものを与えてからにしてほしいと地元の方と一諸に市へ陳情しているのですが。緑地帯の建設と海水を引き入れ、自然の形をとり入れたプールをつくつてほしいと要望しておりますが、子供に対して愛情のある政治が行なわれていないと思う。清水港だけでなく同じ現象が静岡市の駿府城にも起つている城の二重の堀の水がすつかり枯れて小さな水たまりになつている、そこに水を入れて魚を放して春休みなんか子供が来てつりをしているが、魚の数より釣り

のほうが多いくらいです。そのくらい子供たちは自然に親しみ、自然に集まりたいのにそれがしてもらえない、しかも知事公舎の前なんですよ、知事さんは一体何を考えているのでしょうか、声を大きくして叫びたいと思います。

日下　子供が夏休みにもらつてくる地図にしるしてある水泳禁止地区は全部私どもの地区です。そのため私どもの学校は大分前にプールをつくりましたが、今度は子供の遊び場を政治の力で確保したいのです。

小松　そちらではすでに大企業が誘致されてなにほどか地方経済がうるおつている、村井さんのところはむつ製鉄所を誘致しようとして駄目だつた。昔から東北は不遇なところで東北振興が叫ばれている。そういうところにいる人からみればぜいたくに過ぎると考えているのではないかと思いますが何かご意見はありませんか？

村井　むつ製鉄所とおつしやつても私はテレビで見ただけでよくわかりませんが、私どもの八戸は新産業都市でじやんじやん工場ができて土地が買収されて地価が上り、交通の問題とか同じような問題が起きています。私は八戸からちよつと入つたところですから実体はよくわからないのですが、日下さんのところのように地区でＰＴＡと婦人会が一緒になつて高架道路ができ交通事故がずつとすくなくなつたところもあるようです。

小松　工業化はむずかしい、大きな企業が進出してくるといい事もあるかもしれないが困つた問題も出てくる、それをどんなふうに解決していつたらいいでしょうね。

日下　町長さんに私がその問題をお聞きすると、急に大きくなつた町だから自治庁に陳情してもなかなか他と同じようにお金がいただけない、あなたが東京に行つた時に訴えてよくなるようにしてくれというのです。

小松　遠山さんのところは公害はあるんでしょう、製鉄所からの煙が風向きによつてはあつちへ行つたり、こつちへ行つたりして－

遠山　私のところは山の手ですからあまりそういうことはありません。

日下　公害といつても、おふろ屋さんの煙が洗濯物を汚しても公害にはならないのですね、みんなが害を受けるものは政治的にとりあげられる、ごみだけでなく音に対してもそういうことはありますね。

下郡　私どものほうの近くの大淀川の川沿いに澱粉工場が五、六十もできたのですが完全な設備がないために汚れが大淀川に流れ込む、住民は大淀川の水を飲んでいるのですが水をろ過して使つていてもまともに飲めないのですね。いろいろな争いがありましたが工場側には資金がない、婦人団体その他が盛んに陳情して公害防止条例をつくるとそれがいろんな方面に波及して、全国的な問題になつて次の誘致ができにくい、宮崎は新産都市として指定になつたので会社が来なくなつても困る、しかし水の問題は婦人が立ち上つたり、漁師が魚がみんな死んでしまつて食べてゆけないと騒ぎたてたりで、県がお金を出して澱粉工場に設備をさせて監督する、水源としては市からも予算を出して大淀川の水だけでなく井戸を掘つてやつと落ちついたのですが、これもやんやん言つたから早く片がついたので運動を起すということは必要でしょう。

小松　県から出たというお金はどこから出たのでしょう、あなたの

財布からですか？　（笑い）

日下　公害の問題は県や市は、会社に対してたとえば集塵措置をきびしくするとかするのですね、住民は汚れつばなしでは迷惑ですから是非そうしていただきたいですね。

尾島　聞いているとやつていることがさかさまですね、つくる前に当然起る問題に対して防止措置をしなければならないですね。

小松　工場誘致は地方自治体がやるのでしよう、その時に婦人の声が入らなければならないし、誘致する場合の計画が総合性をもたなければならない。誘致以前の段階で発表のイメージをつくる場合、みんなが発言しないと後手になると思う、そして最後には自分のふところから出しておるにもかかわらずいかにも県がやつてくれたというふうに感じてしまう。

水野　問題を察知するにはグループの話し合を持つていれば情報が早いですね、沼津三島地区は歌にもありますように水で有名なところですが、今ここの奥さんたちは夜でないと洗濯もできない、これは東洋レーヨンの大きな工場を誘致したために水が出なくなつてしまつた。そこえ石油コンビナート誘致の問題が起つたのでお母さんたちが立ち上つて猛反対を開始した、大きな公害がくる場合を調査してその被害の大きさを訴え続けました。二市一村が団結しそのために市長や区長が交代したり、上から催促がきても下から盛り上る強い反対が政治まで動かし、住友化学と東京電力が一緒にやろうとした石油コンビナートは一時中止になつてしまいました、だから工場誘致は、道路ができ水道ができ、公害問題がなければ地域がうるおうことになるでしよう。また大きな工場ができれば農村の次男三男が助かるところは別ですけれど、あの風光明媚なところに工場ができたらどうなるでしよう。工場誘致は全部シャットアウトするのでなく必要かどうかを研究してその上に立つて運動を起すことが必要だと思います。

それからもう一つあまり知られていないが毎日使つている中性洗剤の問題、家庭の主婦は手が荒れるほど使うことはないが工場で連続的に使つている方はひどい荒れようです。主婦が家庭で時々使うのは大したことないにしても多摩川などは水が泡立つて流れている。毎日の生活品の中から取捨選択し、人間阻害の面を考えながら文化の恩恵に浴さなければならないと思います。

小松　大企業はなるべく独占であればいいのですが実際はいくつかの会社が競り合つているので、なるべく経費をかけないようにする、防塵装置は金がかかるからどうしても製品のコストに織り込まれてくる。企業側はかかつたものを回収するということになるので高くなつて売れゆきが悪くなる、従つて大企業は安くするため人に迷惑がかかつても気がつかれないうちは知らん顔ですね。

日下　そうなんです。私どもも始めのうちは黙つていたが出光興産の製油所ができて、石油コンビナートができ、しきりに亜硫酸ガスを出す。今まであつたセメント会社から出る塵の方がまだいいんですね、皆さんは煙は気にするが亜硫酸ガスは見えないからあまり気にしない、しかし学者は亜硫酸ガスのほうがこわいと言いますね、煙突を高くしろと要求してもしないんですね、私どもの力ではどうにもならない、はつきりと規則法をつくつてもらつてからでないとしようがないですね。

小松　その場合一人で言つても国も企業もかまいません、戦前は政府と企業は結びついていてたとえば三菱の鉱山の場合全部反対を

押し通す。しかし戦後はそうかんたんには片づけられない、オ一皆さんがこうしてやんやん言うのは大変なことですが、なんといつても商売で勝たなければならないという至上命令がある、技術者は中性洗剤の害も知つているが売れゆき不振になつては困る、新聞も広告収入でやつているんだから報道しない。学者の場合でも、中性洗剤にとり組んでいる者はばか扱いにされたり、いろいろないやがらせがあつてなかなか学界でも発表できない、たまに発表しても反応がきびしい、だから相当数の犠牲者が出なければ製薬会社も、化学製品をつくる会社も動きませんよ、これは皆さんが相当な覚悟でボタンの押しどころを得てやらなければ駄目でしょう。

鈴木　事前に考えるべきだということは本当に大切ですね、私どもは四日市が近くて公害の指定地区に入るかどうかの時に始めてわかりましたが、一時間の亜硫酸の排気ガスが丸ビルの容積の十五倍で四日市ぜんそくが出るとか年寄りは疎開するとかいつていてもまだ公害指定地区になつていない。そういうことを考えると科学的なデーターは大切ですから、主婦も公害を研究して科学的な裏づけをしてから、組織的に立ち向うようしなければ駄目ですね

日下　宇部市は炭坑町で日本中で一番きたない街でした。それが公害地区になつて県知事の委嘱を受けて野瀬先生がみえてからすつかりきれいな緑の町になつた！。

小松　そういう救世主を持たなければ駄目ですか？

日下　その救世主を迎える前に今基礎調査をしているのですが！。

小松　あなた方が独自でやる必要があるのですか？亜硫酸ガスの検出はある程度できるはずだし頼めばいいですよ、ただ一つ一番大事なのはもう少し女性が科学に強くなることなんですね。女性は抽象的な目でものを見ることには弱い。これは習慣ですがもう少し科学的な分析力を身につけることが大事ですね、科学時代に生きているのですからものの考え方にも科学をとり入れてゆくような教養を高めることですね、小説ばかり読むのでなく科学的な書物をおよみになるのが大事だと思う。女子学生をみていても文学しか読まない、自分の気持を述べることは上手だが、物ごとの核心をつかんで普遍的な形で述べてゆくことはしない、能力がないとはいえない努力が足りないんですね。交通量が一万七千台なら一時点をみれば二万台を越す時もあるんでしょう。

日下　交通量のピークが通学時に当つていたので、私たちは実情がこうだからと訴えたのです。

小松　もう少し科学的に分析する力を養なつてね。

水野　公害の最も怖ろしいのに原子力の悪用でしょう、科学的に理解すると同時に社会に訴えて世論を起す勇気のある方が女には少ないと思います。三島沼津の場合はお母さんたちが調べて、立ち上つた時にはずい分大きな圧力がありました。市の有力者、県知事が真つ先に招こうとしているし、土地を持つている人はもうけようと運動する、それにひつかかる人も多かつた、これではいけないと立ち上つたのは、労働組合や革新系の人が多かつた。その声が大きくなつて始めて知事を動かした、だからものを知ることと同時に世論を高めて圧力に屈しない信念のある人間でなければ問題は解決できないと思います。

小松　勇気に関してもいろんなことがあると思います、自分の中のボタンを押すということ、また制度を利用するということ、ボス

の飲み食いの場所になつている地方議会を変えてちやんとさせなければならないと思いますね。

日下　公害をある程度押えて、しかる後の工場誘致は必要だと思います。そのために私どもの学校はとてもうるおつておそらく東京のいい学校と比べて見劣りしないと思います。工場を誘致すると個定資産税なんかで地方団体がうるおつているからで、押えてばかりいても駄目でしょう、規制するほうを強くいうんですね。

小松　工場誘致は地許の発展性があるからどういう方向に発展させるかということですね。

日下　しよつ中監視する必要はありますね、漁村のほうが空気はいいし申し分はないんですが、やはり生活にはお金がいりますから無理のない程度に共存共栄の線を出さなければならないと思います。そのためには地方行政にも目を向けて予算の組み方なんかも監視することが必要だと思います。

小松　大企業がくれば必ず大空は汚染され海水や河は必ず汚れるんでしようか。

日下　だから対策があるはずでしよう、汚水は汚水処理をして流してもらう、それができないなら誘致しない、くるのを怖れてばかりいても発展性がないでしよう。

柾木　工場建設を許可する場合に、建設庁や通産省でそこまで含めた法令でやつていただきたいですね。

小松　地元でその要望がない限りやりませんね。

柾木　今までの例でも工場には公害がつきものになつているようですね、だから村役人もそこまで考えて前以つてして下さるべきだと思うんですがね、国民がさわぎ立てる前に一。

日下　一本の煙突から出ていた時は公害というほどではなかつた、それが五本になり十本になり、二十本になつて、四日市ぜんそくが起る。そうなる以前に気がつかなければならないでしよう。

小松　公害を防ごうということになるといやでも女性は地域に対して目を開かなければならない、きよう・あすのことばかりでなく先のことも考えて地域社会全体の生活がよくなるには地域の開発の問題が入る、だから政治、警察、文化に女性も是非視野を拡げ行動の範囲を広くしなければならない時代がきていると思います。

日下　だから婦人会議というものが必要なんでしよう。

小松　なるべく自分のところに閉じこもつて子供を世話し亭主に仕えているのが女性の幸福でしよう、なまじ家庭外のことを考えなければならないのはなんという不幸だろうと考えるでしようか？

吉田　公害に立ち向わなければならないのはたしかに不幸だと思いますが、家庭に閉じこもつているのが幸せで行動の範囲を拡げてゆくことが必ずしも不幸とは思われない。政治の足りないところを拡げようとか。

小松　政治の足りないところを補おうということですが、柾木さんあなたは騒がないでも為政者は手を打つべきじやないかというのですがね、為政者は私たちとそんなに変つた聖人君子でしようか、僕だつて人様が言つてくれなければ同情心がもてないわけではないが、訴えられて始めて気の毒だということになる、政治をやつている人間に僕やあなたと変らない人間だと考えたほうが真相に近いでしよう。

柾木　そうですけれどね、日本全国にこういう問題が出ているのですから一番始めに通産省のお役人も考えていただかないとね、女

の人たちが騒がなければいろんなものができないという状態はどういうことでしょう。

小松　騒ぎ立てたとおつしやるがそう思つているだけでそんなでもないのかもしれないですね。

柾木　私なんか自分のところにあれば一番に騒ぐと思いますが、現在でもなおかつ処理できないのにさらにいくらでもでてくるでしょうから、一応防止設備を持たない限りは許可できないというところまで行つてもいいと思いますが！。

小松　しかし政府もさつぱりやらないがおかしいね。

水野　沼津三島の地区も黒川調査団がきて調査した結果心配ないという結論を出しているのですよ、しかし地元で調べてみると調査団のいうように塵はいつも海のほうにばかり行かない、風向きによつては一日に何回かは陸のほうに気流が流れているという、非常にちみつだという調査団の調査も信頼できないということがわかつたのです。今の科学や政治を信じたいが信じられない現状です！。

柾木　工場の公害だけでなく炭坑や汽車の事故にしても、起つたあとからあれはこうだああだと騒ぐが、あれは学者の精密な検査が十分できなかつたためにこうなるのでしょうか。

小松　それは二つあると思いますね、わかつていても炭坑労働者が経営の面でさぼつているということ、もう一つは神様でなければわからないことがあるでしょうが後者の場合は極めて少ないでしょうね。鉱山のことは通産省の友達なんかに聞くとわかつている場合もかなり多いそうですね、だけれど僕は政治を人まかせにしておいていいかどうかという点にも問題はあると思うのですがね、佐藤栄作も小松茂夫も大した違いはないですよ、彼と僕との違いは彼は政治家としての生活をしているから物事に対して僕と違つた角度からものを見るでしょうし、権力の頂点にいるからいろんな情報をもつているでしょうが、要は人間ですから彼のみるところも五十歩、百歩、見落しも考えの足りないところもある、だから過分なことを期待してはいけないと思いますね。

柾木　個人で全部しているわけではないでしょう。下からのいろんな人の意見の結集によつてできることでしょう。

小松　だからその下から盛り上る声の一つとして皆さんも力を持つたらいいと思います。人間は楽な状態に入つたら不幸な人の気持はなかなかわからない。しかし言われればその時は思いやることができる、こういうのが人間でしょう、だからささやかなことでもなんでもいいからどんどんぶつけ合つて共通の納得のゆく問題として、それを皆さんの行動の方針として実現してゆくのが政治だというふうに考えなければ、いつまでたつても政治の問題は解決がつかないでしょう。

楠　なにか要求があればぶつかつてゆくわけですが、向うは黒か白かわからないのにすぐ「あか」だといわれますね、先だつても町長の脱税行為があつたから私が指導したのですが、赤だといわれてその運動は駄目になつたのです、町長の行為に対する批判じやないんですのよ。家庭でじつとしている奥さんは一番いいわけですね。

小松　幸福ですね。

楠　だんなさんのいうことを聞いてメロドラマを聞いてね、本当にいいですね。

小松　しかしね、自分も子供も、亭主も含めて安全に生きてゆこうと思つたらどうしても今の女性は、行動はともかく家庭だけでなく、その目は広く、しかも地域だけでなく国の在り方や世界の動きをみてゆかなければならない、家庭を守ろうと思えばベトナム問題、スエズの問題、キューバの問題も地球の裏側のことまで見てゆかなければならない、これが現代の世の中はすぐひびいてくる、政治経済を男性の問題として女性は人まかせにできない、行動にもある程度出なければならない、これが近代文化の非常な特色で、かつてなかつたことですよ、戦前なら婦人参政権が与えられてもどうだつたかー、戦後にも参政権返上運動というのがありましたね。

鈴木　それは存じません。

小松　僕のところに来たのは某地主の奥さん、長崎の人ですが「あれは大変困つたものだ」と言つていましたがね、そういう考えもあるかと思いましたがー。

水野　また「あか」という言葉ですが、迷信とか因襲とかの中でみんながうごめいていますがそれと同じように「あか」という言葉もなんか怖ろしいような感じです。何か要求を起して政治の問題に掴り下げてゆこうとするとすぐ「あか」だといわれる、「あなたはあかだそうよ」といわれることにおびえている婦人層も多いのが心配ですし、情けないと思います。ほんとうに科学の進歩も怖ろしい、原水爆が使われたら社会は全滅するという世の中にいながら原水爆禁止運動というとすぐ「あか」だといつてついてこない婦人が多い。婦人も勇気をもつて真実を見極めてほしい。品物を見極めるよりもつと真剣に、思想面でも正しいものは正しいとすることにご協力いただきたいと思います。

江里　見極めるというお話に関連して、子供の不良化の問題ですが、一人の子供がやつと立ち直ろうとすると、不良だつた過去のうわさが拡がつて大きくなつてゆく、そうゆう時に本当にその子供をあたたかい目で見てやれば立ち直れるのに、そういう気持が世のお母さんたちにあつたら今までよりいくらか救われると思うのですがねー。

小松　ある時には少数意見でも、大体始めは誰かがやらなければならないでしよう運動というものはー、始めは絶対の少数者です、しかしそれを怖れてはいけない、ところが「あか」だといわれれば始めはやはり怖れますよ、たとえばキリスト教なんか「神のみが助ける」「平和の神立ちあがれ」と立ちあがつたアメリカの婦人も今やられている、アメリカで平和運動というと大変なことになる、その場合彼女らは神を信じることによつてなんとかやつてゆけるが、われわれの場合にそういう神様がないので背後のささえに、やはり家庭とか友人とかに見出す以外はないでしよう、だから家庭も友人も支持しないというと本当につらい立場にたつてしようが、孤独を怖れては何もできないですよ、孤独を怖れるのは人間の通有性だがこれにある程度耐えなければならない。では次に移りましよう。

鈴木　先ほどベトナム問題がわれわれに関係ないことではないというお話がでましたが、テレビを見ていて感じたことですが、ISTの乗組員でメコン河を渡つてベトコンの一斉射撃を受けたという人がモーニングショーに出た。アナウンサーが家族を呼び出してこういうことになつて大変でしようというがびんとこない。ほ

ろ船をたくみにあやつつてゆく優秀な船員だといわれたとむしろそれを誇つているのですね、金は税込みで十万円ということですが自分がどんな立場にいるか考えないのはなげかわしいと思います。

小松　大企業を地方に誘致することからいろんな問題が生じておりますが、大企業の地方誘致だけでなくわれわれの周辺にはさまざまな問題が生じていると思います。かんたんにいえば私たちはいろいろな生活の仕方をしているがあるものは役に立たないし、あるものは何か心の底から守ろうという気にはなれない。つまり文化はいろんな意味があるが、親から子へ、子から孫へと伝えられてゆく生活様式をひつくるめたものである。今は文化の大変動の時期にきている。古い生活様式に少なくも皆さんが心の底から信頼できない、にもかかわらず自分たちにしつくりした生活様式が見出せないということに現在の文化の根本問題があるのかもしれない、それでさし当つてこれまで伝えられてきている生活様式、生活慣習、行動の方式、行動の慣習はどれを取り、どれを捨てるべきか、たとえば結婚とかそのほかのことに問題が起つていますね。

幸道　結婚については若い人たち財産分与だからもらわなければ損だという考え方もありますね、そうなりますとお嫁に行つても権利はあるのに、どうしてあんなに着飾つていろんな道具をトラックに三台ももらつてゆくのか。昔は出産を里でするのは主婦が体を休めるためであつたが、今は大てい病院です。そこから家庭へ戻つて孫渡し、そのしきたりを踏まないことには世間ていが悪いということになる、出産のお祝いの返し、法事、などにもしきたりがあつて、わかつていても新しいものに踏み切ると「あいつは変りものだ」ということになる、これは伝習してゆくべきか、切り捨てるべきか、私どもは経験もないので「これは不合理ですよ」と言いにくいのですね。

鈴木　私は最近一人のお嬢さんをお世話しました。結婚の費用を身分相応にかけることはいいが、出産の費用まで親が負担するのはおかしいと思うのですが、病院の費用、子供だんす、乳母車、おむつまで二、三十万もかけて里方で用意した。薄給のサラリーマンですから大変です。ところが子供の父親は企業からお産の休暇と費用の一部ももらつているというので、お嫁さんの実家では費用の一部としてそれをもらいに行きました、それが問題になつて離縁騒ぎになつたのですね、里方ではびつくりして二万円くらいの品物を届けて事なきを得ましたが、そういうことに対して疑問をもつほうが間違つているという考え方が滲通して血となり肉となつているのですね、これを不合理だと思うだけでもエネルギーがいるでしょう、効果的などんな方法があるかとこの問題を提起しました。

小松　うんと若い人はこういう問題をどう思いますか？

尾島　不合理だと思いますが、どうしてそういう不合理がずつと伝わつてきたか疑問に思います、それによつてうまくゆくような理由があつたのではないかと思いますが。

鈴木　私歴史をさかのぼつて追求してみようと本をあさつたのですがたしかな資料はないんですが、尾張地区は群雄割拠で武将が多かつたため女性は政略の手だてにされた、たとえばお台の方や秀忠の奥さんにしても都合のために嫁入り先から呼び返された次のところに嫁入りさせられる、その時生まれた子供は誰の子供かわからないという不安があつて自信がもてなかつた奥さんが実家

に子供の用意を頼んだのではないかということです。その後も財産分与が定義され明文化されていなかつたからなんとか自分の財産を分与したい、長男が家督をつぐ場合にも可愛い女の子に自分の財産を分与したいという時にできるお宅で美的な形で孫に愛情をこめて送るのは、今はマイナスでもその頃にはプラスの形となつていた。しかし今はそういうことは時代に合わなくなつている、財産の分与は明文化されているからその基準にのつとつてやるのはいいが、分与するものをもたない人にまで及ぼされているのが不合理だと思います。

尾島　選択基準は今の生活においても必要だと思います。そういうものは略して、昔の制度なんかから伝わつてきたものはやめなければならないのではないですか？

小松　習慣に良きをとり、悪しきを捨てるということになりますがね。

尾島　私の場合は一応主人の会社は大企業ですから結婚式も派手にやらなければならなかつたのかもしれないが、かんたんにして皆さんも家庭にお呼びしたりして精神的にやりました、一年目に妹が寄せ書きのカードをくれましたが、そういう招待を受けてよかつたと思う人たちがまた続けてゆくのではないでしょうか。

日下　幸道さんも鈴木さんも実家、実家と言つていらつしやるが親許とおつしやつていいと思います。私は実家は日下の家だと思う。自然に親許という言葉が出るのと実家という言葉が出るのとは違うと思う。

小松　それは幸福な結婚です、早く日下家にお帰りにならなければいかんですな。

柾木　私はきのうときようとは大分つまりませんつまりませんと言いましたが、山の中でもあなた方のおつしやるようなばかなことはいたしません、うちのほうでは子供ができれば子供の産衣一切、お宮詣りの着物、一年目にはおひな様、羽子板などを送つて、お嫁さんの婚礼の場合もそうですが皆さんに出して見せる習慣があります。私が結婚したのは戦時中でしたし、子供ができると兄のところから多少のものはくれましたが、もちろん人様にも見せませんでした、柾木の家もできなくはなかつたのですが一切しなかつた、この頃も結婚のお話が決まつて部落でお祝いにゆくと年寄りは道具など一つ一つ見せます。よそから借りてきてまで数を揃えるのです。私たちは率先してそういうことはやりません、年寄りのいる家など飾るところもありますが、だんだんうすれてきました。赤ちやんが生まれてもお祝いはしなくてもいいとは思いますが、見せて喜びたいというのは親心ですからそれくらいはいいだろうという様になつています。私たちは見るのをやめましようということでこの頃は大分見なくなりました。

吉田　私どものところは結婚祝いというと三日ほど前に荷物がきて皆さんに見せていましたが、今はあと荷にしましたので身分相応に何百万つくつても自然に見せないですむのであまりしなくなつた。村同志の結婚だつたらどのくらいしか荷物がなかつたとかいわれるが、都会へやればそういうことはないので大阪とか東京とかへやりたがるようですね。

小松　やはり他方では負担に感じていらしたのでしようね、先に見せるのとあとに見せるのとは違うんだね。

鈴木　隣の三重県は名古屋の人が用意しようとすると、ばかにしな

いでくれ、うちで生まれた子供の用意くらいはできますからとおつしやつたそうですが、生活の一部となつている慣習を切り離さなければならないのですね、その時にはどうしたらいいかということですが！、

南雲　今お母さんになつている方が結婚なさる時にそうだつたというのならわかるのですが、問題なのは私たちよりもつと若い世代の人が、そうしてもらつていることだと思います、どうしてそういう習慣を若い人たちが振り捨てないのかなと思います。しかし考えてみると結婚とか法事とかは失敗がないように、やはり経験のある人に聞きやすいのですね。しかし土地の風習にまき込まれないように結婚する当人同志が考えてみたらどうかと思います。私どもの年代の人が親に荷物を一杯つくつてもらつて結婚するのは不思議だと思いますよ。

鈴木　わかつているのだが功利的に考えて貰えるものは貰おうという気持があるのではないかと思います。

楠　香川からは嫁道具、徳島からは婿（よく働くのだそうですが）をもらえというのですがね、私の娘は歌声グループの歌に送られて皆さんに少しづつ出してもらつて結婚しましたのでちつともかかりませんでした。

小松　先ほどばかな事と言われましたがあれは大事なことで、昔は意義のあつたことも人間のゆき方というか、人生観が変るとばかげたことに見えてきますね、だからある習慣なりある様式が非常に不合理に見えるというのは少なくとも人生に対する新しい見方とか社会的な効用の喪失があつてそういう判断が出てくるのではないでしようか、ところで今の若い人が以然として親に準備をさせているのは何ほどか経済的にプラスするところがあるということのほかに、新しい様式が生み出せないでいるのだと思う、僕の友達は戦後結婚したが、仲人の代りに先生に証人になつてもらつて、会費制で神様を信じていないので神様なしで司会者は人形劇でやつた、これを朝日新聞がとりあげて一頃は僕の学生なんかにもまねするものが出てきたが、最近は逆コースで親がかりでベラぼうな金を使う。ここで話したいのは旧来の陋習を破るには新しい方式を立てなければならない、それについて南雲さん、遠山さん、文化の創造の問題について一つどうぞ！。

遠山　世の中のお母さんたちは子供に絵を描かせる場合も個定観念に支配されることが多いですね。私のところでは絵のおけいこをしておりますが、親御さんが傍へ寄つてきて子供さんが土をねずみ色に塗ると、土は茶色よ」と教えてしまう、それが個定観念になつてそれ以上頭が働かなくなります。またお母さんがきようのおかずはさんまにしようと思う時、子供を連れて行つて「このお魚はおもしろいね」とか、「きれいな色や形をしているね」というふうにちよつと言葉を添えて、頭を回転させて個定観念を押しつけないようにすればいいと思います。

小松　これはなんですか遠山さん（百円玉を示す）どういう形をしていますか？

遠山　百円玉ですか、丸でしよう！。

小松　いやあなたのところからは楕円でしよう、われわれはそれくらい個定観念に左右されている、個定観念をとつてしまえといつてもなかなかとれないでしようね、個定観念だから伝習されるわけですが、個定観念はより深く広くなければならないといつても

よけい固定観念になつて、やぶりにくいんでしょうね。

遠山　私は母と子の関係を書いたつもりですが、お母さんにもう少し遊びがあつてほしいと思います、よく小さいお子さんが石ころとか、貝がらとか、ガラスの端なんかをポケットに入れて帰るがこれは子供が新しい要求を生み出そうとしているのです、それを大部分のお母さんが価値のないものとしてすててしまうか、価値のないものから価値をみつけてゆくようにお母さんに考えていただきたいと思います。

小松　価値というものはそのものの中にあるのではなくて自分がそれでつくつてゆくということですね。

遠山　何事も喜びと、驚きをもつて創造的に生きるということー。

南雲　漬物文化の中に創造的な喜びを見出すこと、今の世の中はなんでもでき上つたものが与えられて、私たち自身の創意とか工夫とかが少なくなつていますね、私はそういう時代だからこそ自分の手でつくり出し、工夫して生活を楽しいものにしようという姿勢が一番大切だと思うのですがー。

小松　全く時々、物質がわれわれのもつている創造の精神をつぶしてゆきますね

南雲　将来の生活、未来の生活なんかという漫画をみるとぞつとしますね、決して楽しくない、反発を感じますね。

小松　神様の創造みたいなものもあるし、われわれのつつましやかなものもありますね。なんで人間は創造を求めるのでしょう。

南雲　それはわれわれが生きている確証といいますか、実感というものは自分で何かするから得られるのだと思いますが、毎日与えられたものだけなら普通の人間だつたら生きているのかいないのかわからないでしょう。

小松　生きていることのあかしを求めることですかー。

遠山　馴れることもマンネリズムになりますね、夫婦のことでも池ノ大雅（いくのたいが）が筆を忘れて写生に行つたので奥さんが追いかけて行つて渡すと、「どこのどなたか存じませんがどうもありがとうございます」と言われたそうですが、ユーモアのある言葉ですが新鮮で真剣だと思います。

小松　生きているということはある意味で型なしでは生きられない、他方型の中でレールの上を走るようには生きられない、生きることは矛盾した問題をもつているのですね。能なんかでも型から入つて型を出よというが、能だけでない。創造とは片方では破るということ、片方ではつくるということでつくつて一つの型に入つてもまた破らなければならない、その矛盾ということが生きているということなんでしょうね。今文化の創造ということを言つたが創造の中で生きることのあかしを求めるあるいは創造ということが本当に生きているということの意味なんでしょうね、あとは単に存在しているに過ぎないわけです、ちょうど物があるようにね、ところがわれわれが生きているというのはものと同じようにあるわけだが、しかし時々刻々変つている。生きることが創造することだというのは考えてみると道理かもしれない。生きる中でつくり出された型みたいなものがこれが文化かもしれない。だがもつと考えてみれば文化というのはつくることそのことかもしれない、生活は文化みたいなものだし文化はわれわれの生活なのかもしれない、ただ文化という言葉は文にして化するということで要するに腕づく、力づくで市民を支配するということでなくしつけで支配するということだつたが、ここでは自分で意識的に自分をつくりあげてゆくということが文化です、ところがその場合に

ある型に仕上げてゆくと同じにその型にとどまつていてはいけない、吉田さん、話を農耕にとつてあなたのところは鋤は重い？

吉田　はい。

小松　開東は軽いんですね、これは鍬の使い方、腰の振り方がある、そういう単純な農作業の中にもフォームがなければ違いはあるが働けない。自分に合つた型をつくつてそれに若い時と年とつた時とは型を変えてゆかなければ自分の労働はできない、ごく単純なことにもそこに創造がある、そういう創造の問題を考えた時にその創造の原動力みたいなものはなんだろう。人間は存在するということは創造するということであり、生きてゆくことはつくること、働くということでしょう。要するにエネルギーを補給しなければうまくない、われわれは三度三度ものを食わなければ生きてゆけないですからね、山名さんの問題に入りましょう。

水野　創造の原動力は疑問をもつことだと思います、今の形に甘んじていたら創造はできないと思います。

遠山　疑問をもつて感動すること？

小松　腹がへつては感動もできない、山名さんどうぞ、

山名　皆さんは自分のことばかり考えて暮してきました、まず最初に自分が私は自分のことばかり考えて暮してきました、まず最初に自分の体のことを考えて、きのうは質問みたいな格好で食費の問題で十五万円と言いましたが私は皆さんより貧乏なんです、というのは毎月くれる十五万円を食べてしまう、だから一銭も貯金がない、その上主人は三十人くらい人を使つていますがいつ裸になるかわからない、そうなつたら家や土地は大阪のど真ん中にあるからお金に換えればあるかもしれない、しかし私は計算ができない人間なので貯金しようとは思うのですがなおかつ食べてしまうんですね、さつきお嫁入り道具のことで方式を変えて見せなければ買わないようになつたとおつしやいましたが、それが食事の問題で悪いほうに現われているのではないでしょうか、着物は見える、家は見える。私のおふくろなんかは食べるものを仕末しても庭師を毎月入れる、父親はもう少しいいものを食わせろというのですが、母親は「好子にもええものを着せてやらにやいかんしー」と食べるものを仕末する。これは日本人の国民性みたいなものですね、私は四十九ヵ国にゆきましたが日本の女の人と変らないと思つたのはたつた五人くらいです、ロンドンで最高裁判所につとめている偉い人ですが、この奥さんは十年同じオーバーを着ている、ハンドバックをご主人が買おうかというのを一年考えてやつと決めたというのですね、前のハンドバックは嫁入りの時に持つていたものです、ドイツは質実剛健なのかもしれないが六十くらいのお母さんが見せてくれた持物はオーバーが二つ、スーツが四つ、あとはセーター、ズボン、ブラース、これは十年前につくつたと言つていましたが私が回つた国の殆んどがそんな生活をしている、違うのは東南アジア、マニラとかフイリッピンで物すごく衣裳を持つていらつしやる、家は日本と同じような木造なんです、これは国民性によるところがあると思います、私は自分の家計を言つて皆さんに誤解される種をまいちやつたと思いますが、お金の比率でなくて見えないところから直してゆかないといけないんじやないかと思うんですが。

小松　要するに見てくれ文化をなくすということね。

石川　その意見はいいと思いますが日本の場合は被服費より食物が

高いですからね、それが少し影響すると思います。

山名　たしかに高いですね、オランダは給料は日本の倍ですがバンもバターもミルクも日本より安かつた。

小松　そう生活必需品も肉類も安い、

山名　ニュージランドもオーストリアも政府がバターやミルクを全部押えていますから安いんです、向うは給料は日本の四倍私とほとんど同じ年の人が十八万円とつている。

鈴木　それで農業がなり立つているのですからすごいですね。

山名　だから先生のような方は七十二パーセントも税金を引かれる、それでほとんど同じような生活をしているのですね。

鈴木　格差がないのですね。

日下　山名さんが食費に当てているのは資本なんですよ、正直に言つてね、彼女の場合は教養費と思つて下さい先生、先生が本をお買いになるように彼女は食べ歩くことによつて舌をこやして次の収入のエネルギーにしているんですよ。

小松　僕は今社宅にいるがもし家をつくつたら台所はきちんとしたものにしたいな、そして食堂、それから寝室、僕の勉強部屋、それにだんらんする部屋はしつかりしたところをつくりたい、ところは日本ではめつたに使わない客用がいい。鳥取にいる友達が医者なんだ、僕にもちよつと見てくれというので僕も白衣を着て城崎温泉に行つたんだがあの付近は全然陽の当らない真ん中辺の通風の悪いところに胸の悪い病人を入れている、日本人は残酷だな、僕は傍で見ていてそう思つた、

尾島　うちを設計する時は家庭生活の中で何が大切かということを考えなければならない。

下郡　九州では台所はみんな北側です、私の里のほうもそうなんです、女の人が神経痛、リューマチ腰痛になるのはそういうところにも原因があるのでしようね、女性がしいたげられているということは生活様式の面にあると思います。

鈴木　粗食に甘んずるということは美徳とされていたんですね、私の母なんかもそうでした、私なんかいいものというか栄養のあるものを買うと罪悪感をもつ、これは育てられた環境からですね、この間小泉信三さんが皇太子のお供で外国旅行についていらしたらアメリカの二世、三世が大きくて向うの人と違わない、だから大和民族も立派なものを食べれば必ず大きくなると涙を流されたそうですが、

小松　向うでてかいやつは "Are you western?" と聞くそうですね、大体西部へ行つた日本人は経済状態がいい、小さいやつには、"Are you eastern?" と聞く、向うは日本人の進出が少ない、アメリカの二世は小さければ東部、大きければキャルフォルニア、ハワイだと思うんだそうです。大体作物はもと肥が大事で追い肥はいくらやつても伸びない、だから日本人もお母さんの代から仕込まなければ駄目なんですね。食生活というのは日本人の生活関心の中で重要な位置を占めなければならない、たとえば物価なんか上つたら政府をひつくり返してしまうくらいでなければいけない、三パーセントくらい上つたらヨーロッパなら政府はつぶされますよ、政治家が政治に対してしつかりした責任をもつようになるためには、あなた方が文化問題に対して非常に強い態度を示さなければならない、あなた方食う問題に対して生はんかなことしか考えていないからしつかりした態度が出てこない、食うという

ことは生活の根本、人生の根本ですからこれを抜きにして人生を考えることは上つ調子ですよ。

水野　戦後二十年たつた中で一番とり残されている学校給食の中の脱脂粉乳の問題ですが、子供には追い肥はきかないとおつしやつたが、赤ちやんの時からやらなければ駄目ですよ、学童には一番栄養のあるものを与えたいんですが、なぜもつといいものに代えてくれという運動を起さないんでしよう。家庭の食品にしてもレベルが上つてきている、それなのに二十年前の脱脂粉乳をそのまま学童に与えているという石垣純二先生のお説はもつともだと思います、それで私どもが石垣先生を呼んでその粉ミルクについてのお話を聞こうとすると、教育委員会からあの先生のお話はほかのテーマにしろと変えさせられてしまう、自主性がないといえばその通りなんですがねー。

小松　役人というのはあなた方が強く出たら引込むんですよ。

日下　山口県では脱脂粉乳にいただいていた金額を生乳にふり向けてずいぶん安くいただいていますよ、百円の給食費の値上げでまかなえる、

小松　衣食住というが食生活が基礎なんですよ、たとえば養鶏ね、養鶏農家はなり立たないというが養豚も同じ、酪農も同じです、時間がないから私が言いますがこれは政府にいいことをやつてくれと言つて待つていてもなり立たないでしよう。これは主婦が動いてゆくほか手がないと思う、住の問題も同じです、給料の半分に相当するような高い権利金を払う場合もあるがこれでは生活の根本がぐらついている、こんな貧しい住宅政策はないでしよう、それをみんなが黙つている、全くどんなばかなことをしてもおこられない、だから政治家はなり得だというんでみんなたがる、ヨーロッパだつたらこんなに住宅政策がまずかつたり物価政策が出たらめだつたりしたら政治家はなり立たない、物価対策にしても片方生産者の安定消費者の利益をはかる団体がありますね、これを成長させなければならない、一緒にやりましようというときには一緒でないまでも存分のことを一緒にやらなければならない、生活を守ることに関してものぐさでないようにということですね。

山名　大阪で一番問題になつたのは粉ミルクなんです。ある主婦がたつた一人で神戸港のたくさんある倉庫を一つずつ見て歩いてやつと探し当てた、粉ミルクは食べたら害があるんですがそれを見つけてこれから大きな運動にしてゆきたいということになつたのだが、今「あか」だといわれてゆきづまつている。

小松　大阪の知事の佐藤よしあきらという人はおもしろい人だから、いきなり知事に飛んで行つてもいいんですよ。

山名　はいそれで今一ついただきました、その奥様にね、問題が出ましたから一つでもいいから持つて帰つて申し上げます。

小松　知事なんて偉いと思つちやいけない、行政の担当者にはもつとぶつかつて行くんですね。

楠　ぶつかつていつても逃げてばかりいるんですよ。

山名　大阪では逃げません、ぶつかつて行けばちやんと会つてくれます。

小松　最後に文化の創造の問題だが固定観念にとらわれないとか、人生をどう生きるかとか、世の中はどうあるべきかというような理想、根本の問題を抜きにしては方向が決まらない、ところが今創造すべき内容がきまつてこない、何が根本の価値であるか、何

が理想かということになる、今日は何が根本の価値であるかといえば誰の目にもはっきりしていない時代ではないと思う、そこに価値秩序の混乱があつてそれを再建してゆかなければ。われわれが積極的に文化を創造してゆく場合部分的にはできるが全体的な視野をもつてゆくことはできない、村井さんの問題をやりましょう。

村井　私らは考えてみると生活の中に宗教的なものがない、仏教は日本の宗教ですが私はそういうものもなくキリスト教も全然ないわけです。自分が生きてゆくためには信念をもつていろんな事態に対してゆかなければならないのに。今文化とは創造であるとおつしやいましたが、私は上つた言葉かもしれませんがさわやかな充実感をもつことが根本だと思います。老後の保障の問題も、食生活の問題も、お父さんにもお母さんにも、子供にもさわやかであつてこそ問題がいい方に向つてゆくと思います。そのためにはいろいろお話を聞いて帰つてゆくところは家庭です。私たちが考える力が出てきたのは学校ではありますがやはり基本は家庭でございます。美的感覚とか道徳価値は家庭で基本が養なわれて家庭の中ではお母さんが一番大きな力をもつている、それだからお母さんはもつと自我に徹してもつとよいものを食べ、少々素適なものを着たりいろんなところに行つて視野を広めなければならない、そうすれば受けつぐべき伝統もお母さんの自我によつていいものだけを残す、結婚の時のお道具の話が出ましたがその問題もやはりお母さんがさわやかな充実感をもつて解決できたらいいと思います。そうして一生を閉じる時に尊敬すべきお母さんであるという形に残されてゆくように、本当に女の人がエゴイズム、自我に徹して生きてゆくということが大切でしょう。

小松　自我の確立でしょう、しかし今は自我が不在ということですか？

村井　さつき鈴木さんがよいものを買う時には罪悪感を感じるとおつしやいましたが、そういう場合にも喜々たる態度をとるようなゆき方をしていただきたいと思います。

小松　「女賢しゆうして牛売りそこなう」といいますが、これは当つていますか？

江里　当つていることもありますね。

小松　なるほど当つているー、この頃女子学生はへたに勉強すると縁遠くなるというので勉強しなくなる傾向がある、これはどうお考えですか？

尾島　さかしいといつても生活の知恵は大いにさかしくないといけないでしょう、

鈴木　あまり理論に徹すると情緒が失なわれるので縁遠くなるのでしょうか？

小松　僕は女とか男である前に人間でなければならないと思う。教養を身につけるとかいうがなかなか専門家になるほど勉強することはできないですよ、鼻血の出るほど勉強して何ほどかのプラスになるのでいい加減なことでは駄目だ、生はんかな態度では学校へくるなということですね。

江里　いなかでは勉強も何もしないお姿さんにとても教養のある人がいます、私どもはこんなところに来て勉強できるのはありがたいことですが一緒になつて苦しんであげなければならない人も多いと思います。文化、文化といいますが、今日はこれだけ働いてこれだけおかずを買つてその残りの二十円で落花生を買つてる主番

をさせている子供と一緒に落下生をむきながら、きょうはこんなことがあったとお母さんが子供と話をするという時に家庭の文化があると思います、高度なものを望むのは根がおりていないというか標準を高く考えていらっしるからだと思います。本当に町や村へ帰つて私たちが考えなければならないのは、きょうもあすも苦しんでいる人たちだと思うのです。村井さんのおつしやることを理想にかかげながら根はそういうところにおろしてゆかなければならないと思います。

鈴木　村井さんのおつしやつたさわやかな充実感というのはそれぞれのところに当てはまる最大公約数的なものでしょう。

江里　だからそういうことを高く目標にかかげながらやるということです

日下　実際問題としてはどういう場合も同じだというのでしょう、理論めいてむずかしく言えばあちらさん、そのまま言えばこちらさんということでしょう。

村井　無理をしない生活ですね。

吉田　文化の恩恵に浴してレジャーでも生み出せる余裕のある人はそれを社会的奉仕に向ける気持を持つていただきたいですね。

鈴木　やはり救うということはいけないんじやないでしょうか。

水野　レジャーのある人は自分の生活だけにこちこちになつて楽しんでいらつしやる、逆に苦しくてたまらない方から運動が起つてくるのでしょう。私なんか子供を生んでしまつたら育児施設のことを忘れてしまうがそういうことを忘れてしまわないで女の人は、子供や女性の問題だけでなく社会全体を頭に入れて、人間として幸せになるように生活が楽だとか楽でないという問題とは別に目を開いてゆかなければならないと思います。

小松　長い間ありがとうございます、あなた方がそれぞれの家庭から引つぱり出されて議論しなければならないというほど現代文化はえらい強制力をもつている、いろいろあなた方がおつしやるたよりいい面もあるし、いろんなめんどうな問題もわれわれに投げかけられている。これらの解決は従来のようにじつと歯をくいしばつてがまんするのでなく、隣近所から国という規模、さらには国と国とが協力するほかに解決がつかない。むずかしいことは男性まかせでなく女性も男と同じようにとり組まなければならない。男性は妻子を養なうために訓練されてきたと同じように女性の知的な訓練も要求されてきている、それがなければ現代女性が現代文化を立ててゆくことはできないと思います。

（了）

第二部会

会議員

北海道　渡辺　コマツ（無　職）
岩手　鈴木　ヒサコ（公務員）
宮城　伊藤　鶴子（農　業）
茨城　大塚　芳子（無　職）
富山　酒井　いち子（青年学級・家政学院講師）
長野　上島　まさ子（工　員）
三重　市川　まさよ（中学校教員）
奈良　上平　礼子（農　業）
島根　清水　小雪（農　業）
岡山　日下　正子（無　職）
徳島　井上　朝子（農　業）
愛媛　中野　国子（公務員）
福岡　立野　好子（無　職）
佐賀　井上　富美子（無　職）
長崎　中村　広子（生活改良普及員）

リーダー　渡辺　智多雄（評論家）

特別オブザーバー

池末　美穂子（日本青年団協議会）
中村　園子（主婦連合会）
渡辺　敏子（全国農協婦人組織協議会）

第一日目　四月十三日　一三・〇〇～一七・〇〇

渡辺（リーダー）　農村の各個人の家庭の中の生活からお話を進めていくわけですが、農村という所は狭い地域社会の中で、お互いに顔をつき合わせているために人間関係がむずかしいということです。皆さんの重圧もそこから受けているところが多い。今度の作文を見ても、とつくに解決していなくちやならないはずの冠婚葬祭の問題がどの作文にもあつたが、この問題は今でも皆さんに重いおもしになつていると思います。

一体これはどういうことなのか。またどんな問題がそこにあるのか、なぜ問題がおこつているのか。一つ皆さんに見ていただきたいのでさし上げておいたのです。

二番目は農村の在来文化というのです。

一番おしまいに、農村の村づき合いの現状はどうなのか、なぜ問題をおこしているのか。それから話をしていきたいと思います。愛媛の中野さん、口火を切つて話合つてみて下さい。

中野　私の所は漁村でございます。漁村はとかくはでで、船おろしという、船を進水します時のお祝いがございますが、その時一軒二千円から三千円ののぼりを村の人が全部上げるわけです。それはその時使うだけで、あとはたんすにいれてしまつて、はでなものですからふとんにもカーテンにもならない。いただいたうちは、お返しとして皆さんを招待するわけです。いなかでは村中が一つの親せきのようなもので親睦という意味ではいいのですが、つき合いをかえせないという風習が皆さんを招待する場合、場所がないので親せきのうちを三軒くらい借りて、準備をいれると三日も

四日もかかる。奥さんはふらふらになって、あっちにいったりこっちにいったりするだけで時間をつぶしてしまう。そして招待の費用は船の建造費の何%というほどいるわけです。だからそれだけを船にかけて造ればより以上の船ができ、将来の計画もたてられていいのですが、そういうしきたりを廃止したいと思っても、この前はどこそこの船おろしに上げたからあのうちに上げないわけにいかないという工合で、個人としては大へんだと思っていても、そういうことがのこっています。

渡辺（リーダー）　これと同じような問題を皆さんの土地でかかえていると思います。山の中でもいいし、平野地のたんぼの農村でもいいし、どうですか。

市川　山村にも、普請をすれば普請祝いとかむね上げとか大なり小なりあると思うのです。昔から普請なんか、三日くらい会場を借りて村の人を接待するのです。お酒を使えば使うほど盛大だといわれていたのです。ところがだんだん皆が自覚し出して、今では渡しといって全部請負にする仕方をやり出したのです。そうなると、村の人総出で手伝う必要もないし、きちっと計画してお金もしているので余分な費用もかからないということになり婦人のお祭騒ぎがなくなって、簡素化というか、心からのお祝いをするというように変って来ています。

渡辺（リーダー）　酒井さん、富山県では、子どもが生まれたりすると、実家からえらいお祝いをやらなくちゃならないので困るという話を聞いたのですが。

酒井　娘三人おれば家がつぶれるということが強調されたものですが、徐々に改善されつつあります。

また結婚式には村中の方を招待して御膳を出したのですが、今ではお茶とお菓子が大へん普及されて来ているのです。しかし、ここ二、三年くらい前から、また節句とかあゝいうものがだんだん華美になるような感じがしてならないのです。

それともう一つ。若い層の方はそういうものを大いに改善したいのですが、古い年代の方が協力して下さらないので、若い方の気持をもっと汲んであげたいと思います。

渡辺（リーダー）　どうぞ。

立野　私の町では公民館とか、婦人会とかで新生活運動が数年前からさかんに行なわれまして、餅とまんじゅうを配ったり、結婚式の簡素化を呼びかけて、大分よくなりましたが、公民館の主事さんや婦人会長がかわったりすると又元にもどりまして、ずい分派手になっております。

子どもをお嫁にやってほっとしたと思っていると、子どもが生まれるとお節句だお誕生だと次から次なので、そういう風習が改まらないものかと考えていますが、農村は都会のように人の交流がなく、住んでいる人が固定しているわけです。だから義理とか、昔から、とかいったことが改まらないのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　義理という話がでたのですが、これは一体、どういうふうにお考えになりますか。義理のつき合いですね、これは。

大塚　義理のおつき合いという中には真心のこもったつき合いもはいるし、通り一ぺんのつき合いもはいるのじゃないかと思います。

農村は部落総ぐるみのつき合いとなっているから、義理のつき合いが生まれるのじゃないかと思います。

病気見舞などでも、盲腸で入院した場合、一週間のうちにお見舞にいかなければならないので、三十二戸ばかりの部落ですが、競争のようにそろそろと行って狭い病室で病人が困るということで、女の人の話合で解決できるのじゃないかとグループでその問題をとり上げたら、誰もが遠くの病院まで行くということは大へんだし、きていただくほうは狭い病室に訪ねてもらって、お昼時分になれば軽い食事も出さなければならず、大へん御迷惑のようで、ほんとうに気持よくまとまり、以後一切義理のおつき合いの人は留守宅のほうにお見舞を届けようということに決まり、心からお見舞に行きた人だけ病院に行く ということで、男の人からも大へん喜こばれこ四、五年守られております。

話合でグループ活動をして、大きな定例会議を開いて、部落の中のそういう問題をとり上げてよい方法にもっていくというようにしております。

渡辺（リーダー） それは部落の方全部が。

大塚 全部です。三十二戸で、主婦三十人。主婦のおられない家もありますので。

渡辺（リーダー） 婦人会とか、グループとかいう名目で毎月集まることがあるのですが。

大塚 ただ集まっただけでは上すべりのした会議になりますから、部落の実体を見極めて、病気見舞のお返しとか、農繁期にとった草を農道へ捨てると車に草がからみついて通れなくなるからみんなで気をつけようとか、もし忘れて道に出した人がいたら、お互いに注意し合うか、その人の畠の上に又のせておいて反省させるというような小さな問題を一つ一つとり上げて女でできることから手をそめております。

渡辺（リーダー） 一人ではできないが誰かがやらなければならないという問題がありますね。そういう時にグループなどで問題を進めて解決に向けていくということは大事なことで、冠婚葬祭などの問題も新生活運動などもずい分古くからとり上げているのですがちっとも実を結ばない。そこに問題があると思います。

井上 病気見舞のことですけれども、簡略にするということで代表がでるところまで話が決まったのですけれども、賛成したはずなのにやっぱり義理が通らない、あそこからは何をもらってあるのだからと個人個人でお見舞に行くようにまたなってしまいました。ほんとうにいいと思うことは勇気を出して守っていかなければならないと思いますけれども。

上島 病気するとお金がたくさんいりますから、みんなでお金を持って行って費用のたしにして頂くという助け合うという考えがあると思います。私どものほうでは病気見舞はもって行くのですが、お返しは一切やらないことに、婦人会などの組織で決まったのですが大分実行されているようです。

渡辺（リーダー） 病気見舞に品物を持っていかなくちゃならないというのはどうです。

大塚 私のほうはお金ということにして、お返しは全廃しました。相互扶助なので、お金をいたずいたほうがありがたいのでお金にしました。一番先にそれを実行した方が偉かったと思います。

渡辺（リーダー） お見舞にお金を持っていくということは医療費の一部ですか。

大塚 いなかでは家計の大きな足しになるわけです。

上島　村中で一率に金額は決まっています。親せきなどは違いますが。

日下　今までおっしやったのは、大分悪い昔からの習慣についてですが、そういう解釈でなしに、村定法という言葉がございますが、昔の人の智恵で、会という共済制度じゃないでしょうか。そういういい智恵は、現代的に私たちが作っていかなければならないと思います。岡山の津山には講組というのがあって、それは近所づき合い。それから親類、血族には株内というのがあります。

講組が寄りまして、いつおこるかわからない交通事故やけがについて、今の共済制度について話合ったのです。秋でしたら二千五百円ずつ出せないことはないので、みんなでそのお金を貯蓄組合に定期で納めて、葬式ができたらそのお金を出してすませて、また村定法などでもとの金額にして納めていく。するといつ不幸があってもお金に困ることもないので皆喜こんで積んでおります。お葬式だけでなしに、婚礼などについても、五十人、六十人の食器は大へんですから共同購入して、今までのように御膳だったらたくさん費用がいるから洋式にしてテーブルを皆で作り、そういうものを入れる蔵もみんなで一日奉仕をして作ってそこに納めています。そういうおつき合いでお返しは一切なしで、昔からの共済制度、相互扶助という精神にいくように、私たちがかえていったらいいのじゃないでしょうか。講組は夫婦揃ってですけれども、お料理やお見舞は女のほうがより集まって、いいほうにもっていくのが私たちの考え方じゃないかと思います。

伊藤　私のほうはまだまだ楽しみが少いものですから、おばあさんたちはバスでぞろぞろ来るのです。そしてお昼をごちそうになって喜こんで、お見舞に行って来たといって帰るのです。今年の婦人会の話にも出たのですが、お見舞じゃなくてリクリエーションじゃないかということになったのですが。

それから、結婚式はまだどうしてもお金をかける風習がありますが、御膳にお金をかけないで引物にかけるようになってきました。それから年祝いというのをするのです。七年程前までは借金までしてやったのですが、誰が、誰がということで部落で必らず三つか四つあります。一軒の家で毎年することもあります。するといなかですからどこか親類筋になっているのでお正月中行ったり来たりで大へんだったのですが、それを私たちでしようということで会員券を発行したのです。最初は男の人や年寄りに反対されたと百五十円の会員券が売れなかったのですが、旧正の十五日にお酒も九十人分程用意して、会員券で祝ってもらった人は三百円御祝儀持って来てけっこうやれました。そしていらっしゃらなくてもお守りと記念の品を上げたら次の年からは会員券を買って下さって、現在はある宗教を信仰している方の他は全部買って下さいます。その行事が部落の大きな行事になって、出稼ぎに行った人もその時には帰って来ますし、遠くに就職した息子の厄払いをしてもらいたいといって来た方もあります。一つのことがやれたのだから他のこともやれないことはないといって話合っているのです。

酒井　二カ月前にこういうことがあったのです。娘がお嫁に行く時、あるだけのものを作って披露するわけですが、たくさん作ってもらっていった先が社宅だったのです。このごろの文化住宅には下駄箱も洋服だんすもほとんどついているわけです。でお嫁入り道

具が入らないからよそへ預けたのですが、そこでもそうそう預かってくれませんのでせっかく持って行った道具を売ってしまったということがありました。その時初めて、おかあさんたちが、無駄だったということがわかったらしいのです。そのおかあさんはインテリなので実行したいと思いつつも、いよいよ自分の番になると実行出来ない。いいことはどんどん実行していきたいという話を聞きました。

渡辺（リーダー）　今のお話には教えるものがたくさんありますね。文化住宅には備えつけの洋服ダンスから何からすっかりあるわけです。これは一つの新しい生活様式ですね。そこへ嫁入道具という古い生活様式をもっていっても合わないのは当然です。

今、皆さんうちの中で電気製品を一ぱいもっていらっしゃる。そういう生活とお葬式や結婚式にお膳を一ぱい並べて二日も三日もお祭騒ぎをしてぐでんぐでんに酔っぱらうほど酒盛をしているというのはバランスがとれますか。

一同　とれませんね。

日下　いなかではお葬式やさんも、お料理やさんもありませんし、お金も皆さんで相互扶助しなければならないし、労働もやっていたゞかないとお葬式ができません。だから一概に悪いとはいえないと思います。婚礼にしたって出来ません。習慧を働らかして、お料理もお膳は大へんだからテーブルにしてというように、皆さんがいいと思ったら、部落が六つほどにわかれていますが、一つがよかったら広まっていって、あれはいけないからやめてしまえということはありません。

大塚　やめてしまうわけにはいかないから、なんとかしていい方向にもっていったらいいのじゃないかと思います。お墓の穴堀まで皆さんのお世話になる他はありませんから、そのあとのお振舞は当然のことですが、私どもの場合、夫婦で手伝いを頼まれます。するとお勝手は奥さんで、且那さんはお座敷に坐ります。女たちはお互いのことですから、いいかげんにお酒をつけるのはよしましょうというと当家の人は「もっと使って下さい」という、「私が言うのだからかまわないでしょう」と自分の主人に耳うちしますと御主人は酔っぱらっていても「あゝそうか、このへんで切りにしようか」というようになってきて、いくらか女の力もこういうところから育っていくのじゃないかと思います。

清水　私どもの所ではお葬式の場合、お菓子を盛菓子にしてお茶を飲んだりして長いこと大へんだったのですが、婦人会で、誰かゞ皮切をやったらあと全部が続くからと相談した結果、一番最初にやられる方が、今までは葬式の時はこうだったのにといわれましたけれども、話合で決まったことだからといって思いきってやったあとずっとそうなりまして、早く片附き、大へん喜こんでおります。結婚式の場合でも今までは部落の方が全部呼ばれてお祝いにいっていたのですが、今ではみんなが会費制度にして、百円ずつ出してそのうちから菓子を買って五十円くらいの包みにして、公民館におしゅうとさんになられる方がお嫁さんを連れてきて披露をして、お茶とお菓子ですませます。残ったお金はお嫁さんの名前で貯金をして通帳をお祝いとして差し上げる。そうしますとお家の方も毎月お嫁さんにも貯金をして上げられるということになります。

渡辺（リーダー）　つまり様式がすっかり変えられたわけですね。

やっぱり現代に住んでいる限り、現代的な様式に変えていかなければマッチしませんね。バランスがとれないわけですね。だからそういうものは農村、山村では一挙にやめるということは不可能だから今にふさわしい様式にだんだん変えていくということですね。

清水　そういうようにしてやり出したところが大へん喜こばれています。

渡辺（リーダー）　そのうちいなかの、昔風の大盤振舞の結婚式の披露宴などがテレビで、うつし出された時に、あゝ今でもあゝいうものがのこっているかね、といえるように、早くみんなに努力していただきたいと思います。今の私たちの考え方に合った様式に変えていくということが大事だと思います。いい例がたくさん出ましたから、皆さんの周囲で是非広めて実現していたゞきたいと思います。

井上　小さいことですが、ここから帰るおみやげのことですが、ずっと今までもいただいていたのですが、誰に聞いてもそれはいるとおっしゃるのです。計算したら六千円もいるのです。それで皆さんのお話を聞いているうちに考えたのですが目に見えないおみやげを持って帰ろうと思うのです。思いきって何にも持たずに帰っておみやげ話をする時にそのことを伝えて、その場でお菓子などをちょっと買って話したいと感じました。

渡辺（リーダー）　それで、伊藤さんのほうから厄年の話が出ましたね。それと丙午のお話は福岡の立野さんですね。その厄年とか丙午というのは迷信ですがそれはなぜ今でものこっているのか、それをどんなふうに受入れているのか、それを話してくれませんか。

伊藤　男は二十五、四十二、六十二で、それから七十七の喜の字の祝いもはいっているのです。女の人は三十三しかないのです。その年の人を一しょにおよびして男も女も一しょにやります。みんな楽しみにしております。

上島　私のほうは男二十五、四十二才で男だけやるのですが女のほうはやらないのです。

渡辺（リーダー）　女は厄はないのじゃないですか。

上島　厄のけというのはございます。

酒井　女の三十三の厄といいますか、私の経験からいいますと、そのころはちょうど子どもが小さいから世話をするわけですが、女の健康に原因があると思います。厄年はこういう意味なのだなとそれですませてなんにも意識しませんでした。私のうちでは誰も厄年などという考えはもちませんし、来年こそ赤ちゃんを生んでおいたほうが入学難がなくていいのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　来年の丙午の話をして下さい。去年結婚した人が多かったですね。今年結婚すると来年丙午の子が生まれる可能性があるということで。

立野　必ずしも丙午に生まれた女は昔から言い伝えられているように男をほろぼすと信じている人はないと思います。ですけれども昔からお嫁にもらい手がないとか、ひが重なるから悪いというような言い伝えがあるからさけようという気持だと思います。私のほうではなんとかの日にはお味噌をつけてはいけない、大根をまいてはいけない、なんとかの日に裁った着物を着るとけがをするとかいうことがいろいろあるのですけれども、それを実際信じて

いる人はない。そういわれているからその日をさけるのだということですね。だから暦から子、丑、寅、卯、辰、巳というのをとり除ける方法はないものかと思います。着物を裁ったからなんの日か暦を見ようということになるのですから。

渡辺（リーダー）　そういう暦が普及しているのですか。

立野　都会の普通のカレンダーにも出ているのじゃないでしょうか。大安、友引、仏滅とか、暦の迷信は悩まされます。それを信じている人がないから困ります。信じている人なら、そえは迷信だといってきかせると安心して信じなくなりますが、信じていないのにその日をさけたり、実行したりするからどうしようもないのです。

渡辺（リーダー）　信じないものにかけるわけですね。

立野　一人々々の人間は弱いのでそれをふり切るようにはどうしてもなれないのですね。娘を嫁にやる時にはやはり大安がいいということになります。必ずしもみんなにさからってまですることはないという……。

鈴木　そういう問題は若い人たちが変えていかなければならない問題じゃないかと思います。世間の波に妥協してしまうということが問題で、友だちなんかでもいけないということはやらないほうがいいとか、大安の日に結婚しなければならないということは、若い人たちはそうしなければならないとは思っていないが、やっぱり古い考えに負けてしまうのです。強くなっているはずの若い人が、なぜ古い考えに負けてしまうのか、そこに問題があるのですが。

渡辺　人間は弱いものじゃないかしら。不幸になることを好んでやる人はないから、悪いといわれゝば不幸になりたくないばかりに負けてしまうのじゃないでしょうか。自分からそれを切り開いていかなければならないと思っても周囲に押し流されてしまう。お葬式だって友引にしたからといってすぐまた死ぬとは考えられないと思うけれども、やはり不幸にあった家庭にしてみれば、また不幸があったら困るという弱さがそういうことにさせるのじゃないでしょうか。

渡辺（リーダー）　その弱さはどういうところから出てくるのでしょう。友引の話が出ましたけれども、友引は火葬場の公休日なんですね。だからやりたくてもやれない。

その弱さというのはなんでしょう。

中村　人間は一分一秒の先のことでも予測できない状態にあるので、何が不幸になるかわからないにしても、少しでもそういうものをさけたいという気持があるのじゃないかと思います。農村に限らず、都会でも大安の日には結婚式がたくさんあるのですから、みんなに共通しているのじゃないですか。

渡辺（リーダー）　東京は都会じゃないのです。住んでいる人の考え方は農村の人と同じで、大きないなかなんですね。だから東京とちっとも変らないというのは当然のことで、しかも今度は文化という話ですが、文化というのは物質だけだったら輸出したり輸入したりできるのですが、文化というのは民族とか、たとえば県民性という言葉もありますが、その県だけで、よそと区別されて個性のある文化をもっていることだと思うのですが、だから日本には日本文化があるので、都市文化自体を輸出したり輸入できるものではないのですね。だからそこには物の考え方から精神的な

ものが、たとえもとは一つのものであっても、一つの物質であっても、それを扱かったりする構え方が民族なら民族独自のものなんですね。そういうところに、たとえば丙午の迷信とか、古い暦を今でも気にしながら昔からいわれたことを信じはしないけれども心にかけているということは、昔から受継いで来た一つの心の構え方なんです。これを今一挙になくそうといってもなかなかなくならない。そういうものが少しでものこっているところに、やはり日本文化のある特性があるのですね。しかし新しいものを選ぶばかりでなく、古いものについても私たちの今の暮らしの様式をはっきりつかまえながら、判断をして、のこすものはのこしていく。捨てるものはできるだけ早くみんなで力を合わせて捨てていくことが大事じゃないかと思います。迷信というものは、一ぺんには捨て切れないでしょうが、正常な生活をしている者にはとても守りきれるものではない。自分たちの生活の必要から捨てていきたい。それが現在の生活様式を確立する上では必要なことです。団地の四階建、五階建のアパートに住んでいますと方角なんか考えられないですものね。悪い方角に住んでいても病気にもならないし、いい方角に住んでいる人に病人が出たりすることもあるのだから、私たちの生活自体を確立することが大事じゃないか。よそからは動かされない、両足を大地につけてちゃんと立っているという生活を早くたてたいと思います。

立野　私、この会議に大きな池の中に石を投げ込むつもりで、この問題をかかえて九州からでてきましたので。今、鈴木さんが若い人は自覚して忘れるからいいじゃないかとおっしゃいましたが、私も若い時には同じような気持をもっていましたが、年寄になってやはり大安に嫁入らせたということは、今の若い人もそうなられる可能性がないとはいえないと思うのです。たまたま友引にお葬式を出したために人が亡くなったということが一つあると、それを三十年も五十年も忘れないでその迷信を守り続けるのです。暦の中から子、丑、寅、辰とか、丙午などをとり除いておかないと、来年生まれる女の子が二十年先に必らず困ることができないとも限らない。実際、私の姉の家では家出をしたという話を聞きます。このばからしいことが今の世の中にあってもいいでしょうか。大神宮さんの暦も、見る人があるから作るので、ここらで悪循環を断ち切ってもらわないと私たちの子や孫が困ります。丙午を来年に控えて暦から子、丑、寅とか、そんな非現代的なものは是非とも消してもらう運動を婦人会でも、農協婦人部でも青年団でも、とり上げて展開していただく方法はないものかと、私はそれ一つを金の卵のように持って来たつもりです。皆さんの御協力をお願いします。

渡辺（リーダー）　あれはかくれたベストセラーなんですね。

日下　十二支のようなものに益がありますか。いなかでは水車がありますが、十二人が一組になって十二支で車番というものがあるのですが、他に利がないのです。百害あって一利なしとはこういうことですが一番被害をこうむるのは女です。私も昔は非合理、不合理なものは絶対に信じない、迷信なんだと突っておりましたけれども、いざ当面してみると、悪いことはさけたいという気持に負けてしまうのです。ですからこういう時にこそ青年団あたりでそういう運動を盛り上げて、抹殺する、といったらお叱りを受けるかもしれませんが……。

立野　話合っただけではだめなんです。新聞に投票してもだめなのです。そんなことは迷信でとり上げるべきでないとそれだけで終るのです。何かの方法で実行にうつさなければ意味がないと思うんですね。

渡辺（リーダー）　日本青年団協議会の池末さんがオブザーバーとして来ていられますので、青年団運動などでとり上げるのはいいことじゃないかと思いますので一言お願いしましょう。

池末（特オブ）　若い人が自分たちで話合う時は強いことを言っても家に帰ると負けてしまうというのは若い人のせいなのか、社会的な客観的な条件がそうなって来ているのかというと、その両方だと思いますが、青年団の場合、いろいろ多くの問題をもっておりますから暦の問題、厄年の問題などが表面化することはないのです。もっともっと切羽つまったというか、今ほとんど農村から人がいなくなり、日本の産業構造の動き以前の生活が変って来ているわけですが、そういうわけで、むしろもっと違う、農業生産の拡充などに真剣になっているので、今話されたようなことを問題にするのは何かむずかしいのじゃないかという気がいたします。

酒井　今の発言を深刻に聞いたのです。今の若い方は、私の生徒ですが、結婚式の花嫁衣裳を借りると五万円かゝるそうですが、簡単に洋装でやりますと一万円ちょっとですむ、しかも貸衣裳でないので自分のものになるのでそうしたいのだというのです。そしてその五万円を生活設計の資金にしたいというのですが、おかあさんは花嫁衣裳を着せるために一生懸命育てて来たのだといって花嫁人形にしようとトラブルをおこしている、先生どう思うかと聞かれたのです。私自身娘をもっておりまして、ほんとうはそういう洋装でやれば実際いいのですが、やっぱり花嫁衣裳を着せたいですね。そういうところに自分自身の心の戦いがありますね。これはやっぱり人間の弱さで迷信と一しょだと思うのです。出来ることなら若い人のいうようにしたいのですが全面的にそれをとり入れられないのですね。

渡辺（リーダー）　娘さんをもっているおかあさん発言して下さい。今の母親のジレンマというものを……。

大塚　私はそういうことにこだわっておりません。当人が洋装がいいといえば洋装、着物がいいといえば着物、なんにもいらないといえばそれでもいいと思っておりますが、それが現実になった時気になるのかと心配になりました。

清水　今の問題と違いますが、午の日に田植をするとその年は死米になるというので、午の日に植えないのですが、私の所では人手がないためよそから手伝ってもらわなければなりませんので今まではその日をえらんで田植をしていたわけです。今母が病気になっておりますので、この問主人と話したのですが、やはり午の日にはやるまい。もしものことがあった時に何かいわれはしないかということで、まだはっきりきめておりませんけれども、実際そこまでいってみないとわからないのじゃないかと思います。

上島　その人間の弱さですか、そういうことは大勢の力で、組織の力で実行したならば解決するのじゃないかと思いますけれども、組織の力というものを借りれば悪循環をいいほうにもっていけるのじゃないかと思います。

立野　福岡県の大会でやはりその話が出ましたが、日本人が作ったのだから日本人の手で抹殺すべきだと盛んにおっしゃった方もあ

りました。だから誰かがこれをしなければ、自分は信じないからかまわないといっても、いつかは信ずる時が来たらどうしますか。私が真剣にいうことがばかなことだとおっしゃるかと思いますが。

渡辺（リーダー）　そうですね、みんなが信じていないくせにそれに引きずられているということに立野さんが腹だたしくてしようがないところがあるわけですね。

上島　若い人を目ざめさせるためには、若い人が盛り上っていかなければ改善できないと思います。

渡辺（リーダー）　そういうことを知っている年寄の方に口に出してもらわないことですね。

酒井　大安に結婚したって離婚する人は離婚するのですから、私は信じません。またそういうことはあまり考えないことにしております。

立野　暦の迷信も害にならないものはかまわないと思います。

酒井　大安、仏滅ということでなくて、日曜日のような、なるべく皆の暇をみつけて結婚式をするとか、そういうものになるべくこだわりたくないですね。

立野　それがわからない人があるのです。たまたま仏滅の日に結婚して別れると、それを二十年も三十年もほんとうだと信じこむのです。偶然を当然のことだと思いこむのですね。

大塚　農村というところはいいことは当然だと思い、そして悪いことを信じこむという風習がある、これがすべてにつながるのじゃないでしょうか。迷信だけに限らず。

立野　農村の人の頭は海綿のようだというのです。いいことでも悪いことでも、あれは迷信だ、これはなんだと選択する力がないのでいつまでも、つまらないことがのこりますね。ほんとうに何べん話合ってもだめなのです。あんなつまらないことをと笑っておられる方は三角形の頂点のいく分かの人たちで、ほんとうに農村の文化の開発の遅れた三角形の底辺のたくさんの人たち、こんな発言の機会も場ももてない人たちはいいも悪いも、海綿のように水分をしぼってろ過する力がないから信じてしまうのです。

渡辺（リーダー）　皆さんの中に古いものにひかれているものと、それじゃあいけないのだと、確に一方の理性では否定しながらも割切れるものがない。まことに皆さんの御年輩が古い時代から新しい時代へと変った時代に自分自身が渡って来ていますから、古いものをしっぽにつけているのもやむをえないと思いますが、理性ではっきりわかっているのですが、一人じゃ弱いでしょうね。どうでしょう、大勢でこの理性の考え方が正しいのみで、古いものに引っぱられていること自体に自分たちの弱さがあるのだからみんなでその弱さからぬけ出そうという、そういう皆さんの手を結んでの姿勢を作る、これが問題解決に大事なことじゃないかと思いますが。これこそ婦人の、たとえば婦人会でも団体でも、ほんとうに一しょになって力を揃えて解決していく問題じゃないか。そうすれば一人の弱さがそこでは充分救われると思います。皆さんの団体などの課題にして、みんなで手を結べば、そういう一人の弱さからぬけきれるという方向で問題を解決してもらいたいと思います。

実際、そういう迷信を気にかけている人が水道や電気冷蔵庫や電気洗濯機を使う資格はないと思います。それらは合理化そのものからできているのですね。早く電気製品をとり入れている生活様

式にものの考え方と同時に、その考え方にとらわれている姿勢を直すことですね。女性が女性同志、同性を互いに守り合うという姿で取組んでいけば丙午の問題も解決するのじゃないかと思います。

では次の問題に移りましょう。これも要するに現代的な生活様式に合わない、古いものの考え方をまだ私たちは生活の中で持っているということですね。そこにアンバランスがあるということ。

日下　いい迷信もございますね、昔からの。

渡辺（リーダー）　どんなのです。

日下　年寄なんかが、梅雨の日を前後に田植をするのがいいと理想的な状態を一口に言っています。また人が亡くなった時に御飯は二へんにわけてつけるといいますが、そうすると御飯も気持よく、綺麗につかるということを教えたものでしょうし、また、お便所のお掃除をすると可愛い赤ちゃんができるということはよく聞いたほうがいいということで、迷信と一口にいえない、昔の人が教育の方便に使ったもので、まだわけのわからない子にはそういう形で教えて、年が来たら昔の人の智恵だと教えたらいいのじゃないか。

渡辺（リーダー）　教えを理解できたら、教えのこころを表に出して形式のほうは後のほうに引っこめたらどうでしょうか。形式が表に出てくるとそれだけにとらわれて、お葬式の時は一ぺんに御飯を盛っちゃいけないが普段はいいのだということになりかねないですから、いつでも御飯は何べんにもよそって少しずついただいたほうが体にいいのだよという教えそのものを表に出していたゞきたいと思いますね。

市川　昔の人の言われていることはいいことがあります。何か根拠がありますね、科学的な。だからそれを子どもに教えて理解させていけばいいのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　こじつけはやめて、科学的に話して、方角などということはいわないで、風の吹く方向とか、日の当らない場所とかいえば理解できるわけですね。今、東南向きの家を皆、造っていますが、たゞ方角をいわないだけでね、日のよく当るように造っているわけです。

上平　八卦だとか神様に伺っていただくとか、たとえば子どもを進学させるについても不動様に拝んでいただいたら、というようにそれに頼っているようなことがあるのですが皆さんいかがですか。

渡辺（リーダー）　面白い問題が出ましたよ。

伊藤　私のほうにもあります。病気がなかなかなおらないと、おがんでもらっているからよくなるとか、私のほうに巫女がいるのですが皆行きます。どちらの方角へ行ったら悪いとか、また秋と春には必らず口寄せというのをします。

上平　子どもが行方不明になったので、おがみましたら水と出たそうです。ちょうど田植の時で池の水を抜いてしまうと田植ができなくなるので村の人は迷ったのですが池の水を抜いたら子どもがみつかりました。縁談にしろ就職にしろみんなその方におがんでいただくのです。

大塚　私のほうでもカンゲさんにもらいに行くというのがあります。病気などが長引きますと行きます。私は全然信じないのですが、おがんでいて、あなたの家ではこちらの方角をいじりましたねとか。どこそこの方角に木を植えましたねというと必らずその通り

になっている。そこがさわりになって快癒しない。お塩を持ってお参りしなさいといわれてお参りしても大体よくはならないのですが、いじったとか、何をしたということは当るのがいまだに不思議でしようがないのですが、どういうわけでしょう。

渡辺（リーダー）　当ったからといって病気がなおるわけじゃないんでしょう。

大塚　そうしなかったらもっと長くかかるというわけでしようが、なにか一つその場で当るということが一つの暗示になっているわけじゃないでしょうか。

渡辺（リーダー）　暗示でなおるだろうということでね。

大塚　当る所だけが何か不思議なものがあるような気がして。

酒井　富山は仏教が盛な所ですが、そういう仏教の精神的ないい面も悪い面もあります。が現実の問題として、お寺の寄附がよくくるわけです。そうしますと高校に行っている子どもが、辛らつな批判をするわけですが神秘的なものを信じているおばあちゃんがいるので中間に立って苦しむわけです。子どもにかくしておばあちゃんと二人で解決することがあるのですが、何か割切れないものを感じているのです。お寺さんの寄附などに対しては皆さんどういうようにお考えでしょうか。

上島　私どものほうはお宮さんがありますので、そのお礼をもって割当てにくるのです。一年毎に村中が交替で買うことがあるのですが、お寺にしてもお宮にしても、建物を維持していく上に必要だからするのじゃないでしょうか。そう解釈すれば批判もいらないと思いますが。

酒井　子どもは、僕たちの家を直すにしたって誰もお金は寄附してくれないというのです。それだけのお金があったらもっと参考書などを買えるというのです。

渡辺（リーダー）　その問題はもう一つつながるものがあるのです。大塚さんが子どもの遊び場問題で寄附をつのったところが冷淡だという話がありましたね。その人たちは神社の寄附というと出すのですか。

大塚　出します。やっぱりお寺さんはぼだい寺ですから、たゞさし上げるのじゃない。御先祖様の御魂を守って下さるという気持がありますから、家々の格によって屋根替の寄附とか、あるいは人足にかり出されますけれども、そういうふうな寄附金に対してはなんにもないと思っております。

渡辺（リーダー）　それは個人的なつながりですね。

大塚　お寺さんは自分の御先祖様とつながっているという考え方ですね。

酒井　ところが子どもの遊び場にブランコなどを作りたいといっても……。

私どもの部落は三十軒で、学令前の子が二十人おります。その子どもがテレビに出て一万円いたゞいたので有効に使いたいというので遊び場を作ってやろうとしたが、女の方は賛成しましたが男の方がブランコなんて作ったってとりっこしてけんかするからとか子どもに一人ずつ子守りがついているのだから遊び場なんかいらないという反対意見を出しました。それに対して女の人たちも大分反論しましたけれどもうちに帰って話題にしたでしょう。すると女の人は家長の意見が一番正しいのだと思っていたり、自分の家族を説得する力をもっていなかったりで大分反対意見が出てし

まった。何か農村問題につながる問題だと思って悩んでいました。

渡辺（リーダー）　日下さんのほうは相互扶助的な共済的な組織をもっていらっしゃる、ところがこっちは……。

日下　リーダーに恵まれているのじゃないでしょうか。

中村　非常に親密で部落の中で親類づき合いというか、お互いの生活を干渉し合うくせに社会的連帯感が欠けているのじゃないかという気がするのです。相互扶助も自分に返ってくるからで、自分に返って来ないものはしないのじゃないかという感じがするのですが。保育所をみんなで作ろうというと、有力者で、子どものいないような方が反対します。社会から受けた恩恵を社会にもどそうという考えが欠けているような感じがするのです。あまり自分に関係のないことにはごたごたをおこすまいという考えが強いようです。

日下　私どもの所は農林省から表彰されましたし、部落の村有林から得た利益を、千円ずつ配るより積み立てて学校を建てましょうということで三百戸の部落に近代的な学校を建てたのです。すると今度は電話が学校に一つしかないので、お医者さんを町から呼ぶときは学校にとんで行くのです。そしたら婦人会、部落会、消防、青年団が集まって、村有林を売り払ったお金で電話を考えようということにしたのです。今まで電話なしですんだじゃないかという一部の反対もありましたけれども、一番町に遠くて不便をしているのだから、みんなでお金はそちらにまわして下さいということで電話をしいたのです。封建的な人はいらないということでしたが、三年たって今度またお金があるけれどもいりませんかといったらみんな引いて下さいということで、今は村中電話があるのです。村の人が次々そういう文化をとり入れているから幸せな所に来たと喜こんでいるのです。

大塚　やはりリーダーがきっとよろしいのじゃないでしょうか。リーダーが村では議長さんのような形になっている、所感文の中にもそういうことを書いている方があって、面白く読ませていただきました。

立野　日下さんの所は一つには金持だと思います。もう一つは戸数が、百軒……？

日下　三百軒近くございます。

酒井　三百軒の中に違う部落があるのでしょう。

日下　六つが寄って一つの部落になったわけです。

立野　三百戸の部落がみんな一しょに電話が引けるようになったのですか。

日下　そうです。

立野　やはり裕福なんですね。村有林があったりして。

農村には昔から伝わっている、お寺の寄附などは文句をいいながらも中止したりやめたりということはなかなかしないが、新しいことはちょっとしようとするとみんなで寄ってたかって何か言う。そんなのを封建性というのでしょうか。

日下　その時反対があっても、それがほんとうに価値があるものだったら、反対した人もあとで感謝するのですね。押し切って進んだら。

上島　村有林からまかなったわけですか。財産があるからですね。

伊藤　男の子が先に立つのですか、女の方ですか。

日下　婦人会も相談にあずかります。

伊藤　すると御亭主の優秀なのをもつといいわけですね。

上島　有線電話ですか。

日下　市外電話もありますし、電話組合があってつなぐのです。

上島　有線の形ですね。

酒井　今電々公社でそういうことをおし進めておりますね。

立野　リーダーのいい方があるということは地域社会で大事ですね。

日下　当事者は大へん苦労していると思います。時間をかけて一人一人と話合ったりしているのです。

鈴木　やっぱり裕福な部落ですとそういうこともできると思います。私たちの地域は兼業農家が多いのでたしかに向上するのですが、その人が少し生活がよくなりつつあると、もとの苦しい生活におとし入れてみたいというようないがみ根性があるので、話合いとか部落のために何かあるといっても集まりません。自分だけがよければいい生活なのですね。やっぱり裕福になればリーダーも育つでしょうが、何か人の先に立つと損をするというような考えもあるのですね。だから出ると出しゃばるとうわさされたり、自分の生活を守るというだけで生きているのです。

井上　私の所では区長さんのなり手がないのです。農家の仕事ができないからということで。それで出稼ぎに行った人が選挙で決まったのです。帰って来てつとめておりますが、どうかしてやらなければといいますけれども、どうかしようと言い出す人がないですね。いなかの人は人情にあついといっていますけれども、電気製品なんか買ってお金がいるようになって、人のことを考えられないようになって淋しいような気がします。また時間もないですから。

渡辺（リーダー）　昔は農村の人は淳朴だったが、このごろのように暮らしに追われて冷淡になって来たというお話ですが、渡辺さんが遠くまで働らきに出かけていっている時どうでした。

渡辺　私もそのことについて悩みました。女が出稼ぎに子どもや家庭から離れていくことは大へんですが、事情が許せば働らくということはいいのじゃないかと思っていました。私たちのほうも狭い所ですから聞きずてならないことも言われましたけれども、働らくことに誇りをもって誠心誠意働らいてきたら誰にもおそれることがないという気持で働らいて来ました。帰って来たら慰めの言葉をかけて下さる方もありましたし、よく帰って来たねと驚く人もありました。出稼ぎに行って帰って来ない人たちが多いとかで、私もそのように見られたのかしらと思うこともありました。主人や子ども、しゅうとさんと話合った上で、私が健康であるし、主人が身体障害者でもありますので、去年の凶作で少しでも収入になればいいのじゃないかということで出かけて行ったのです。家庭の中から信頼されゝば自然に世間にわかっていたゞけるのじゃないかと思って行きました。現在は貧しいけれども、明るい家庭を築くために一生懸命になって毎日を過ごしております。

渡辺（リーダー）　どうしていけば自分というものを生かしていけるか、またそういう自分を信じてくれる家族の中で自分が自分の思い通りの生き方をしていけば家中の幸せにもなるのだということを出稼ぎの中から自信をもって帰られたと思うのですね。

渡辺　よその人たちには批判もされましたけれども、誰にも恥ずることのない信念のもとで大手を広げても歩けるのだと白眼でみられる方もいましたけれども、プラスになることばかりありました。

渡辺（リーダー）　実は渡辺さんの行動の仕方ですね、これも一つの文化だと思うのです。自分で考え、家族とも話合って、それらが支持した以上は自分の考え方はこれでいいのだと、体ごとぶつかって出ていったわけですね。これに対して村の人たちはいろんな目でみていたがそれを恐れることはなかった。非常に自主性のある、自分の考えで、自分の判断で自分の行動を決めていくという、一つの生きる使命といいますか、行動様式といいますか、これが今まで出た、冠婚葬祭の問題、迷信の問題でも、解決のきっかけになりはしないか。また日下さんの所で、リーダーがいいとか、財産があるとかいう話がありましたけれども、一つの電話をとり上げていく時に、こういうものが今の自分の生活様式に必要で、便利なものだ、そこから幸せが得られるはずだという確信をもってやっておられたから、いくら反対を受けても二年、三年後にはみんながついてくるということになる。

庶民の中の一人の女性がほんとうの確信をもって出稼ぎをやって来られて一そう目を広めて、自信を持って帰られた。それが村の人たちにも、よかったわねという言葉になって労働の尊とさに目を向けさせているということは、いろいろ出ている問題を、時間はかかるにしてもこれから解決していく上で、私たち一人々々がもたなければならない大事な一つの行動様式ではないか。つまり文化ではないかと思うのですね。ほんとうに僕は渡辺さんの思い切った行動に感心させられたのです。

渡辺　子どもが大きいものですから、おしゅうとは八十四のおじいちゃんと七十九のおばあちゃんがおりますが、二人とも健康ですし、主人も身体障害者ですけれども、うちのことならしますし、私一人くらいいないでもけっこうやってくれるので、みんなから子どもが可哀そうでないのかと言われましたけれども、冷害で困った困ったと言いながらうちにいていいものだろうか、子どもが可哀そうだといって家の中にいて生活が成立っていかなければ不満を生じるのじゃないかと思って。

遠く静岡まで行きましたので毎日うちのことは必配しない日はありませんでした。子どもたちの手紙や友だちのはげましの手紙が来ると泣いて読みました。一日も早く帰って子どもたちを喜ばせてやりたいと思いました。

渡辺（リーダー）　この話から私が感じたことは、私たちはまわりがいつも変らない、ぬるま湯につかっているようにぼうっとしているでしょう。自分の存在を自分で確める機会がないのですね。きのうもきょうも同じような暮らしをしている。おそらく渡辺さんは静岡に行って、その中でほんとうに自分というものを確めたのは、そのよそのうちの中でも一人の時だったと思うのです。僕たちは、普段自分の存在を確める機会がないのですね。これが大事だということは、これから出てくると思います。私たちは冠婚葬祭のような伝統的な文化の問題から話を進めていったわけですけれども、やがて、個人のいろいろな生活様式のことにはいっていきますと、そこで出てくる問題は、私たちは今、消費文化の中に完全にまきこまれてしまって自分というものを見失なっているのですね。それからもう一つは、社会に出れば会社にしても工場にして細かに組立てられた組織の中で歯車の一枚のように組みこまれて、時には機械に使われる人間になっている状態です。ほんとうの自分の人間性を自分で確めるどころか、自分という人間を

どこかに遠ざけてしまっている状態がほとんど誰でもが経験しているところです。わずかにテレビなどでよろめき場面をみて、上っ面な感情的な刺激にこたえるだけでおれもやっぱり生きているのだという確め方しかできない。それとくらべると、渡辺さんの働らき場所で自分をみつめた姿はほんとうに尊いものだ。私たちは日常そういう確め方をしていってこそ今までてきた矛盾だらけの問題もほんとうの解決が出てくるのだと思います。そこで、上島さんは子どもさんをうちに置いて働らきに出ていらっしゃるが、他の人がどんなふうにあなたを見ているか、あなた自身それをどんなふうにはね返しているか、話して下さい。

上島　私のほうは兼業農家で、近くにヤシカ、精工舎という工場があるのでその下請工場がいくつもあって農閑期になると主婦は、小さい子どものいる所でもおばあちゃんに頼んで、ほとんど行き、反別の少ない人は一年を通して行くわけです。だから子どもを残していくにも条件が割合いいわけですけれども一人二人非行少年が出てずいぶんさわがれました。PTAなどでも問題になって、なるべくおかあさんは子どもの帰ってくる時はうちに帰ってもらいたいということが出たわけですが、働らかなければ生活をしていけない環境にあるのです。うちの場合保育園に行っていますから、冬の間出ようということになりまして、子どもにおかあさんが働らかなければ勉強できないし、おいしいものを食べられないから出てもいいかといったら、小さい子どもは、いやだと言いましたけれども、おじいちゃんがいればいいということに最後はなったのです。それでおじいちゃんにも話したところ、おれがいるから出てみないかということになって出たわけです。子どもが小さいのでパートタイムで出ています。朝子どもは八時に学校に行くのですが、私も一しょにうちを出て、三時半ごろまで働らいて子どもと一しょくらいに帰って勉強をみてやるようにしています。が、今のところ別に問題はなく、子どもも朝なども茶わんを洗ってくれるとか、雑布がけをしてくれるとかうち中がみんな協力してやってくれるのです。うち中の協力と理解がなければできないと思います。

渡辺（リーダー）　三時に休憩だそうですから、再開したら　もう少し出稼ぎと子どもの問題をとり上げたいと思います。皆さんの周囲で見聞きしたことで問題点を出していただいて、農村もこの問題に頭を痛めている現状ですから、何かいい解決の方向を探りあてていきたいと思うのです。（休憩）

（再　開）

渡辺（リーダー）　上島さんから、子どもさんがちょうど学校に行っている間だけパートタイマーで出ているというお話が出たのですが、小さい、まだ保育所でも扱かわないくらいの子どもさんをもっている人で、ほんとうは働らきに出たいという人はおりますか。

上島　います。

渡辺（リーダー）　そういう人はどうしています。

上島　おばあちゃんがいるとか、おじいちゃんがいるとか。

渡辺（リーダー）　そういう人のいない人で……。

それじゃあ話を変えて、御婦人でも、農閑期に農業でない仕事に出ていっている人が多いと思うんですが、うちに子どもを置きっ放しにしてということで、子どもの非行化が社会問題にされているわけですが、皆さんの周囲の実情はどうですか。

市川　出稼ぎは大賛成です。私自身非常にいいと思って勤めておりますが勤めに出ることは精神面にプラスになるとか、女性の地位を向上するとかいう意味でいいのですが、ただ思うことは、家のことです。主婦が働らくと家族が痛手をうけないかどうか、プラス、マイナスを考えてプラスと思えば外に出ていってもいいのじゃないか。出ておりますと、子どもとの接触面が欠けるので、帰ればすぐに子どもと話合うとか、日曜日などは家庭のサービスと心がけてたえず子どもと話合っております。夕焼空を見ると歌を作り、小鳥がなくと外へ出るというようにして、たえず子どもの心を離さないように、黒板で連絡場を作ったりして精神面を補うようにして出ておりますが、大へんいいことだと思っております。今、農村で出稼ぎが多いのですが、流行のように、隣が出るから私も出るという、使命感のない勤め方はいけないと思います。

大塚　自覚がなくて、お隣が出るから私も出るといういき方がはやっております。私たちのほうでは農閑期には、昔ですと女が家にこもって農繁期にやれなかった針仕事をしたり、家庭管理の面に力を入れていたのに、このごろは、といいますと近くのゴルフ場のキャディのような仕事ですが、日銭稼ぎで割合お金になりますもので、誰それさんは子どもに何を買ってやったと話が伝わりますと、私も私もということで、夜暗くなるまで勤める、農村には鍵をもたない鍵っ子がたくさんいるわけです。そういうようなお

かあさんは子どもとの話合いもしないし、家庭管理もルーズになるし、ずい分マイナスの面が出てくる、あまりいい傾向じゃないのでできるだけ農閑期の出稼ぎは旦那さんにしてもらうようにして、女手はなるべく家庭にいて一年間の家事の整とんなどする方向にいったらいいじゃないかと度々グループの話合の材料としております。

酒井　私の県は全国で一番大きい農外所得をもっているそうです。富山県の農家の平均耕作地は一町何歩ですが、とうてい農家収入だけでは生活をまかないきれないのです。これは事実です。ですから男の方が農外収入を得られるのは当然かと思いますが、そうしますと、結局主婦の方に農業の責任がおいかぶさってくると思うのです。その主婦の方が、人まね式に、富山県ですと、土建業の日稼ぎなどに出ていくので、教育問題、農家の主婦の健康ということがいろいろな形で出ているのです。こういうことは全国を通じて共通の点があるのではなかろうかと思います。これを、私たち婦人の力で、どういう方向に向けていくかということが大事な課題だと思っております。

中野　そのような実情は本県でもございます。以前は、婦人は、寄って話合いをする場がもてたのですが、現在は忙がしくて話合いの機会がもてないのです。なぜそんなにみんなが働らきにいくのかというと、あそこのお嫁さんも行ったのにうちの嫁は、と言われるから働らきに行ったほうが気が楽でいいということになるのです。そういう人が働らきに出ると、ほんとうに働らかなければいけない人が働らく場がなくなる、賃金を下げているという場合があるのです。自分が働らくことの意義を、真剣に考えて働らい

ていかないと、女性の地位が上がらないのじゃないかと思います。

酒井　なぜ働らきにいかなければならないかと聞きますと、今年は機械を何十万で買ったから、その借金を払うために行くのだという方もあります。その機械は一町歩くらいの農家では一軒に一台は要らないわけです。そういうところにも農業のあり方にもっと改善するところがあるのじゃないかと思っております。

立野　そんな傾向は私の周囲の農村でもあります。働らかなくてもいい農村の婦人が働らくために、ほんとうに働らかなければならない人の生活を圧迫していると私も痛切に感ずることがあります。これは農村婦人としてやはり考えなければならない問題ではないかと思います。うちの仕事はおばあちゃんや何かに頼んで、小さい子どもまでも動員して人が働らきにいくから行く方が必要に迫られて働らきに出ていく人たちの経済面を圧迫するということは、やはり皆で話合って考える必要がありますね。真剣な話合いの場をもつことが私たちの当面する問題ではないかと思うのです。

渡辺（リーダー）　井上さんのあたりはこれから新興都市で発展していく所ですが、あのへんは農村の主婦が工場に出たりしていますか。

井上　今まではわら工品を家で皆がおっていたのですが、このごろ需要がなくなって、最近では市内のかん詰工場にたくさん行っていて、グループ活動なども集まりません。なぜかと考えますと、農村の家庭は封建的で主婦の小ずかいが与えられていないのです。実家に行って千円か五百円もらって、おみやげでも買って来たらもうないという有様で、自分の小ずかいほしさに出て行く、出て行けば多少は家に入れても自分のものになりますから。私は主人が勤めておりますし、四反くらいの百姓をしているので出る必要ないのですけれども、周囲の目が、どこかに行ったらどうですか、なんて、居辛いのです。

渡辺（リーダー）　それは大塚さんあたりのキャディでもそうですか。

大塚　私どものほうは小ずかい稼ぎというよりも、子どものためとか、生活費の一部にするために働らきに行くようです。ぜい沢とまではいかなくても、子どもの思う物を買ってやればそれで子どもを可愛がって大事に育てているという考え方ですね。もう少しその以前に細やかな通い合った愛情というものを考えて、しのぶべきところはしのんで、子どもに知らせて農作業だけで母は一人前以上働らいているのですからそれ以上に働らかなくてもいいようなふん囲気を家庭で作っていったらいいのじゃないかと思います。目先のお金の問題にばかりおぼれている、というと語弊がありますし、生活が苦しいからといえばそれまでですが、それほど苦しそうじゃない方が出ていらっしゃると物の考え方に違いがあるのじゃないかと感じます。

鈴木　そういう考えもあるでしょうが、やはり誰も、より豊かな生活もしたいという望みがあると思うのです。母親よ家庭に帰れという主張にも問題があると思います。母親が安心して子どもを預けておけるような保育所などがあったらいいと思います。

市川　働らく母の家で不良化問題がおこると家庭に帰れといいますが、ほんとうに情ないと思います。託児所などが完備していればこういうことはおこらないのに、たまにおこるとすぐとり上げる。出稼ぎに行った本人自身で解決できることは限りがあるし、個人

では解決できない面があるのじゃないか、大きく託児所なり保育所をどうこうすることはできませんが、隣近所で子どもをみて上げるとか、個人で解決できないことはお互いに協力していったらいいと思うのです。主婦よ家庭に帰れなどいわずに働らく意志のある人はどんどん働らかしてやっていただきたいと思います。

渡辺　私たちの所では土地が広いので機械も入れなければならない。多角経営といって二十町歩くらい耕作しなければならない状態です。おかあさんたちが働らきに出ていけないというお話ですけれども、農家の場合ですと朝から晩まで働らいて子どもの顔を朝見てお昼に帰ってみるくらいで晩まで子どもの顔を見られないのですが、割合農家からは不良が出ていないようです。それと同時になぜ農家の主婦がこのくらい働らかなければならないかというと、勤労に対する報酬が他産業から離れているのではないかと感じます。そのために若い人たちに機械を与えて農業を続けてもらおうとするのですが買ってもらった時はいいのですが、三十前後になると算盤勘定が合わないので町に出ていってしまうのです。するとあとに四十、五十代のどこにいっても使い手のない人が残るのです。私たちの村でも去年の大冷害で五十戸の集団離農者が出ました。私たちの年輩ではどこにいくこともできないし、できないながらもなんとかして土地を守っていかなければなりません。子どもを教育するにもこの土地から収入を得なければならないという切ない気持で働らいているけれども、収入はその割にないのです。そういう状態が続いているものですから若い人たちに農業を安心してやってくれと言えないわけです。労働に対する報酬が他産業から遅れていることと、文化面で都会よりずっと遅れた生活をしているということは、あまりにも上の方たちが農村を見捨てた形じゃないだろうかと考えます。もっと何か力があったら、農家だってもっと住みいいものになり、働らきに出ないでも、主婦は主婦なりにやれる農家になるのではないかと思います。

渡辺（リーダー）　渡辺さんの所はどのくらいですか。

渡辺　二十五町歩くらいです。

渡辺（リーダー）　二十五町歩の農地でさえもそこからあがる生産でやっとこ暮らしているという話が出ました。内地では五反から七反ぐらいでしょう。北海道とくらべてさえ小規模の農地から上がる所得で充分な生活をまかなえないということは当然ですね。これは農家の人たちに真剣に考えてもらわなければならない問題だと思います。もとを探っていくと、今の農家経営というものが、どんなに惨めなものかということですね。これは大きな政治の問題につながるわけですが、私たちは政治を大臣だけにまかしているわけじゃない。私たちが代議士を選び、その代議士が大臣になっているわけですから、私たちはそういう問題を充分選挙の時に考えて、農業生産を他の生産と見合うものに、そこから上がる所得が生活を支え得るものになるような政治をやってもらえるような選挙をしなければならないわけですね。これがほんとうに正しい一票の使い方だと思います。

次には、おかあさんは一日子どものそばにいて愛情を注ぎどうしていることが子どもの幸せであり、よりよく育つか、あるいは市川さんのように、昼間は離れていても、わずかな接触の時間に濃密な愛情の交流をしていくほうがほんとうに親子の交流ができるものなのか。また渡辺さんは、昼間一日野良へ出ていて子どもに

会うのは夜だけだ、それでも農村から悪い子は出ていないといっていらっしゃるが、子どもと母親の接触の問題ですが、べったり愛情がいいか、限られた時間にがっちりとお互いをみつめ合う愛情の交流の仕方がいいか、その辺の母親のあり方、経験としてはいかゞでしょうか。

井上　出稼ぎに行っている人が塾にいかしているかわりに家にいる母親は子どもが帰って来たらすぐ坐らせて、夕方遅くまでそばについていて教えるという人がふえているようですが、そうなったらマイナスだと思います。

中野　教育ママは、教育には熱心で、その子の学校の成績にばかり力を入れているようですが私の県で学力検査をした時、一番成績のいいところから不良児が出たのです。学校の成績がいいことを、その子がいいというようにとりやすい、そこに問題があるのじゃなかろうか。子供の学力と家庭教育とが合ってこそほんとうの教育じゃないだろうか。

渡辺（リーダー）　愛媛は勤評闘争以来教育問題では大へんな問題をかゝえている所で、そこから人間形成の問題が出て来たということは、子どもを育てゝいく上に考えさせられる問題だと思います。出稼ぎと教育、保育の問題を考えると、市川さんがおっしゃったように、働らきに出ることの自覚がしっかりしている人だったら、私は子どもと長い時間離れていても再び子どもと会った時、もう一ぺん子どもを抱きしめるおかあさんだと思うんです。体の上ばかりでなく、精神的にもそうだと思います。渡辺さんの場合、北海道と静岡と離れていてもがっちりと母と子が腕を握り合っていられたと思うのです、手紙のやりとりで。こういう接触が非常に大切じゃないか。べったりマゝのほうはかえって子どもを甘やかし、ひ弱にするのじゃないか。

それから上島さんの、子どもがいつの間にか家事を分担しているということは立派なしつけができているわけですね。

渡辺　私の経験からいって、しばらく離れたことによって子どもはおかあさんの立場がわかり、自分があまり甘えていたということもわかったようですし、主人も、それぞれわかったようです。淋しいながらも自分の立場を考えたことは大きなプラスだったと思います。

渡辺（リーダー）　結局密着していたら相手が見えないのです。相手を見るためには距離をおかなければならないでしょう。いつもくっついていていては客観的に見ることができないのじゃないか。市川さんや、渡辺さんや、上島さんのような自覚をもって働らくのだったら、子どもたちは不良化しない。むしろべったりママのほうに問題があるのじゃないか、そういう自覚にたって、充分能力を発揮できる職場があるのだったら、やっぱり働らきにでることが大事じゃないか。このごろレジャーブームでゴルフリンクがふえてキャディを集めておりますが、レジャー産業に出て行くのがどれほどの意義があるのか、レジャーを楽しむ人に奉仕するのも一つの役割ですがたまたまレジャー産業の中で働らく人たちは、そこに来て楽しんでいる人の中にまきこまれてしまうのですね。自分も同じ立場にある錯覚におちいってしまって派手なかっこうをしてみたり、そういう傾向が強いのです。やっぱり働らく自覚、自分の職場のもっている性格を自覚して心の中にしっかり固まっていれば、私はちっとも心配はないと思います。そういうことを

通して作り上げていくということは、仲間がまわりからお互いに話かけて、問題点を出してくれなければ自分ではつかめない。だからいつも素裸の話合いができ仲間のそういうつき合いが非常に大事である。しかもレジャー産業に出ていく女の人に理解をもつのは婦人方であるということですね。キャディになる人はかなり自覚をもたないと、そのお金をつまらないおもちゃなどを子どもに与えるだけになってしまいますね。

大塚　私の部落にはグループ活動のおかげかキャディに行く人がいないのです。少し離れた所では流行のようにみんなが行きますが、大勢の話合いの場をもっていることはいくらかでもよかったのではないかと思います。

酒井　私たちのほうでは人まねの日稼ぎのような所に行く人が多いのです。子どもたちがいつもいくらかのお金を持っているそうです。自分が働らきに行っていることを、お金を与えてごまかしてしまっているので買食いの問題もおきてきますし、学校でも困っているのです。人まねで働らきに出ている婦人をどう導びいていったらいいかという話がでましたが、話合いをやろうとしても出てきてくれないのです。主婦の場を大事にするような人でもなんとか理由をつけて出てこない。そういう婦人にどのように当っていくか、大きな問題だと思います。

渡辺（リーダー）　今までの、日本の社会教育が、ある場所に人を集める、という形でしか行なわれていたかった。土建の飯場などは、婦人に似合わしくない場所で問題が多いのですが、昼休なりにでかけていって、なぜ現場で働らくことの意義とか尊とさというものを話合っていかないか。そこに問題がある。また婦人会あたりが、昼休など慰問に出かけて、問題を話合って、いいかげんな気持で働らいている人の姿勢をいくらかでも正すことは、同性の大事な務めじゃないかと思います。

富山では、そういう日稼ぎから集団売春が出たという話を聞いていよいよここにまではいったなと暗い気持にさせられました。ともするとそういうところにおちがちですから、あやふやな気持では働らきに出ないように、周囲で守ってあげることを皆さん努力していただきたいと思います。

自分一人でいろいろのことを考えていると卑屈にもなりますし、変な気持になりがちですけれども、ほんとうに裸のまゝでぶつかっていけるなんにも遠慮のない友だちが女性には大切じゃないかと思います。私の場合そういう友だちが二、三人いますので幸いだと思います。

渡辺（リーダー）　友だちというのは、もっと広げればグループにもなるわけですしね。そこで、そういう非常にあやふやな気持で働いているおかあさん方が残していった子どもは不幸ですね。そういう子どもたちの問題をどう考えたらいいか。これからますます労働力は需要がふえていくと思います。女の人も働らく機会がふえるばかりだと思います。今は不景気でちょっと停滞しているようですけれども。これは時が遅いくらいなわけです。おかあさんが面倒をみられない子を誰がみるかということをみんなで考えていきたいと思うのですが、どういう方策をとればいいでしょうか。

中村　おかあさんが働らくということは好むと好まざるとにかかわらず、社会が経済的に発展すればするほどふえてくると思います。

自分の自覚はもちろんですけれども、社会全体で保育所とか、公的な施設を増やすことも必要ですし、職場では、学童と乳児が問題になっておりますがそういう施設、それから農村では農繁期託児所などがどんどんできてくればよろしいのですが、農村をまわってみますと、小さい子どもの事故が多いわけです。何よりも優先しなければいけないのに、生活のためにちょっとした不注意で事故に会ったというような事故が毎日、農繁期になるとありますけれども、うちの子どもだけよければという考えを捨てて、社会の子どもだ、自分の次の時代をたくす大切な人なのだと考えて、農村でも必ずしも忙がしい方たちだけでないと思いますから、そういう人たちに奉仕していただきたいと念願しております。

社会がよくないと自分の子だけを隔離してもよくならないと思いますが、そういう意味で働らきかけていきたいと思っております。

渡辺（リーダー）　日本では児童文化というと、子どもの絵本、おもちゃ、遊園地くらいは頭の中におきますが、児童文化は保育施設などが土台になってその上に初めて積み重ねられる問題だと思います。最も大事な土台になる、子どものための施設的なものが非常に足りないのです。これはみんなが文化を考える上で、一つ考えていたゞきたいと思います。それが一挙に実現しなかったら辛棒づよく長い時間をかけてでも、実現していくことが大事ではないかと考えます。そういう児童文化がすばらしく育っていくことがその国の文化のあり方をみる一つの材料ではないだろうかと、考えられます。子どもこそ私たちの次の社会をになっていってくれる大事な宝ですから、それが大事にされているか、粗末にされているかの違いで次の社会の進み具合がわかるような気がしないでもないですね。そのくらい大事なものです。

上島　お金さえあれば人間らしい文化生活ができるという狂った考えがあると思いますが、そういうムードはなかなか消えないと思います。

働らくには施設がほしいのですが、私のところでは会社側で保育所を設けております。ほかでも大勢の力で会社側に、保育施設を作らせていけば非行少年も少くなると思います。

渡辺（リーダー）　そういう施設が働らく婦人の文化として、大事なわけです。ところが婦人が急速に働らくようになったので働らく婦人の労働文化がなく、矛盾がおきている。この問題もそこからおきているのですね。

これは子どもを守る施設としての児童文化と同時に働らく婦人の労働文化として職場にも施設がなければならないということになりますね。企業にも要求するし、政治にも要求して働らきやすい環境作りを私たちは作り上げていく。これも皆さんに努力していただきたいことだと思います。

市川　公的施設の実現はいいことですが、全部が全部要求してできるものではないでしょうが、私がやって皆さんに喜こばれた例をご紹介したいと思います。

私、学校に勤めているので夏休は大体四十日くらいうちにいるわけです。で、部落全部というわけにいきませんが、私の子どもと同学年の子に家を開放して、学習をしたり休んだりして半日をうちの一間で過ごすことにしております。親御さんたちは全部出稼ぎに出ているので少しでも皆さんの役に立てばと思ってます。

酒井　私は小企業ですが、家屋の一部を改装して自動ミシンを八台

入れて年間六名、七名の工員が働いています。その子どもたちが学校から帰ったら私のうちに来るようにしています。家の一部屋を開放して宿題なり、遊んだりさせております。八十近くのおばあちゃんがいますので初めのうちはうるさいと言いましたが、おばあちゃんにいろいろお願いして、今では喜こんで面倒をみてくれております。そういうことで少しは生甲斐を感じております。

渡辺（リーダー）　皆さんは、自から進んで少しでも世の中に役立つ仕事と取っ組んでいく進み方をしていただきたいと思います。それで、子どもをどう守るか・今おかあさん方の大きな問題として出されたのですが、学校から離れた時の遊び方などは子どもたち自身がまとまってやっていますか。僕はおかあさん方が子どもを守ると同時に、社会が守る、さらに子ども自身がお互いに守り合うことをしつけていかなければならないと思いますがどうでしょうか。このごろは交通禍がひどいので道路を横断する時に子どもたちはお互いに気をつけていますね。これはおかあさんや先生が教えているのですが、放課後子どもたちが遊ぶ時に、子どもたちがお互いに守り合う指導はどんなふうにやられておりますか。

上島　PTAの集会で、校長先生が親から子どもに何かしなかったかと聞いてくれというのですが、子どもは友だちをみているのですね。うちのほうに一人、悪いことをした時、友だちに絶対に黙っていろと言った子がいたのです。言われた子どもは恐ろしいから黙っていたのですが、おかあさんに、お前どうしたと聞かれておそるおそるこういうことをしたが、言っちゃいけないといわれた、ということでした。

渡辺（リーダー）　悪いものは組織を作っているのですね。それをいい子の組織を作って子どもたちが自分を守る、その子どもの組織をおかあさんや先生が力ぞえして作る、これは残された子どもにとっては非常に大事な支えになるのじゃないかと思います。子どもも一人一人ばらばらにさせられている。話合いを、子どもの世界にももちこもうじゃありませんか。まじりけのない純真な気持で話合う場所を作って上げたら、子どもは本来がいい子なのですから、悪い所にいくのが少しでも防げるのじゃないかと思います。

それで、勤らく母親の労働文化、うちに残された子どもたちをどう守るかという今の話合いの中から、私たちの児童文化があまりにも貧弱で上っ面なものだという反省が出たと思います。私たちが社会と一しょに子どもを守るのは当然ですが、仲間作りができるような姿勢を小さい時からならわしていくということも、ほんとうに明るい児童文化を育てていく大事なことではないかと感じました。そこで問題を各個人の家庭の中に引きもどして、皆さんは大そう便利な電気製品をおうちの中にたくさん入れておられると思いますが、皆さんがそういうものを手に入れられた動機、またそれを使っていて、そこから何を感じているか、どんなことを学んでいるか、どんな使い方をしているかなどということを問題にしていきたいと思います。

中野　普通家庭の電化にはいろいろ順序がございますが、私は一人ものですから自分に一番必要な冷蔵庫を始めに買いました。電気釜から、扇風機という買い方をするのが普通ですが、自分の生活に合うようにしてやったら変り者だと笑うのです。そういうものの考え方ですが……。

渡辺（リーダー）　笑う人を笑ってやりたいのですね。

鈴木さん、あなたはテレビと水汲みの問題とをお話になっていましたね。あれは大きな矛盾を感ずるわけですが、どんなふうに世間の人はテレビを買ってどんなふうに使っているのですか。

鈴木　ぼろぼろのうちでもテレビのアンテナは必らず立っているのです。そして井戸端会議などでまずテレビの番組の話などをするのでテレビをみていないと文化にとりのこされたような感じがするわけです。それで生活を考えないで、万一番にテレビを入れてしまうのです。

農家の主婦の労働を考えると、それより先にやらなければならない問題がたくさんにあると思います。そして主婦の意見が案外軽視されていることが問題になっていると思います。

渡辺（リーダー）　ほんとうは電気洗濯機のほうがほしいけれども、ついテレビを買ったとか、子どもが非常にせがむと……。

大塚　私どもの地域では子どもにせがまれて、ほとんど全部のうちにはいったというのが現状です。農村では大体娯楽ものとか、コマーシャルなんかにふりまわされて、あれも買いたい、これも買いたいと飢餓感をあおられ電気釜やなんか入れていくようです。電気釜は便利ですけれども、自分のうちの山林の薪をとらないで電気釜でたいたり、矛盾が出てくるようです。

渡辺（リーダー）　これを作文にお書きになったのが市川さんですね。

二、三日前のある新聞に、山村の坂道を相当なお年寄の婦人がプロパンボンベをしよって上がっていく写真が出ていましたが、面白い反面、何か矛盾を感じましたね。

市川　数年前までは、山村のお台所は柱などすゝで黒光りしているのを誇りにしていたのですが、最近はほとんどのうちが電熱かガスに切替えて、お風呂まで石炭でたくようになりました。すると、出稼ぎの問題が出てくるわけです。とてもお金がかゝるので。私、つくづく考えているのですが、燃料などでも、簡素化し、労働力をへらしていく必要はあるのですが、山村には燃料があるのですからそういうものをとり入れて、機械に追いまわされずにやる必要があるのじゃないかと。御飯などは早く仕上げなければならないので電熱、プロパンでいいと思いますが、ちょっと物を洗うのにもプロパンか電熱で湯をわかすのです。そうしますと、薪、落葉などを灰にして肥料にしておりましたが、それがなくなって来たわけです。それで電熱もプロパンも利用するが山村の燃料をとり入れた暮らしを考えたいと思って現在も指導しております。それからお風呂なども、石炭と薪と兼用のものを築こうと考えております。

渡辺　私の家では一番最初に水道を入れました。家族みんなで何を先に入れたらいいか話をしました。最初はつるべで、それからポンプに替えました。あばあちゃんがお炊事をするので、ポンプもなかなか大へんです。家畜が多く飲ませる水だけでも大へんなのです。それで水道がほしいということになったのです。その支払いもやっと終って今度はテレビがほしいということになりました。その次は洗濯機と、順次に入れました。薪はたくさんありますから電気釜もありませんし、冬はストーブをたきます。

中村　買う時にほしいというものと二通りあると思いますが、農家の方はほしいものを先に買って必要なものを買うのが少いように

思います。ほんとうに暮らしに役にたつものを先に入れるといいのですが、コマーシャルとかちょっとした動機で簡単に買うので暮らし自体がよくならないことが多いと思います。主婦が自分の生活をよく考えて買ったら買い方が変ってきてよくなるのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　さっき大塚さんからもテレビのコマーシャルを見ているとあれもほしい、これもほしいという飢餓感におそわれるという話が出たのですが、この問題は、明日、私たちに大きな問題を与えているマス・コミ問題として取り上げていきたいと思いますので、たとえば電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気掃除器なり、を使っている非常に近代的な生活手段からどんなものを学びとりますか。

酒井　洗濯機を買いましたら、家族が六人いますので、月曜日は長男と次男の番、火曜日はおばあちゃんと長女、水曜日は私と主人です。月水金のうち自分の当番の日に朝洗面所にいく時に、みんな洗濯物をもっていって、当番が洗濯機動かしてくれるわけです。すゝぎは、私、手でやった方が早いので私が手でやりますけれども、操作にかゝるまでの時間を割当てております。

掃除器のほうは子どもに掃除するように申し訓練もできてきたように感じます。

渡辺（リーダー）　電気掃除器なんか、私たちのものの考え方にいいヒントを与えてくれる道具だと思いますが。何を学びとりましたか。掃除器を買う以前はまずはたきをばたばたかけますね。あれはお掃除になるのでしょうか。

私が、掃除器を、物の考え方にいいヒントを与えてくれるといったことはそこなんです。とても合理的でしょう。あゝいう現代的な生活様式を生活の中にとり入れるのは、生活を合理化しようというのが目的なんですね。すると、あゝいうものから自分の生活態度なり生活に対する考え方について反省させられることはないですか。

伊藤　形式にだけ流されないで本質的なものを学ぶことができると思います。それが家庭管理の根本だと思います。

渡辺（リーダー）　中村さん、農村をまわっておられて、そういう問題について何かお感じになったことはありませんか。

中村　大へん感じます。貧しい農村、豊かな農村をみましたが、それなりに買い方に不合理があるわけです。なぜそうなったかというと、自分の生活を考えたことがないのではないか。自分の生活の設計、目的、生活様式について考え方がはっきりしていれば、よりわけもできますし、自分の暮らし方に自信がつきますが、自信がないので人が買うものを自分も買わないとあせりを感ずる。そのために自分の暮らしはちっともよくなっていないのです。

渡辺（リーダー）　進歩した道具を使いながらちぐはぐな暮らし方をしているという例はどうでしょうか。

伊藤　農村でも月賦買がはやって月賦に追いつかなくなって出稼ぎで支払いをすることが多いのです。賃金の少しでも高い所を望んで危険な仕事につくのでけが多いのです。農家の場合、働らき手がいないと収穫がおちるのがわかってきて、若い人をうちにおいて五十代、六十代の人が行くようになってきています。

酒井　家庭の電気製品を買ったために大へん生活は合理化されていると思います。しかし農家の痛は、農業用の機械類が次から次に

新しいものが出てきますので、それを買うために苦しんでいます。そういうことで出稼ぎが行なわれているのではないでしょうか。

渡辺（リーダー）　それは農家の器具に限らず、電気製品でもそうですね。

立野　私の周囲は共同部落といつて、部落百軒ばかりで毎日交替にお風呂をわかすことになつていますが、県大会に他の土地の方が自分のうちにタイルのお風呂を作つたが、それはお客さん用で、自分らは昔ながらの五右衛門風呂にはいつて、タイルのお風呂を大事にとつてあるという話をされましたが、時代の流れの中でいろいろなものをとり入れながら、それを利用していないのが農村の現状ではないかと思います。自分が利用するためのではなくて、人に見せるために買つているものもあるのじやないか。全部そうじやないですけれども。私の村は割合に農業構造改善が進んでいて、みかんなんか作つて年間何百万円の収入という所がざらにあるのです。そんな所には大きな四輪車のトラックがはいつていて、その他にハイヤーのような乗用車がはいつています。実際使うのは四輪車ですけれども自動車も買つておかんと工合が悪いという所もあるという話を聞きますが、そんな点でも必要なものを充分利用するために買うという考え方でないと、農村婦人はいけないだろうと思います。

大塚　私どもの地域は座敷ぼうきの産地なので、ほうきの草を生産して、家庭内で製品にしまして、冬になると行商に出る。これが出稼ぎで、女たちもほうきを作つたりしております。何か一言言つておかないと、座敷ぼうきもいいとなぜ言わないとおこられるといけませんから。

渡辺（リーダー）　まだまだほうきを使つている所も多いのですからね。

渡辺　御心配ありません。まだまだ、はたきをかけてほうきを使つておりますから。

大塚　安心しました。（笑い）

立野　私、電気釜を買つて二日しか使いませんでした。お米一升たくのに時間がかゝるので。そのあとがス釜を買いまして電気釜はほこりにまみれております。そのあと掃除機を買いましたが面倒くさいのです。子どもが使うばかりで私はあまり使いません。

酒井　必要だつたら、子どもに教えたりして新しい文化はそしやくしていきたいと思います。

立野　自分自身がなれないものだから……。

酒井　とくに農村の女性は機械に弱いのじやないでしようか。夫が働らきに出かけているのですから、機械の管理くらいしなければいけないと思います。管理ができないから機械が痛む率が多いと思います。

立野　そのようなお考えの方は日本女性の何分の一かで、ひびだらけの手の農村女性に機械の知識を広めるといつても時間もないし、頭のほうがついていかないのですね。

酒井　福岡ではお客さん用のお風呂などというものが残つているのですね。富山のほうは住宅改善で、農家は寝室を中心とした構造でなければならないと寝室を改善する資金を貸しております。農家自身も家族制度の悪い因習をなくしていくように県ですゝめております。

立野　話しておりますのは福岡県全体でなくて、特定の一部のこと

なので、県という名前を出されると申しわけないのですが。

渡辺（リーダー）　そのへんで……。

渡辺　女が機械に弱いというお話でしたけれども、私のほうではトラクターを運転したり、発動機をまわしたり、なかなか発展していますね。たまに主人がいなくても発動機をまわして馬の草を切ることもありますし、土地が広いだけに夫だけ頼りにしていたら動きがとれないものですから自分でもやっております。

渡辺（リーダー）　機械はごまかしがきかないものでしょう。があるところはきちんと直さないと動かないですね。これを私たちはやっぱり機械から学ばなければいけないと思います。私たちの身らしの考え方、物についての考え方に、なにかあいまいな、このへんでいいやといってごまかして、いつも未解決なものをどこかに残しているが、機械を扱っているとそういうごまかしがきかないのですね。こういうものを私たちは機械をいじることからいつのまにか身につけるはずだと思います。渡辺さんなんかその一人じゃないか。出稼ぎにいくなら自分の問題を割切っていらつしゃる。機械はそういうように、物を合理的に考えることを教えてくれる、機械をとり入れることは不合理なものを合理的に処理していこうとしているわけですが、そうじゃなくてみんなが買っているから買わなくちゃならないという買い方をしている。これではほんとうにその道具を使いきれるものじゃないですね。

それから、みんなが買っているからという問題が出たわけですが、これは自分も買わなければ人前に恥ずかしくて出られないとか、うちの体面が保てないとか。

上平　そうですね。最近はたゞ家を立派にするのですね。お客様用の別座敷をあの家が建てたからうちも建てるというように、建築ブームで、それを子どもたちの勉強部屋にあてるとかすればいいのですが、お客様用にとっておくふうがあるのです。かまどでもタイル張りで造っているけれども、お客様がきた時に綺麗であるように、別に小さなかまどを造って普断使うようにしていますね。

渡辺（リーダー）　そうすると、いろいろな新しい文化的な生活手段を買い入れる時に三つの買い方が出ましたね。中村さんからは必要なものを買わないで欲望が先に出たものを買っていくというお話。それからみんなが買っているから自分のうちも買わないと恥ずかしいという買い方。もう一つは自分の生活を合理化していく上に便利で必要なものだからという考え方。

中野　目分がそれを持っているのが何か非常に嬉しいという考え方があるのじゃないかと思います。いなかに行くと、パーマネントをかけてくしやくしやにしている人があるのですが、「パーマをかけて嬉しい？」と聞くと「嬉しい」というのですね。かけていない時のほうが余程いいのですが。持っていることで自己満足している、そういう気持がまだまだ残っているのじやなかろうか。

渡辺（リーダー）　それで、電気洗濯機は皆さんお持ちでしようが御自身でなくても、皆さんの村で、水道のない所ではどういうようにして使っていますか。

清水　うちのほうは、機村になりますと、山から水を引いて、それでやっております。

渡辺（リーダー）　これは天然の水道ですね。井戸の所では電気ポンプで汲み上げておりますね。

清水　それもできております。

渡辺（リーダー）　天然の水道もないし、電気ポンプも買えない所で電気洗濯機買い入れたら井戸の水を汲み上げてやっているのかしら。

清水　私の所は山水でやっておりますが井戸水を汲んで洗濯機を使っている所は多いと思います。

渡辺（リーダー）　洗濯機を使って、水はうまく排水溝に流れるようになっていますか。

清水　大体どこの農村の家庭でも、排水のできるようにしてあります。

渡辺（リーダー）　私よく農村を歩いて、排水の不充分な吸込溜を掘っている所をみますが、電気洗濯機なんか、非常に便利なものを使いながら、そのあとの始末が不合理なのですね。そういうことを考えると、自分の暮らしを自分だけで考えて合理化しても、自分だけで始末のつかない、外側の、公といいますか、社会的なところで、合理的な生活がしていけない不合理があるわけですね。そんなものをお感じになりませんか。

立野　私の周囲にはありません。電気洗濯機をそんな所では買わないし、動力ポンプにしてから洗濯機を入れるというようにしているようです。排水溝もないし、水を捨てる所もないのに洗濯機を買うとかそういうことはみかけないようです。

渡辺（リーダー）　よくなっていますか。

立野　テレビも、子どもにせがまれる、おじいちゃんが食休みにみられるからお隣にあるから、ということでは入れていないようです。

上島　農村では排水は別に問題はないじゃないでしょうか。まわりに畠があるからそこにもっていくのですね。深い穴を掘ってそこに流すようにしていますから。

渡辺（リーダー）　ところが私がよくぶつかるのは、排水がうまくいかないで、夏は蚊に悩まされて、蚊のいない村やはいのいない村にしましようという所が多いのですね。個人の生活を合理化しようとしても公の場がまだまだ不合理性が多くて自分の生活を守りきれないという生活環境がまだまだ多いのじやないか。そういう所で私は、個人の生活の合理化と、公の生活の合理化の問題のぶつかり合う交差点をはつきりと握つてみて、公の生活環境の合理化も考えていかなければならないのじやないかと、実はそこを引き出したかつたのですけれども、皆さん排水は立派だとおつしやる、皆さんの所は、はいも蚊もいない立派な環境らしいから：：。

酒井　排水の問題よりも用水ですね。用水に汚物とか石油が流れたりして悩まされておりますけれども農家自身排水にはあまり関係ないと思います。

渡辺（リーダー）　東京の多摩川は洗剤の泡で水道が今に使えなくなるような状態になつているので、皆さんの農村でも洗濯機が普及して泡だらけの水が流れこんだら田んぼが枯れてしまうことになりかねないですね。公害問題ですね。

そこで私はこういうことを排水の問題で引き出そうとしたのですが、皆さんの所はうまくいつているというので、別の問題で考えていきたいのです。私たちが目分の生活を合理化しようとしても、外側に不合理性があつてやれないというのは、働らくおかあさんがうちに残していく子どもの問題にも出てきますね。子ども

を預かつてくれる施設がない。私たちが自分の生活をみつめていけばいくほど、そういう壁にぶつかるはずです。私は、個人の生活以上に社会生活のほうにたくさんの矛盾、不合理性が多いと思います。それを発見するのは私たちが日常新しい生活手段、生活様式をとり入れて合理化することから、そういう目が開かれていくはずだ、また開かれなければいけないと思います。個人の、家庭の生活様式が近代化されても、社会全体の生活様式が不合理で近代化されていないならば、自分たちがほんとうに望んでいる近代的な便利な合理性のある生活様式もなりたゝないということも考えていたゞきたい。そういうところにほんとうは文化の問題があると思います。個人の生活様式を支える社会の生活様式になつて初めて個人と社会と一体になつた生活文化があるのじやないかと、私は考えたいのです。問題は、そのような近代的な生活様式を私たちの家庭生活の中に作り上げて、そこから幸せな暮らしを築いていきたいというのが、皆さんのほんとうの願いだろうと思うのですが、私たちは幸せな暮らしというものを定着させていくためには、やはり社会が常に安定していて、それによつて私たちの生活も安定していく。しよつちゆう追かけまわされているような状態でない、もう少しゆとりのある落着いた状態でなければならないと思うのです。それで私たちはあくせくとお金ほしさの一事に追いかけまわされないで、自分の生活と自分の生活をとりまく社会の生活環境をみくらべながら、私たちの生活様式を新しくしていくことが大事ではないか。そのにらみ合いがうまくいつていないと、先ほどから出ている、生活のアンバランスがおこると思います。こういう問題をもう少し広げていきますと、世の中の安定が得られるには、やつぱり私たちの生活が平和な社会の中で営なまれていくということが大事なわけですね。

第二部会

第二日目

四月十四日

一〇〇、〇〇～一七、〇〇

渡辺（リーダー）　昨日のおしまいのほうは各個人の家庭生活の中で新しい生活手段がとり入れられて生活様式がかなり変ってきた。しかしその中で、まだ物の考え方が非合理的なものを残しているという問題を探りあてていったわけですが、電化製品のような、きわめてきわだった生活の変り方を与えるのと同じくらいに私たちの生活に大きな影響を与えているのがマス・コミ文化だろうと思うのです。私たちの生活の上でどのようにその影響を受けとめているか、マス・コミ文化から私たちの現実的な生活がどのように変えられているか。そんなことをきょうは追及してみたいと思っています。

電気釜や電気洗濯機、冷蔵庫はお台所の生活を大きく変えたわけですが、その電化製品の一つであるテレビもまた私たちのものの考え方なり暮らし方なりに大きな影響を与えている。そこに私たちはまた新しい文化を得るわけですが、その影響の受けとめのいかんによって私たちの生活の中の文化をどのようにこれから築いていくかというところに問題点があるわけです。

新聞、雑誌、ラジオ、みんなマス・コミですが、そういういろいろな媒体の中でもやっぱりテレビがいちばん影響が大きいと思うのですが、一つ問題をテレビにおいて、それからまた週刊誌の問題なども出てくるでしょう。そういった広いマス・コミ全般にだんだん話を進めることにしてテレビから話合って下さい。

日下　うちでは高校を出た子と高校二年生、中学二年生ですが、初めいろいろ話合った末買ったのですが、私は全然放っておいたので、初めの間はいろいろ見ていましたが、半年一年たつうちに子どもたちのえらぶのは外国の映画に重点がおかれるようになりま

したが、私たちが教えることのできないヒューマニズムをテレビから受けとっているように思うのです。「名犬ラッシー」などは動物愛護、それから人間愛の影響を受けて、生きものや草や木をとても可愛がるのです。私は合理主義で現実主義でがめついといわれるのですが、子どもはテレビの影響で私にないものをもってくれたことはありがたいと思います。

渡辺（リーダー）　それはテレビの娯楽番組の中でもいい影響を受けている例ですが、娯楽番組についてどんな影響を受けているか、そこからはいっていきますか。

テレビというと結局娯楽なんですね。ニュースとか、ニュースに附随する解説とか、をより多く受けとるよりも娯楽、楽しみ、でテレビを見ているほうが多いわけですね。

日下　NHKの婦人教室を見るように当局からおすゝめもありましたが、農業をやっておりますと昼間見る時間がございません。夜は子どもが勉強の疲れを休めるのに見る、老人も夜のテレビを楽しみにしているので、私たちは全然教養番組にふれる余裕はございません。教養を求めようと思ったら本を読むよりないと思います。

渡辺（リーダー）　農村一般としてどうですか。どういう時間に見るのが多いですか。

一同　夜ですね。

上島　夜ですが、農繁期などにはかえって疲れるもとになるのですね。

テレビのないほうがずっと仕事ができるしいらないと思いますけれども、やっぱり子どもが見たがるのでやっていますが、疲れている時はだめですね。

酒井　テレビはちょっとうるさいと思うこともありますが、年寄の何よりの楽しみをとり上げたくないもので思うゝに見せております。子どもたちは取捨選択しております。

立野　私は娯楽番組から悪い影響を受ける面が多いような感じがするのです。男の子が釘の先に何かをつけてぱっとやるようなまねをするとか、小さい子どもなど、ピストルや刀を買ってくれといいますし、遊んでいるのをみると「エイヤッー」といったようなエイトマンだとか、自分を英雄視するような遊びで、喜こんで見ているからといって放っておいてはいけない。親も一しょに見て指導すればいいですが、農家では親と一しょに娯楽番組を見る機会がない。うちの子は中学三年と高校三年で、朝新聞が来たらとれを見るか丸をつけさせて、御飯のあとでみんな一しょに見るようにしていますけれども、大きい子どもになりますと、やはりメロドラマのようなものを好んで、妙なシーンがあったりすると、女の子ですから、はらはらすることがあります。年寄だからおかあさんは理解がない、あんなことは簡単に誰でもしているのだといいますけれども、テレビの娯楽番組を子ども自身えらばせるのは、小さい子でも大きい子でも問題があるのじゃないかと心配している一人です。

渡辺　私はドラマを見たいほうですが高校生の娘たちは歌などに興味をもちます。去年でしたか「河のほとりで」という番組がありましたが、若い人たちの交際の仕方、おかあさんのあり方など、ほんとうにいいなと思って娘と共に見まして、あんたたち、ボーイフレンドができたらこんな交際できる。？と話合ってみたり、研究する材料としていいと思ってみています。

渡辺（リーダー）　そういう意味でたしかにテレビは太平洋戦争の

前から生きてきた人と戦後の教育を受けて育った若い人とのものの考え方、生活構造の違いをよく見せてくれるだろうと思うので、そのへんをもう少し掘り下げて見て下さい。

伊藤　妹のところに五つになる男の子と一年とちょっとの女の子がいるのですが、口のまわらないうちからテレビに関心をもって、字が読めないのに何日は何の番組があるということがわかっているのですね。コマーシャルソングはなんでも歌えるし、何か私たちと違う人間に育つのでないかしらという感じがするのです。

うちにも六年生の坊主がいるのですが、娯楽番組はもちろん好きですし、筋だけを追って考える力とか批判力というのがなくなる傾向があるのじゃないでしょうか。

酒井　私たちの過去を考えてみましても、娘時代には、手当り次第随分濫読したものですが、それによって友だちと話合の場がもてたと思います。今の子からテレビを取り上げると子どもの共通の話合がなくなると思います。いろいろのものを見せて、自然に選択する力を子ども自身つけていくのじゃないかと思います。高校生にもなると七時のニュースが終れば自分の部屋に引き上げていかざるをえないようになるのです。だから小さい時に自由にテレビを見せてもいいのじゃないかと思います。

上島　うちはテレビを見ていけないといっても泣いてでも見たいですね。仕方がないから見せているんですけれども、「スーパー、ジェッター」なんか見ていると夢を描くらしいので、小さい子にはある程度見せてもいいのじゃないでしょうか。だんだん選択していい番組もわかってくると思いますが。

鈴木　考える力がなくなるということに同感です。何かテレビを見ていると簡単にものがわかってしまう。本をじっくり読むということが何かうすれてきているのでそういうことになるのじゃないかと思います。

立野　本を読むのとテレビを見るのとは違うと思います。本を読むとどんな本でも頭の中で考えながら読んでいるはずです。テレビは見るだけですから、必らずテレビを見たあとは子どもと一しょになって考える時間、話合う時間が大事だと思います。見っ放し考えものだと思います。

井上　農家の現状では三つ四つから一年生くらいまでの年令だったら、家の中でテレビさえ見ていたら安心だ、外の仕事ができていいという程度で一しょに見る時間がないのですね。

中野　テレビにはいい面と悪い面があると思います。テレビが普及したのでいなかと都会の差がなくなったのですね。服装も食べる物も、都会の生活もわかりますし、うちの主人はとても封建的ですが、テレビを一しょに見ていると自然にわかってもらえます。民主主義というか、家族が団らんするということがおこってきました。

悪い面については、農繁期など、忙がしい忙がしいと皆さんおっしゃるので私、実体調査をしてみたのですが、働らくのは機械化されていますが、婦人の家事労働は、昔とそんなに変らないのです。でもそんな忙がしい時でもテレビを見る時間があるのです。そのテレビを見る時間は睡眠にくいこんでいるのです。睡眠にくいこむことは考えたらどうですかというのですが、今まではそういう娯楽がなかったが、今ではそれが最大の楽しみだというのです。

過渡期ですから、ある程度知るためには必要だと思いますけれども、今後はそういう中から知ったものを自分のものとしていく

選択していかなければいけないと思います。昼間の教養番組が夜見られないのは皆さんと同じです。娯楽オンリーです。そういうところは、もう少し考えていかなければならないと思います。

民主主義を知ったといって、一部屋応接間のようにしてみたりしますが、その隣に昔の部屋があるというとり入れ方で、それと同じことで、テレビは自分の考える力をなくして結果だけを出しているが、本は自分の考え方を出してくれる。

清水　婦人会の婦人学級で、子どもの作文を聞いてそれによって勉強しょうということになって、テレビについて作文を書かされたわけですが、その中で一人の子が、一家揃ってテレビを見る時間がない、大てい食事をする時に一しょにテレビを見るがそうすると食事の時間が長くかゝり、おかあちゃんが後片附がおそくなって時間がなくなるので食事の時間はテレビを見ずに、少しでもおかあちゃんに自由の時間を与えてあげるのがいいといっておりましたし、又もう一つは、テレビによって母親なり父親なりと話す時間がないということを書いておりました。

中村　子どもはあまりやかましくいわなくても、選択できるようになるというお話ですが、今の番組をみていますと、無条件に見せていいかどうか疑問をもっわけです。私たちは話合う時間がないので、一しょに見ていても人間同志のつながりがなくなっていると思うのです。その中で子どもの道徳観、価値観が育っていくのじゃないかと思いますけれども、愚劣だと思われるのが多く、クイズなどで、何万円もの賞金をもらうということは、正しく働らくのがばからしいという感じを受けるのじゃないかと心配なのです。私たちは大人になってからテレビに接したわけですから、テレビの中で育っていく子と、私たちのみるテレビ観は違うという気がいたします。

渡辺（リーダー）　どうですか、今のクイズの問題。

渡辺　うちの子もそういいます。私たちの生活があまりにも苦しいのに、何分間かのうちに何万円ももらえるのなら、山の中にいてそういう機会もないし、都会に住んでいるといいなとあこがれの的になるのです。私たちは朝早くから夜まで働らいても働らいただけの報酬も得られない。農家で一生働らくのはばからしいと、生活の貧しいためもあって都会へ流れていくのではないかと心配になってきます。

立野　ほんとうにそんな点心配ですね。小学校六年生の生徒に、先生が、何になりたいかと書かせたら、歌手、それから野球の選手ということです。先生が、なぜなりたいかと突っこんだら、おかあさんに早く孝行したいといったそうです。そんなところにやはりテレビの影響があって、農村の青年、こんなに働らいていてばからしいからと一かく千金の夢をみて都会に出ていくのですね。

渡辺（リーダー）　子どもたちに与える影響について話合ったのですが、自分たち、大人にはどうですか。

大塚　私のところは末の子が大学にはいったので夫婦二人きりになるのですが、今までもそうでしたけれども、NHKの七時半からの教養番組、「生活の智恵」とか、あれをみるのが私ども夫婦の楽しみなのです。いろいろのことを覚えますし、また心の安らぎになります。

渡辺（リーダー）　皆さん自身がテレビからどんな影響を受けていますか。

日下　昼間は農業をして、夜は後片附をしたり、勉強の監督をしたりしたらほとんどドラマなんか見るひまはございませんが、いい

音楽などのある日だけ見せてもらうのですが、どんな苦労があっても、あゝよかったと思うくらいです。それから、昔都会で華やかなムードの中で生活しておりましたから、いなかに来て淋しいなど思っていた時にテレビを買って、一番嬉しかったのは私です。そういうムードが味わえたら、いなかでも辛棒できる。これをもっと住みいいように利用しなければいけないと思って、感謝しています。

酒井　私は農村にいても月給取ですから、昼間は教養番組を見られるわけですが、「婦人の時間」なんか見ていますと、有名な先生のお話を聞けるでしょう。だからためになっています。

市川　私も昼間いないので夜見るのですけれども、娯楽ものまで手がまわらないので、高校生の与と一しょに、高校生ものを一つ決めて見ます。何をしていても、子どもに呼ばれるとそれだけは見ることにしています。それからもう一つ優先的にもらっているのは九時のニュースと解説、その二つだけはかゝさず見ています。

渡辺（リーダー）　もう一つお聞きしたいのは、娯楽番組をごらんになってそこにうつし出される人間像と、皆さん自身との間に距離がありますか、ありませんか。いろいろな人間像が出てくるわけですが。

市川　私は教えられる点が多いのですが、一がいにテレビのえがく姿を全部信頼することも出来ないと思います。

渡辺　いくらか距離はありますね。びったりでないですね）

市川　都会の考え方、いなかの考え方、そういう点でも距離があります。だからそこもだんだんせばめるようにと努力しております。

渡辺（リーダー）　中野さんのお話ではだんだん近づいて来てはいるのですね。

もう一つ、民放を見ていらっしゃる方、コマーシャルをどう思いますか。

大塚　民放はあんまりコマーシャルがあるのでNHKを見ています。

市川　コマーシャルの時は他にまわして見ますね。

酒井　コマーシャルで、消費者は王様であるとかいいますが、王様は裸にされやすいのですね。

中村　コマーシャルで一番切実に思うのは、私の子はとてもチョコレートが好きなのですが、コマーシャルで食べるところが出てくると食べたがるのです。日曜日の某会社の時はそのおかしを買っておいて食べさせるのです。大人だったらおいしそうにビールをのむのをみたらのみたいだろうなと思いますしね。あんまり食べるところまで出るのはどうかと思います。

酒井　上手にコマーシャルやりますね。

中野　そうして子どもがなんとかの何々、あれ買ってちょうだいというのです。よく覚えていますね。

渡辺　コーヒーなんかでも、子どもがあんなの買ってのんでみたいなというとつい買ってしまって。

渡辺（リーダー）　コマーシャルの話が出たのですが、新聞にずい分大きな広告が出ますが、これはどうですか。

大塚　ほとんど見ません。

上島　新聞の広告は買物などに役に立つと思います。見出しなどをとっておいて調べておくと、買物上手になるので大へんいいと思います。

大塚　記事の下にあるのはいいですが、一面使ってある広告は農村におりますと大して関係ないのです。薬の名前を覚えるとか、自

動車はこういうのがあるとか、大ざっぱにしか見ないから必要ありません。

上島　私などはよく見て行きます。買物をする時は。

酒井　新聞半ページとか一面に使ってあるのを見るとちょっと抵抗を感じます。こんな誇大に広告をしなくともと、しかし週刊誌の紹介などは、週刊誌は買いませんので、今の週刊誌はこういうことを書いてあるのかとわかるわけです。

渡辺　ほんとうに必要とするものを買う場合にいいかげんな名前をつけられてごまかされてしまうのじゃないかと迷ってしまいます。

渡辺（リーダー）　新聞に大きいスペースで広告のできる商品は信用がおけるとか、そういう感じはおもちになりますか。

井上　それはありますね。

中野　それはありますね。しょっちゅう見ていると。

立野　建物や製造工程の写真が出ていると、これだったらあぶなくないじゃないかという感じはします。

酒井　大きく広告してあるから絶対的にいいということじゃないでしょうが。

中村　けれどもなんとなく信頼をおけるようなかんじを私たちがもつようになっているのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　つまり一ページ何千万の広告費を出せる会社だから信用がおけるという考え方と、この商品にこんな広告費がかかっているのだから定価にそういうものまでしょわされて買っているからばかばかしいという両方の気持がはいっているのですね。どっちに余計ひかれますか。

市川　あとのほうです。

渡辺　あれほど大きな広告を出すほど薬が大事なのか、この会議についてはちょっと出ましたが、コマーシャルにおどらされている人間で、婦人会議を知らない大勢の人間がいるのに大してそれを扱っていない。薬のようなものが大きくとり上げられているということは情ない気がします。

中野　宣伝におどされてものすごく困っていることがあるのです。たとえば、医療費を調査したのですが、いろいろな薬が出ているとそれを買いこむのが大へんなのです。いなかは医者を呼びにくいから予防するのだというけれども、それだけのお金を食事にまわしたらと思います。牛乳一本十六円で買えますから二十円の薬をのむより有効だと説明するとわかるのですが、食事をへらしてもそういうものを常においておかないと不安だということで。

渡辺（リーダー）　栄養剤ですか。

中野　そうなのです。風邪引きとか腸の薬でなくて、新聞、テレビなどに出たものを常に買いこんでおくという。

　そこまではいっているということなんです。

日下　私は今年文部省の婦人学級を手伝せていただいたのですが、衛生方面や食事の改善や衣食住に関して、権威ある先生方をよんで、そういう点を啓もうしていただいて皆さんわかるようになりました。婦人学級や市民学級やらそういう社会教育をうんと利用して新しい知識の吸収につとめるようにみんながもっていったらいいのじゃないでしょうか。

酒井　私も同感です。農家でも自分の食事をおろそかにしてビタミン類をのむことが文化的な生活だと思っている人がずい分いるわけです。食事は実に簡単で粗食ですね。そういう点どのように御指導なさっていらっしゃいますか。

中野　比較対象をもっていくとよくわかるのです。どんな病気にな

りますかと聞くと、こんな病気になりますというので、それはこれが足らないのですよ、というと納得できるのですが、初めからこういうものが揃っていないと病気になりますよということではびんとこないのですね。宣伝とかそういうことにさきにいってしまって。

渡辺（リーダー）　愛媛は十年来、食生活改善一本でやってきているでしょう。

中野　そういう点ではよそより進んでいると思いますが、あるところにはあるわけなんですね。

酒井　頼りすぎですね。

渡辺（リーダー）　日本人の悪いくせなんですね。何かというと注射をする、薬をのむ。これを一つの文化生活だと思っているところに問題があるのですね。

大塚　私どもの農村では、病気になれば買いますけれども、普断買いこむだけの余裕はないようです。今でも富山の薬があって、お金を富山の薬やさんに払っている次第です。

渡辺（リーダー）　中野さんの所は食生活改善をやりすぎたのでビタミンA・B・Cばかり思っちゃって。

中野　それはたしかにあります。どこを主にするかということを考えないで、それが必要だということがわかっているためにやるということもございます。

渡辺（リーダー）　それからもう一つ聞きたいことがあります。もう一回テレビにもどりますが、皆さんのおうちに、大きな意味でどんな考え方で、テレビとどういう向かい合い方をしていますか。

中村　ごろっと横になってスポーツ番組とか、NHKの大河記などを見て、むずかしいものなど見ていないようです。

渡辺（リーダー）　日曜日、且那さんのテレビを見る態度をばくろして下さい。

大塚　私のうちは天気予報が好きで、あとニュースをよく見ます。

伊藤　スポーツ、オンリーです。

日下　兼業農家ですが、日曜日こそ家内中総動員して、私一人でできないところを助けてもらうのです。朝みんなをゆっくり寝かせてやろうと思って、朝のうち家事をして、起きたらみんなで野良へ行きます。子どもたちはトランジスターラジオを持って行って一しょに聞いて話合をします。お昼の娯楽番組だけテレビを見る。夜は食事のあとは、主人は主にニュースを見ますし、子どもは勉強部屋に引き上げ、おばあさんはテレビにかじりつきます。雨の日は私は縫物やお掃除をしたりしたらテレビとそう親しむ時間はございません。

立野　農家で雨の降る日が日曜日です。主人はお勤めに出ておりますので夕方遅く帰ってきて、ニュースと解説だけは欠かさず見ますが、娯楽番組は私と子どもにまかせて、文句をいいませんが、疲れているからテレビの時間がすんだら早くやすませてくれということです。

渡辺（リーダー）　日曜といったのは、今ははとんど兼業農家で、且那さんがお勤めが多いのでお聞きしたわけです。

テレビとかコマーシャルとか、そういう問題で話合った中から問題点を拾ってみると、子どもたちがみんな一様の人間になりはしないかということ。それから、農村と都会の人との暮らし方の間に遠い距離があるが、それがだんだんと縮まりつゝある。それからテレビを見ていると本を読むのと違って抵抗がないのでだんだん考えることを怠たりがちになっていくという問題が出たので

すね。それから、主として皆さんは娯楽番組を夜見ることが多い。しかもコマーシャルに悩まされる。それでついコマーシャルのところは切ってしまうことが多い、ということは、コマーシャルがひどく私たちをおしつけてくるのでいやになるのだが、それほど強い力をもっているということですね。なぜ一様の人間ができはしないかということが御心配ですか。

伊藤　やっぱりその影響を受けて、判断力などがあまり養なわれないのじゃないかという心配があるのですね。

渡辺（リーダー）　これは非常に大事な問題ですね。テレビを出している人がどういう考えで作っているか、そこに問題の根本があるわけですね。民放についてこの問題は考えられると思います。皆さんが抵抗を感ずるようなものを流したらチャンネルを切ってしまう、つまり抵抗というのは、こちらがいくらかでもまともに向かっていることですから、横目でもすいすいとはいってくれるものでないとみんなが見てくれない。そういうものを作る時において焦点に大きい問題がある。つまり、無抵抗に受け入れてもらうために日本人の平均を考えているわけです。レベルの高い人を対象にしたら低い人は受けとめてくれない。それで製作者たちの考えるのは平均人なんです。ここに私は、大へんな問題があると思います。どのテレビ放送局もそれを頭において、いろいろな番組の絵を作るのですから、私たちはいつの間にか平均人になってしまう、ここが恐ろしいところなんです。物の考え方も一様に、一つの型にはまっていく。個性が失なわれていく。しかも娯楽番組は消費娯楽なんです。そこに大きい問題がありませんか。昨日から話してきた電化製品の話にしても、みんな私たちの消費生活が主体でしたが、きょうは娯楽の問題にはいってさえ消費が主で、自から作り出す娯楽について、まだ話合が出ていませんが、大へん残念なことだと思います。だから今度はそのほうに話題をもっていきたいと思うのです。

なぜ私がそういうことを言い出すかといいますと、結局、大企業が商品を大量に生産しているでしょう、そしてそれを大量に消費してもらわなければならない。そのためにはコマーシャルをしてあふりたてなければならない。私たちはそういう消費文化の中であっぷあっぷしているわけです。しかもその仕組は都会では、今の機械主義時代ですから、工場にいる人は機械に使われているような状態で働らいている。人間としての自分を自覚するどころか、自分を遠い所に疎外してしまって、うちに帰れば横になってテレビの娯楽番組でわずかに感覚的に自分の存在を確めてやっとほっとしているという状態です。農村で農業をして物を作っている人はそういう意味でいつも人間自身で人間をはっきりつかまえているように、皆さんもお感じ、世間もそう思っているのですが、昨日からの話を聞いていますと、義理とか体面とか、人前が恥ずかしいとか、農村の狭い世界がみんなをその中に埋没させてしまっている状態なのですね。それじゃあ、いくら自から生産をしている農村の人たちにしても、完全に都会の人以上に人間をはっきりと生かしているとはいえないと思います。なんとかして、人間性をもっといきいきと発展させる、文化をもちたい。今のように、たゞ消費文化だけに溺れていたのではますます人間を失なうばかりで、しかもテレビのようなマス・コミが商業主義で、平均人のようなものを一つの目標にして作り出している人間像をいつも見せられていたのでは、それ以下には下がることはできても、それ以上に上がることはできない。ここに大きな問題があると思

います。そういうことを皆さんの生活の中から話合で出していただきたいと思います。娯楽は消費娯楽だけでいいか、みなさん作り出す楽しみをどんな時におもちですか。

作文の中で、井上さんが家庭工作という作文を書いていらっしゃるのですが。

井上　この会に出席して痛切に感じたのですが、私の部落は封建的で、みんなの話が上のほうで飛行機が飛んでいるみたいで劣等感を感じて恥ずかしいと思うのです。

渡辺（リーダー）　井上さんの作文には自から作り出すという特に大事なものがあると感じています。作ることの中で自分というものをはっきりつかまえられると思います。

井上　テレビでも、嫁が見るなんて許されていないんです。玄関に飾って、しゅうとや主人が見るだけで、テレビの利用なんかできないのです。

上平　ものを作り出すというお話が出ておりますが、先ほど農家で栄養剤を購入せられるという話がありましたが、それよりも農家では新鮮なものを家族に食べさせることが大切だと思います。

できるだけあらゆる果樹を作ってみようと思って、当時は米麦が主だったのですが、梨を作ろうといいましたらぜいたくだといわれましたが、今は私が農業の責任者ですから、ははの許しも得て、密柑、ぶどうなど果樹を植えるようにいたしました。

野菜栽培計画を作って、できるだけ有色野菜、洋菜などもとり入れて家族たちの健康を保持していきたいと思って力を入れております。

渡辺（リーダー）　今、消費娯楽の問題ですから、そういう意味で話合って下さい。

中野　昨日の話とも関連があるかと思いますが、子どもに思い出を作るということは、その子のために精神的にいいじゃないかと思います。ひな祭は廃止するとか、鯉のぼりはどうとかいいますが、消費面でとり上げてばく大なお金を使ってするのがいけないので、おかあさんたちで思い出を作ってやるということは必要ですから、今までであるもので、思い出になるものはのこしていったらどうかと話合いをしたことがあるのです。

渡辺　私自身もいまだに母からいろりのそばに集まってカチカチ山のお話を聞いたことが忘れられないのです。私が今その話を子どもにしてやろうとしてもおとぎ話を聞くような子どもになっていないわけです。なんとか子どもに、おかあさんの暖かい愛情をのこしておきたいと、七夕などは柳に色紙をつけて、子どもの名前を書いてぶら下げたりいたしましたが、今は大きくなって「かあさん、あんなことをしたけれどもばかくさいからやめよう」といいますが小さいことでも思い出に残るようなことはいい思います。

渡辺（リーダー）　話は別な、伝統の文化のほうにはいりましたが、そっちに移りましょう。

ひな祭と七夕という伝統文化が出てきたわけですが、これは中野さんがおっしゃつたように消費面で問題があるので、自分たちの過去を思ってもなつかしい行事があるわけです。

子どもにいい思い出を残すといい意味からいうと、あゝいうものを大事にとっておく必要があるということになったようですが。

酒井　父を早く亡くしたので、女の子が生まれてもおひな様をもらえなかったので、自分でおひな様を色紙で作って、男の子は「一年生」や「幼稚園」の附録で作って、赤い布をしてお飾りしてやったのです。三人の子の小さい時作った紙人形を今でも飾ってや

っております。子どももてれながらも喜こんでおります。鯉のぼりも三人の子の勉強部屋に飾ると大へん喜こびます。高価なものを買ってくれとはいいません。しかし私自身、ちょっと子どもが可愛そうな、惨めな思いをしたので孫には買ってやりたいと思いますが。

立野　いろいろな子どもの行事と、今お話に出たそういう行事は残しておいたほうがいいということでしたが、農家ではお誕生の祝い、鯉のぼりの祝い、おひな祭の祝いを盛大にやるのです。

お誕生の祝いを受ける子は綺麗な着物を着せてだっこして、まわりの者がお祝いするが、子どもはなんにも知らずにいる。おひな祭も鯉のぼりのお祝いも親類や近所の人を呼んで盛大にやりますけれども、主役である本人はそっちのけにしたお祝いです。しかもおひな様は何万円というものを飾っておくのです。それがうわさの種になるわけで、私は、鯉のぼりもおひな様も、素朴な伝統は残しておく必要があるが、たゞ形式だけに流れるものはここらで思いきって改めていかなければならないと思います。

ここに御出席になっておられる方は一応農村でもレベルの高い進んだ方のようですが、一般には皆さん方の上よりも、下のほうが多いと思います。下の生活をどうして一歩進めるかが大事なことじゃないかと思います。一人の人が百歩進むことも大事ですが、百人の人が手をつないで一歩進むことが日本の文化水準を進める大事なものじゃないかと思って、訴えているつもりなんです。

大塚　私も純農村からお出になっていらっしゃる方と同感なのです。私はやはり個人生活を問かれるとニュース解説などということになりますが、職業が勤めだもので。どちらにレベルを合せて話していいかちょっと困っていたのです。

渡辺（リーダー）　自分を含めて周辺一帯ということですね。

大塚　レベルの低い人たちが、祝いごとをとっても、赤ん坊が生まれると孫だきといいまして、実権をにぎっている親のお祝いのようです。

立野　この会合に出てこられない人の中に問題が一ぱいあると思うのです。その問題を掘り出して話合をする必要はないだろうかと思います。

渡辺（リーダー）　それがねらいなんです。現実生活を見て来ていたゞきたいということは、皆さんと皆さんを含めた周辺の問題ですからね。私もお話を聞きながら、周辺の問題を個人の問題を聞きかけているつもりです。

大塚　そういう問題と本気になって取組んだのが七年前です。グループを作って身近なところからひとつひとつ、どのようにして取組んでいったらいいかということを話合って、お誕生祝いにしても、今まで盛大なお祝いをしておりました。やめるべきか、続けるべきか何回も一つの問題で討議しまして、やはり返りつき合いもあるから、最初の子だけはどうしてもやめられないということになりました。

今まで呼ばれていた親せきと、部落の中は、近づきの深いところだけ呼んで、あまり派手にならないように決めてお祝いすることにいたしました。また昔から、親御さんのうちからきた産衣からなにから見せる習慣がありました。それも義理の一つだったそうですが、今後一切見せないことにして、大へん喜こばれております。二人目三人目はうちの中だけのお祝いにして実行されています。一つのいいことに踏み出して、その中で悪いことがあったらまたそこを直し、いいほうへもっていくというように問題を一つ

一つ部落の中でとり上げ、それが全部他にもとり上げられております。

渡辺（リーダー）　義理の話が出ましたが、非常に大事な話なので、農村の皆さんが義理の重圧を受けて苦しみながら義理に隷属しているという状態ですから、一つ、義理というのは大事だと思う人手をあげて下さい。

中村　やはりある程度ないと暮らせないんじゃないでしょうか。

渡辺（リーダー）　人情と義理とどっちが大事ですか。

大塚　同じじゃないでしょうか。

井上　義理をしなかったら人情が伝えられないような気がして、

大塚　程度問題じゃないでしょうか。

立野　どっちが大事とはいわれないでしょうね。

渡辺　内地ではほんとうに義理をいいすぎるように感じます。私たちの所は全然そんなことはないのです。

渡辺（リーダー）　北海道は全然そうですね。

渡辺　圧力などということは全然ないのです。

渡辺（リーダー）　広いからでなくて、新しいから、先祖がいないからそういうことが昔からないからですね。

渡辺　静岡に行ってみてなるほど内地は古いなと思いました。建物の古いことと、それから生活のむずかしさですね。義理とか。

渡辺（リーダー）　人間関係のやゝこしさ。これは北海道に行ったら解放されます。

渡辺　静岡に二カ月半おりましたがいい勉強になりました。函館に戻りましたら、あゝ北海道っていいなと思いました。そこに住んでいる時は全然感じませんが、初めて静岡に渡ってみてよくわかりました。眺める風景から、ほんとうにいい所だと思ったのです。義理人情にはとらわれないといっても、誕生祝いとか、お返しはたまにはしますけれども、ほんとうに気持の上で風呂敷の一本ぐらいしています。たゞ貧乏なために生活に追われていて、婦人が勉強する意欲に欠けているということが一番の問題だと思います。みんなが手をつないで一歩ずつ進みたいと思っても、手をつなぐという気持になりかねるわけです。会合があるからと誘いかけても、私そんなひまがないよ、と一べんに断わられてしまうのです。義理、人情にはとらわれないけれども、婦人の考え方とか子どもの教育の仕方を学びたいと思って働らきかけると圧力がかかります。そういう状態です。

立野　その点引揚者は農村には有利に働らいているのじゃないかと思います。終戦後外地から引き揚げてきた人は、そういう義理人情を考えないでもいい所にいたわけですから。

渡辺（リーダー）　義理と人情はまるっきり反対のもので、一しょに考えられてはいけないので。

大塚　私東京で生まれて、三十三の時に農村に帰ったのですが、人情はいたって薄うございました。終戦直後でしたけれども、義理というものに反発を感じておりましたが、その時分は村の人たちとしっくりいたしません。やっぱりある程度義理の中にとけこんで初めて農村人と心を広げて話合える。だから義理というものもある程度必要だというのはそこから。

渡辺（リーダー）　それはわかりますけれども、本質をよくつかまえていないと、一たんはまりこんだら抜け出せなくなる。

大塚　自分が、一度とびこんで、どうしたらみんながそこから伸びていくか、私は比較的時間にもゆとりがございますから、少しでもみんなの手なり足となって自分の余力を捧げたいという気持で、

使い走りをさせていたらいています。自分としては義理、人情を少しでもいいほうにという気持でいますが、なかなかうまくはいきません。

上島　娘のころ東京に出て、働らいていて、農村に嫁いだので義理人情ということを全然知らなかったのです。主人にこうしなければいけないとおしつけられて義理のほうになびいていったのですが、そういうことを知らなければしないでもすむのじゃないでしょうか。

酒井　富山のほうは子どもが生まれるとお嫁さんの親から物をやったり、そういう悪い義理がびんと頭にくるのですが、

上島　やらなくともいいものを義理にからんでやってしまうのですね。

渡辺（リーダー）　義理には善意とか愛情はないのですね。

中野　義務や虚礼を感ずるわけですね。

渡辺（リーダー）　どうして義理ができてきたのでしょう。

大塚　二通りあるのです。御あいさつに行くことも義理と申しますが。

渡辺　体面を考えた義理とか。

大塚　ほんとうにお気の毒でございましたと行くことも義理というのです。礼をつくすことを義理といいます。

渡辺（リーダー）　実は義理から生まれた礼は虚礼なんですよ。そのところをよく考えて下さい。

日下　いなかから母親が団地に住む娘のところへ行って、お隣の方に、私は用ができて帰りますが生み月が近いものですから、よろしくお願いします。と挨拶したところ、娘が普断親しくつき合いをしていないのによくそんなことを頼んだものだといわれました。私は向こう三軒両隣にあいさつするのが大事だと思ったのに、そうゆうような考え方や受とり方に相違があると思います。

渡辺（リーダー）　義理の解説をしますと縦につながる身分の上に築かれた人間の秩序を保つために作られたものが義理です。下の者が上の者に義理をつくさなければならない。これは真心、善意ではない。服従です。支配されていくうえにつくさないといけないということで作られたものです。

上は体面というものをもって、これに向かっていったわけです。だから下から上げるものがあれば、もらったものはその体面からお返しをする。これは武士の主人と家来の関係で生まれてきたのですが、これが今でも残って私たちをしばっているし、もう一つ平等の立場にも義理が生まれてきている。たとえば元旦のお年始です。あれはほんとうに近しい人に心からおめでとうとまわったものですが、世の中が複雑になって土地も広くなってくると一軒一軒まわっていられない。それで年賀状を出すようになったのです。これも初めは親しい人に自分で手で書いてやったものです。それがそんなこともしていられなくなった。しかもだんだんとつき合いが広くなってくる。そこであっちにもこっちにも新年の礼をしなければならないという義務感が出てきて、年賀状を印刷するようになって、心がこもっていないのです。ですからほんとうに出そうと思う人には印刷したわきに一筆書きますね。これを書いてある人はほんとうのおつき合、印刷だけの人は義理でやっている、虚礼といえます。お中元の贈答品などももらうと返さなければならないし迷惑します。これもまったく意味ないですね。何もいちいちあいさつをしているわけじゃない。みんな義理からです。なんにも心がこもっていない。これを虚礼と私は言いたい。

心のこまらない、礼のつくし方。それはどこから出てくるかというと義理からです。デパートに行ってお金を払う人は辛いと思います。そうでなくて、自分で風呂敷に包んで訪ねて行くのは心からの所が多い、これなら虚礼じゃない。そのけじめをどこかにちゃんともっていないと、今いきなり義理をやめろといってもなかなかやめられない。義理をお互い苦情にならないものにするためには義理をやめるか、少しでも心をこめていくかということになるわけですね。

上島　やっぱり自分自身の考えでしなければできないわけですね。

渡辺（リーダー）　昨日、漁村の話が出ましたが、あれ義理です。はたのぼりをもらってもなんの役にたゝない。船の建造費の何割もお金をかけてお返しをしなければならない。お互いつまらないことです。お祝いならお祝いで、心をこめればいい。そうでないと上げるほうもお返しするほうも辛い。

大塚　なかなかそれがやめられないところ農村の封建性があるのですね。農村の一番のガンじゃないでしょうか。

渡辺（リーダー）　どうしたら除けるかということがこの話合です。

立野　欠かすことができないのですね、なかなか

渡辺（リーダー）　私たちのものの考え方にあるのです。

渡辺　やっても受けとらないようにしたらどうでしょう。下の者が上の人に礼をつくすつもりでいても、上の方が受けとらなければなくなっていくのじゃないでしょうか。町の話では、社長さん、課長さんに下の人が何かを贈るのが当然として考えている人が多いのじゃないでしょうか。それをみんな返したら、みんなが気持よく暮らせるのじゃないでしょうか。

中野　昨日のお話が出ましたが、実は改善されました。もらったほうもたまらないので悲鳴を上げたのです。それで女性が集まつて、一度、廃止したいと回覧をまわしたのですが聞をした人があったために実行できなかったのです。そういうことの繰り返しが、何年かあったのですが、どうしてもこれはいけない、どうあってもやめましょうとみんなが集まったのです。進水式をする方が、私の所から思い切ってしますからやめて下さいといって実行されたと思ったら男性が反対したのです。景気がいいということは気合づけてくれる、それがないと意気消沈してしまうからと。それで今度は男性の集まっている所に女性の代表が行って、こうこうだったということをいって、話したのですが、ボス的な人がいて、もし漁がなかったらそのためということになると言い出し、男の場所に女が出しゃばるといわれました。それも全体の人ではない。それで家庭で寝ながら話したらいいじゃないか、個々の家庭で主人をくどく他しょうがないということになったのです。三年くらいかゝったのです。みんなが会費みたいに出して、お返しなしで、万国旗を作って、船主の所に持っていく、飲み食いは、親せきと隣近所だけにして、今までのように派手じゃなく改善されたのです。

大塚　私のほうでも、問題にぶっかった時、同じようなことを繰り返して、女の力が男を負かしていくというようになってきましたが、一生懸命になってみんなが、手をつなげばおかしい意見を吐く人があっても、いいほうにはそまってまいります。

中野　女性だけでは全体の問題は解決できない。

大塚　反対に会うとまた違う形でもっていく。手を変え品を変えていきますけれども、なかなか男の方と交渉するのはむずかしゅうございますね。

渡辺（リーダー）　女は男より義理固いのですね。けれども、女の人は義理の中に少しでも心をこめることができる。男は形式だけの義理づき合いをする。義理でつくすのは虚礼だといったのですが、義理をつくすので形式が大げさになっていって困まるようなものが出てくるのです。

立野　尋常一年しか出ないのですが、実家からもらわなくてもいいという理解があります。学歴がないから改善できないとか、いうものではないと思います。私が実家のことで苦労しなかったのは母の理解のたまものと思います。

渡辺（リーダー）　そういうことを心の片隅において、今義理にがんじがらめになっている周囲のおつき合いをときほぐしていく努力を皆さんにお願いしたいわけです。義理をかけば恥をかくというでしょう。これをアメリカの文化人類者のベネジクトは日本文化は恥の文化であるといっていますが、義理の文化ともいえるので、ものの考え方が常にそこからでてきているのです。今は少しでも物を合理的に運び、考える時代ですからどんどんときほぐしていってこそ新しい文化を作り上げることができるのではないか。私は考えと行動の中に、非常な矛盾をもっているということを義理の問題などから痛感させられるわけです。

　昨日冠婚葬祭でこの問題を掘り下げたかったのですが、ちょうどひな祭、七夕から問題がここにはいってきたので。何かこれについて御意見がありましたらどうぞ。

日下　伝統的な文化について議論しましたが、今新しくできつゝある行事があります。たとえば成人式ですが、近来派手になって、訪問着で行くようになりつゝあります。訪問着一揃えすると十万円と聞きますが、作れない人は成人式は一年も二年も前から苦痛の種なんです。そんなことでおめでたい成人式に参列できないうちが多いのです。できる方はここを先途と二年も前から作るのです。それを野放しにしておいていいものでしょうか。

渡辺（リーダー）　親自身の問題ですね。婦人会の会服をぬぐ時に、今の成人式の訪問着の問題も解決されると思います。ぼろ着でも婦人会の会合に出られるということが緒口になるのではないでしょうか。

中村　大学の卒業式が全部それで、考えの進んでいる人でさえも競ってするのだし、結婚式も改善されたといっても逆行しているということも聞きますが、消費に対する考え方が。

上畠　若い方の御意見を伺いたいですね。

鈴木　私は洋服を着ましたけれども、お嫁入をする時、一つは必要だから、いつ買っても同じだということで親たちは着せたかったようです。自分自身でも着てみたいなという気持もあります。

大塚　うちのほうでも調査しましたら、一生懸命農業をしてきたのに、成人式に訪問着くらい作ってくれないのはおかしいというのです。ろくな給料ももらわないで、という意見が大分ありました。

鈴木　若い人たちは自分で働らいて自分たちで買うのならかまわないだろうという意見もあります。

大塚　できない人のためにどうしたらいいかということですね。社会教育のほうで大分その問題をとり上げて、一堂に集めるから派手になるというので、観光バスで東京に行って宮城前で平服で成人式を行うことにしましたが、訪問着で行って、自動車に酔って新しい訪問着を汚した人があり反省の種にさせられております。

鈴木　洋服のファッションショーのような感じがございますが、自分自身の心の強さがあればと思いますが、まわりで飾られている

と……。

日下　でき上がりつゝある伝統をいい方向にもっていかないと……。

渡辺　何十万もかゝると聞いて、私娘をもっていますのでふらふらとしてしまいました。私のほうは洋服もおりますし、そのうちの経済によっていろいろです。そんな立派な花嫁衣裳のようなのを着る人はいないですね。経済的に恵まれていないせいでしょうか。

日下　私たちのほうは九割までが訪問着だったのです。年ごろの娘をもつ親は一年前から、来年までには十万円こしらえなければならないと。

上島　うちのほうでは会場の門の側に婦人会の人がいて、派手なものを着ている人は門の中に入れなかったのです。訪問着を着たかったら個人的な場所で着るようにと強硬でした。

今年は県下一帯でやりました。その運動を動かしたものは、青年団だったのです。だから岩手の若い方たち、もっとおかあさん方をゆすぶって下さい。

立野　私は、成人式をすませた娘が二人いるのですが、二人ともスーツで行きました。お友だちは訪問着でいかれた方もありましたが、初めからスーツでいいよ、まだ訪問着はいいよと言って。娘は今年二十七才になりますから……。

日下　ずいぶん前になりますでしょう。それがだんだん……。

立野　昨年もう一人成人式に行きました。立野さんスーツでいくならうちもスーツでと五、六人で行きました。子どもの気持の問題じゃないでしょうか。

渡辺（リーダー）　それではまとめてみますが、今の成人式の訪問着の問題、娘さんがスーツでいいといって自分を確立することはやはり親から影響を受けるので、母親自身が何を着てもどんな会合にも出て行けるおかあさんになることが大事だと思います。ところが今の婦人会は会服を着て、みえをはりっこをしているのですが、野良着のまゝでも婦人会に出てこられるようになることが大事です。これが娘さんの成人式の訪問着を解決する問題じゃないでしょうか。これは恥とか世間体、体面、そういうものの考え方から出発していると思います。こういうものをうすらげるように、お互いに努力しなければならない問題だと思います。

僕はいつも婦人会の会服を早くぬぎましょう。その時が婦人が自主性をもった時ですといっているのですが、なかなかそうならないのが残念です。

大塚　どうしても会服を着ていかなければならないムードになっています。

渡辺（リーダー）　いつまでも自主性を築き上げられない婦人になってしまうわけですね。

渡辺（リーダー）　井上さんの話から問題をほぐしていきましょう。自分で工夫をして、自分で作り出していくことは、自分という人間性をもう一回確めて、さらにそれを発展させるには役に立つことで、テレビを見たり映画を見たり、娯楽雑誌を読んだり、プロ野球を見るということだけで楽しみを消費していくのでは、ほんとうの人間性回復にはそれほど大きなプラスにはならないのです。もちろんプラスになることはなりますが、そこで大いに自分の心を慰め、明日労働するために、きょう使ったエネルギーの補給を、栄養で補なっていくように、毎日生きている間は心が緊張しているわけですから、それをほぐして、もう一回緊張できる状態にするために、私たちは娯楽、レクリエーションを大いに生活の中にとり入れなければならないわけです。人間というのは緊張しっ放しでは次の緊張ができなくなってくるのです。緊張を休める役割を娯楽、リクリエーションがやってくれるわけです。しかしそれも消費する娯楽だけではなかなか本物にならない。自分を確めるような、娯楽の仕方、これを私は創造的な娯楽に求めたいのです。ということは、たとえばこのごろレジャーブームで団体旅行も盛です。ところがバスに乗って、発車しないうちから早速お弁当をひろげて、一升びんをあけて飲み出す。これも楽しみには違いないですけれども、何かそれは感覚的ですね。感覚の底にある感情なり情緒なりに訴えるものがない。感覚を通して心の深い所に情緒的にゆり動かすものがなければほんとうの心のくつろぎ楽しみは出てこないと思います。一時の感覚的な刺激に反応するだけでなく、もっと心に深く反応していく楽しみ方が大事ではないか、若山牧水の和歌にこういうのがありますが〝幾山河こえさりゆけば淋しさの、果てなん国ぞきょうも旅ゆく〟こうした気持の旅もあるのですね。みんなと観光旅行に行った時でも、この歌を口ずさんでごらんなさい。この歌の気持がわかる人だったら、ちょっと口ずさんでみるだけでも何か自分の心情に訴える、周辺の風景も、一しょに行った人とは別の形で訴えるものがあると思います。そういったものを思い出すこと、そんな小さいことからでももう一歩奥に深まって心の慰めというか、つろぎを得られると思います。これこそ人間性をもう一回自分で確め、発展する動機になるものではないか。これが私のいう創造的な娯楽の緒口なのですね。そんなことから、自分で和歌を作ってみる人間にもなれるでしょう。その淋しさを絵に描いてみる日曜画家にもなれると思います。これこそほんとうの創造の楽しみといえるものではないか。私たちはあまり消費的娯楽だけに溺れきっている。それを一つ皆さんで心がけていたゞければ、そんなにテレビや雑誌や、観光旅行ばかり追いかけまわさないで充分楽しめる人間になりはしないかと考えるわけです。

大塚　去年、今まで旅行をしたことはないのですが、子どもたちも大きくなったので、もみじの十和田はいいからとバスの四泊五日の旅行をすゝめてくれますので、生まれて初めて大らかな気持でうちを出ました。今まで生活に追われて歌を作ることは知らなかったのですが、バスの中で、百余り作ってきました。そして写真と共に歌を書いてアルバムにしたら皆が喜こんでくれました。私も自分の宝物のように思っています。

井上　私も同じようなことを考えたのです。今度東京へは久しぶりに来たのですが、勉強に来たのだから、汽車の窓にうつる景

色もうかうか見てはいられないような気持でいました。そして横浜の街のざわざわしたのを見ていたら、菜の花の中であばれまわっている子どもたちに都会とはこういうものだということをおみやげにもって教えてやりたいと思いました。

上平　お友だちからいろいろなことをいわれて口惜しいなと思っている時でも、島に行く途中歌を作ったりすることによってまぎれますし、文化が進みますと人間がひからびがちですが、自然に親しんで、創造したものを記録にして集めておくということは大へんいいことだと思います。

渡辺（リーダー）　歌だけとは限らない日記でもいいですね。ここにはやはり自分の魂の反映があるわけです。どこかで自分の魂をうつしてみることなしには自分というものをつかめないですね。だから日記でも生活記録でもいい、そうやって自分を確め、自分の魂をゆり動かして大きく育てゝいく機会を自分自身でもつということは消費的な余暇、娯楽では出てこない。どうしても創造的な娯楽でなければ本物にならないのじゃないか。そこで皆さんは日本古来の生花文化というのを、御自身たしなんでもいられるだろうし、お子さんにも教えていらっしゃると思いますが、生花なんかどうでしょう。

井上　グループ活動で生活改善で得られた余暇を利用して始めております。

渡辺（リーダー）　あれも、そういう会合の場所で、きょうはお花の講習というので習っていく、それだけではしょうがないですね。

井上　週一回行なっています。

伊藤　私どものほうでは家庭の環境整備も含めて何か植えて、咲いたら食卓、お台所などに飾るという気持を育てる意味において、形にとらわれないで、むしろ水あげとかそういうことを勉強します。形は自分の好きなようでいいじゃないかということで。

渡辺（リーダー）　生花もすばらしい芸術だと思いますが、ところが芸術に扱かわないのですね。草月流などは抽象絵画などの及ばないものを作っていますが、芸術として扱かっていないのはどこにあるかというと、家元という制度を設けて、流儀をあみ出して型を作っているから、教えられるほうは創造性がないので芸術家は芸術の中に入れていないわけです。だからお花を活けるにしてもどういうように活ければ美しさがでてくるかという基本的なものは必要だけれども、教わったものをそのまゝそっとうちに持って帰って活けるのでは、自分の作り出した美しさにはならない。むしろ、一応の基本原則的なものを心得ておいて、あとは自分で創造して活けることが大事じゃないかと思います。型にはまった活け方をしていたゞけでも、普通の消費娯楽で楽しむよりはまだ自分を確めるのに役立つと思いますが、一歩進めて型にとらわれない、創造で活けていく生花文化があっていいじゃないか。今までの生花文化は家元の流派、それが作り出した型にはめこまれて、創造的であるべきものがきわめて型にはまったものになっている所に、今の生花の問題点があるわけです。伝統の文化の中で生花などは大事にしていい文化だと思うし、さらにそれを発展させるためには創造的な活け方をしていったら一そう楽しいものになるのじゃないか。お手本通りのものを活けていたのではつまらないですね。

日下　茶の湯の場合でも合理的だしその精神をいかしていったらいいと思います。私、町へ度々用事で出かけますので袋をこしらえておきまして、これはＰＴＡ行の袋、これは役場へ行く袋

と決めておいてそれに必要なものをみんな入れておきます。一週間たまっていよいよ身動きがとれない時にそれをもって出かけることにしていますが、生活すべての茶の湯の手順をとり入れていけると思います。

渡辺（リーダー）　大事なことですが、それが生活の中にいかされていないということを反省しなければいけないわけです。

日下　農家では合理的にやっていかないと主婦は身動きできません。

渡辺（リーダー）　踊でも上手な踊手だったら歩くのからして美しい。はんとうに茶の湯を習った人なら立居振舞ですかっとわかる、ところが多くの人は茶の湯はお師匠さんの所に行って習っている時だけの礼儀であって、うちに帰ると日常生活の中にいかしていくということをしていない。この人が茶の湯を習っているのかという振舞が多いのです。本来生活的なものであるはずなのにアクセサリーみたいになっている。そこに問題があるのじゃないかと思います。むしろアクセサリーより生活それ自体であるというところまでもっていくことが、創造性のある楽しみではなかろうかと思います。そういうことによって、単なるアクセサリーである以上に生活が豊かになるはずだと思います。こういう問題どうですか。皆さん生花などやっていらっしゃると思いますが。

立野　私のほうは山が近いので、時々子どもたちと一しょに山に行って草や木をとってバケツに入れておくと主人でも子どもでも勝手に活けます。そして美しくできたと一言はめて、こゝはこうすればいい、あゝすればいいと家族中で一鉢を活けます。白いものがもう少しあったらいいなというと庭に走っていって葱の花が咲きかゝっていたのをといって来ます。うちでは活けること自体が楽しいのです。

日下　活けることは楽しいですが、作ることももっと楽しいです。土から大輪の花を作った時の喜びは何にも代えられません。

渡辺　花を愛するという気持が人間をやわらげるのですね。花を愛せる人は人も愛せるということにからんでくると思います。

日下　だから農村はいいんじゃないですか。動物を愛し、草木を愛し……。

渡辺　あざみはとげがあっていやだといいますが、こんな綺麗なところもあったのかと見直すこともあって、愛着を感じます。夕方になると月見草が咲いて、私たちの野辺の帰りを飾ってくれますが昼になるとしぼんで痛わしくなります。そういう気持が人に対しても出てきて、暖かい隣同志のつき合いができるように思います。

日下　その点農村は恵まれております。お米や麦を作るにも愛情がなければできませんからね。

渡辺　家蓄を世話するのも愛情がなければできません。私の所は牛が十二頭おりますがどの牛にもにくらしいのがないのです。それぞれにいいところがあるのです。仲間同志ですごい突き合いなどすることもありますが、やっぱりこの牛はボスになりたいのかと、安らかな気持でものを眺めるようになってきます。文化が進むと気持が冷たくなり、物におされがちですが……。

日下　人間性が豊かになるような気がしますね。

渡辺　農村のそういういい面がたくさんあると思います。

伊藤　そういう面もあるのですが、機械などがはいった結果、そういう育てる喜こびとか、作る喜こびというのがだんだん少しずつ失なわれていくような気がしませんかしら。働らく喜こびというよりも手段のような感じになってくる気がするのですが。

渡辺（リーダー）　そこですね、むずかしいのは。

大塚　野菜畠が上手にいかなくなったのは機械の力がはいったからだといいますね。昔はいちいち鍬でうなりましたが、今は鍬を持っていかないので、帰り道にでもちょっとうねっていくということがなくなって、明日やろうやろうと思っているうちに野菜畠の手入れがおそくなったということをいっていますが。

渡辺（リーダー）　なんといっても経済ほど合理性を大事にしないと運営できない問題はないのですね。今のは農家の経営が企業以前のお話ですね。農家がほんとうに農業経営でたっていくには農業を一つの企業としなければやっていけない。するとテーラーくらいではだめで、十馬力のトラクターも必要になってくる。そのくらいでなければ企業として成立たないというところに追いつめられている。で、話が二つにわかれたわけですが、企業として成立させるには草木に対する愛情を感じていたのではやれない、商品を作る気持、商品として育てることに努力しなければならないわけですね。お金をとることが目的なのですから、自分の周辺に自然の美しさが、あるのだとおっしゃいましたが、農村というのは自然の中にその まゝ置っ放しにされている形ですね。しかし自然の美しさを人の生活の美しさ、つまり文化としてとらえるには、自然の中に放置したものではだめですね。人間の生活と自然と対置させて初めて私たちの暮らしを美しくするものじゃないか。そのところは混同しないようにして下さい。自然の中にはいっていることは、自分が自然人になっていることですね。ところが今は文化の問題です、文化は人間が作り出していくもので、それによって自然の美しさを発揮させるようにしていかなければならない。ところが今は、山の木は切っ放し、川はだんだん汚なくなっている、これらの山や川をお膳立の一つとして美しさを組立てるように手を加えていかなければ、自然も残らない、そういう時代にきているわけですね。

渡辺　たゞ今の農具の問題ですが、私のほうも、土地が広いために大きな機械を入れてその支払いに一生を費やすような状態ですが、自然を残すことも経済がからむのではないでしょうか。経済的に成立つような農業にするにはどのようにしたらいいか。ほんとうに農業というものは働らいても働らいても借金の下敷になって、自然も文化もわからないけれどもあくまで経済がともなっていかなければならないのじゃないか、それでいかにして文化をもち続けていくかという堀下げた問題をもっと討議していたゞきたいと思います。

渡辺（リーダー）　これは大事でむずかしい問題です。国の政治がすべて大きな力をもっているわけです。私たちはもっともっと政治の勉強をしなければなりません。今のまゝに農業を放っておいたらどういうことになるか。すでに他の産業と所得の格差がとても違うことは痛感されているところです。

渡辺　切ない気持です。私たちの村では、今年も凶作という予報がはいって何軒残るかということがいわれています。都会で産業が発達している中で、農村がこんなにとり残されていていいのか、最後にはどうなるかという切ない気持で毎日暮らしているのです。

上平　私どものほうの、ある部落ですが、若い人たちがどんどん町に出ていくので二十六軒のうちで農業だけをやっているのは一軒です。将来、農業はどうなるか、おじいさん、おばあさんばかりになってしまうと思います。

渡辺（リーダー）　農業がなぜそういうとこうで悩んでいるか、それを考えるヒントを出しましょう。

酒井　渡辺さんは北海道で二十五町歩とおっしゃいましたが。

渡辺　耕作しているのは十六町歩くらいです。毎年同じ所を使えないので。

酒井　私たちのほうは二町歩もっているとどうにか生活できるのですが、二町歩持っている方が少いのです。若い方でも、二町から三町持っている農家は、農業だけでやっていこうという意欲はあるわけです。

渡辺（リーダー）　富山あたりは水田でしょう。お米の値段は保障されていますが、渡辺さんのほうは畠作だから、値段が決まっていないわけです。

渡辺　価格の変動がひどいのです。

酒井　どのくらい……。

渡辺　平年作ですと赤字になっている人もいるし、作付によってです。今年は大豆がいいからといって大豆をまくとがたんと下ったら肥料代もとれないのです。

渡辺（リーダー）　去年小豆相場というのをごらんになりましたか。

渡辺　ビートなんか毎年作るわけにいかないのです。七年か八年おかなければ同じ土地に作ることができない。私たちの経営では七年も八年もおいてやると作る場所がなくなっちゃう、販売作物がだんだん少なくなるので牛を飼っていますが、これも育成しなければふえていかない。自分で育成していくには飼料畠を作っていかなければなりません。飼料畠を作ると販売畠を作ることができません。そんな状態で、火山灰地で秋が早く春が遅いのです。ちょっとまきつけが遅れると青いまゝで霜にやられて、一晩のうちにカチカチに氷ってしまうこともあって、まるでばくちのような農業経営なのです。広くなければとてもたべていかれないのです。広いと人件費も肥料もかゝります。土地が広いばかりがいいわけじゃないのです。十町歩、二十町歩という畠の隅から隅まで、自分の足でやっていく、はげしい労働です。町では八時間労働ですが、私たちの場合は家族総出で働らいて、なおかつ食べていかれない、ですから若い人たちは都会の生活にあこがれて出ていってしまいます。今まではおしゅうとさんと一しょに暮らしていましたが、子どもの時代はやっぱり町で就職したほうがいいと思って出しました。すると息子を出したので終りだねといわれますが、私たちの農家はこれでいい。私たちは死ぬまで二人でもやりましょう。腰をまげて杖ついてやるのかと笑いますが、そういう状態です。だからこれは農家の婦人たちが立ち上がって、どのようにしたらもっと住みいい農家ができるか、価格なども安定させてほしいというのが願いなのです。皆さんの御協力をえなければどうしょうもないのです。

立野　北海道では二十五町歩も持っていて暮らしていけないのはどうしてかということですが、今の私の問題は、若い人たちがいないということです。おじいちゃん、おばあちゃん、おかあちゃんになってしまっている。それと耕作地が少いことです。そんな広い場所があったらどんなにかいいだろうと思います。

渡辺　それでもやっぱり機械に追われて……。私のところは機械もありませんから人を頼んでやっています。そうしないと時期時にまきつけもできません。生きる手段としては借金をしてでもそうしなければなりません。毎年それを繰り返しています。ですから去年のような冷害があると冷害資金を借りて払う

とまた冷害で、それが何回も繰り返されます。何かいい解決の方法がないかしら、お智恵を借りたいのです。

中村　長崎県では離島が多くそれだけでも不利な条件にあるわけです。産業も近くにありませんから男が出稼ぎに出ていくので家庭の悲劇がおきているわけです。昔は芋だけたべてもがまんしていたのですが、今の時代に芋だけで過ごしている人たちはありませんから、そういう生活から抜け出そうとすると外にいかなければならない。その後の農業を守るにも海が荒れたら作物がだめになってしまいますので、それもできないのです。教育程度が低いし、家族計画を指導する必要に迫られているわけです。文化どころか人間の命がほんとうに守られていないのです。病気になってもお医者さんがいないという状態で、生きていくことができないようなところがたくさんあるわけです。

渡辺（リーダー）　そこで問題を出してみますが、今渡辺さんがいわれたように、今年は小豆がいいからといってみんなが小豆を作って暴落してしまう、今度は大豆がいいといって大豆をみんなが作るとまた暴落してしまうが、農業は面白くない、他の産業と格差がある。電気製品が売れるから農業をやめて電気製品を作ろう、鉄鉱なら大丈夫だ、鉄産業をやろう、と思ってもできないでしょう。農業をやめても、やはり同じような中小企業しかやれない。そこをがっちりとおさえているのは何か。しかもそこでは産業をおさえるばかりでなく、物の値段もおさえている。これがいわゆる独占資本です。しかも国家からたくさんのいわゆる産業投融資という独占産業、寡占産業という大資本が育ってきました。これが日本高度成長経済の軸になっているわけです。作るものの値段も独占的にとっている。農作業は作るものによって変動がある。ところが鉄はこのごろ不況で大分薄板が残ったじゃあ値段が安くなるかというと生産を少なして調節ができる。中小企業、農業はそういうことができない。巨大な資本をもった企業を国の経済の軸として育てゝいるのが政治なのです。だからそのやり方に反対の政策をもっている政党はそれを盛に攻撃するわけです。新聞の報道の表面だけをみていたのではなかなかわからないが、ものの見方をはっきり定めておいて、新聞を読めばそういうことがよくわかってくると思います。このごろ鯨が少ないといって大洋漁業では大きな養鶏場を作った、そういうこともできるのです。ところが皆さんは農業がまずいからといって電化製品を作る工場を建てることはできない、そこに今の経済の仕組のまずさがあるわけです。それが資本主義の悪い所だといえば割切った言い方になってしまいますが、資本主義にはまた一面、いい所もあるいい所を伸ばしていこうじゃないかという人もありますから、皆さんも政治について根深い所にある基本的な問題を理解することが大事じゃないでしょうか。渡辺さんが北海道で二十五町歩の畠を持っていてもこの先どうなるかわからないという卒直な悩みをお出しになりましたが、これはその通りであっても、今ここではどうにもならないです。その問題を解決する場所は国の政治です。私たちが、こうやってもらいたい、あゝやってもらいたいというのは選挙の投票です。参議院選挙が間もなくやってきますが、自分たちの願いに少しでも近い政党を見きわめることです。それをしないで、また問題の根深い所をつかまえないで、たゞ表面的なことを論じあっていては解決はなかなか遠いのです。皆さん、生活の学習はいろいろやっておられるようですが、生活

は政治に直結しているもので、われわれの生活が楽にも、苦しくもなるのも政治の動き一つですから、生活学習と同時に政治学習もやらなければなりません。自分たちの生活が大事だと思うのなら、そこまで学習の中を広げて、問題を深く掘り下げていくことが大事だといいたいのです。

では、私たちの文化を豊かにするのも、結局政治につながる。その政治はひとがやるのじゃない。主権者としての私たちの判断なり意見にあるわけですが、経済の仕組とか、その上にたっている政治の仕組の上で問題を解決するよりないと思います。簡単にいえば社会主義革命をやればいいじゃないかということになりますが、一朝一夕に革命などできっこないので、それ以前にまだまだやらなければいけない問題はたくさんある。革命に対処するにも、私たちが政治をしっかりふまえていないとそれに処することもできないでしょう。だから渡辺さんの辛い立場がどこに根ざしているか、問題が深い所にあるということを胸において、政治学習にまで深めて下さい。

ひところ、保守政党でも改新党というのがありましたね。この人たちもあのころの日本の民主化の波の大きさに自分たちの古い保守的な考え方でもいけないと、修正資本主義とかいっていましたが、今の自民党になり、どっちかというと右よりというより国家独占主義ということがはっきり出ているようですね。しかしほんとうに文化を探していくにはそこまで掘り下げていかないとびったり合うものは出てこないのですね。

上島　すべては政治につながりますね。

渡辺　でも農村から出た人が少ないので隅のほうにやられてしまっているのだというのですが、明日にも大事なことをなぜとり上げてくれないのか。私たちが小さい所で騒いでも政治にたよっても、政界には他産業から出ている人が多いので、そこにいくまでには時間がかかる。選挙の時は公約でうまいことをいいますが、ほんとうにやってくれるのはいくつありますか。農家の実体をよくつかんで価格の安定などはできないにしても、暮らしいい農家にしてくれる人がいつ出てくるかしらと思います。私たちはそういう人たちと接触が少いために公約にまどわされてしまうのがほんとうじゃないでしょうか。

酒井　青少年の不良化の問題も出てきますね。

渡辺　自分たちが苦労したことを子どもにさせたくないというのが親の考えじゃないでしょうか。ほんとうに議事堂に行って言ってやりたいくらいです。じれったくて。あの人ならいいと思って選挙したのが観光地なんかに力を入れて……。

大塚　やっぱり農家は穴に落ちこんでしまわないとそういう気持がおきてこないのじゃないでしょうか。今年は北海道に冷害がおきたから真剣にとり組むけれども、他の地の人はそこまでいかない。横のつながりがないのがいけないのじゃあないでしょうか。

渡辺　鉄工場などは値が下がったからといって休むことができるけれども農業は休むこともストをするわけにもいきません。牛乳なども安いから売らないでおこうと思っても毎日出さなければならない。そういう弱みがあるのです。そこを利用して中間搾取があってもうけるわけです。私たち、牛乳一升が五十何円です。町で買えば一本二十円です。どこがそういうことをしてもうけているのかとにくらしくなります。

渡辺（リーダー）　きょうは農協の渡辺さんが来ていらっしゃる

ので、その問題をお話していただきましょう。

渡辺敏子（特・オブ）　大塚さんが横の連絡がないとおっしゃいましたが、私もいつそういうことをおっしゃるかと思ってうかがっていたのですが、問題を提議する時に、個人の話をするのか、周辺の地域の話をするのか迷っていたという話がありまして、地域周辺の問題について話しましょうということになったわけですが、お話の中に、グループの中の活動をどうしているかということが出てこないのでそれを伺いたいということが一つと、先ほど先生が、生活の学習活動も必要ですが、政治学習をもっとすべきじゃないかとおっしゃっていましたが同感です。やはり私どもは農家の主婦の方の、農業を中心にしての組織体ですので、部落の中における問題を部落から村、村から郡、それを県にもっていって、個人で言えないこと、できないことを政治なら政治にもつなげていきたいということでできた組織ですが、政治はなかなか動かすことはできないのですけれども、北海道の方が、個人ではできないがなんとかして訴えたいという気持がおありになるとおっしゃいましたが、そういうものをもう少し地区の方たちの中でお話合をしていただきたいと思います。政治学習をすることも選挙でいい人をえらぶためですが、えらんだからといってどういうことをしてもらいないとということは希望にすぎないかもわからないのですが、農村の場合、いい人を選挙するにも婦人は自分だけの意志で選挙できないということを聞かされます。そういう時でも婦人同志で勉強し合って、なんらかの会にはいって、個人で解決できないものは一つのグループなり、場なりにもちこんで、世論となるまで発展させていきたいと考えます。

渡辺（リーダー）　横の問題が出たのですが、農民の農協として加入していながら農業の共同化さえできない。ぬけがけの功名でどこかに売って単独出荷をやっていたら買いたたかれるのです。量を多くして、市場を確保しておいたら、毎年、値段に動かされないでやっていけるのです。九州から北海道まで、千五百万くらいの専業農民が全部つながってごらんなさい。太洋漁業がいくら大きな養鶏場を作っても、これはそれ以上の力となります。それなのにたった一部落の農協でさえ共同出荷ができない状態である。農協という全国的な組織も名目的であって、その中味はばらばらなのです。このごろは広域農業といって広い地域に行動がまたがっていますからだんだん横のつながりのできる一つの契機になっていくでしょうが、よく反省してみると農家の一人一人が利己的な人間になっている、これは農家の人が悪いのじゃありません。徳川時代でさえ四公六民、領主が四割、農民が六割でしたが、寄生地主の時代はその反対です。そうしてしいたげられてきた人たちだから農地解放となっても人間まで変えることはできなかったむしろ小さな地主になったために一そう利己的なものを発揮するようなことになってきた。それがいつも小さな部落の中で共同でやることを妨げて来ている大きな原因じゃないでしょうか。

渡辺　お話はよくわかりますけれども、一時はみんなで共同出荷をしたら豆の値段が下って赤字負担をさせられて、共同出荷がいいか悪いかということでぐらぐらしてしまったのです。価格の変動によって悪くなれば赤字負担をさせられる、これでほんとうに共同というものがいいだろうかと問題がおきたのです。

渡辺（リーダー）　大きな横の連絡がとれればみんながわずかに出し合ったお金でも巨額のものになる。貯蔵設備もそのお金の中から作ることができる。玉子でもこのごろ安くなっているがこれも

冷凍する施設をもっていたら安値をくいとめることができる。こういうことができるのは大洋漁業のような大資本しかできない。そういうことを、よく農民の一人一人が理解して、むしろそういう農協行動などの先頭に立つくらいになってもらわなければなりません。ところが農協の幹部はみんなボスでしょう。役員と職員の組合になっている。だから政治の問題は、議事堂を眺めなくとも、自分たちの村の中にあるのです。

立野（福岡）　それが農協の幹部になるまでは農家のことを考えて下さるのですが、幹部になったとたんにボスになって動かなくなるのです。

渡辺（リーダー）　だから村のそういう仕組み、今は身分関係はないといいながら、いろいろな組織や機構があるでしょうにそういうものを誰が支配しているか、そこを見きわめていただきたい。すべて民主的な運営でやっているといいながら決して民主的でないのです。農家の方たちにも罪があるのです。農協の総会に出ていくのはその家の主人ではなく、むしろ発言権のない人が出る。これじゃあだめなんです。

酒井　渡辺さんのお話を聞きますと胸が痛くなるような気がするのです。何かできることがあったらしてさし上げたいと思うのですが。

立野　それはいいことだと思います。けれども私たちの部落の中にも、とても困っている人があるのです。だからそのお話はわかるのですが、向こうのほうに火事があったから義損金を送るといわれるみたいだけれども、実際うちの隣にも火事があるのです。そんな時遠くから手をのばすということはできないのじゃないでしょうか。

大塚　私どもの農協は大へんよくやっているのですが、農家は考え方が違います。ことわざに、逆作を作れば必らず成功するといいますが、昨年白菜の大暴落にあいまして、どうやって処分しようかと悩みましたが、逆作を作ればとみんな口で言っていてもいざとなると、今年は白菜は作るまいということになって、白菜の高値になる。ものの考え方に、考えていかなければならないところがあると思います。

渡辺（リーダー）　市場の信用を得ることが大切だと思います。いつも同じ物を市場に出していくとあの村は白菜の特産地だということで、市場はその生産物を歓迎する。ところが毎年変っていくと相手にされなくなるのですね。

大塚　農協が作りなさいといっても末端では作らない。自分さえよければいいという気持がすべての問題につながってくるのじゃないかと思います。

渡辺（リーダー）　ですから、打合わせの時に、皆さんの村にことわざがあったらそこから話を進めていきましょうと申し上げたのです。「隣に蔵がたてば腹が立つ」という狭い気持ですね。だから大きな資本につぶされるばかりです。

渡辺　それは農家独特の気持でしょうか。私たちのほうにもあるのです。たとえば、私たちのほうは馬鈴薯を多く作って、安定作物としてとり上げているのです。ところが農薬にもいろいろありますので、「去年よかったけれども何を使ったの」と聞いてもすぐ教えてくれる人が少いのです。自分で研究しないで人を頼るということでなしに、お互いに助け合っていったらいいのじゃないか、そこに問題もあると思います。

渡辺（リーダー）　渡辺さんの所はお気の毒だと、同情もできるが、

自分たちの近くに不幸な人がいる、単なる同情だけではすまされない問題だ、何か根本的に、そんな苦しみに落ちこまないですむ方向がなかろうかという問題にいきかけたので昨日の問題を引き出すわけですが、相互扶助的な組織があるということは大へんいいと思いますが、そういうことのできない所がたくさんあるのです。都会なんかはましてできない。そこでほんとうの相互扶助、社会保障を私は求めたいのです。たとえば横断歩道を渡る人がトラックにひかれて死んだ。それはその人の不注意かもしれませんけれども、トラックが走るような社会を作っている共同責任でもあるわけです。そこまでお互いの問題を考え合うと、私たちも一端の責任があるわけです。同じ社会を作り合っている一人の人間として、すると私たちは小さな仲間だけでの相互扶助も大事だが、もっと広い区画で手をつないでいって社会の責任をみんなで分担しなければならないという相互扶助の問題をそこまで広げていっていたゞきたいのです。

渡辺　老後の保障があったら、辛くとも、心の安定感があるのではないでしょうか。

渡辺（リーダー）　また問題を出しますが、個人生活を考えて、これがほんとうの幸せだといえるような生活は一体どれくらいの要素を備えていたら、そういえるでしょう。

中村　平和が一番でしょうね。それから健康。

日下　健康に経済。

渡辺（リーダー）　つまり健康に経済ということは、わり合楽な労働の仕方をしながらもちゃんと暮らしが成立つ、ということは私たちの生活手段が整っていればできますね。たとえば、今までは洗濯をたらいを置いてかゞみこんで手でこすってやっていた。これは肉体をしいたげる作業ですが、電気洗濯機は手をかけないでできる。そういった便利な生活手段が揃っていれば基本的な幸せの要素をなしますね。それも一つの要素ですが、しかしそれだけじゃだめですね。

渡辺　働らくことを何かの面で楽にすることはよろしいけれども、経済面で許されなくとも、しかし健康であることと、家族同志が信じ合うということが幸福といえると思います。

渡辺（リーダー）　これが第二番目の要素ではないか。信じ合うということは、別な言葉でいえば一人一人家族が違う考え、違う思想をもっていても、理解をもって相手の意見を尊重して、しかも血のつながった愛情で結ばれているということです。これは非常に大事です。ところがもう一つ大事な要素があると思います。それはさっき渡辺さんから話が出ましたね。

中野　個人が幸福になるためには社会の人が幸福にならなければなれないということですね。

渡辺（リーダー）　今までの現実的に、ある家庭を目の前に描いて絵にかいたような幸せですが、一応生活をどういうように築いていったらいいかということですね。

立野　私は少しばかり恩給をもらっていますが、それだけで何よりの心の頼りになって、幸せじゃないかなと思うのです。たとえ自分一人になってもまず死ぬまではなんとか暮らしていけるというめどがあるから、近所の人が何やかや話相手にきたり、けんかの仲裁に出かけたりよろず相談所みたいに相談を受けますが、そんなことをしてのんびり暮らせるのは、少しばかり恩給をもらっているからじゃないかと思っています。

渡辺（リーダー）　それは私が三番目に考えていることの土台にな

るものです。つまり幸せな家庭生活を支える三番目の柱です。

上平　自分でも何かのお役に立っているという安心感だと思います。

渡辺（リーダー）　そこまで広げなくともいいと思います。

実は皆さんが、農業について悲観的な、希望のもてないようなお考えがさっきから出ているので、この問題を出したのです。農業にやりがいが薄らいでいるわけでしょう、渡辺さん？

渡辺　えゝ。

渡辺（リーダー）　いくら国民の台所を受けもっているという使命観をもとうとしても、ほんとうに農家の役割は大へんなものだと思います。米、麦、野菜を作って下さっているから国民は食糧にこと欠かない。それくらい大事な職業にもかゝわらず生きがいのある仕事をしているという気になれない。逆に抜け出したい気持になっている。こゝです問題は。私は個人の家庭生活を支える三番目の柱として、やりがいのある仕事についているということが大事だと思います。

渡辺　自分の職業に自覚と自信をもっているということですね。

渡辺（リーダー）　むしろ使命観をもってね。社会の何人かがこれで非常な幸せを受けているはずだと。それがもてない実情。乗用車やトラクターを持っていたところで、農業の前途に暗いものをもっていたら決して幸せな生活とはいえないですね。何か欠けている生活だといいたいのです。

そこで問題は、立野さんが言い出した、仕事に生きがいやりがいを感じられるには自分の立場なり、経済的なものなりが安定しているということですね。老後の心配も、きょうの心配もなく、たゞ自分の仕事に精を出していれば、通っていける、そういう世の中の仕組だったらやりがいが感じられると思います。ところが今はお金のためにはかえられないというので仕事に従っているのじゃないか、ことに都会の勤労者がそうじゃないかと思います。だから生きがいや、やりがいを、うっかりするとレジャーとかレクリエーションに見出しているのが、今の若い人たちの人生観じゃないかと思います。実は、仕事にやりがいを感じて余暇をもった時、初めてのびのびと心を解放し、肉体も休め、またそこから自分の創造的なものを作り出すことによって、また明日の仕事に生きがいをもちながら取り組めるということを私は理想としたいのです。それにはみんなで支えあって、お互いの基盤的な所を安定させる世の中の仕組みにしなければそうはならないと思います。今は若い人は子供の養育費、中年になると老後の生活の安定ということで一生懸命金をとることに汲々として、そのためには少しでも余計にもらえるほうにいって、自分の喜びとか誇りを捨てゝお金にふりまわされている形でしょう。これじゃあだめですね。今、農家の人が自分の仕事に絶望感さえももっているのは、農業というものが絶望的だからです。都会の人たちも、レジャーや消費文化だけにとびついてうさをはらしているのは、やはり将来についての安心感が得られないからです。この問題は小さな仲間だけの相互扶助だけではとても及ばない国民全体でお互いを支え合っている安定性のある社会保障が充実されなければなりません。そうすれば、病人ができたからといって普段貯金しておいた金をその人にやらないでもすむ、それが私はほんとうの連帯感というものじゃないかと思います。いまだにそういった連帯感が不足しているというのは、社会保障の不備にあると思います。私たちがほんとうの連帯感をもって社会人の一人として暮らしているのならその連帯感から社会保障を充実させるはずですから強く要求し

ない。社会保険が充実していればお互いがお互いを支え合っていくという考えが生まれてくると思いたい。そんなことを生きていく理想にしたらどうでしょう。そういう社会が、やはり一つの福祉文化をもった国だといいたいのです。

もし私たちがこういう生活文化の問題を究極のところに求めるならば、そういう福祉政策が私たちの生活の中に作り出してくれるものであり、一つの輝やかしい文化ではないかと考えたいのです。

渡辺敏子（特・オブ）　先ほど先生がおっしゃった兼業農家と専業農家は、昭和三十年は専業農家が二百十一万戸、これに対して第一種兼業農家が二百二十七万戸、第二種兼業が百六十六万戸。専業と兼業の比重は兼業農家のほうが六十五％です。それが三十八年十二月末は専業農家が百三十九万戸になり第一種兼業が百九十八万戸、第二種兼業二百四十六万戸で、兼業農家が七十六％という結果になっています。兼業農家が多くなったということは主婦の労働が多くなっているということです。兼業農家の母親の疲労度が大きくいわれておりますので、皆さんもお帰りになって、そういうことをとり上げていただきたいと思いますが、農村のおかあさん方がどんなに疲れていらっしゃるかということをお聞きしたいのですが。

立野　私の娘はすゝんで農家にお嫁にいきました。うちに帰ってきますと、とたんに眠って翌日も眠っています。そして一日半以上眠って夕方、「朝かと思ったら夕方ね」と言って起きてきます。一口に言ってそれほど疲れます。

日下　神戸から岡山にきた時に、朝一生懸命お掃除をしたら、はゝが、農家にきて掃除をしたら日が足らんというのです。天気の日に洗濯をしたらいかんという。今、兼業農家となって初めてその意味がわかったのです。お天気の日に掃除をしていたら農業が遅れますし、洗濯も夜しないと仕事ができません。

渡辺（リーダー）　そのことを、昨日話合いを始める前に皆さんに申し上げたはずです。前に、初めて顔を合わせた時にテーブルスピーチで、農村の婦人は健康で人間性のあふれた美しさをもっていただきたいといったのはそこです。それだけでは足りないのです都会と同じようなおしゃれのできる農村婦人になっていただきたいと申し上げたのです。なぜそれを強調したかというと、あまりにも農家のご婦人一般が肉体の過労と、栄養に対する関心の不足から、健康が低下しているからです。これは大事な問題です。

日下　お化粧をしたのは、お嫁に来てこの一週間が初めてです。

酒井　富山は農外収入が一番多いといわれますが、農家の主婦は神経痛と胃病と婦人病が大へん多くなったということです。それともう一つ精薄児が生まれます。それは農家の主婦の過労の時期に生まれた子に多いというデーターが出ています。この問題については私たち心配して、対処するように考えているわけです。

渡辺（リーダー）　それでもなお兼業農家が田んぼ、畠から思い切って離れられないということが、さっきの問題につながるのですね。畠三反でも、もっていれば安心があるのです。食いっぱぐれがないと。どんなに私たちの生活が不安定か、そこにも出ているわけです。思い切って都会に出ていけば農村にいるよりもよくなるが、年とったり、不景気になったりしたら都会はどこまで保障をしてくれるか、それがないために自分の生命をすりへらしながら、農家の婦人が働らいている。悲惨とも残酷物語です。

上島　私のうちでも兼業農家にするといったのですが、絶対いやだ

といっているのです。資金が借りられるので土地をふやして、女の労働を軽くするようにと田んぼをふやしてくれたのです。いくらかやるくらいで間に合うのです。土地をふやすのは簡単にはいかないですけれども。

渡辺（リーダー）　旦那さんがお百姓をやっていらっしゃるのですか。

上島　やっています。冬の間は遊んでいるのももったいないから外にいっていますが。

渡辺（リーダー）　とび地をもっていたのでは将来困りますね。いつも自分の中心になる土地のまわりにもっていないと。

上島　幸い近所にあったものですから。

渡辺（リーダー）　昨日から皆さんといろいろ話合ってきた中で、問題になるのは、古い考え方から出た新しい生活様式の取り入れ方のアンバランス。新しい様式を取り入れるためにお金がかゝって、そのお金を追いかけることで別のアンバランスがおこっていること、また話を深めていくと、生活の基盤が不安定なこと、そこに実はアンバランスの根があるというように問題が深められてきたように感ずるのです。すると一番の根は私たちの生活が不安定だということですね。これを安定させて初めて私たちの生活様式も安定した姿で、生活の中に文化として花を咲かせることができる。今はそれが花になっていない。もちろん実にもならない。昨日からの話合いを考えてみるとそんなことになって、結論が出そうですが。

井上　話があとにもどりますが、兼業農家の主婦として、一番困っていることは、主人と私との生活が大へん違っていることです。主人は職場で綺麗な服を着て働らいている。私は泥んこになって田んぼから帰ってくる。なるべく主人より早く帰って着替えるようにしますが、それが間に合わない時は辛いのです。食事にしても、主人は好が違うのです。主人のほうが大事だと思っていろいろなものを作ると、しゅうとの問題もあるし、労働力も負担になって苦しいのです。それからお掃除も、洗濯も同じことだし、お風呂なんか遅く帰って、いたら寝るまで泥んこでいなくてはなりませんので、お昼に帰った時にお風呂をたいておくのです。そして夕方お炊事をする前に、主人が帰って来るまでにはいって浴衣に着替えるという苦労をします。朝晩、絣の着物ではあきるだろうと昼だけ絣のもんぺを着ています。

渡辺（リーダー）　その気持が旦那さんに通じたら旦那さんも早目に帰ったら風呂くらいたこうということになりますよ。

農家の主婦は着物を着替えることが億くうなのですよ。

農家の台所を板張りにしたらというのですが、土間で地下足袋のまゝ炊事をしたほうがいいというのですね。どろどろのもんぺ姿で炊事をし、食事をする。衛生的にもよくないと思いますね。そして主婦がお風呂にはいるのは十時から十時半ごろ、それまで着替えないのです。それは忙しいからでなく、自分の生活をよくしようという意欲がないのだと思います。もう一べん、主婦に反省する必要がないかと思うのです。

井上　近所の人に聞くと、主人が帰ってきても泥だらけでいるというのですが、それがいやなのです。

中村　一日中きりきり舞いで働らいているかというと、無駄な時間もあると思うのです。それでも美しく暮らそうという気持がないのです。

井上　一日仕事をしていなかったように笑うのです。

中村　長いものを着ていると気兼するといいますね。仕事のない時でももんぺはいております。すると人がなんにも言わない。ところが長い着物を着ているとどこへ行く、というのです。

井上　主人は外に行って綺麗な人ばかりみているから……。

渡辺（リーダー）　なるほど、僕らうっかり気がつかない悩みですね。

中村　専業農家でもそうですね。

渡辺（リーダー）　農村の婦人がおしやれをする時がきた時、ほんとうの幸せがくると思います。

井上　髪でもセットは自分で夜巻くのです。すると近所の人から、いつもセットしてお金がいるだろうと言われます。ほんとうに気兼があって……。

渡辺（リーダー）　一つ感心したことは、自分が一番先に風呂にはいれるということです。

日下　大へんな勇気です。

井上　太ももまで水につかるので十二時ごろさで冷たいのです。

渡辺（リーダー）　その勇気を他の面でもどんどん出して下さい。あなたが綺麗になって、サービスする気持を、旦那さんに直接訴えるのですね。たまにはお掃除くらい手伝ってもらうといいですね。今の若い人の共稼ぎの場合は旦那さんが手伝いをしています。

井上　それがそう思ってくれないのです。

立野　私のまわりの若いお嫁さんが、「一カ月に百円でいいから自分で自由に使えるお金がほしいと思いますが、どんなふうにしたらいいですか」と泣きながら話すのです。何をするかというと、クリームが買いたいというのです。

渡辺（リーダー）　そういうことからも簡単な気持で日銭稼ぎに出ていってしまうということになりますね。婦人週間が始まって十七回、婦人会議が始まって十三回、毎回こういう問題がとり上げられてきたのですが、農家の人間関係は古いものをいまだに残しているということで。今度は文化という新しい課題で話合ったのですが、内容は第一回と変らないということですね。

井上　嫁であるという考えからぬけ出せないのです。皆さんは卒業した方ばかりのようで……。

大塚　井上さんと反対に、最近のお嫁さんは発言力はあるし、強くなっているというのですが。

上平　しゅとさんが嫁を呼ぶのにさんづけになりました。経済も、農業の収入はしゅうと、しゅうとめさんが握っておりましても、若い方は他に出て収入がありますし、しゅうとめさんもわかってきております。

井上　この間、嫁さんの人気投票をしたら一位だったというのです。どうしてかというと、おとなしくて頭が低いということなのです。

渡辺（リーダー）　そういうほめられ方はいやですね。

大塚　農村ではそういうお嫁さんがほめられるのが一般のことですね。

渡辺（リーダー）　お嫁さんの価値観を変えていくことですね。てきぱきと行動して頭が高いくらいの嫁さんがいいのだというくらいに。

大塚　一つ欠けているのは感謝の気持が薄らいでいるのではないでしょうか。おかあさんが嫁さんのものまで洗ってやるようになっているのに。

渡辺　私ども嫁生活をしてきました。三十五過ぎて初めてそういう気持になりました。考えてみると、乳のみ子をかかえて、洗濯は

みんなが夜寝てからするというような生活でしたので、ありがとうという言葉は心の中で思っても口に出して言えなかったのです。おしゅうとさんが何を要求しているか知らなかったのです。口先でもありがとうという言葉がほしかったらしいのです。自分も年とって、心の上で成長したと思うのです。自然に手をとって、ばあちゃんこんなにしわがあるのだね、貴重なしわだったんだね。と言ったら、そうだな、と言って見せるのです。その時初めて嫁、しゅうとの境がなくなって何十年やってきた大事な手なんだなと感謝の念がおきてきたのです。そしてそれが愛情にかわってくるという気がします。いざこざもありましたし、ひまをとろうかといったこともありましたが、今では案じるのはしゅうとめのことばかりですね。母親もそばにいますけれども、嫁さんがついていてくれるから安心しています。

渡辺（リーダー）　もう一つ、皮肉な見方をすると、嫁が可愛いくて洗濯をしているのか、嫁に出ていかれると困るからサービスしているのか。

大塚　そういうこともたしかにありますね。

立野　今の若い人は心に思っていても素直に口に出さないのじゃないでしょうか。小さい時からのしつけということもあるのじゃないでしょうか。

大塚　家庭教育だと思いますね。

立野　素直にありがとうといっていたなら、お嫁にいってからも簡単に口から出るけれども。

渡辺　静岡県に行った時、ありがとうという言葉がとても嬉しく感じたのです。ほんとうにいい言葉だなと思って、家に帰ってすぐ、「はい」と気持よく返事をすることと、「ありがとう」と言うようにけいこしょうとしたのですがなかなか実行できないのです。

大塚　私どもも、なかなか実行できないですね。

中村　改まって言うことがてれくさいような感じがするのですね。

大塚　自然に出てくるはずですがね。

渡辺（リーダー）　家族の間ではありがとうとか、感謝とか、家族同志の中でむくいを求めてはいないと思います。だから僕はしいて家族の間で言う必要はないが、他人の間では必要なエチケットだと思います。

大塚　ありがとうと言ってもらいたいというしゅとめさんはむくいを求めているからですね。

渡辺（リーダー）　家族同志は無償のものですね。これがほんとうの愛情ですね。だから逆にいえば、逃げられると困るからサービスしているのじゃないかと思います。私がまとめをすれば簡単にまとまるのですが、それよりも問題の一つ一つを皆さん一人々々でまとめを出していただきたいと思います。昨日話合いにいった最初の問題から、冠婚葬祭など村づき合いも皆さん大へんに重圧を感じていらっしゃる。それがだんだん改善されてきた話も出ましたが、そういう冠婚葬祭などの問題について、一番の根本的な問題点はどこにあったのか、それを一つ、どなたでもいいですから。

きょうまたその問題からさらにもう一回復習したはずですよ。これは農村をきつくしばりつけている問題であるようだし、日本人全体をしばりつけている問題で、日本の文化の一番低流にある問題だというように私は理解してお話合をしたわけですが。

大塚　先生にまとめていただいたほうがいいと思いますけれども……。

酒井　封建性と因習があるからと思いますね。

渡辺（リーダー）　あんなにきょう復習したばかりなのに……。

渡辺　体面と義理といいますか……。

渡辺（リーダー）　そこから出てきているということですね。体面を重んずる人前が恥ずかしいということから出てきている。いろいろな、冠婚葬祭などで私たちを苦しめているのはそれが一番の根本にあるからではなかったのか。一方今度はその義理を受けるほうでは、体面が先にたって、体面上恥ずかしいということで余計な苦しみをしている。義理というものは心の全然ないものだ。義理でつくす礼は虚礼だと、そこまで断言したのです。ですから皆さんがお祝いに物をやりとりするのに、自分でもほんとうに喜こんで上げたいという気持があるかどうか反省していたゞきたい。そういう気持なしにやるのなら義理で自分を苦しめていることになる。そしてまた相手も苦しんでいる。そういうことだったら、早くそこから抜け出そうじゃないかということを申し上げたのです。

いろいろな文化の問題が話合われましたけれども、結局、日本人のものの考え方の上のパターンなんです。義理を重んじるという考え方、そこからいろいろな問題が出てくるのです。それが日本文化の根底にあるのじゃないでしょうか。それで日本の冠婚葬祭は、実より形式が重んじられ、ますます多額のお金がかゝるように、形式第一の姿に変っている。そこに大量消費というコマーシャリズムがさらにのしかゝって、一そうお金をかけさせる拍車をかけているのです。テレビや新聞の広告などそういうコマーシャリズムに、押し流されて次から次へと欲望をかりたてられて、豊富の中の飢餓感に陥り、いくらものを買っても足りないような気がしてくる。そのために農家では現金収入が必要になって、勤労することにきびしさも自覚ももたずにうかうかと日銭稼ぎに出ていって、残していった子どもに対して親としての愛情の注ぎ方をはずれてしまっている。もし働らくことのきびしさを自覚して、子どもを家に置いていく母親だったら、子どもとの愛情の交流に大きなアクセントがついて、きちんとした愛情がそこから生まれるはずなのです。つまり、勤労のきびしさを自覚しないで、出ていくので自分の働らく姿勢もだらけたものになり、それが子どもにまで及んでいるのではなかろうか。そういうことから都会の鍵っ子、農村では鍵のない鍵っ子が非行の淵にたゝされているという問題が出ている。昨日はそういう問題を具体的に、個人の家庭生活の生活様式の中で、話し合ったわけです。電化製品が私たちの家庭に随分はいっていても、もともとそれをとり入れる時の考え方が、隣も買ったから、というような気持で買っているために、便利な品を使い切れないでその能力を充分発揮させていない。その反面、機械とほんとうにとり組んでいる人は、機械についての知識を身につけて、機械の故障にぶつかったその時にはなんにもごまかしができない、機械のもっている合理性を機械から教わっていく。ところが便利な、合理性だけで作られている電化製品を合理性のために手に入れたのでない人は、機械から学ぶことも甚だうすい。そこで、そういう正しくない態度で買いこんだ機械だったら、もう一ぺん機械の合理性を見通し、機械のもつている合理性を自分の生活の中に学びとりましょうということだと思います。

きょうはそこからさらにマス・コミの問題にはいって、今の大衆文化の中でマス・コミの果たしている役割について話合いまし

たね。あまり報道的な番組については語られませんでした。皆さんはそういうものを余計に見ているということだったので締麗に通過してしまったのですが実はそういう番組よりも、もっぱら娯楽番組、しかも非常に感覚的に刺激の強い番組によって、わずかにそれに感覚的に反応して、辛うじて昼間失なっていた人間性を夜のテレビ番組の娯楽から、非常に浅い人間性の回復を求めているという問題がありますが、それではいけない。またレジャーによって、そこで私たちは楽しみを得て、人間性の回復に必要な栄養をとって、緊張した心をほぐしているわけですが、それだけではまだまだほんとうの心のほぐしにはならないし、自分という人間性を確めることもできないし、さらに発展させることは程遠いのではないか。そういう消費娯楽では心の一部をほぐすだけでもっと深いしこりをほぐすには創造的な娯楽をもたなければならないのではないか。たとえば、お金のかゝる生活改善はできないから手作りで生活の改善をやっていきたいという、それがきっかけになって、作り出すということはどういうことか。それは人の作ったものを自分の気持で味わうことも一つの作る楽しみになるのではないかという意味も含めて、たとえば団体で観光旅行に出ていって、野道を歩きながらでも、ひとの作った一句でも口ずさむだけでさえも開放感以上の人間性の回復を求められはしないか。さらに発展すれば、自分でも歌を作ってみたくなるのじやないか。さらに生花のお話に発展し型にこだわる必要はない。手当り次第に自分なりの美を作り出すこと、それは単に部屋の装飾としてでなく、ものの在り方にも美を求める心の配慮が生れるのではないか。たとえば本を並べるのでも、何かそこに美しい並べ方を自分で作り出す人間になりはしないか。

そういう人間になれば一そう私たちは幸せではないか。そういうところまで話は進んだのだと思います。ところがたまたま渡辺さんから北海道の冷害凶作地の農家がどんな苦しみに会っているか、しかも冷害でなくとも二十五町歩作っている農家でさえも明日の希望のもてない現在の農業というお話がもち出されて、いろいろ農業について絶望的なお話がでた。兼業がふえていく。しかも三反四反という、ほとんど生産性のない経営規模によりすがっていなければならないのはなぜかというところまで進んだわけです。そこで個人の家庭生活の幸せを支えるものをいくつか大きくとり上げて三本の柱を出したわけです。先ず第一は、掘立小屋の暮らしでは幸せとはいえない。現代の文化が生み出した新しい生活手段が揃っていればいるほど基礎的には生活の一本の支えになっている。しかしそれだけで幸せだというわけにはいかない。やはり家族がけんかをしていれば、幸福な思いはしないだろう。そこで家族のほんとうの平和を考えると、世代の違いもあるだけに考えも違っているし、男と女でも違っている。しかしそれらを理解し合い、認め合った上での血のつながりの愛情に結ばれた人間関係、これは個人の家庭生活を支える大きな柱ではないか。しかし毎日自分たちが追いまくられているが生きがいを感じて毎日の仕事に従事したい。仕事は仕事、楽しみは楽しみ、喜こびは別な所にあるのだという割切った考え方がある。みんながたずさわっている部署、これは社会の組合わせの一つのこまである、それがそんな情熱のない、使命観のない取組方ではこれ以上の発展は望めないのではないか。私たちは、自分たちの従事している仕事にやりがいをもってこそ幸せといえるのではないか。今の農家の人たちは電化製品は揃って、家族の和合もあるが、前途に絶望をもっている。農

業を生がいのある、やりがいのある仕事だと思えるようにしたいと苦しんでいる。そのことからもやりがいのある仕事、が私たちの個人の家庭の生活を支える大きな柱の一本だと考えることができるのではなかろうか。しかもそういう考えになれないのは私たちの生活の基盤が不安定であるからだと皆さんが気づかれたはずです。それは小さい小さい場で、わずかな仲間で相互扶助をするのもいいことには違いないが、私たちの不安定な生活の基盤はそういう狭い相互扶助だけでは救いきれるものではない。社会全体がみんな支え合っているという連帯感をほんとうに自覚し、いつも少しでもより幸福であるようにお互に支え合うことが大切ではないか。それを求めるならば、政治の上でも社会保障が充実されることである。そして老後の不安も、子どもの教育にもそれほどの心配もなく、日常安定した生活基礎の上で仕事にとりかゝれる立場に立ったら、私たちは使命感と、生きがい、やりがいを感じているのではなかろうか。そういった福祉的な生活、これこそほんとうに日本が文化国家といわれる、その裏側にある生活の実体であらなければならないはずだ、私はそういう生活を熱願して、問題を政治に向けて、私たちは主権者として、私たちの公僕である公務員をはじめ議会に出て政治をしている代議士たちに、私たちの訴えを実現させるのが、私たちの務めではないか。それには生活の学習と同時に政治の学習をもっともっとやらなければならない。文化国家の裏側にあるものを私たちは福祉国家といいたい。この両面が一致して初めて日本の文化も発展する。伝統のあるいいものを残し、悪いものは切捨てゝ、さらに新しい生活様式を智恵と工夫で生み出していく。そして私たちの文化を発展させていくことができるのではないか。それには苦しみのもとになっている義理と恥、そういうものの発想の仕方、そこから出てくる考え方をなくそうではないか。文化は単に生活様式ではない。私たちの思考様式が生活様式と一致していなければならない。あまりに私たちの思考様式は不合理きわまるものである。一面で合理性をもっても、それが私たちの生活には生かされていない、ということを話合いの中でわかっていただけたのではないかと思います。

長い時間御苦労かけたゞけで、水の泡になっては困るので、どうか今のようなことをもう一べん繰り返して考えてみていたゞきたいと思います。

渡辺（リーダー）　それから、きょうちよっと助言するひまがなかったのですが、新聞の商品広告に注意しているということは消費者として大事なことで、消費者は商品知識を身につけていなかったらかしこい消費者になれないので、広告はかなり飾り言をいいながらも正体をどこかに出しているのですから、商品知識を身につけて、かしこい消費者になっていたゞきたいと思います。

終

第三部会

会議員

秋田　山崎　絹（竹材販売）
山形　漆山慶子（無職）
茨城　荒川和子（無職）
千葉　山崎静子（無職）
新潟　藤田クミ（無職）
石川　長林澄子
静岡　中西博子（無職）
京都　井上良子（公務員）
大阪　藤本フミ子（喫茶店経営）
兵庫　古田秋子（小学校教員）
和歌山　林　光子（無職）
広島　大野允子（無職）
熊本　拓植周子（無職）
大分　川下八洲子（小学校教員）
宮崎　永野見央子（会社員）

リーダー　岡部慶三（東京大学助教授）

特別オブザーバー

吉村ひろ子（日本キリスト教女子青年会）
水沢耶奈（婦人民主クラブ）
大友よふ（全国地域婦人団体連絡協議会）

第一日目　四月十三日　一三・〇〇～一七・〇〇

岡部（リーダー）　これから、文化という問題についてお話し合いをするわけですが、どうも、文化などというと、高尚なことのような気がして、何となく私自身かたくなるような気分になりますが、ここでは、ごく平たい気持ちで、お話したいと思います。

このテーマは、大へん広い問題で、どこからでも話がはじめられますし、それだけに、とりとめのない話になる危険もありますので、できることなら、気持にいちばんひっかかりしたところで、話し合つて、次第に焦点をしぼつていくというやり方をとりたいと思います。

もう一つ、ぼく個人の意見ですが、このテーマは結論を出したり、決議を出したりという性質のものではないと思いますので、ここでは、こういう問題をかかえているのだということ、また、こういう問題を考えなければならないのだというようなことを、少し整理してみたいと思つているわけです。

それでは、どこからこのテーマにとりかかるかということなのですが、私が皆さんの所感文を拝見しまして、そこから出てきた問題点を、いくつか箇条書にしたものを印刷して、皆さんのお手もとに差上げてあります。もちろんこれにとらわれることはないと思いますが。時間の経済からいつて、一応これをもとにして話をすすめていつたらどうでしょう。

私がとりあげた第一の問題を読んでみましょう。

1　生活様式の変化を考える。

(1)　近年来物質生活のめざましい進歩に比べ、精神面では立

ちおくれが見られるという。その具体的なあらわれを私たちの日常生活のなかから拾い上げてみよう。

(2) 実生活の進歩にさえとり残された人びとは、今なお少なくない。私たちの社会の文化の問題として、これらの人びとのことをあらためて考えてみたい。

これは、われわれの生活の物質的なレベルは、いろいろな方面で向上しているようだが、さて、われわれ自身考えると、何かものたりないものがあるというようなことを訴えている所感文を拝見しましたので、何がものたりないのかということを、もう少しはつきりした形でつかんでみたい。こういうことで自分は悩んでいる。不安をもつているというようなことをまず最初に話し合いたいと思つたのです。

そうして次に、統計的には、たしかに世間の半分以上、七、八割の人は、物質的な水準が上がつていると思うが、そうでない階層もまだありますから、そういう階層の方々の文化の問題も、これはやはり自分たちの問題として考えてみたいと思つたわけです。それで、さしあたつて、文化のアンバランスというようなことを、少し具体的に話し合つてみたらどうかと思いますので、どなたでも、ご意見を述べていただきたいと思います。

藤本　私が書きました所感文について申しますと、最近、若い人でも、人手不足の問題から、たいへん高給を取るようになりまして、宿舎などもデラックスになり、今まで考えられもしなかつたような生活をするようになつて、物質的には、たいへん恵まれている世の中になつたと思いますが、その反面に、職業についてからの将来の希望というものが、もちにくいような感じがします。将来どういうふうに自分はしていつたらいいかという目標が立てられない。お金を握つているから、休みになれば音楽喫茶にいくとか、享楽の面で使つてしまつて、自分の職業を通しての勉強をしようという意欲がたりないような気がします。二くちめには、何かいいことないかなあという、棚からぼたもちのような、あまい考えの人がふえていつているような気がするのです。

岡部（リーダー）　その、「いいこと」というのは、どういうことなんでしようね。

藤本　たとえば、何か、ぽつともうけられないか、というようなことなんです。努力しないで、何かつかみたいという、一覚千金というふうな感じが若い人に——みんながそうではないでしようが、そういうふうな空気が見られるというのは、今までのように、若い人は、小さい商店に勤めましても、のれん分けしてもらうとか、一つの目標とかがあつたが、このごろは、機械のねじをしめているだけとか、ごく単調な一部分の仕事をしているだけで、職業そのものから、一つのものをうみ出していくというような希望がもてないんじやないかと思います。

中西　私は、きのう静岡の浜松から東京へくる途中で汽車に乗りこんできた若い人たちの話をたいへんおもしろく聞いて、勉強しながらまいりました。いい体をして、立派な格好をしている若い人たちが、何かいいことないかなといつて、大勢どやどや乗り込んできました。その人たちの話をそれとなく聞いていて、どこかの工場か商店に勤めていて、たまの休みで出てきたのでしようが、それにしても、気がまえとか、そういう話が一つも聞かれなかつたことに、何か、がつかりしたような気がしました。

井上　今の、〝何かいいことないかな〟ということは、私たちの職場でも、私くらいの男の人は、あいさつがわりに、〝何かいいことないか〟というんです。

岡部（リーダー）　井上さんはどちらにお勤めですか。

井上　京都市役所です。一般的な風潮として、たしかにそういうことがありまして、それは喜ぶべき現象ではないけれども、昔のように、自分の仕事が自分の性格に結びつかない職種がふえておりますから、仕事じゃなく、別の世界で、若い人は何かみつけようとしているのじゃないかと思うのです。

岡部（リーダー）　〝別のところ〟ということに、大きな問題があると思いますので、ちよつと職業についての考え方、とくに女の方から見た今日の男性の職業観、また女の方ご自身の職業観について、もう少し話したいと思います。

大野　私は十年ほど高校の教師をしておりまして、職業指導をやつていました。全部男の子です。大きい会社にはいつて、サラリーマンになつていくのと、小さなところでも、自分の素質にあつた、自分の根生をみがいて伸ばしていけるような会社にはいりたいというのと、二つのタイプがあります。大体は大きな会社にはいつて、のうのうといい月給をもらいたいというタイプですが、一割くらいは、そうでないひともいます。そういう、小さなところでいいから、自分の個性にあつたいい仕事をしていきたいという希望をもつているものを小さな個人企業などに世話しますと、それが一年たらずでつぶれてしまうというようなわけで、それほどに、現在の社会は考えさせられるものをもつていると思うのです。

岡部（リーダー）　女性が職業をもつ場合、学校を出て、ほんの一ときの腰かけくらいのつもりで就職するというタイプが多いということを所感文に書いていた方がありましたが……。

井上　必ずしもそういう人が多いというんではなくて、結果としては長くいるにしても、はいるときの動機は、そういう軽い気持ちの人がいると思います。今は民間会社でも、割合男女差別がありませんからいいのですが、しかし、ほんとうに、その女性が深い意味で、まともに仕事をして、伸びていくという年令になつてくると、女性は結婚とか、産休とかいつた問題にぶつかります。それが「しわよせ」になるというと誤解がありますけれども、そういうことのために素直に伸びていけない。そういう点がひじように問題だと思います。

岡部（リーダー）　要するに、女性が職業をもつて結婚しても続けられるだけの、社会的条件が熟していないということですね。それはたしかにあるでしようね。

藤本　ほんとうにそうだと思うんです。女性は腰かけのつもりで働くから、重要な役につけないといいますけれども、結局、花の間は職場の花としてちやほやしておいて、だんだん花でなくなつてくると、もう出ていつてほしいというような空気で送つていくという、そういう社会の考え方に矛盾があるのだと思います。

私は、自分の家で店をしておりますが、店をはじめてから二年めに主人を亡くしました。それで、とくに若い人たちにはいうのですけれども、近頃のように文化が進んできて、自動車などが多くなりますと、交通事故など思わぬことで未亡人になる人もふえているから、そうしたときに、私のようにそろばんもできないし、事務もとれないということでは、家族をしよつて立

つているだけの自信がもてないから親子で自殺しなければならないような悲劇が起りかねないと思います。だから、いわゆるお嫁にいくまで就職するというのではなくて、何か自分で一本立ちできるような技術を身につけていくということを、女の方は考えたらいいのではないかと思います。

藤田　私は子どもができたとき、共稼ぎをやめようか、仕事を続けようかと、ひじように悩みました。結局、職場には、私の仕事をかわつてやつてくれる人もいるけれども、母親として、自分の子どもを育ててくれる人はほかにいないと思つて、私は家庭にはいつたわけです。しかし、やはり自分は、いつの日にか、また社会に出て、自分の仕事をやつていけるということについて、確信をもつております。

井上　以前どんなお仕事をしていらつしやつたのですか。

藤田　私は最初、赤十字の仕事をしておりましたがそのあと、学校の擁護教諭をしておりました。看護婦はひじように不足しておりますし、自覚をもつている人は多いんですが、やはり病院では三交代ということで、職場につけない人が多いわけです。私は、擁護教諭として勤めておりましたからその点では、続けられたのですけれども、やはり子どもの教育という面からやめました。

中西　私も結婚したときに、主人と家で小さい工場を経営しておりましたけれども、子どもが生まれてからは、工場の仕事に精を出すか、母親として子どもを育てていくことに専念するかということに迷いましたけれども、せめて下の子どもが十歳を過ぎるまでは、育児に専念すべきだと確心して、育児だけに専念してきました。今は子どもが小学校の四年生になつて、手がかからなくなつてきましたので、急に元気がでてきまして、主人の仕事も片棒をかついでいますし、学校のＰＴＡとか婦人学級にも出ていつて、若いおかあさん方をひつぱつていこうと思つて、勉強しているわけです。やつぱり私は、女というものは、ある期間家庭にはいつて、そして子どもが比較的成長してから後、また働き出せばいいと思つていますが、皆さんのお考えをうかがいたいと思います。

井上　今お二人のおつしやつたことどもつともですけれど……。私一年ちようとの子どもを保育所にあずけて勤めております。看護婦さんのように技術をお持ちの方は、自分の都合のいいときに勤めるということも可能ですし、ご自分で商売をなさつている方は、多少の融通もきくわけですが、ふつうのサラリーマンは、一度ひつこみますと、ほとんど職場にもどることは不可能なのです。家庭にひつこんでも、経済的に成り立つところは、それでいいでしようが、共稼ぎでないと生活が成り立たないという者もいるので、一概に、家庭にはいるべきだといわれても、つらいところです。

それから、きのうも部屋で話がでたのですが、女が必ずしも育児の適任者かどうか……。もちろん母親ですから、子どもに愛情があるのは当然ですが、育児という面には精神的な面と、技術的な面とを含んでおりますので、そういう意味では、保育所の保母さんのほうが育児の専門家ですから……。

私、京都府の育児問題のデーターをみたのですが、むしろ家庭で一対一で育てていることどもよりも、保育所で育てたこどものほうが、社会的な反応などの点で、すぐれた面をみせているということがでております。もちろん、一般的にいいますと、保

育の実情は、けっして十分とは申せませんし、現実は、たしかに問題を含んでおります。

岡部（リーダー）　育児の問題は、最後のところで取上げる予定にしておりましたので、あとにまわしていただいて、第一の問題の、精神生活のおくれ――内面の空虚さみたいなもの、現在流行のことばでいえば、疎外感というようなことを、家庭の主婦がどうとつているかということについて話しあつていただきたいと思います。

古田　私、子どもたちをいつもみていて感じるのですが、ピアノをならいにいかせたり、おかあさんが宿題をみてあげたり、子どもにいろいろなことを教えてあげて、おかあさんが世話をやきすぎるのではないか。むしろ、子ども自身が勉強するという意欲を、どうしたらひき出せるかということのほうが大事ではないか。ピアノをならいに行つて、むずかしいものはひけても、夕やけこやけなんかは知らない。そういうアンバランスが感じられるのです。

岡部（リーダー）　きのう、どなたかのお話にありましたが、机なんか立派な道具がそろつているけれども、ちつとも勉強しない。これは、おとなでも本を買つてきて、ちつとも読まないというのと同じですが……。

藤田　ほんとうに、部屋の中には百科辞典だ全集だと、何でもそろつているんですけれども、ゆつくり読むようなことをしません。やることが多すぎるというのか、幅が広いというのか、ダイジエスト的に縮めたもので知識を得てしまうとか、映画や、三十分のテレビでみてしまつたという。もつと落ちついて書物を読むようなゆとりがほしいと思います。

中西　音楽教育というと、ものすごく値段の高いピアノなんかにおかあさんがとびついて、何かピアノをならわしているというのが文化といいますか、音楽のレベルがあがつたような錯覚をおこして、そうして、無理をしても、おかあさんが内職してまでも、よそへ勤めに出てまでも、ピアノを買つてやろうというおかあさんが多いんです。無理してそんな高いものを買おうとしないで、もつと身近な面で、文化を高めることができると思うんです。

長林　今のご意見に、私賛成です。本でも浅くしか読まないということですが、心のもち方で、どうにでもなると思います。私の場合、植物に関心を持つておりますが、いろいろ質問したり、植物図鑑なんかをみてすましていたのですけれど、今度は実際に根つ子を堀りおこして、深く調べているうちに、子どもも興味をもつようになつて、このごろは顕微鏡がほしいといいだしました。そのうちに、主人もいつしよに勉強するようになりました。それで、学校の先生にばかりまかせておくのでなくて、親の教育いかんによつて、いくらでも、よく考える、よく研究する子どもができるのではないかと、私は痛切に感じたのです。

川下　私たちは、物質面でたいへん恵まれた生活をしているんですけれども、現代では、正しい知識をもつた選択力というものがほしいと思います。自分の生活も顧みないで、やたらに目の前にぶら下がつているものを使つたり、見たりする。先ほどの植物図鑑の話ですが、植物図鑑そのものは、私は一人の理科専攻の教師として、子どもにはほしいものと考えておりますが、やはり、教育というものは、ただ目の前にぶら下つているものを教えたからといつて万能ではなくて、とくに、身につける、体

験させる、時間をかけても、それを身をもつてやらせてみるということのほうが、あとで残るのではないかと思います。

漆山　何か今のおかあさん方は、子どもに教育を受けさせて、学歴をつけさせるために働いているのではないかと思われる点が多々あります。それも、深く考えてみましたとき、学歴は財産である、というような下心があつて、老後のことは子どもに期待しないといいながらも実際は、子どもに大きな期待をかけているんではないかと思うんです。

林　そういうことは、和歌山でもひじように問題になりました。小さいときから名門校に入れようと一生懸命になつているおかあさんが多いですね。

古田　私も教員をしておりますので、よく、子どもさんの勉強をみてあげられていいですね、といわれますけれども、私としては考え方がちがうのです。私自身一生懸命働いている姿を子どもが見たら、子どもたちは子どもなりに、一生懸命自分の勉強をするようになるだろう。それでいいと思うんです。どうしても自分の力を社会の中で生かしてみたいということと、共稼ぎをしていながらも、幸せな家庭を築きたいという二つの欲望にぶつかるんです。子どもたちは、いい幼稚園にやりたいなということでなしに、子どもが大きくなつたときに、おかあさん一生懸命生きてきたわねといつてくれればそれでいいと思うんです。

先ほど、子どもが小さいときには、十年くらいめんどうをみて、手が離れたら、また自分のことをしたらというご意見がありましたが、免許証をもつていても、一たん職場を離れると、再就職しにくいのです。

現在私、子どもが三人いますけれども、母もなく、お手伝いさんにあずけて働いていますが、将来、子どもたちにたよるということは、近ごろ少ないんじやないかと思います。

大野　私は、子どもがいないのですが、教育のことには少し今のおかあさんはどうも、私がついていなければと、自分の存在と子どもをびつたり結びつける傾向があるように思うのです。子どもはおかあさんがくつついていなくても、育つていくものだという考えに立つて、私は、おかあさんである前に、女であり、人間であれといいたいのです。子どもの母親であると同時に、職業人であるということを大切にしているおかあさんを、私は、立派だと思つて見ています。

それから、精神面で、私の仲間に、六〇才の方で、自分は、今まで経済的にも困らないで生きてきたけれども、とにかくむなしいというんです。老後をいかにして生きるか。今まで、どうも自分は何のために生きてきたか考えてみると、自分の生き方がない——そこで、ものを書くということをしている人がかなりいます。

近ごろのおかあさんは総明ですけれども、自分自身というものをもう少しみつめて自分というものをおもちになる必要があるんじやないかと思います。

井上　ただいまのお話は、私たちの立場を弁護するようなお話でありがたかつたんですけれども。私、子どもが大きくなつて、私が共稼ぎをしたために、おかあさんなんかいやだと、仮にいわれたとしても、仕方のないことで、自分で納得していかなければならない。自分は、自分の仕事をしていくのだという信念をもつてやつているのです。だいぶ先のことですけれども、そ

う思つて仕事をしております。

中西　私は所感文の中で、母親の子どもの見方ということに触れたんです。私の子どもは今小学校四年生ですが、三年生のときに、名作全集を買つてやつたのです。その中の「小公子」を読んで、子どもが「この中にでてくるおかあさんは、みんないいおかあさんで、ぼくは、こういうおかあさんが好きだな」つていうのです。男の子でものすごく乱暴で、体操ばかり好きな子なんですが、この中にでてくるおかあさんが好きで、感慨こめて読んでいるんです。子どもでも、やつぱり自分のおかあさんの理想像というものをもつているところが、その持ちかたが、八十年も前にかかれた物語りのおかあさんが、懐しいという。それは子どもが古いのか、それを受け止める私が古いのか、どうでしようか。

藤本　今おつしやつたように、やはり人間は最高の条件で育てられていくにこしたことはないのですから、おとうさんも、それからおかあさんもちやんとしていて、子どもを教育していくにこしたことはないし、それはそれでいいと思います。しかし、今、そうしていられない人たちがあります。昔の時代のような生活のシステムではやつていけない場合もあるし、自分自身もそれでは満足できない場合もある。生活の様式というものが、全然かわつてきていますから、そういう時代には、やはり新しいおかあさんの生きる道というものが、あるはずだと思うんです。そうした新しいおかあさんの生きる道を、昔のおかあさんの道にひきもどそうということよりも、新しいおかあさんの道が理想的にいけるように、食事の問題とか保育の問題とかは、自分自身一つの家庭の中だけで処理していくというのではなく、みんなが手をつないで、社会的な問題として、研究していくことが、これからの生活様式の変化に伴つて、それに順応していく生き方だと思うのです。

岡部（リーダー）　たしかにその通りで、家庭の中だけでは解決できないということですね。

藤本　母親の新しい生き方が子どもたちに悪影響を与えるかどうかは、おかあさんがついていて育てていても、非行に走る人もいるし、保育所の中でも立派に育つ子もいますから、それは個々の問題です。それをもつとひろげて考えていくべきだと思います。

拓植　私は、時代がいくらかわつても、母親として、また女としての、それぞれの生き方があつてもいいんじやないかと思います。私も共稼ぎで教員をしておりましたが、自分の能力のなさ、職場と家庭を両立していくという自分の能力のなさを自覚して外で働くのをやめたのですが、自分が社会的にどうしても要求され、そして、自分が職業をもつていることに意義を感じ、信念があるのなら、外へ出て働くこともいいと思いますし、また、私みたいに、自分の子どもを育てるということも、間接的には社会への日本人としての義務だと思つて、家庭にもどつたとしても、それぞれの生き方があつても、どつちがいいとか悪いとかいえる問題ではないと思います。

山崎　私もそう思いますが、外で働きたいと思つても、いまは安心して働けないという実情だと思います。保育所は、保母さん一人に対して八人か九人の受けもちですからたいへんで、商品みたいな扱いになる。やはり一人の人が、せいぜい三人くらいでなければいけないと思います。

私、前に保母をした経験があるもんですから、近所の赤ちゃんを集めて、保母をしたいと思っているんです。せいぜい三人くらい、保育所に入れる前まであずかって、おかあさんのかわりに、めんどうをみてあげたい。社会の仕組みで、そういうことがだんだんできてほしいと思うんです。

中西　今の方のご意見に賛成です。まだ今のところはだめですが、子どもが大きくなったら、どうしても、外に出て働かなければならない方の赤ちゃんをあずかってあげたい。私の友だちで、赤ちゃんホームをつくっている方もいますが、私自身も、そういう方向に向かって進むべきだと思って方針をたてているわけなんです。

井上　先ほどから、たいへん私たちに、心強いお話がでて喜んでおりますが、中でも、大阪の藤本さんの、家庭の中での解決じやなくて、社会で解決するということは、ひじように大事なことだと思います。とかく日本人は、自分が不自由を忍んで、おもてに表わさなければ、万事うまくいっているかのような傾向がありまして、保育所が足りない、いつでも、外部からは、どのくらい足りないのか、わかりにくい面があるのではないかと思います。家庭でおかあさんにあずけていれば、保育所はなくてもいい、というような傾向がありましたが、何でも自分だけで内輪に解決しないで、外へだしてみるということが、大切ではないかと思います。

岡部（リーダー）　今までのお話で、ぼくなりに感じましたことを申し上げますと、話の中心は育児だったんですけれど、一の「物質と精神」の問題に関係しまして、物質生活の伸びが精神を阻害している、というご意見がありました。それについては、皆さんもはっきりそういうふうに言いきれない面もあるかもしれませんが、ぼく自身としても、疑問が残るんです。つまり、物質生活が、いくら豊かになっても、それはそれでいいのだが、問題は、精神的な面の問題です。

それから、個人が、自分の家庭生活の中で問題と取り組む——いわゆるつぎはぎをあててつくろっていくというやり方では、解決がつかないんじやないかというお話がありましね。これは第二の問題に関連してくると思いますが、文化というものは、個人の問題であり、基本的には、人間の問題ですけれども、同時に人間の集団の問題であり、社会の問題であると思うんですけれども。

結局、女の方々としては、育児の問題が、自分の生活の大きな部分を占めているから、文化というと、育児の問題がいちばん大きくなるけれども、先に、母親である前に、人間であれと言われましたが、人間であれというのは、どういうことか、その点を考えてみる必要があるのではないか。おかあさんの文化の問題ですね。子どもの文化ではなくて。

それに、ぼくの考え方としてはひじように簡単にいってしまうと、人間とは何であるかということ、それを問うこと自体が文化だと思うんです。

大野　井戸端会議にしても、学校の問題、うちの子どもの問題、社会生活の問題をしやべる。それが、みな外に向いていく政治につながり、社会につながり、戦争につながる。新聞を見ても、物価を見るよりも、ベトナム問題を見たい。私は広島ですから、すべてが原爆につながり、平和につながるんですけれども、そういうことをもう少し真剣に、みんなの問題であると

考えることが、おかあさんである前に、人間であると考えたのです。

藤本　今おつしやつたことに関連しているかどうかわかりませんけれども、大阪地方大会に出たときに、私とは違う部会で、今ひじように私は恵まれている――緑の芝生があつて、赤い屋根の家に住んで、幸せであると、これ以上何もいうことはありませんという人が、五、六人いらつしたそうです。私はそれを伺つたときに、とてもショツクでした。そして、ずいぶん結構やなと思つたんですけれども、何かしら物足りない感じがしました。今ベトナムで流されている血というものを、自分のこととして考えない、自分のことに関係ないという人たち。結局、人間というものは、自分一人一人の血潮の中に、みんなの血潮を感じるというものではないかしら、そうすると、自分自身の生活を考えて、幸せである、満足であるという自分一人の、個人の問題でなく、個人が社会に、全体につながつていくということを感じられるというのが、人間じやないかしらと、私なりに感じたんですけれども。

岡部（リーダー）　ほかの言葉でいうと、連帯意識が欠除しているということですね、現在は。

藤本　自分だけが物質的に恵まれて、幸せであるというのは、浮草みたいなものではないか。一たび戦争でもおこつて爆弾がおちたら、そんなのはふつとんでしまう、そういうものを感じる心というものが、やつぱり人間じやないかと思います。

山崎　人間というと、大きな問題になつてわかりにくいんですけれども、私なりに消化して言いますと、人間というのは、まず生きたいものだということなんです。私が生きたいものであれば、あの人も生きたい、この人も生きたい、みんな生きて、そして生きるには、よりよく生きる、それをみんなで尊重すればいいんではないかと思います。

岡部（リーダー）　とくに、山崎さんは身体障害者のめんどうをみていらつしやるから……。そういう人たちには、生きたいという、生命の要求が強烈なんでしようね。

山崎　やはり、人間として生まれたからには、人間らしく生きたい。年ごろになれば働いて結婚して、子どもを生みたい。生きがいのある生活をしたい、だれもがもつている願いですね。その人たちの言葉をきくと、切なくなつてしまうんです。

岡部（リーダー）　社会的な条件が、その人たちの希望を、いろいろな形で阻害しているということになるわけですね。

山崎　去年オリンピツクのあと、パラリンピツクが開かれましたね。外国の選手は、みんな職業をもつていて、社会人として参加したのに、日本の場合は、病人が参加した　社会復帰ができないのです。

岡部（リーダー）　統計的にみると、どれくらい不幸を背追つた人がいるでしよう。

山崎　身体障害者の数字としては八十万、潜在している人を入れると、百人に二人の割合でいます。職業を持つている人でも、平均月収が健全者の約半分で、一万八千円くらいです。ですから結婚したいという欲望をもつても、結婚できないわけです。私、結婚相談を主にやつているんですけれども、ある人が、好きな人ができたんですが、二人で住む家を借りるには収入が少ない。私は、一万八千円でも、生活できるから、結婚しなさいといいますけれども、周囲では三万円くらいの生活をしている。

貧困が人生の進路を妨げるというのが、いちばん困るんです。このごろは交通事故による身体障害がとても多いですから、私たちの周囲から、いつ、そういう障害者がでないとも限らない。ですから、やはり自分の問題として考えるべきだと思います。

岡部（リーダー）　社会的なハンデキャップの一つとして、部落民のことを林さんお書きになつていましたが、日本全国では、百万という多数の人が、部落民という名のもとに、いろいろなハンデキャップを背負わされているのですね。

林　部落でも、関東のほうは、あまり差別待遇はないらしのですけれども、関西とか九州地方では、いわゆる部落に対する偏見の目というものが、まだひじように残つております。

私は、主人が部落の人でしたが、周囲の反対を押しきつて、結婚いたしました。今の若い人たちに、あなた方は、反対されたらどうするかと聞きますと、そんな反対されるような結婚はしないという安易な返事なのです。私は、もつと相手を理解して、そして周囲がどんなに反対しても、自分が尊敬できる人であるならば、結婚するべきではないかと思つています。

大野　今、山崎さんや林さんからお話聞きましたが、私は何にでも興味をもつているのに、何にもしないのです。私、感じることは、マスコミなんか発達しているくせに、大切なことはわれわれに意外と知らせてくれないということです。大いに、そういうことをみんなに知らせて、理解してもらうように努力すべきじやないかと思います。広島のことなども、みんな知つているような顔をしていても、実際は知らないんです。それで一冊本をだしたのですが、それを読んで理解してもらつて、連帯意識を深めてほしいと思つたわけです。部落の問題も、「橋のない川」を読んで、考えさせられました。真実というものを知るような機会を、心ある人はつくるべきだし、それに触れるべきだと思うのです。

藤本　今、林さんがおつしやつたように、部落の問題なんか考えれば、文化というものは、時代時代の歴史をずつと伝えてきているもので、文化の中には、時代時代ですて去つていかなければならないものもある。そうしないと、歴史のアカというものはいつまでも残つていると思うのです。部落の問題にしても、江戸時代の士農工商というような階級制度によつてできた古い社会のアカをとどめているにすぎないのですから、そういうアカは早くすて去つて、ほんとうにいい文化だけを伝えていくということが、今の時代の私たちに課せられた問題だと思います。だから、決して自分の子どもたちにそういう偏見はもたせないようにしたいと思います。

長林　私は楽観的なのですよ。時代に従つて、教育や生活の水準が高くなると、どう考えても不合理な、生活に直結しないような問題は、自然にすて去られていくのではないでしようか。部落のことなど、私なんか、絶対に問題にしておりません。そうすると、私たちよりあとの方は、もつと楽観していいんではないかと思います。

中西　愛知県の話ですが、嫁入り仕たくは女のほうで全部もつ。お嫁にいくときは、トラックいつぱいもつていつて、赤ちゃんができれば全部お嫁さんの実家が費用を持つ。それで、その起源を調べたら、四百年も前の、戦国時代の、軍雄割拠の時代の古いしきたりが現在に伝わつているということがわかつたので、勇気をもつて、その奥さんが、ばかばかしい、そんな昔の経験

を、今伝えていくことはないといつて、それをしなかつたのです。

岡部（リーダー）　われわれの社会は、生きていますから、新陳代謝して、また別のアカがでてくるわけです。学歴とか、有名校に子供をやるとか、別に理由のない、一見ひじように不合理なようなことでも、やつぱり、とらわれてしまうわけですね。聡明でいるつもりで、どこか眠つているのが人間の弱さですから、今おつしやつた、次の時代にはなくなるというように簡単なものかどうか。部落の問題なんかは、次第に差別は解消していくかもしれませんが、あるいはもつと深刻な問題かもしれません。それほど深刻な問題でなくても、日常たまる流行とかそういつたアカをどうしたらいいでしようか。

長林　時代時代によつて問題がでてくると思います。それを悩みながら生きていくというのが人間ではないでしようか。ですから、絶えず向上していく努力をしていれば、そういうものがでてきても、それをのりこえていけると思います。

岡部（リーダー）　社会の制度が改まれば解決がつくかというと、文化というものは、それだけでは解決つかない問題があると思います。そこで、さつき大野さんがおつしやつたように、現在、われわれに連帯感が欠除しているというのは、むろん、人間がだんだん自分勝手になり、想像力が欠けてきて、人のことはわからなくなつてきているということはありますけれども、マスコミが、その大きな使命を負わされているにもかかわらずわれわれの持つている問題を、忠実に伝達していない。その実情は、満足すべきものではない。そのへんを、もう少し皆さんの生活体験の中から、お話を進めたいと思います。

大野　広島では、八月になると、記念の行事が、記念日の前後一週間ばかりあります。その場合、表面だけでやつて、実際の問題をほり下げるということはないわけです。そういうマスコミの連中に、あるひじように困つた問題をかかえている人の状態をみてくれといつたんですが、そんなものは、みなくてもいいというのです。おそらくマスコミ経営者の意識の問題にかかつているのでしようが、それで、私たちは、反旗を掲げて、児童文化に対する問題を持ち出しました。くだらない本は子どもに読ませないようにしよう。いい本を書こうじやないか、読もうじやないかという、ひじように大きな旗を掲げて、「よい本をすすめる母の会」というのをつくつたんです。マスコミを批判して、批判に耐える会をつくつて、おかあさんの手ですすめていこうということで、目下、活動中です。私としては、まず、はつきりした目をもつということから出発すべきじやないかと思います。

岡部（リーダー）　マスコミにだまされまいだまされまいと構えていても、商業宣伝は巧妙ですから乗せられる。たとえば、極端な話ですが、ガス器なんかでも、朝のガス器と日中のガス器と違うものを使うべきだとか……。それから、すぐだめになるような品物をつくつてまた買わせるようにする。それを批判しても、そういうものしかなくなつている。トランジスターラジオの経験などは、皆さんおもちですね。

川下　私が大学を卒業して、蓄電池式のトランジスターラジオを買つたのです。僻地校だつたものですから、都市と結びつくものといえば、これが唯一のものでした。蓄電池式ですから、一年半たつたら電池がだめになつたので、大分市の店をさがしま

わりましたが、ないので、東京にいる弟に探してくれと頼んだわけです。ところが、そんなもの全然ないということで、いつまでそんなものを使っているのですかと笑われました。私としてはとてもショックだったわけです。

それからデパートで既製服を買ったのですが、青色のボタンがついていたのを三カ月後になくしたから、デパートにいったらもう青いボタンはないというのです。あまりに消費者の気持ちを察しないメーカー独善じゃないかと思いました。

藤本　売らんかなという、経営者側の立場に立って流されるものに、消費者はまつり上げられて、いい気になって、買いまくるし、買わないと、自分の生活がみじめなような気がして買ってしまうけれども、買ったらすぐ形が変わって、部品が役に立たない。純度九十九・九九%とか、いう宣伝にすぐ乗ってしまうというような、主婦の科学に弱いところにつけこまれるということもあるし、消費は美徳だなどと自分から思い込んでしまって、子どもたちもそう考えるようになってしまうんですね。日本の国は高度成長だといっていますが、経済が高度成長するというのは、私たちの生活にそれがはね返って、ほんとうに幸せになっていくものだと思うんですが、そこのところがわからないんですけれども。

漆山　現在は高度成長によって、収入も一応ふえて、生活必需品はそろえたんですけれども、業者は次にはぜいたく品を売りこもうとやつきになってます。よい品物でも宣伝しなければ売れないし、悪い品物でも宣伝すれば売れるということでは、売る側からは宣伝せざるを得ないということになりますね。

岡部（リーダー）　僕の仲間でも、企業に携っている者がいまして、消費は美徳というキャッチフレーズをつくった人を知っていますが、そういう言葉を振りまわして、国民をだんだんそういう政策の方向に向けようというわけで、消費ムードをつくりだしたのですけれども、それは反面、私たち消費者にも批判されるべきものがあるでしょうし、高度成長でいくか、別な政策でいくか、いろいろ考えるべき点がありますから、そういう議論はする必要がある。とくにマスコミは、われわれ素人にはわからないところを、十分検討し、分析して、こういうような仕組で今は動いているけれども、また、こういう別な考え方もあるというふうに資料を提供してくれれば、できるわけです。そういう点でマスコミには、ひじように重要な役割が残されていると思います。

長林　たまたま私の主人が医者の関係で、よくみんなが集まって話がでるんですけれども、コマーシャルで聞いた薬は、必ずきくような錯覚を受けて、診察室にはいってきて、風邪ひいたからと自分で診断してしまって、コマーシャルでたこういう薬をくれと言う。それを断わると、悪い医者だということになる。普通に自然にしていればなおるようなものを、わざわざ高い薬を要求して、断わると自分で薬局へいく。むだなお金がかかる上に、間違いがあって、亡くなる場合さえおこる。われわれは、マスコミの陰にある生産メーカーという黒幕みたいなものに動かされているのではないかという気がします。どんなものでも受ける側にそれをセレクトする権利はあるんですから、科学的なデーターによって研究するとか、われわれも勉強しなければならないと思います。

岡部（リーダー）　それも限界があるような気がします。風邪薬

○・何ミリなどと科学的なことが書いてあつても、これは、ちよつと勉強したくらいではわからないかもしれません。

中西　大野さんからマスコミのことや、子どもの読書のことでいろいろお話が出て、子供によい本と悪い本とを見分けるような判断力をつけよう、またマスコミにまどわされないように何とかしようというお話ですけれども、一つ、ここらへんで、どうしたら批判力を自分にもつことができるかという問題を、皆さんからお話伺いたいと思いますが。

岡部（リーダー）　大へんいい御発言だと思います。

大野　批判力を自分がもつとしても、ピントがずれていては困りますから、大きな世界の中に属して、それを専門に研究しているグループに属して、そういう人たちと横のつながりをもつて、だれがみても納得のいくような組織の中に合流してやつているのです。だから、ただ自分で読んでみて、よさそうだねということでやるわけではないんです。

「暮らしの手帳」という雑誌がありますが、これにでていたものは安心して買えるんです。なぜかと言いますと、全然広告料をとらないで、自分たちで研究して、商品の価値判断をやつている雑誌なんです。アメリカには、ああいう商品テストをする大きな組織があつて、それが主婦の間に定評があるようです。わが国においても、売らんかなというものからぬけて、消費者の味方である仲介者をつくるべきじやないかと思います。

岡部（リーダー）　消費者の問題が中心になりましたけれども、テレビの番組や、雑誌などに、子どもに対する悪影響が懸念されるような種類のものがありますね。そういうマスコミについていかがでしようか。

中西　私たちの場合は、批判力や判断力をしつかり養うために、一人では自己流になつたり、間違う場合もあるから、十五人くらいのグループをつくつて、お互いに問題を提供したり、それについてみんなの意見を聞くわけです。そして、その席に先生にきていただいたりして、自分の判断力や批判力を養うようにしています。皆様方はどういうふうにしていらつしやいますか。

井上　京都の地方会議のときにも問題になつたんですけれども平均して、郡部地方の方は、職業が比較的似かよつて地域的なつながりを大事にしていているせいもあつて、わりにうまくいつてますが、都会は、地域的につながつて討議するということはむずかしいような気がします。私の場合は個人的な判断力にまかされております。私はひじように忙しいものですから、ゆつくりテレビを見るということはないわけで、テレビを見て勉強しようというふうな使い方はしないで、つまらん番組だ、笑いましよう、ああ、テレビがなつてるなというような、ごく軽い気持ちでしかテレビを利用しておりません。

岡部（リーダー）　組織をつくつて、これはくだらん本だ、これはくだらん番組だから見るな、これはいい番組だからぜひ見なさいというやり方、そういう組織がいくつもできて、いろんな活発な意見がでてくるということは、社会全体からみれば、大へん望ましいことだと思いますが、いいとか悪いとか、くだらないという判断は、個人としては、意見をもつけれども、その意見が間違いないかどうかということは保証できないわけですね。人間というものは、どうしても片寄つた判断をしがちですから、それぞれ片寄りのある判断を正しいと思いこんで、信じて行動する。それはそれでいいとして、こういう番組は困ると

決めることは、いくつも多元的な組織ができればいいが、一元化されてしまうと困ると思います。

永野　個人の気持ちを生かして働きかけるというような、集団的なものがほしいと思うんです。小さな問題でも、自発的に集団的に取り上げて、しかもまじりけのないものがほしいのです。いろいろ集団ができていても、政治的なものなどがまじつてきて、本末転倒になることが多いんです。それがひじょうにむずかしい問題となつているんではないかと思いますけれども、そういうような体験はないでしょうか。

長林　話し合いで最大公約数をだしてもいいんですけれども、必ずしも納得のいかないものが多いようです。婦人だけということになると、視野がせまくなるから、私はあまり買つてないんです。私としては、あらゆる団体から、あらゆる意見を聞いて方向づけをする。ただサークルをもつというのは、感心いたしません。

岡部（リーダー）　現状としては、まだ何も組織が全然できていない、ということなら、もつとできてもいいと思いますが。

長林　楽観的なことをいいますけれども、うちの場合は放つておくんです。子どもなんか、低学年の間は、妙なマンガみたいなものばかりみていますけれども、放つておいても、自然にチャンネルをまわして、このごろは、自分の興味ある教育テレビを知つて、すすんで見ています。楽観主義かもしれませんけれども、自然に自分で選んでいくようになるのではないでしょうか。

岡部（リーダー）　自分ですすんでそういう方向にいくという考え方は、むしろ必要だし、今日の社会の、一つの原則　自由主義的な考え方　ではないでしょうか。放つておいてもいいんだという考えではなくて、そこで働きかけるということがあるんです。

拓植　組織をつくる前に母親として、人間として、テレビとか、雑誌の中から、子どもに何を与え、そしてまた、自分が何を得たいかという意識、そういうことから、出発するように考えることが大切じやなかろうかと思うんです。そういう中から、ほんとうに社会に要求されるものだけが残つてゆくのであつて、それがマスコミ文化の危険に対して、私たちのなし得る役割りではないかと思うんです。

大野　私たちが、そういうグループをつくつているのは、ただ、子どもたちが、本を読むのになるべくいい環境をつくつてやろう、子どもとなるべく本を読む時間をもとうということで、欲も徳もなく、おかあさんたちが集まつて、はじめたわけです。中間組織をつくれというのは、別個のもので、私、学校で教師をしておりまして、高校の三年生に、この一年間に小説を読んだもの手をあげろといつたんですけど、全然いないんです。何を読んだかというと週間誌をあげるんです。そういう子の両親の年齢をみると、三十代後半から四十代で、いちばん壮年階級の子どもが、そういうふうに読書環境がお粗末では、これは考えるべきじやないかと思つたんです。いい本はだれにもいいとわかりますから、そういう環境をおかあさんが小さいときからつくつてやるように努力することが必要だと思います。

岡部（リーダー）　僕も原則的には、その考え方に賛成です。個人の　最後には個人ですけれども　たつた一人の力では、放送局は全然動きませんからね。しかしまた、矛盾するようで

すけれども、ちよつとした投書で放送局やマスコミの組織が動くという面もあります。ある幼児向けの番組に対して、ほんの一部のおかあさんだと思いますけれども、きたない言葉を使つて幼児によくないという手紙がきたらしいのです。そうすると、つくるほうは、早速それを改めたが、その結果、内容はつまらなくなつてしまつた。そういう面もあるわけです。だから何か組織ができて、発言すると、大へんこたえるが、それが、また自分の考え方を押しつけることになると問題がでてくるわけです。だから、違つた組織から違つた意見が、しかも重要な意見がでてくることが望ましいということだと思います。おかあさんは忙しいから、番組を見ない。その間に子どもが見ている。ある調査をみますと、そういう傾向がでていました幼児番組に驚くべき言葉、セリフがでてくる。母親に聞きますと、あの番組けつこうだというんです。見ていないからですね。一部のおかあさんからは、ひじように困るという意見がでていましたけれども。

森山　先ほど、テレビの悪影響のようなことがでましたけれども、見方に問題があると思うんです。結局、道徳的なもの、実際面に役立つもの、また意味のないものというふうに、区別されますが、私の場合は、実際生活に変化を取り入れるために、テレビの自動車教室を見て、それによつて実地を除いて、法規とか行動の面で、現在の運転免許を得ることができたわけです。現在、免許を持つている人でも、もつと見ていいんじやないかと思います。

岡部（リーダー）　教育テレビは、視聴率が低い。視聴率の調査の結果をみますと、NHKの第三チャンネルは、一%で、いちばん低い。一%というのは、大体六十万人くらいになるのだそうですが、これも六大学の野球の放送なんかを除いた、ほんとうに教育的なものの視聴率は〇・〇何%という低い数字なのです。

それに対して一般の番組は、二千万から三千万という人が見る。ところが放送局の人たちは、そういう視聴率の高い番組をつくつていると、だんだんそれに慣れてきて、この〇・〇何%という番組のほうは問題にならなくなる。しかし、放送局としてはこういう番組があることは、尊いことだし、見るほうとすれば、六十万人の人が見ているような番組ですから、やはりおもしろい価値のある番組ということになると思います。そういう番組を大いに利用するということはいいことではないでしようか。そうすると、自分の好みというものがでてきて、テレビは、一週間のうち一晩しか見ないということになるかもしれませんが、それでもいいと思います。一般的な傾向として、テレビを毎日見ているということ自体おかしいことで、われわれの世の中には、おかしなことがたくさん起こつているわけですが、慣れてくると、おかしなことと感じられなくなつてしまう。そういう点もマスコミにはあると思います。

永野　番組を選択して、感情、経験を深めるということが大切ではないかと思います。見る番組をきめておいて、新聞なんか切りぬいておいて、ほんとうに自分が見たいと思うものだけを選択すべきだと思います。

岡部（リーダー）　切りぬきは大へんです。つい不精でそれをしないから、整理や保存に苦心してしまうんです。

藤本　店をやっている関係で、自分の時間が少しもないので、三種類新聞をとっていても、ほとんど読めないことに対して何かいらだちを感じるのです。それでこのごろは気持ちを変えて、きょうはベトナムの記事だけを見るというふうに一つだけを決めて、三つの新聞からそれに関する記事を切り抜いてはつておいて、夜家族がお風呂にはいっている間に見るということにしたら、とても気持ちが落ちつきました。いそがしい時には、切りぬきをしてあとで読むということはいいことだと思つています。

岡部（リーダー）　一つの問題を深くほり下げるというところまでいつていませんが、あとの時間でもう少し焦点をはつきりさせて、もつと深くつつこんで話もしてみたいと思いますが、ここらで、オブザーバーの方々のご意見を伺つてみてはと思います。

大友（特オブ）　私埼玉の地方会議もみて感じたのですが、取りあげる問題がひじように大きなスケールだという感じがしました。こういう方々が、将来日本をしよつて立つと思うと、とてもたのもしく感じました。

それから、組織ということについてお話が出ていましたが、私の所属しておりますのが地婦連で、各支部に十万ないし十五～六万くらいの会員がおるんですが、意識の面でも、思想的、教育的にも、また職業的、年齢的にも、ひじようにバラエティに富んでおりますので、これはひじようにいいことだと思つています。皆様方のように意識の高い方が地元の組織におはいりになつて、真実というものを一緒になつて考えていかれたら、いいんじやないかと思います。

吉村（特オブ）　先生がおつしやつたように、人間の問題をもう少し深く話し合われたらいいと思います。これは今度の主題と関係がある問題だと思います。私たちの生活が近代化して、物質的なものに追われていく、そういうことで、政治の形態も物質第一主義になつていくわけで、ほんとうに忘れられているのに人間の問題で、その問題が私たちの上にかぶさつてきている。人間の再発見ということを考えていかないと、今後の問題は深められないのではないかと思います。

岡部（リーダー）　どうもありがとうございました。もう少しこれからお話を進めたいと思いますが、一応ここでしばらくお休みすることにいたします。

（休　憩）

（再　開）

岡部（リーダー）　実生活に即したところで、自分たちの文化の現状を考えてみよう。あるいは、それについて疑問に思つていることを、お互いに語り合おうということで話し合いを始めましたが、最初に立てた四本の柱の一のところで育児の問題もでましたけれども、一応順序にしたがつて、三の「教養について考える」という項目についての話し合いに入るわけですが、僕としては教養という言葉は好きではありませんけれども、所感文に「教養を高めよう」ということがたくさんあつたので、この言葉を使つたわけです。ここでは辞引に書いてあるようなことを議論してもしようがないと思います。秋田の山崎さんの書かれた所感文に「人間の値うちみたいなものが一番大事だ、職業とか学歴とかいうようなものはそれほど問題ではない」ということが書いてあつたと思いますが、それについてうかがいたいと思います。

山崎（秋田）　視野を広くもち、子ども自身の希望にしたがつて、意見を尊重して、教育すべきで、勝手に親の虚栄心によつて子どもを振りまわしたくないと思つております。

岡部（リーダー）　結局、子どもの自主性を尊重するように、見栄だけの学歴だとか、形式的なことはよそうというお話ですね。

山崎　今、先生は教養ということばはすきでないとおつしやいましたが、それは基本になるものじやないでしようか。教養ということばについての皆さんの考え方、解釈の仕方は、まちまちのように思いますが。

古田　教養ということばは、知識の豊かさとか、いろいろのことを知つているということのように考えられやすいんですが、知識や、学問がない、いなかのおかあさんなんかで、かえつて、ほんとうの教養のある人を見いだすことがあります。毎日の生活の理想とか、自然に養われた感覚があつて、学問がなくても、教養があると感じられる人がいるんです。本人のまつたく意識しない魅力があるのです。ですから、学問があるから、必ずしも教養があるとはいえないと思うんです。

荒川　私は、学歴や知識があるということでなくて、それもたしかに必要ですけれども、人間感情をむきだしにしないこと、他人の気持ちになつて考えられるというのが、一番大事だと思うんです。それが全部生活につながつていけたら幸いだと思います。

拓植　私は、教養というものは生活をしていくための、一つの基礎だと思うんです。大学を出たことが教養ではなくて、大学を出たことによつて、ものの見方とか考え方ができるということで、断片的な知識とか、一つの技能がすぐれているからといつて、教養があるとはいえないのじやないかと思います。本を読むことも、テレビを見ることも、映画を見ることも、一人一人の受け入れ方によつて、教養ともなり、あるいは単なる娯楽で終わることもある。

岡部（リーダー）　大体、皆さん同じようなご意見ですね。

井上　今、教養の一つの要素として、「感情をむきだしにしない」ということが言われましたが、それは程度がむずかしいと思います。昔は、つつみかくすことがよいとされていましたが、別の面でいいますと、感情を素直にだすということも、人を傷つけない程度のものなら、新しい教養だと思います。

永野　私、荒川さんのお話は、思いやりの気持ち、精神というふうに受けとつたんですけれども、たしかに、それは教養の一つの要素だと思います。

山崎　私どもにとつて教養ということは、自分自身及び自分の属している社会、その社会を、よりよくしていこうという考えと、それに即した行動ですね。考えと行動が一緒になつたものが教養だと思います。

藤田　たしかにそのとおりだと思います。ひじょうにむずかしいことですが、貧しい生活をして、廃品回収のような仕事をしているおかあさんが、私たちの母親グループにいるんですけれども、その人は、リヤカーをそこにおいて集まつてくる、夜になると、クリスチャンなので、忙しい中にも、自分で求めて教会にいこうとする気持ち、ほんとうに私ども心をうたれています。

藤本　皆さんがおつしやつたのと同じことになると思いますが、教養とは、今現在、生きていく上に毎日毎日、行動する上で右をとるか、左をとるかを自分で判断して行動している、その右、左をきめていく、そういう判断力を養うために学問、教育は必要だと思うし、その判断力を養うことが教養だと思うんです。だから、教育はあればそれにこしたことはないし、結局教育は判断力を養う一つの手段である、もしも教育が見栄にすぎなかつたら、教育は教養に結びついていないということになると思います。

岡部（リーダー）　藤本さんご自身ごらんになつて、今の教育は、そういう判断力を養つているでしようか。

藤本　私の近くに大学がありますが、一部分の学生をみて判断するというのはいけないと思いますけれども、大体、試験のときしかこない。たくさん学生がくるときは、試験なんです。試験のために学校にきていて、カンニングして点をとつて卒業するという学生が多くて、その間はマージャンやパチンコをしている。そういう人たちをたくさんみてます。

私たちの時代の教育は、学生動員でいつ殺されるかわからない、そういう気持ちがあたので、机に向かつて勉強する時間は少なかつたけれども、真剣に取り組んだから、かえつて身についていると思うんです。大学へ行つたからといつて、それが教養として身についているかどうか、疑問だと思います。

中西　教養というものは、毎日毎日を、自分も、まわりの人も楽しく、気分よく生活できる知恵というか、そういうものだと思います。それは、教育とか学校の勉強とは全然別なもので、おかあさんが、その子が生まれるときから身につかないものを、小さなときの教育とか、おかあさんの体内にいるころにまでつながるものというふうに考えています。

岡部（リーダー）　先ほどから皆さんのお話を伺つておりますと、人間的な魅力とか、そういうものが教養だという意見が多かつたと思いますが、僕もたしかにそうだと思います。そこで一つ、戦前は、そういうような人間的に立派だといわれることを目標にしていた。それはそれで結構です。ただ、人間的に立派な人が社会的に立派であつたかどうか。戦争というものが近づいたとき、どういうふうにふるまつたか。人間的には立派でも、社会的にはそれほど立派なことをしなかつた人も、昔はおつたわけです。今日は、極端ないい方をしますと、人間的には立派でないけれども社会的には大きな役割を果たすというもなきにしもあらずだし、また、そういう人が、場合によつては、教養あ

る人というふうにみられる傾向があると思います。そのへんどうでしょうか。教養というものを、その人自身の絶対的な価値と考えていいのか。やはり、社会の中で、どんな役割を果たすかということが教養の大きな比重をしめるのではないか。とするのとこの二つのうち、皆さんはどちらをとりますか。

山崎　それを考える前に、人間とは何か……。人間というのは、読んで字のごとく、人の間にあるもの、社会の向上と、個人の向上は一致しなければうそだと思います。自分および社会を高めること、社会にプラスになるということを考えながら向上していくことが教養だと考えるのです。

岡部（リーダー）　その人自身のプラスになると同時に、社会のプラスになることは結構ですが、今の世の中は、必ずしもそうでない面もある。そういう場合、われわれはどちらに比重をかけるかということです。

山崎　私は、社会のほうにかけます。

大野　若い人が要するに要領だよというんです。私はしばらく教師をし、理想的人間像を、児童文学の上に表現しようと思っていますから、要領で生きるという人間の生き方はまったくいやなんです。だから、教養というものは、個人的なもので、社会的なものとのつながりがあるべきものなんですけれども、今の世の中では、結びつかない場合もありますから、やはり人間的に立派だということ、それが社会的なものに結びつかなくても、というように、私は、若い人にも、一応理想の上ではいつてきたんです。しかし、やはりどうもうまくいかないんです。

荒川　社会と結びつかなくても、人間的に立派だということが、私は一番大事だと思います。

漆山　人間的に立派ということは社会につながるのじゃないかと思います。人に認められるということは、社会にも認められるということになるのじゃないでしょうか。

藤本　社会的にどう貢献できるかということになりますと、たとえば、戦争になる前に、立派な学校の先生方が、先生としては立派でしたが、果たして、全力をあげて、あの戦争に反対したかというと、そうではなかつたように思います。そうして、結局、国があゝいう戦争にひきずり込まれた。その方がいくら立派なものをもつていても、たくさんの人の幸せのためにそれを活用して、戦争をさけるために働かなかつたとすれば、教養があつて人間的に立派だということは、それほど意味のあることとはいえないのではないでしょうか。

岡部（リーダー）　皆様方の問題として、母である前に妻である。妻である前に女である。人間関係をうまくして、同時にあたたかい人間関係をもつ。その中で豊かになつていくということ、妻であり、母であるということも含まれるんじやないですか。僕のいいたいことは、皆様方の問題として、立派になるということは、具体的にどういうことなのか。

大野　私を含めて仲間の話になるんですけれども、たとえば、何となくひまがあるからという格好で現われるおかあさんがあるんです。そういう場合、物質的には豊かで、時間的に余裕があるけれども、自分としてはこれをやらなければいけないという精神的なものがないんです。何かをやりたいという意欲は感じられるけれども、その方法がわからない。そういうときに私たちは、広島ですから、どうしても原爆の問題になるけれども、あなたは広島にいて、何を感じるかというと、何にも感じない

というので、広島の平和公園にいつて、ひとまわり歩いていらつしやいというんです。そうすると、今まで自分が知らなかつた何かを感じはじめるんです。何かに触れることによつて、今まで自分の生き方を反省するきつかけができるんじやないか。それから、そこで考えたことを書いてもらうのです。そういうようにして、広島の問題から発展して平和の問題になるというふうに、大きくつながつていくんです。それは、家庭の妻だつたり、母親だつたりしたことから一歩人間的な生き方に進むきつかけになるのじやないか。私は具体的には、全然原爆を知らない人が、碑の前に座わつて、その詩を読んだりするというところに、人間くささを感じるんです。

岡部（リーダー）　荒川さんは人間のほうにかけるとおつしやつていましたが……。

荒川　人間的に立派であれば、自然に社会的にもつながつていくんではないかと思います。そんなふうに努力していきたいと思います。

山崎　よい社会の基礎は、よい家庭にある。家庭を形づくつているものは、個人だ。ですから、やはり個人の教養が高められることは、平和なあたたかい家庭をつくることになるし、母親が高い教養をもつということは、子どもたちの未来の人づくりの上においても、ひいては、その子どもたちが未来の社会を背負うためにも役立つものだと思います。私は、身体障害者のグループをつくつておりますが　自分が障害者ですから障害者の方にとつて、私が教養がない、内容がないということは、あまりプラスにならないと反省して、いろいろな経験、体験をとおして勉強してますけれども、自分が高まるということは、そういう人たちを潤すのにも大切だと思います。

長林　私は絵をやつておりますけれども、絵をならいにきているのは、働いている人ばかりで、工員もいれば学校の先生もいます。時間のない人ばかりなので、一週間に二時間しかできませんが、絵をかくだけでなく、いろんな絵をみたり絵画史とか、絵についてのいろいろなことを勉強する。絵の歴史から、さらにその上にある歴史までも、だんだん広げて勉強するようになります。それは絵にかぎらず、手芸でもいい。人に意見を聞いたり、自分にも勉強になると思いますので、社会にもつながるということは、まず、そういう小さいことから始めていつたほうがいいと思います。

古田　今、教養ということがでましたけれど、個人の教養を高めるということは、皆さん熱心です。学校にいきますと、社会的なものに奉仕するといつたことに関して、たとえば、運動会が近づくと、設地作業なんかには、教養の高いようなおかあさんは熱心なんです。ところが、学校に経費がないから、廃品回収して、それで何か買いたいという事があります。と、教養がないと思われているような労働者のおかあさんなんかが新聞を集めていらつしやるのです。ですから教養と奉仕ということについて、考えさせられてしまいます。

藤田　今おつしやつたこと、私もつくづく感じています。おかあさん方が、小学校の参観日などには一生懸命に、わが子の勉強の様子をみに来ますが、その反面、市民意識といいますか、部落の集会とか県の役職とか社会に通じることになると無関心です。PTAのように自分の子どもに直接つながるものには一生けんめいになるけれども、青少年の不良化の話し合いなんかは、自

分の子どもには関係がないといつた気持ちから、ひじように出席率が悪いのです。

藤本　今伺つておりまして、趣味と教養と混同されているんではないかと思います。趣味というものは、いろいろな絵画をならうとか手芸をするとか、人間の心の豊かさをつくるための手段ですけれども、ものごとを判断することができるようなものが教養であつて、いろいろのものをならうというのは趣味だと思うんですけれども。

長林　それでは、具体的にどうすればいいんでしようか。

藤本　笠先生が今朝お話しになつた織物を自分も織ることによつて、仲間になつていつたというように、趣味を通じてお友だちができて、話し合いの場が広がる、それがいいんじやないでしようか。趣味が目的でなく、話し合いが目的。

長林　趣味にもいろいろありますけれども、趣味だけに終わらせないで、歴史的な背景とかいろいろな勉強をするんです。書道にしても、そういうことをまで考えなければ、それは趣味に終わつてしまうんです。そういうのが教養じやないでしようか。

藤本　私がいついているのは、いろいろなものをならつて、歴史的な視野を広げて、この時代にどうしてこんなことが行なわれたんだろうとか、疑問とか、憤りとかがでてくると思うんです。そういう問題につきあたつたときに、その問題をどう処理していこうかというところからが教養になると思うんです。

中西　長林さんは、その趣味を通じて一つのことを掘り下げていく、人間をつくる、それが教養とおつしやつたんですけれども、だから教養というものは、何もむずかしいものではなくて、ただ昔から、おじいさん、おばあさんの時代から、人間らしくあるという生き方の一つの歴史を学びとつていけばいいわけですか、ただそれを、忠実に守つていくだけの本人の勇気だと思います。手芸とか書道とか趣味的なものには、みなさんが集まつても、舗装とか、そういうものにはこないというのは、やはり、自分が実行するだけの勇気と力がないからだと思います。結局、簡単にいえば骨の折れる仕事に奉仕したり、手をだすのはばかばかしいですから手をひいちやうわけですね。安易に流れることをおそれる心というものができて始めて、それが教養じやないかと思うんです。

長林　私のほうに年配の方で、あらゆる肩書きをもつている、とても立派な方がいらつしやるんですが、その方のお嫁さんが、私に「つらい」と申されたのを聞いて、いかに社会的にすぐれていて、どんなところにでても立派に議論もできるような方でも、家庭では何か落ちどがあるんじやないかと感じました。それで何はおいても自分を高めなければならないということを痛切に感じたのです。

岡部（リーダー）　今のお話は、大体教養というものの、社会的な役割と、個人の教養というものとが別であるかどうかということだつたと思いますが。個人の努力だけではかたのつかない問題ではないかと思います。

藤田　その具体的な例を、私が所感文の中に書いたのです。私たちの町は、市政がしかれて十周年を記念して、一流人の講演会を開いた。私どもいなかの町としては、そういう講演は、ひじように魅力のあることで、文化講演会という名前をつけておりましたし、糸魚川市の文化人は、ほとんど集まつたわけです。ところが、講演が終わつたとき、講堂をせつかく小さい子

どもがお掃除しているところを、その文化人たちがげたをやくつをはいて帰りだしたんです。それをみて、私なげかわしくなつて、勇気をふるつたわけなんです。

「みなさん、どうしてここでげたをはくんですか、玄関でなぜはかないんですか」と叫んだのです。あの大衆の中で私が叫んだところで、周囲の二～三十人の人しかきこえませんけれども、女の人はぬいで、つま先立つて歩いてくれました。私は、母親学級というグループをもつていますから、そこで話したんです。こうでなければならないという道理はわかつていながら、それが守れないという矛盾、知識としての教養はあるが、それを実行できない、そういうことを、どういうふうにして皆さんにわかつてもらえるか……。

中西　勇気をもつて、そのとき皆さんをたしなめられたということは、私は教養だと思うんです。ほんの身近な問題でも、こうあるべきことを実行できることは、教養だと思うんです。

岡部（リーダー）　問題をもう少し具体的に進めたいと思いますが、教養を身につける一つの手段として、長林さんは絵をかくということをおつしやいましたが、それも一つの方法かと思います。

教養というのは、日常の立居ふるまいまで、すべての面で現われてくるもので、毎日自分たちがやつてる家事も別なものではないと考えられるわけです。そういう日常生活の中でわれわれは、どういうふうにして、前進することができるかということ、また、そのために努力していることなどを、自分の日常生活の中から話していただきたいと思います。

川下　このごろ、便利な器具がいろいろでたために、正しい扱いを知らないということで、大分では、九州電力が主催で、やさしいおかあさま方の電気教室というのを開いたのですが、電気となると、集まりが悪くて、集まつてくるのは、ある程度知識のある人たちです。すすんでるようにと、私たちも宣伝しているのですが、なかなか集まつてくれないのです。

岡部（リーダー）　拓植さんは、テレビばかり見て、本を読まないということでしたけれども、本の読み方も、今の時代はずいぶんむずかしいと思います。子どものみならず、おとなでも何を読んでいいかわからない。なにしろ何万という本がでていますから、全部はとても読めない。そこで、選択しなければならないわけですが、どういう手がかりで選択なさいますか。

拓植　私の子どもの場合は、私たちが小さいときに読んで、感銘をうけた本とか、文部省から推薦されたものとかを、手がかりにして、一応私が読んでみて、それなら子どもに人間的にプラスするんじやないかと思つたら、読ませるようにしています。

岡部（リーダー）　子どもの問題もですが、われわれの問題としてはどうでしようか。

拓植　私は手あたり次第に読むようですけれども。

永野　私は、古典は、あらゆる時代を通して生きてきたものだから、私自身も読みたいし、子どもにも読ませたいと思つています。ギリシヤ神話や、古事記なども、やさしいものを心して読ませるようにしております。私は、源氏物語なども、なるべく原本を、わからないながらも読んでいくのを楽しみにしております。

長林　私たちの時代は、歴史をよく知らない人が多いですね。現在を知るには、どうしても知つておく必要があると思います。

私、去年病気したときに、婦人子ども向けのやさしい日本の歴史からはいつて、世界の歴史も一通り読みましたけれども、ひじようにためになりますし、子どももヒントを与えて興味をひくようにして話してやると、意外に読みますね。まとまつた時間がとれないときは、子どもの教科書を読むんです。そのくらいの暇はみつかるんじやないでしようか。途中で投げださないで、中学校のでも、高校のでも、とにかく読んでみるんです。

井上　私、仕事が書物の関係なんですが、アメリカなんかでは、図書館活動が盛んで、児童図書館もあるし、本屋さんが喜んで子どもの本をつくるので、カタログもきちんとそろつているようですが、日本はそういうものがちやんとできていないので、困つたことだと思います。

山崎　今、「ためになる本」とおつしやいましたが、「ためになる」というのは、何を基準にして言うのですか。

大野　広島は、読書活動は特別盛んではないが、ブック・グループという、全国的な組織があつて、新聞を発行したり、新しい本がでると、読書会をやります。児童のためのグループも、月に一度ありますが、それにでているのは、ひじように少ないんです。ただ集まる人数が少ないのがひじように残念ですが、そういうものを大いに活用することは必要だと思います。

林　本を読んでも、読みつぱなしじやいけないと思うんです。とくに子どもの場合、読んだあとで、その本の内容について、話し合うということが必要じやないかと思います。

中西　四年生になる次男が、三年生のときに読んだ本を全部書いて、感想文をまとめたんです。学校の図書館を利用して、片ばしから読んでいますが、昔からある三銃士、宝島とか、伝記ものの感想が豊富で、身についているようです。文部省推薦なんかの本の感想はあまりよくないんです。

川下　私のクラスで子どもの喜ぶのは、いわゆる文部省推薦とか心理学者おすすめのものではなくて、宇宙時代の月世界旅行とか、いろいろの探検もの、シュバイツアなどの伝記もの、そういうものに興味があるようです。

岡部（リーダー）　おもしろいものもたくさんありますが、一さつ一さつ手にとつてみるわけにいかない。推薦のものが面白くないといつても、自分ではさがしきれない。学校図書館教育図書館というのがありますけれども、みつともない本ははいつていない。私は、学校図書館協議会推薦というのは立派だと思うんです。反感をもつ前に、やはりそういうめやすとしてみていただくべきだと思うんです。皆さん子どもの問題に一番関心があるらしく、とかく話が子どものほうにいくんですけれども、文化というと、とくに教養として、自分を高めるということも出ていたと思いますが。

長林　先ほど、何を基準にしていいというかと、つめられましたが、共感を呼んで、これだと思う節がいくつかある。それが多ければ多いほどいい本だといえると思うんです。傾向としては、尊敬する先生だとか、いろいろありますが、そういうもので、大体のめやすとしています。

藤田　私は、公民館を利用しています。また、読書グループにもはいつております。おかあさんと子どもの二十分間読書というのがありますが、母親が読んでおりますと、子どもも自然に読むようになりますから、別にむずかしい本でなくて、これはよかつたと思つた本は、ほかの方にもすすめるという程度で読ん

でおります。

藤本　私はあまり暇もありませんので、今関心をもつている問題を深く知りたいという観点から本をさがして読んでいくようにしています。最近ですと、ベトナムの問題がさわがしく新聞にのつておりますので、どつちが正しいのかと疑問をもちましたので、三人の著者の本を三さつ買つてきて、自分なりに、左右両方から書かれた本を読んで、自分なりに解釈していくというような方向で本を読んでいます。

井上　本の選択は、藤本さんと同じような基準で読んでおります。教養のことに関して、読書とはなれて、私の知つている人で、教養も豊かで、立居、ふるまいも立派な方が、たまたま職業という中でみますと、ちよつとどうかというような面があります。私も仕事をもつていますが、職業人として、ふさわしいものをもつのが、ほんとうの教養であると思います。女の人は職業意識が足りないといわれますが、そういうものに徹するということを、自分の教養の一端として含めていきたいと思つています。

漆山　私どもの場合、やつぱり、本を買うお金がないんです。図書館まで足を運ばなければならないので、PTAで、年間五千円の図書購入の予算を組んで、参観日などに本を借りるようにしております。

長林　本などは、時間的にも体力的にも、家庭の主婦はなかなかむずかしいので、テレビを利用しています。教育番組を新聞で見ておいて、みたいものがあつたら、主人といつしよに見て、あとで議論したりするんですけれども、手つとり早くてひじようにに便利です。いながらにして、こたつにはいりながら聞けますから。

中西　私は、十五人ばかりの読書グループの一人ですけれども、リーダーではありません。読書会で阿部知二の「冬の宿」を読みましたが、読んでいると、あれが書かれた昭和十一年、十二年の戦争へと発達していく時代の話で、平和問題につながつています。また、あの小説の中にはキリストがでてきて、キリスト教とはどういうものか、中に、クリスチャンの方がいれば、バイブルをもつてきていただいて、キリスト教を掘り下げて理解する。十五人も集まると、いろいろな方がいて、一つの本を読んだことで、いろいろな問題を知ることができます。私たちは、そういうふうに読書の会をすすめているわけです。

岡部（リーダー）　少し読書に話が固定してしまいましたが、もう少しほかに、われわれの教養を高めて、何かわれわれを前進させるものがほかに何かありませんか。

永野　大量消費の時代がきて何でもはきすてというようにされておりますけれども、ものを大切にするということも、教養じやないかと思います。インスタントで、手間がはぶけるということばかりがいいのではない。心のこもつた手づくりの洋服とか、料理とかいうものが、やはり、今までどおり大切にされなければならないと思うんです。そういう点がひじようにおろそかにされつつあると思うんです。

岡部（リーダー）　絵をかく楽しみと同じようなものじやないんですか。一つの創造的な夢ですね。何かをつくりだしていくという……。

永野　昔はその家の味というものがございましたね。おばあさんからおかあさんへ、それから自分たちにと伝えられた、つけものとか、おすいものとか、いうものの味がなくなりつつありま

すね。大へんこまやかなもので、大事なものではないかと思います。

川下　私、先ほど京都の井上さんが、職業意識をもつともとうじやないかといわれましたが、大賛成です。私も一職業人として、私たちの職業でさえも、女性が女性の足をひつぱつているということは、いかに時間を無駄にしているかということ、やはり、職業意識に徹しなければならないのではないかと思います。たとえば、女性のための教養講座とか、女性のための何々と、必ずタイトルに女性がつけられていますけれども、男性何々とはつけられていないんです。やはり女性から人間に脱皮しなければならないのではないかと思います。

井上　歴史的に考えれば、女性のレベルが低かつたから……。それで、特別に女性のための教養とか婦人週間というのがあるのでしようが、それがなくなれば、それが実力が認められたということになるんだと思うんです。

山崎　しかし、今ではだんだん実力が養われてきて、あるいは、女性のほうがかえつて上になつている場合もあります。何か、男性のほうが遠慮している向きもありますが、婦人には、女の特質があると思うので、それをもう一度考えたいと思います。

岡部（リーダー）　それは、もつとも基本的な問題ですが、これはまたひじように時間をかけて、ゆつくり話さないと、いけない問題ですから、明日の話題にゆずりましよう。

最後に僕の感想を申しますと、婦人週間というのは、婦人があるレベルまでいけばなくなるでしようし、なくなるのがほんとうでしようが、所感文を拝見している分には、婦人のレベルが低いということはないと思いました。〝もう婦人は啓蒙されなくてもいいのではないか〟というほどに立派なご意見でした。今日の消費文化、あるいはマスコミというものに対して、ひじように強い批判をもつていらつしやる。生活が豊かになつたということ自体に、いろいろ疑問ももつていらつしやる。週間誌が次から次へと、何十万という部数でてくる。通俗といわれるテレビの番組が、何千万人の方々に見られるということに対して、われわれが批判することは楽ですが、それを、自分たちの現実というものとどうやつて結びつけるかということに問題があると思います。その点は、まだ婦人週間として議論すべき点が残つているのかもしれません。このへんで、また、オブザーバーの方からご意見、ご批判を伺つて明日の討論の参考にしたいと思います。

吉村（特オブ）　さつき先生がおつしやつたと同じなんですけれども、私たちが感想文なり、何か書いていただいた場合、おだしになる方は、たしかに啓蒙されなくてもいいような方ばつかりですが、実はそこに問題があつて、あとの九十八％の方は、むしろ、何も考えない方たちではないかと思います。たとえば、憲法の学習会なんかでも、集まる顔はどこでも同じです。婦人の権利を憲法が守つてくれるということも知らないでいる人たちに、どういうふうにして自分たちの仲間に入れていくかということがほんとうは問題で、そういうことをまず問題にしないのは、ちよつと無責任じやないかと思つて伺つておりました。

大友（特オブ）　大へんにむずかしい問題ですが、人間として考えてみたいということが出ていましたが、それよりも、母親と

しての意見がひじように強かつた、それほど皆さんが子どもさんの問題に夢中になつていらつしやるんだなという感じを、まず第一にもつたわけです。

もう一つは、教養は社会的にどういう影響があるのか、それはなくてもいいのかということについてですが、戦争中にある裁判官が、配給米以外、闇を買つてはいけないということで、栄養失調で亡くなりました。私自身悩みました。人間としてどちらをとるべきかということが今だに忘れられないし、今だに、そういうことが悩みになつてますが、私には未だに結論はだせないし、私たち自身がもつともつと勉強していかなければならない問題があると思います。

岡部（リーダー）　今のご意見のように、ほんとうに教養人として生きるか、社会的役割りに自分をかけるかということは重要な問題であつて、僕自身もむろんわからないんです。結局、そうなつてくると、結論をだすというためにお話をしたわけではなくて、お互いの考え方をたしかめあい、知りあうというふうなことで、お話合いをしたわけですが、きようのところは、問題が大きすぎて、まとまりがつきませんでしたが、まとまりをつけるつもりは、はじめからありませんでしたので、文化という問題については、できるだけいろいろな角度から話しあつているうちに、考えが自分の中に自然に沈澱してくるということでよいのだと思います。では、きようはこれで閉会いたします。

第三部会　第二日目

四月十四日
一〇・〇〇～一七・〇〇

岡部（リーダー）　今日は四番目の「文化の伝統と変革」についてお話し合いをするわけですが、伝統というと難しいようですが、われわれは、現に伝統の中に生きている。今使っている方言だって、すでに伝統ですから、われわれ意識しないで、伝統の中に生きているわけです。その伝統がときどき意識させられるのはどういうときかというと、今までと違った何かにぶつかったり、異質の文化というものにぶつかったときです。今日のように、生活の基盤が変っていくと、いろいろな、今までの生活のしきたり、ものの考え方というものをあらためて意識させられるようなチャンスが多いわけです。

もう一つ、外来文化がさかんにはいってくると、従来の日本のものとぶつかって、何か摩擦を感じることがある、同時に混乱がおこる。こういうことは明治以前からありましたが、今日、そういう問題がかなりでているのではないかと思いますが。

たとえば、この間、アメリカの雑誌で、〝渋い〟といわれたお茶です。外国で好まれて、すぐれた文化だなといわれると、それが逆輸入されて日本にきて、あらためて意識するという、日本人は、日本の中にあるすぐれた文化というものを意識しない気がつかないということもありますし、また逆に、日本の伝統というものは、歴史のあかみたいなもので気がつかない。われわれの今日の生活がかわってきているということは、子どもを育てるときに、いちばん痛切にお考えになるのではないかと思いますが、明治時代のお話などから伺いましょうか。

中西　いいものは残しておくというのが私の考えなんですけれども、食べものなんかでも、外国からきたものが、みないいと考えられがちで、パンを食べるということが盛んに叫ばれている。

それでは、昔の日本人は麦や何かが半分以上のものを食べていたといいますから、昔の人の方がビタミンの摂取量が多かったんではないかと考えたのです。

永野　これは人間的なかかわりあいに発展してくると思います。子どもは、母が楽しみながら心をこめてつくってくれたものはひじょうに感激すると思います。自分が働いていて忙しいからでき上がったものを買って与えるというのでは、心のつながりを薄くするのではないかと考えます。

藤田　今、テレビなんかで、洋楽などが流れていると、すごく楽しんで聞きますが、邦楽になるとスイッチを切ってしまう。やはりそういう文化財という面で、日本古来のものを残そうとしていらっしゃると思いますが、私たち新潟ですと、佐渡の民謡とか、そういうものはぜひ残しておいていただきたいと思います。

漆山　去年、鶴岡と酒田で文楽を呼んだときはすごく反響がありましたが、地元にも黒川とか、黒盛歌舞伎といって、郷土芸能としては有名になっている無形文化財のようなものがあるので今年の一月に市の主催で、文化財の保護につとめましょうということでやったんですけれども、観覧する人が少なくて、五十代くらいの人に限られてしまったんです。そのへんを皆さんと話し合ってみたいと思います。

井上　京都にはいろいろな文化財がたくさんありまして、そういうものを残していきたい気持の反面と、現実の日常生活の中で意味がないということとの対立があって、むずかしいのですが市の教育の面でも、開発と保存が衝突しまして、むずかしい問題があると思います。

長林　私たちのほうに、子どもの歌舞伎というのがあって、町内もらまわってやるんです。それがみんな個人の負担で、主役の子は、衣装から　子から、みんな自分もちなので、だんだん断わる人がふえて、だんだんすたれる傾向です。県とか市とかの強力なバックアップがなければ残せません。

岡部（リーダー）　もう少し身近な問題で、テレビなどですぐ真似するような流行語とか、日本語だか何だかわからないようなことばがでているようですけれども、そういうのはどうでしょうか。

大野　とにかく日本語を大事にしないという考え方が生活にしみこんでいます。とくに、文化の全体の問題として、よそからきたものにすぐ飛びつく。それが明治以後、物質的な面にも精神的なものにも強くて、百年たった今日でも続いていて、それがまた戦後ひどくなったと思います。

外来語を使うのが学があるという錯覚を起こしている。日本語を大事にしようという動きが、一面にはあるんですけれども、とくに文学というのはことばの芸術ですから、そういうものに触れる機会を多くするということが大事だと思います。ことばというものは、形だけでなく精神をもっていますが、流行語はあまり心に残りません。子どもなんかが、私結婚したいというあれは全然意味はないんです。テレビの人気番組のことばを真似ているだけという気がするんです。

拓植　私は子どもが小さい間に、美しいもの、正しいものを教えておけば、マスコミの中にさらされようとも、小さいときに培われた美しい真情とか、正しいものに対する理解とか、そういうものはくずれることはないと思います。

川下　私そういう流行語だけでなくて、やはり日本語の正しい使い方というものを、身のまわりの、たとえば、いろいろな商品の宣伝の中にも、立札の中にも、へんな日本語を使つていることを目のあたりにして、やはり子どもたちの目に触れるもの、マスコミやコマーシヤルなども、正しい日本語を用いていただきたいと思います。

井上　ことばと並びまして、文字のことですが、当用漢字だけではニュアンスが不足している。事務的な意味では漢字の統正は便利で合理的かもしれませんが、文学系統のものを読んだり書いたりするには、ニュアンスが不足しているように感じます。難しい字を習えば混乱するでしようし、そのへんに矛盾を感ずるのですが。

山崎　今のことばに情緒がたりないということは、自分の子どもについても思うのです。何かというと、そんなの気にしない気にしないというんです。気にしないということは、いいことには違いないと思うこともありますが、私がちよつと深く考えなければと思うようなことも、気にしない気にしないというんです。気にしないということばから、こちらは気にしてしまうんです。

荒川　私、七十四才になるおばあさんと、高校二年生の女の子といつしよに暮していますが、女の子が、私おかあさん愛していわ、などというので、おばあさんが、何といやらしいことばをというんです。そういうことばは大したことじやないんだからというんですけれども、そういう年代のずれはどんなふうにして防げるのでしようか。

岡部（リーダー）　皆さん方は昭和生れのようですが、それにしても、戦後ひじように変つていて、とくに今の子どもたちの変り方は大きいから、ひどいとお考えになるでしよう。育児の面で、いつしよにぶつかる問題ではないかと思います。

さつき音楽の話が出ましたが、若い方は邦楽の趣味はなくなつていますよ。かといつて、いちばん新しい音楽はわれわれにはさつぱりわからない。

藤田　たとえ少しの人でも、そういうことに興味をもつている人がいたら、大勢の力でそれをなくされてしまうのはいやだということなんです。

荒川　現代のテンポに合わないといつて片づけられてしまつたら歌舞伎や浄瑠璃は、外国でもてはやされるのはどういうわけでしようか。

藤本　大阪の婦人会議で出たことばですけれども、近くの神様はありがたくなく、遠くの神様はありがたいということで、自分の国の中で身近にあるものは、ありがたみを感じなくて、外国を廻つてきたということで、その人が立派な人になつてきたというような弱いところがあるんじやないかと思います。

藤田　本で読んだんですが、ある生活困窮者の方が、子どもが育てられないから施設へあずけて育ててもらつたところが、ひじように言葉がおくれたというんです。家庭で育てていれば当然覚えるべきことばを知らないでいたというのです。毎日子どもと暮していますと、その言動が子どもに伝えられますので、そういうことばは、気をつけていただかなければならないと思います。

山崎　今藤田さんの言われたことばに関連して、私の近くに耳の聞こえない十九才のお嬢さんがいるんです。その方が、とても

美しいことばを使うんです。悪いことばが全然はいらないのでろう啞学校で教えられた美しいことばだけを使つているんです。

漆山　よく子どもたちが流行語を使うので、そんなことばは使わないように注意しますと、おかあさんは解らないと、一言のもとにきめつけられてしまうのです。先生も使つていましたよということで、子どもと親とことばの受け取り方が違つて困ることがあります。

長林　私はそういうことばは、今の時代にぴつたりすることばではないかと思うのです。私はそんなことばが好きで、子どもより先に使つてしまうので、子どもの方が興味をなくしちやうらしいのです。私、そんなことばを使うことによつて楽しんでいるんです。

岡部　そういうことありますね。私、コピライターをかく方に、ことばというものをもう少し美しいことばで表現してもらえないだろうかということ常日ごろ考えておりましたら、同じような投書がありまして、やはり日本語を大切にしようというものだつたんですけれども、それに、コピライターから反論がでまして、やはり感覚にぴつたりしたことばを選ぶと、そういうことばになるので、何も古い日本語だけが美しいんではない、われわれの生活を表わすことばだから、いちばんぴつたりしたのがいいのじやないかといつていました。

古田　先生は正しいことば遣いをせよといわれると、ちよつと困るんです。私自身とてもことば遣いが悪いので。標準語を使うのが正しいのだろうと思いますが、私五年を受持つていて、〝さあ、みんな山へいこう〟といつて、〝山へいきましよう〟とはいわないんです。でも子どもたちに、あの先生の担任になられて困るなどと言われないように、自分の時間のある限り、子どもたちに結びついて、子どもたちから嫌われないように心がけています。ことば遣いが悪いからいい先生じやないというのは、ちよつと疑問なんです。

岡部（リーダー）　今までのお話について、僕なりに感じたことを申しますと、きのうも教養というのは形だけのものじやないといいましたが、ことばも同じだと思います。時代が変つていくから、ことばだつて変つていくのは当然だし、変つて悪いというものではない。明治から今日まで、進化するか退化するかは別として、とにかく変化しているわけです。その中である程度の選択をしなければならないが、私たちは、ことばというものから伝統を受けとるでしようし、立居ふるまいから伝統の中に生きているわけですから、子どもを育てる場合にも、当然同じようにそれを伝えていくものだと思います。ことばというものは、何かそこにあふれてくるものがなければ、人に伝わらないんではないかと思います。僕と大学がいつしよの人がドイツに行つて、日本でドイツ語を習つていたんですが、通じない。ビヤホールへはいつて、向こうの土地の人とジョッキをもつていつしよに飲んだら、向こうがドイツ語、こちらが日本語で話が通じる、そんなもんなんですね。通じるというのは、通じることばが必要なんじやないでしようか。何か、文化というと、伝統の重みの中に生きているというふうに感ずるので、文化の一つの柱として「伝統」をだしたわけです。伝統について、とくに皆さんが切実な問題として、一言だけはいつておきたいということを伺いたいと思います。

林　伝統の中には、日常のつけ物とか、梅干しをつけるとか、昔

から伝わってきたものがありますが、ただ漬けるということでなく、おいしい漬物をつけて、子どもや主人を喜こばすとか、そういう心のやさしさというようなものが、私たちには残っていると思います。そして、子どもにもそういうやさしさというものを残していきたいなと思います。近所の人につけてあげたりもします。

岡部　まったく同感です。そういうところは、日本人のすぐれた一面ではないでしょうか。これも話に聞いたんですが、アメリカの家庭の主婦なんかは、包丁なんか満足に使えるんが半分もいないとか。使っても無細工で、ごつごつ切ってしまうとか聞きますけれども、生活のすみずみにまで美しさが浸透しているような、こまやかな気持が、だんだん日本の女性の中でも変ってきているような気もするのですが。

長林　そういうことでしたら、いちばん大きな問題は家族機構が変ってきましたね。今までは三代くらいいっしょに生活していましたけれども、現在は夫婦と子ども単位になってしまいましたので。漬物でも何でも、町ではデパートで売っていますので私たちは漬物をしないで、あいた時間に本を読むとか、料理学校へいって新しい料理を身につけて、自分で工夫して食物一つでも、年寄りがいたらできないようなことができます。そういうところが、新しい時代の傾向ではないでしょうか。

荒川　よい伝統を受け継ぐということは、努力の仕方だと思うんです。私は、やかましいおばあさんといっしょなんですが、私は私なりに努力して、お酒を飲む主人にも喜こばれ、みんなに喜こばれるようなものをつくっています。

中西　今、漬物の話から、家族機構の話になりましたが、それも伝統の一つにはいると思います。

岡部　われわれの家族が夫婦単位になっていくというふうに、生活の外側が変っていく世の中ですから、実際受けつごうとしても困難があるわけで、それは食物ばかりでなく、いろいろな点にでてくるのではないでしょうか。だいたい今までの話だと、伝統のいい面ばかり出てきたような気がしますが、伝統のアカみたいなもの、それで困るというようなことは……。

永野　ものをはっきり言わないということが、とくに宮崎のようなおくれたところは美点のようにいわれているのです。地域社会の中でも、こういうふうにしたらいいと特別忠告したりすると、出すぎたことだといわれます。

井上　京都も同じです。私なんか、今でこそ団地で近代的な生活様式の中にいますが、呉服屋という商売の中で育ったので、自分で意識的に反抗してきたので、私からはふつうの京都娘の感じはお受けにならないと思いますけれども、一般的に、ぼかしたものが美しかったり、食物や着物のことや行事など、ずいぶん問題があると思います。

荒川　外へ出ても、女の人は自分のことを思うままに言わないように教育されまして、その結果、今度の会議でも今日はまだいくらか勇気づけられて話もできるようになりましたが、この機会にだんだんそういうふうにやっていきたいと思います。

漆山　上のほうから押しつけられたということで、やはり嫁としゅうとの問題ですけれども、お姑さんにいびられたお嫁さんがお姑さんを殺したという事件があったのです。社会的な問題にもつながることですし、こういうことはもう少し検討してみる

必要もあると思います。どこかに出て憂さを晴らすところがあれば、お嫁さんもそういうことはしなかつたと思います。

岡部　自己主張といいますか、自分の意志ははっきり表明するということが、まだ全般的には足りないというか、水準に達していないという感じ方、受け取り方をなさつているようですが、一方で、自分が自分がということも多いんじやないかと思います。女性のみならず、若い人たちは自分が自分がといつて、先に自分を押しだすという非難もありますが、そのへんのところは自分をもう少し改造した方がいいと思います。

中西　戦後二十年たちまして、ずいぶんその間に婦人会議も開かれておりますし、各地の婦人団体の活動も盛んで、PTAのように戦前なかつたものができて、これほどやつてきていながら今だにそういう問題が、いつの場合でも問題になつてまだ残つているということは、こういうものは、二十年間くらいではなかなかなくならないのかと、あきらめに近い感じです。

大野　結局、伝統というものは、そういう歴史をもつているものなので、世の中が変つていて、その世の中でいろいろ受け取られて変質していつて、それで生き残るというのが伝統である。その間にいろいろ創造活動が続けられて、色を変えて生き残つてくる。それを受取つて淘汰していくのが人間のなすところだと思うんです。たとえば、日本の女性の伝統の美しさとかいつて着物の宣伝をされても、私はたいてい洋服を着ます。着物のよさは認めますけれども、洋服の便利さを知つているんです。そういうふうに、着物も着たいし洋服も便利だ、それを自分の生活の中で、生活と収入にあわせて着物も利用し洋服も活用しています。それから、私なんかよくおしやべりします。こういうふうにしやべる女の人が多くなつたということは、わりに前進しているんではないかと思うのです。だんだん意識をもつた人が多くなつていつて、意識をもたない人との距離をどういうふうにつめていくかが、問題ではないかと思います。私は割合肯定的にみているんです。

山崎　伝統というものの成り立ちは、人間感情をもとにしていると思うんです。たとえば、お盆だとかお彼岸だとか、祖先を扱う行事も人間感情から生まれていて、農家の暇な時を選んでそういうものがつくられたと思うんです。だからお盆やお彼岸を伝統として受けつぎ、次の時代に伝えていくということも、今の時代に必要か、それができるかどうかということを考えて伝えていけばいいんじやないですか。

井上　私、先ほど京都の因習とか、悪い方の説明しかしませんでしたけれども、風土と歴史的な背景とが結びついていることをみのがしては話ができないわけで、京都の家の建て方が京都の風土に適した一面もありますから、今の生活に不便があるにしても、それが発生してきた原因を考えて、適しているのであればそういうところを残していかなければならないと思います。

岡部（リーダー）　それでは、午前中もあと一時間ですので、地域の会合に参加されたときの、地域の皆さんの声を伝えていただいて、かつ、自分はこれだけのことは言つておきたいということを、一人ずつ言つていただきたいと思います。

山崎　今年から、家族の健全育成のため、毎月才三日曜日を〝家庭の日にきめました。ねらいは、家族全員が顔をそろえて、みんながひとりひとりの気持をよくしお互いに協力しあつて、明るく楽しい健全な家庭をつくりたいということです。一月十七

日から実施しています。まだ完全とはいえませんが。

岡部　近隣のつきあいというのはどうなんでしょうか。近所づきあいが忙しすぎて、家庭の日をもうけたのか。つまり、村の行事や何かに皆んなが引つぱり出されることが多くて、家庭も犠牲をはらつているから、家庭というものをもう一べん基礎からつくりなおそうじやないかということで、家庭の日というものがもうけられたんですか。

山崎　子どもの不良化防止のためです。

岡部　山崎さんは所感文の中で、かけ声だけの文化では困るということをお書きになつていたようでしたが、どなたでも、それに何かつけ加えることがありませんか。

漆山　私の住んでいるところは、地方都市でレベルが低いので、ここでこんな問題を出すのも恥しいようなんですけれども、生活様式の面ではどこの家庭でもほとんど文化的な電気製品が揃つていますが、従来の収入よりも支出の方が増大してしまつて両親で共稼ぎして、家には老人と子どもしかいないのです。そこの家は、足の踏み場もないほど混雑していて、お便所などは見るにしのびないという状況です。これでいいのだろうか、考えさせられます。家の中のゴミをはきだすために掃除機を買つても、外の国道が舗装されていないために、少しもきれいにならないというような状況です。

山形県では、テレビの普及率は全国で二位ですけれども、死亡率も二位、都市と同じような機械を入れても、どうしてこう死亡率が高いんだろうかといわれております。機械を導入することによつて、生活にプラスになることはいいし、それによつて新しい面がでてこそ近代化といえるのではないかと思います。

岡部　物質的な道具は揃つていても、要するに、われわれの物質的な環境、生活環境そのものが整備されなければならないということ。

漆山　それと、農村の後継者の問題なんですけれども、男の人を百とした場合、農村に残つて働く女の人が五・七%しかいない。後継者を養成する場が少ないということがいわれておりましたけれども、もう少しそのへんを考えてみたいと思います。

荒川　私は、県の会議の問題はとくにありませんでしたけれども個人の考えをいえば、物質生活の進歩によつて、若い方々の理想像はもたらされないということ、人命尊重ということが欠如しているのではないかということです。私が所感文に書いた横断歩道設置をしてほしいのに、安易に許してくれなかつたということから、人命をたいせつにするということを、もつと強く感じてくれてもいいと思うんです。

岡部　若い人ばかりでなく、社会全体としてそうですね。炭坑で何十人死んでも、また同じことを繰り返しておりますしね。

荒川　人命軽視は文化につながらないが、人命をたいせつにということは、文化にもつながるんじやないかと思います。

山崎　人間の命をたいせつにということ、それが文化の基本だと思います。人間の生活をより豊かにすることが文化だと解釈しているようですが、いつ、誰がどうなつても困らないような生活環境をつくるのが最大の文化だと思います。私、身体障害者のことをやつておりまして、つくづく、同じ人間に生まれたんだから、せつかく生まれた命を全うさせてあげたいということ社会保障をもつと考えてほしいと思うんです。

川下　大分で少年院がありまして、求人難で人手不足ということで短期間ですけれども職親になつてそこにはいつている青少年を、ある期間自分の家に働らかせて、精神的な教育もやつているのですが、そろそろ社会復帰といいますか、社会にもどして暖かい目でみてやろうとおかあさんのグループがやつています。

藤田　県の会議では、やはり今の文化は赤字文化だとか、いろいろ物質的な面がでまして、私も同感ですが、私の考えていることを少し話してみたいと思います。

中学三年生が、どうしてこんなに勉強しなければいけないのかということが問題になりまして、今の社会はあまりにも人間的な感情が足りなすぎるのではないか、地方で大学を受験するためには競争がはげしい。一流大学を受けて落ちたといつても、私立の学校は地方にはない。それで高校の勉強も大学を目ざすための勉強であつて、大学にいつてもまじめに講義を受け実験をし製図をし、家へ帰つて予習をし、まじめに勉強するのが連日だそうです。私は子どもが大学にいつていませんからわかりませんが、もう少し享楽をうたつて、適当にできるんじやないだろうか。もう少し授業内容に書道を含めるとか、デイスカツションをするとか、本を読むとか、余裕のある授業形態にしなければいけないのではないか、そういうことが、高校においても必要ではないかということを感じます。

岡部　大学教育は問題だと思つています。とくに医学部、工学部は朝から晩までびつしりつまつているようです。工学なんか、技術が進んできますと、教えなければならない内容が昔に比べて多くなり、そして年限が短くなつていますから、学生は朝から晩までつまつて、情操を高めるような勉強はあまりできないですね。学校でやつているだけでは解決できないということは、大学でも問題になつているのです。これはソビエトでもアメリカでも同じような問題をかかえているようですね。非常に大きな今日の問題だと思います。

漆山　いい学校といえば地方にはあまりないわけですね。地方のほうにも有名校を分散してほしいと思います。

岡部　きのうでたお話ですけれども、家庭の中では文化は解決できないということにつながつてくるわけですね。社会の大きな制度の中で、婦人の役割というのはまた問題になつてくるのだと思います。

古田　何で有名校に入れたいのか。私は淡路島のみかんの果樹園にいて楽観的かもしれませんけれども、子どもたちには自分自身の望みがあると思うんです。大工さんに向いているのは大工さんにする。勉強ができなくても、いい子どもがたくさんいるんです。だれでも有名校に入れて、楽な方法でお金もうけをするという、そういう生き方でなくてもいいんじやないでしようか。

漆山　私も同感ですけれども、社会情勢がそういうふうにせざるを得ないようにさせるのじやないでしようか。

藤田　その子の能力に応じて、無理をさせてまでいい大学にいかせなくてもいいと思うんです。しかし、高校はもう普通教育なみになつてきたし、大学を出た床屋さんもいてもいい。そうしたら、すばらしいものができるのではないかという話もでました。

山崎　なぜ大学に入れたいかというと、大学教育を受けなければ社会にでてからいい地位につけない。いい地位につけなければ

いい給料をもらえないからだと思います。

中西　そのとおりだと思いますけれども、サラリーマンとなつて大きな企業の中にはいつてしまうと、比較的社会そのものにおぶさつてしまつて、いい生活ができるが、個人で職業についてコツコツたたきあげていくということは、努力と根気がいります。だからサラリーマンには根性のある人が少なくなつてきたというのが現状です。

井上　もし私がお友だちから大学へいこうかどうかと相談を受けたら、いきなさいといいます。そのこと以外に、何か人生の空白の期間がうめられれば別ですが、何かのときに、大学を出たということが非常にプラスになつていることがあると思うんです。私は最初、高校を出て勤めまして、それから夜学で四年間学校へいきなおしました。別に学校にいつたことが現在の仕事とは直接結びつきませんけれども、男の方との話なんかも割合話が聞き入れられます。高校だけで終つていたら、役所の中で自分の体験以外のものは受け入れられなかつたと思いますね。私のそばに大学出の女性がいますが、大学を出たから事務的な能力は必ずしも優秀ということはありませんけれど、非常に話が豊富でゆとりがあるんですね。ですから、いける余裕のある方は大学へおいきになつたほうがいいと思います。

中西　先ほど藤田さんが、大学を出た床屋さんがあつてもいいとおつしやいましたけれども、そういう楽しい大学生活を送つてくると、苦しい職人の、かわらぶきにしても大工にしても、とてもできないですね。私は中小企業の工場を経営しておりますけれども、一人前になるには十五年やそこらの期間が必要なわけです。大学で楽しい思いをしてきた人は、そういう職人にはなれないんではないでしようか。

山崎　大学生活は人間的な関係でプラスになるといつても、大学にはいれない方はどうしたらいいのですか。私の場合、大学の価値を認めているだけに、いきたいのにいけない人のことが気になるんです。

岡部　たしかに、勉強することそれ自体重要なことだし、やろうと思えばどこでもできるわけです。自分の仕事を通じてもできるし、ただ、大学というようなところで、そういうふうな勉強をしていくという形はとれない人もある。職人というのはたいへんな仕事だろうと思いますし、あれは非常に貴重な日本の文化財だと思いますから、何かの形で保護するような政策もとられたほうがいいんではないかと思います。今は人手不足で、ますますもつて職人になる人がいない。安い賃金で苦労しなければならないということになると困つた問題だと思います。

藤本　学歴のことなんですけれども、人間的にもそれぞれ違うように、能力も違うのだから、大学にいくほうがいいとかどうとかということでなく、大学へいくというのは一つの手段であつて、自分の能力をよりよく生かして、よりよい生活をしていくという、そういう手段に大学を選んだり、また大工さんを選んだり、運転手さんを選んだりするのだと思うんです。今の人たちは、はきちがえて、大学へいくことが目的になつてしまうから、大学にはいつたらとたんに目的を完成して、あとは授業に出なかつたり、休んだりということになるのではないかと思います。ですから、能力をもちながら、金銭的にはいれないという人は、国家的にめんどうをみるーということではないでしよ

うか。

岡部（リーダー）　そのことだけが目的で、おかあさん方が子どもに無理を強いているということは、十分反省しなければなりません。では、どうしたらいいかということになると、むずかしい問題ですね。

それでは、このへんで先に進みましょう。

中西　私たちの県の大会ででた問題は民法のことで、いろいろ改正になつて、長男が年寄りをみるということはなくなつたと言つても、相変らず長男の負担はたいへん大きい。法律では、女性にもたいへんいいことになつているのに、現状は全然変つていない。変えようと思つても、とても抵抗が強くて親類一族に総攻撃されるので、住んでいられないという現状を、どうしたらいいかという問題がでていました。私も、その法律や民法のことはよく知らないのですが、どういうものでしょうか。それから、来年丙午で、年輩のおかあさんは盛んにその問題を出されていました。私の個人的な意見としては、物質文明の中でどうして生きていこうかとか、子どもをどうして育てていこうかというときに、世間から教えられたり、本を読んだりしても解決できる問題ではない。いいつくされている問題だから、それに対して勇気をもつて、自分の思う方向に進むより仕方がない。今の大学の問題でも、食物、伝統の問題でも、勇気をもつてふつかつていけるだけの、勇気をつくる力を自分自身に養つていこうというのが、私のいちばん主張するところです。

岡部　丙午の話は全然でませんでしたけれども、昭和生まれの人だからでしようか。ほかの部会ではでたらしいんです。

林　和歌山でも丙午のことが相当問題になりまして、結局、子どもをみんなが生まない丙午の年に、自分の子どもを生んだら、生存競争のはげしいときに有利だ、らくらく学校にいくこともできるし、かえつて丙午のときに子どもを生んだほうがいいという話がでました。

藤田　話は違いますが、新潟で、中西さんがさつきおつしやつたように、伝統のよいものは残そう、捨てるものはすてさつて、価値感を判断して、自分のペースでやつたらいいのではないかという話がありました。

井上　私がいいたいことは、社会の機構、環境をみたときに、人間性を阻害するようなこと、選択の余地もない、押しつけられたものが多々あることなんです。文化の問題にしても、人間性の問題にしても、社会的な環境というものがほしい。そういう環境というものは、国の仕事の大きな一面なんですけれども、今までの例でわかるように、単に待つだけでなく、不合理の条件を検討して、私たち民衆の側に獲得していくという働きかけをもつということです。

京都で話題になつたことは、年輩の方が多かつたために、社会保障、老人保障という老後の問題で、老人がみじめな生活をしているのに何が文化だ、ごまかしの文化ではないか、というようなことでした。

岡部　井上さんの、民衆の側から働きかけていくということ、むろんそれは今後活発にしなければいけませんけれども、近く参議院選挙がありますから、その機会があるわけですね。婦人参政権が与えられて二十年ですから……。

それでは、オブザーバーの方から、きようの意見交換について

ご批判をいただければと思います。

大友（特オブ）　きのうのディスカッションの中で、社会的にも地位の高い方で、だれでもが立派だと思うような方が、たまたまお嫁さんがお姑さんの悪口をいった。そういうお姑さんは教養ある人とはいえないというご意見がありましたが、私は老人だから姑の立場を弁護するわけではありませんが、私は終戦後家庭裁判所の調停委員をして、終戦直後は非常に姑が悪くて大へんお嫁さんがかわいそうだという調停ばかりでした。私はさかんに嫁さんの援護をしたわけですが、今日では逆転して、今は姑であるということを、もう一度皆さんが考えてほしいのです。といいますのは、私どもも産業の発展に伴いまして、婦人が職場に進出して、権限をもつてきたわけです。家にいて、家庭において子どもを教育しているのは、経済的な権限をもたないお姑さんが多いのです。その人たちは大へん不安定なんです。嫁と姑が単なる歴史的にこういうものなんで、世の中が変つてもこうなんだということでは困るのではないか。

今の方は今のものさしではかります。だから年寄りは、ただ、きのうのお話のように教養のない人間だということになる。では、はたして嫁さんがお姑さんを理解しているのかどうか、そういう両面に立つて話をしないと困るのではないかと思います。年寄りには年寄りのよい面があるのですから、嫁の側にばかり立たないで、人間という大きな立場に立つのがたいせつではないかということです。

それと、もう一つ皆さんが今ここで真剣に子どもさんのことを論じて、能力に応じた教育をさせたらということをおつしやつていましたが、皆さん方こそ、実は無理しても大学に入れたい層ではないかと思います。というのは、こういうおりこうな方々は、社会の仕組みとか、政治のあり方をみていますから、今の時代では大学にださないとおくれるということを、十分認識していらつしやる。ですから、言つていらつしやることと腹の中はきつと違うんではないかと、私の根性が悪いのか知りませんが、私はもつとこの問題を堀り下げて、どこに原因があるのか、これをなおすためにはどうすべきかということを、話し合つていただきたいのです。それから、これだけの良識がある方たちなのですから、地域の団体の中にはいつて、いい知識を広げていただきたいというのが私の願いなんです。

それから、身体障害者とか、能力があつても学校にはいれない人、私は個性というものがそういうところにこそ生かされなければいけないんではないかと思いますし、また、それを考えることが法政ではないかと思います。私も自分の子どものまわりばかりを考えているような気がするんです。

それともう一つは、価値感がだいぶ変つてきていますけれどもその価値感をどこにおくかということが、今度の問題としてでてくる。古い時代には苦労があり、どんな圧力があつても自分が正しいというものに対して通すというプロセスがあつたと思うんです。私もやつてきましたが、最近はどうもそういうことが少ない。ほんとうに言うべきことも言わないで、権力や金力者の追従者になつてしまつたり、これでは日本はどうなるかということを心配しておりますので、価値感の基準というものをもつと考えていただきたいと思います。

岡部　どうも本質的な問題について、ご忠告いただいたようでありがとうございました。最後の価値感の問題です

ね。こういうようなお話のきざしは、先ほどからちらりちらり出ていたように思いますけれども、もう少しその点もはっきりこういうチャンスには勉強して、しっかりつかんでおくほうがいいと思います。それでは一応、午前中はこれで休憩にはいります。

（十二時休憩）

（一時三十分再開）

岡部　それでは休憩前に引続きまして、大阪の藤本さんお願いいたします。

藤本　大阪の会議で印象に残ったことは、文明が進んでくるにしたがつて、いろいろ人間も便利になつてくるが、それに伴う不幸も多くなつてきている。しかし、人間が現実の中でいろいろの不幸をなくしていくために戦つている、そういう歴史が文化ではないかというふうに助言者の先生がお話しになつて、個人個人が持ついろいろな問題ー越境入学とか、物価高の問題、スーパーマーケットなどでの安物買い、また給食の脱脂粉乳に以前は豚の飼料だつたものが用いられていたというような、私たちには考えられないことを実際に歩いて調べた結果など、いろいろと出まして、結局自分個人の家庭の中で処理できない問題がたくさんあるから、いろいろなグループを作つていつて、そういう不幸をなくしていくように持つていつたらいいのじやないかというようなことが話されました。結局、私たちは文明に伴つて生じる不幸と戦つて、人間がほんとうに幸わせに生きていけるために努力していくべきだと思います。

中西　藤本さんがおつしやつたように、文化が発達していく上で道路とか大きな建物がどんどんできて、美しい自然が破壊されていつて、子どもを育てる上で、私たちが子どものとき受けてきたような情緒というものがなくなつていくわけですから、それに変わるべきものを考えていかなくてはならないというお話が地方会議で出たんです。たとえば静岡県ですと、由比だとか清水の海岸とか、浜名湖とか、美しいものがだんだん破壊されていくのですね。

岡部　公害の問題も当然そこにあるわけですね。そういうものに対してもう一つ、どういう態度を取るかということがあるわけですね。というのは、要するに牧歌的な自然に対するノスタルジア、過ぎし良き日の思い出を懐しむだけで済むのかどうかということですね。やつぱり二十世紀の半ばを過ぎていると、もう二十世紀の始めには戻れない。だから、やはり現在の時限の中で考えていかなければならないのじやないか。それは公害を認めるということじやなくて、われわれは対策を考えていかなくてはいけないが、ただただ昔はよかつた式のものはどうでしようか。そういうものは捨てなくちやいけない気がするのですけれども。

藤本　昔はよかつた式の恋しさでなくて、あとの世代に今の文化を伝えていくというときに、文化というものと文明というものとが混同されやすいのではないかと思います。お金をたくさん使つてりつぱなものを建てたとか作り上げたということでなしに、お金では見合わないものをどうやつて残していくかということが、今真剣に考えられていいんじやないかと思うのです。ブルドーザーに土地をこわされても、土地会社に高い金で自分の土地を売る人がありますが、その土地があるから昔の京都のように美しい自然が残していけるのですから、自分が儲けたい

というような気持でなしに、スイスのように排気ガスによつて緑を死滅させないように、みんながそれを守つている、そういうところも日本の中には必要だと思います。

岡部　それも同感です。ただ昔はよかつただけ式の奥くだけでは仕方がないから、もう一歩前進て、そういう声を形のあるものにどう結晶させていくかということがあるような気がします。

井上　工業的に発達する都市と、京都などのように保存的ないい面を残しておきたい都市があると思いますが、地方自治体という面から考えると、財政的な面で伸び悩んで、保存すればいいとわかつているところも、住民の生活に影響をもたらすから開発していく、という矛盾がありますので、積極的なベックアップがほしいと思います。

岡部　非常に本質的な問題になると思いますけれども文化そのものよりも広域行政の面で地方自治体の抵抗があるわけです。国と地方自治体との関係ばかりじやなくて、小規模な周辺の下水の処理とか、そういうことが起こつているんじやないですか。

長林　たとえば学校の施設の問題にしても、してくださいというと必ず予算がないといつて押えられる。それに対してこちらも強くいわない。なぜかというと、そのためには個人的な寄付がすぐかかつてくる。たとえば、暖房費の予算などは国から地方自治体の中でもらえるのはいまだに炭火ばちを一つ置けるだけという、すずめの涙ほどの予算しかないというのです。

岡部　簡単には解決される問題ではないと思います。解決の方法について、皆さんの意見を聞くことですね。

千葉　私の主人は市会議員をしていますが、陳情などの場合、市民の方では受け付けてくれないといつているが、もつとみんなが声を出してほしい。市民の声が反映されないから予算化されないんだというんです。

岡部　きのうテレビにろいて、声をあげて非難をしたらいいということが出ましたけれども、それと同じことですね。同時に具体的な形でいえば、投票ということだと思います。

荒川　私の場合、書簡文にも書きましたように、議員さんが顔をきかせれば早くできるということを皆さんに聞いていただきたいと思います。横断舗道設置の問題で私たちが六カ月もかかつてできなかつたことが、市会議員さんと県会議員さんのお声がかりでたつた三日間ででき上がつたのです。

拓植　私の方でもそういうことがあつて、家が一軒あいたら市会議員のコネで、ある人が抽選も何にもなくて入つたことがあります。そのことに対して矛盾を感じております。

藤田　私はグループを通して市議会を見学したりします。そうすると、非常に一生懸命やつていらつしやることを痛感しました。私たちは議員さんの努力して働いていてくださる面も見なくてはいけないと思います。またいろいろな団体で、国からの予算をもらつて仕事をしていく場合、やはり仕事をしている地域には国からの補助も多く出ています。ですから、一つ一つの仕事を積み重ねて盛り立てていく必要があると思います。

岡部　話がとぶかもしれませんが、藤田さんの話では努力が実つているというけれども、現状が非常に嘆かわしい、どうしたらいいかわからないというご意見があつたように思います。個人の善意が簡単に踏みにじられてしまつて、大きな壁

にぶつかつてしまう。戦後少し長い目で見て幾らかでも前進しているものか、そこいら辺の評価はどうでしょうか。

林　私は前進していると思います。東京でオリンピックが開かれている間は町の中が花できれいだつたが、オリンピックが済んだとたんに東京の町がゴミの町になつた、これでは将来どうなるだろうかといいますけれども、私、子どもがこの間、東京をお別れするお友だちがありまして、お別れ遠足をしたいということで、お友だちと三人で行つたんですけれども、その前の晩にポケットの中に紙切れが入つていて、二人きりでものを見せ合わない、二人で話をしないと書いてあるので、そのわけを聞いたら、三人で遊びに行つて二人きりで話をしたらけんかになるから、そんなことをしないように書いたんだというんです。また、ゴミを捨てないようにポリ袋をもつて行きました。ここのへんにマナーが子どもにしみ込んでいるように思つて、この子どもらが大きくなつたとき、そういうよいマナーを忘れないように、家庭でおかあさんも協力して、この子のマナーがこの子どもたちの身についたものとして成長していくように注意して育てていきたいというふうに私は思います。

漆山　私も進んでいると思います。私、商店街に住んでおりますが、市役所ではゴミを一週間に一回くらいしか回収に来ない、それでは困るから地区の人たちと相談して特別回収バッグを作つて市へ陳情して、市から補助をもらうほかに回収も週二回というふうにしていただきました。

中西　現在、体育館とか市民会館とか、文化的な施設がどんどん着工して整つているにもかかわらず、町中で野犬が横行して、たまたま橋から落ちた人が仮死状態になつていたら噛いつかれたというような、大都市の中で驚くべき現状なのです。大きな都市でいながら、それを処理する人がたつた二人しかいない。何とかしようと二年前から騒いでいるにもかかわらず、遅々として進んでいない。文化のアンバランスといつてもあまりにもおかしな事実であると思います。

林　私は書簡文にも書きましたが、非行青年に手を差しのべるよりも、非行に走らない前にもつと私たち主婦で何かできることがあるんじやないかと考えて、よその子どもでもかわいがつてあげたり、しかつてあげたりした方がよろしいと思いますが。

岡部　一種の連帯責任、社会の一員として人の子どもだから、自分の子どもだからと差別することなしにですね。

中西　昔は村の中でも町内でも比較的自分の町の子どもだという意識で、地域の子どもを年寄りが忠告したりしかつたりした。それが現在では、子どもを怒るということに抵抗を感ずる。自由主義のはき違えというのか、うちの子どもだから言つてくれるなという、私たち子どもの時分には隣のご隠居さんにはよく怒られた経験がありますが……。

古田　私も共かせぎですが、うちの子どもが夕方遅く、学校の帰り道のお地蔵様にいつも電気がついていないので、かわいそうだからマツチに火をつけたというのですが、そのときなぜ、子どもに近所の人が、たとえ人の子どもであつても、注意してくれなかつたのでしよう。

永野　そういう場合、すなおに受け入れてくれるおかあさんと、うちの子は教育しているから怒つてくれるなというおかあさんがある。ですから口をつぐんでいれば無難じやないかと思います。

岡部　そのこともありましょうし、また嫁には嫁の教育方針があるだろうということもありましょう。昔はお嫁さんとおしゅうとさんも同じ方針でやつたわけですけれども時代が変れば方針も少しずつ変つてくる。それが社会全般に広がつてきているとも思いますけれども……。

藤本　だいたい、親も先生も怒らなくなりましたね。いいことと悪いことのけじめをびしやつとしなければいけないと思いますが、親にも先生にも権威というものがなくなつたように思います。このごろの先生には親愛感があつていいという一面はありますけれども、何かびくびくしているような気がするんです。

岡部　権威がなくなるのは結構だと思いますけれども。

藤本　先生はいいことをしつけているんですから、いけないことは最後までいけないと、自信を持つて言つていただきたいです。

長林　そういう時代だからこそ、特に母親は善悪に対するけじめということについては、いちばんしつかりしていなくてはいけないと思います。

山崎　回りの人が怒つてくれなくなつたのは、戦後が境だと思います。戦後解放されたといわれますけれども、解放じやなくて投げ出されたので、親も自分の考え方、価値判断に自信をなくしたんだと思います。ここいらで価値判断を建て直す段階に来ているのではないかと思います。

岡部　そういう基本的な問題を考える段階になつたんじやないかと思いますが、われわれはどういうふうにして、どういう社会を目ざして、どういう人間を育てあげるのか、自分はどういう人間になるのか、そういうところをつきつめていくところに文化の花が開く、前進があるという気がいたしますけれども……。

荒川　青少年の非行ということも、自分では悪いことだとあまり思つていないでいるうちに、ものがほしいためにそういう行動を起こすということは、善悪の判断ができていないからだと思います。

長林　話が変りますが、近所同志のおつき合いというものを私たち変える必要があると思います。特に団地に住んでいると、ぴたつと部屋にこもつてしまえばそれで終わりです。午前中隣の人が来たりして、少し甘い顔をしていると一日仕事ができないということが実際にあるんです。そういう場合にどこまでつき合つていいものか、全然おつき合いをしなければ、火事があつた場合なんかに助けてもらえないし、どうしたらいいでしょうか。

岡部　隣近所のおつきあいで悩まされる方と、逆におつき合いがなくなつちやつているという方と両方あるわけですね。

古田　私なんか共かせぎで近所のおつき合いができないのですけれども、淡路は水がないのでバケツを下げてくみに行くので、ふだんのおつき合いが必要です。隣と手をつなぎましようと皆さん言つていても、実際には今のところそういうことをしていない。結局兄弟や親子が助け合つているので、これでは狭い考えだなと反省しておりますけれども、そういうおつき合いはどこまでしたらよいのか、お教え願いたいと思います。

藤田　私も市営の住宅の団地ですけれども、いろいろな方が集まつていますから、そこに永住しないという気持の方もありま

し、隣組も否定する方もおります。PTAには子どもがかわいそうだから入りますけれども、私はそういうところには入りたくありませんと言われると、やはりさびしい気持がいたします。もちろん、組長の順番が次に回ってくると隣組を否定しておりますから、そういうことはしたくないとはつきり言います。これは市役所の仕事を、戦時中の産物として受け持つているものです。私どもの地域では「今日は」「さようなら」と、頭を下げるだけであつていいものか、もう少しなごやかな気持でいかれるものなら、もう少し交際してもいいじやないかと思います。しかし私は、長話の人にはこういう仕事がありますからこれくらいにしてね、と言つてしまいます。

永野　話し合いの場を持つというのが出ておりましたけれども、ひとりひとりの個性によつて受け取られ方が違うと思いますけれども、話し合いの機会と場を広げていくのが解決の端緒になるんじやないかと思います。

川下　私たちのところは案外開けていて、たとえば、お話し合いに行くときに、私は今から二十分間おじやましますと、こちらで時間を区切つて、ドライに割切つておつき合いをしております。

井上　私の方の団地は五百戸、六百戸とひとまとめになつており まして、関西でも二、三番の非常に大きな規模で、一つの階に十軒並んでいる。ちよつと離れていると、苗字も顔も職業も全然わかりません。ですから、おつきあいをしたくない人には非常に便利です。つき合いたい人は自分の自由につき合つているし、子どもたちを通して自然につき合つている、そういう状態です。

岡部　長林さんの場合は隣近所のおつき合いに悩まされるようですけれども、あとの方々はむしろ現状では、隣近所の人間関係が疎遠になつているというお話のようでしたけれども、ずいぶん世の中は変つたものだと思います。もう一つ隣組のお話がちよつと出ましたけれども、反対なさる方にはその理由があるんでしよう。居住者自身が自発的な意思ででき上がるのは非常に結構ですけれども、行政機構の末端として国から町までできて、公報とか子どもの入学の通知などを、人手が足りなくて配るのが大へんだから、隣組の組織があると便利だからというので、上の方からそういうものを作れと言つてくる。そういうものには抵抗があつてもやむを得ないかと思います。戦時中の悪い思い出がありますからね。ですから、それとは別に、自発的にそういう組織を作つていく、個人の力では解決のつかない問題を処理していく。これは生活と文化じやなくて、政治と文化のような問題になつてきているように思います。そういう問題になつてくると個人の力ではどうにもならないということになるでしようから。では次に大野さんにお願いしましようか。

大野　広島の地方会議の職場部会で出た意見も今まで討議されたような結論だつたと思います。非常にわれわれの生活が政治と結びついている、そのためにはわれわれはそれがうまく政治につながるように努力すべきだ、そのためには女性自身が横につながりを持つべきじやないかということ、それからもう一つの点としては、広島の婦人会議で百人近い出席者の中で、五十才から六十近い人が多くて、最も来てほしい二十代、三十代、四十代の人が出席していないところに問題があるんじやないか、

もう少し若い人にこういう会合に出て意見を出してもらいたい。だいたいこういう会合には、暇のある五十、六十の年配の方に限られるという傾向があります。地方会議ではこの二点が印象に残つております。私のいちばん言いたいことは、現に私がやつていることですが、自分に子どもがないものですから、グループを作つて理想的人間像を文字に表わして童話を書いていることで、だれでもやれることなんです。これは、非常に勉強になりますのでぜひおすすめしたいのです。われわれのグループではそういう創作活動を提唱しておりまして、人間は自分の歴史を文字に書きとめておくことは必要で、それを子どもに伝えるということはすばらしい形見じやないかと思います。自分で書きとめることによつて、自分自身を振り返り、自分自身で人間研究ができるのです。これはじみちな、生活に結びついた文化活動じやないかと思います。私どものグループには、いちばん年長者で七十二才という方がおります。結局その方は家にいて嫁の顔を見るよりも、残された余生を充実して過ごしていきたい、その老後の問題をかかえて、七十才から二十才の間の違和感を感じさせないようなそういつた自分の生き方を文字に書きとめているわけです。

中西　私も今、書くということをやつています。私は学校を卒業して以来、書くということをしなかつたのですが、三年前に入れていただいて、毎年一回、その年に書いたものの中でいちばん自分かいいと思つたものをリーダーのところへ出して、自分たちでお金を出し合つて文集みたいなものを作つて、図書館に配つたり好きな人に配つて読んでもらつています。四十代の方が書いたもの、五十代、六十代の方のものもあつて大へん楽しく、自分を高めるのに役立つていると思います。

拓植　熊本の婦人会議で出た問題は、今皆さんがお話しになりましたことで言い尽されていましたから、私個人の問題について皆さんにお尋ねしたいと思います。皆さんの話を聞いていますと、精神的にも物質的にも充実して恵まれた方ばかりのようですが、私は職場を離れてから毎日が不満で、何をしても何かしら心が空虚でたまらない。子どもを育ててもどうせ子どもは自分のところから飛び去つてしまうものだと思うと、何か目的のない人生に対してやり切れないときがあるのです。それを満たすために手芸や読書をしますが、それではどうしても満たされないので、一年前から仏教の勉強を始めました。それによつて人生とか人間とかいうものが、おぼろげながら解つたのですがこれから先、私個人としてどうしたら精神生活が充実していけるか、皆さんから具体的に話を伺いたいのです。

岡部（リーダー）　今まで職を持つていて最近やめたという方はどなたでしたか。

林　市場の中へお店を出して商売をしておりました。子どもをおばあさんに見てもらつて、子どものしつけは三つまでが大事だといわれておりますのに、そのいちばん大事な三つ、五つのとき、上の子どもはおばあさんに、下の子どもは保育園へお願いして大きくなつてしまいました。今中学三年生ですけれども、話をする時間がないので子どもの言つていることが解らないのです。家庭教師をつけているから成績の方はまあ安心していますが、着るものも縫つてやる時間がないから、新しいものを買い与えてしまう。そういうことがやり切れなくなつたので、とうとう店をやめてしまつたのです。いちばん大事なときに子ど

もをそういう育て方をしたので、私の育て方は間違つているのじやないかと心配しているのです。

岡部（リーダー）　職を失つたことに対するやりきれない気持、そういう空白感という点では林さんの場合はどうですか。

林　私の場合はあまり感じません。

山崎　私も前に勤めていて、やめてからすごく空白感を感じました。ただ子どもの母であり、妻であるだけでいいのかなという不安を感じて、何か自分にもできることはないかなという意味でグループを作つたのです。

長林　そういう社会的な意義のある仕事をすることもよいと思いますが、結婚して子供をふやすということも重大なことですし社会的にも認められていると思います。子どもを育てたり、自分の主人を助けることは非常に大きな仕事だと思います。男の人のようにサラリーを持つてこないだけで、事実はそれに匹敵する仕事をしているというプライドは持つております。ですから家庭に入つても張り合いがあるような気がします。

大野　自分というもののよりどころが主人でもなく子どもでもない、自分だけだというときに、自分の生きる寄りどころが何だろうかと考えるおかあさん方が割合に多くなつた。それは時間的に余裕が出てきただけじやなしに、人間としての自分を意識するようになつたからではないかと思います。私の仲間に四十才の奥さんで、私も年を取つても楽しい生活ができるように、主人がいなくなつても本を読んだり、童話を書いたりしたいと言つている人があります。もちろん、子どもを育てるということは文化につながりますけれども、自分という人間を世の中に意識して、とにかく何か打ちこめるものを持つべきじやないかと思います。

藤本　私も主人をなくしましたときのさびしさというものは、未亡人のくせにえらくばつばつしているとおつしやいますけれども、そんな気持はなくて、今まで主人が読んでいた本とか着物とかが全部いらなくなる、そうしたときに初めて死というもののむなしさが何かぐつときた、今までいた人が全然いなくなつて、その人が生きていたことを親身に感じているのは、結局自分の心の中だということを強く感じました。生きている間に自分を高めるとか、充実感を得ようとかいうこともたいせつですけれども、やはりたくさんの人たちに接してその中に自分もいつしよに生きているということを確かめるということが自分でほしいんじやないかと思いました。私も今は喫茶店みたいなものをしておりますけれども、コーヒーを出してすつと黙つて引き下がつていくだけでは、何か自分が毎日コーヒーをたてる機械になつたような気がして、一人になつたとき考えてしまいます。何かすごくさびしいので、店の構造をずつと変えまして、カウンターのようにして、皆さんと話し合いながらコーヒーを出せるようにしました。いろいろな話し合いをすることによつて自分も生きていたんだという確信がほしいという気持で、そういうふうにしたのです。

古田　私はそういうことは羨しいと思います。時間的に暇があるからそういうむなしさをお感じになるんじやないかと思います。私たちも共かせぎをしておりますから、子どもが学校から帰つてきて、昼間いつしよに接する時間が少ないので、子どもが起きている間は話し合いの時間を持つてやろうと思つて、子どもが寝てから洗たくをしたりします。いなかのことで屋敷が広い

ので、花を植えたり、次から次と仕事があつてものを考えるという時間がなかなか生まれてこないのです。

岡部（リーダー）　非常に本質的な問題のような気がいたします。中西　私はただの一度も社会に出て働いたことがないのです。旧制の女学校を卒業してすぐに家庭に入つて、現在までそのままですけれども、職場に出て社会につながりのあることに働くことは、そんなにすばらしいのかなと思いました。毎日家庭にいてむなしさというものを感じない、今初めてそういう問題を受けて驚いているようなわけです。私なんか朝五時に起きて、うちの回りを掃除して雑草を抜いて、花を植えたりかきねの手入れをしたり、けつこう毎日楽しくて、むなしさを感ずる余裕がないです。外へ出て働くのも社会的活やくかもしれませんが、道を通る人がきれいだと思つてくだされば、道に花を植えるのも社会につながつていることで、これもいいことだと思います。

藤本　そうだと思います。社会とそういうつながりを持つてやつていらつしやるから満たされているのだと思います。だから、拓植さんも家の中ばつかりに考えを向けないで、お勤めばつかりが社会につながつているのじやないというふうに考えたらいいと思います。

藤田　私もさんざん迷つて勤めをやめたんですけれども、やめた理由は子どもを育てるということは非常に忙しくて、空虚感などというものはありませんでした。私には創造する喜びというのがありました。編物でもお料理でも、家事、家庭の全般を通じて、自分で作り出すということです。だからその人その人の考え方じやないかと思います。

川下　大分でいちばん中心になつたことは、文化の受け取り方が形式主義に陥つているのじやなかろうかということです。与えられる文化じやなくて、お互いに高め合つていく文化に欠けているんではないか、いろいろな電化製品によつてあまつた時間をどのように使つていくかということをもう少しお互いが真剣になつて見なおしていかなければならないんじやないかということを指摘されました。そして結局　生産的な意味をもつ活動がなされなければならないんじやないかということが、大きなねらいだつたようです。

永野　宮崎県の会議では、県の特殊性というものはほとんど出なかつたようです。出席者がほとんど宮崎市の方で、漁村・農村から出席していなかつたためかもしれません。地方会議では、話し合いの場を広げようということが相当とりあげられました。それからもう一つは、消費文化に押し流されぬ婦人になりたい、マイペース運動というものが今繰り広げられておりますけれども、人がするから私もするとか、目的もなく物を買い込むというような、他動的な動かされ方をしないように、というようなことが取り上げられておりました。私個人としては、消費文化についていろいろ考えておりましたけれども、自分を見つめる、自分に問いかけるという時間的な余裕がないのが残念で、こういう機会にあらためておのれをふり返つてみたいと、大へん期待して出てまいりました。私たちが生きた時代がちようど戦争を境にして、自分というものをしつかりつかんでいない。それが子どもを教育するにあたつても、どういうふうな子どもになつてくれれば、子どもも自分も幸わせなんだろうか、理想像というものが全然つかめないんです。

漆山　宮崎でのマイペース運動は非常にいいと思います。文化器

具だけでなく、全般にそういう傾向が非常に強くなつてきていて、経済的にも無理をして無駄な買物をしているんじやないかということが強調されました。

岡部（リーダー）　文化の問題、人間とは何かと、きのうからきようにかけて出ましたが、話を整理して結論を出す気持はありませんけれども、ともかくこのへんでまとめてみてはどうでしよう。今、教養ということが話題になつて、自分というものを問い詰めていく問題、その方向や手段についての議論があつて、それと同時に文化というものが政治につながつていること、文化を前進させるためには政治という時限にまで発展させていかないと解決のつかない問題がたくさんあるのだというご意見がありました。そこらへんをもう一べん復習してはどうでしようか。どなたかおさらいという形でまとめてくださいませんか。僕の才三者的な印象としては、消費文化とかマスコミ文化とか、流行などの表面に現われたはなやかな文化に対する批判はほんとうに詳しくはつきり出ました。それを否定する議論もありました。その限りではおそらく申し分ないと思います。

最後にもう一度特別オブザーバーの方のご意見をお願いいたします。

水沢（特オブ）　文化の問題は大へんむずかしい問題で、お話が多岐にわたつていますので、一つ、二つにしぼつて問題をきわめていくということは、なかなか難しかつたんだということを感じました。消費文化とかマスコミ文化とかいう問題は、皆さんよくご存知ですけれども、ほとんど私たちが受身の感じです。消費文化にしても、電通十訓というものをつくつて、一生懸命になつて宣伝しているのですが、私どもがそういう宣伝に振り回されているような傾向があつて、そういうふうなものがあれば何か文化生活をしているというふうに感じやすいのですけれども、私どもは消費者自身の消費文化を築いていく、拒否するものは拒否する、注文があれば出していく、そういう積極的な姿勢で私たち自身の文化を作つていくことが必要じやないかとこう思います。教育の問題にいたしましても、皆さんが現在のあり方に疑問や批判を持ちながら、大学を出さなければ将来の生活の問題があるので、一人一人としては子どもを大学に出していきたいというふうに思つていると思います。これは経済の問題がからんでおりますから非難はできないと思いますが、ただ、そういう教育のあり方そのものに目を向けていくべきではないかと思います。結局これは、ひとりひとりで解決できる問題ではないし、皆さんちやんとしたお考えを持つていらつしやるのですから、地域への働きかけと申しますか、何か一つでも実際に動かしていく力をお互いに出し合つていこうということが、皆さんのお話し合いの中でもう少し出てくればいいなと思いました。地方自治体のお話で、議会を傍聴すると議員さんが一生懸命やつているというお話がございましたが、やつぱり私たちが傍聴したり、要求したりすれば、むこうも真剣になるもので、私たちの働きかけもまだ足りないのだと思います。私たちに主権があるんだという、そういう姿勢がまだ私たちには弱いような気がします。議員もむしろ私たちが動かしていかなくてはいけないのだし、そういうふうに社会とのつながりをもつて自分たちが動いていくいき方、世の中へ働きかけていくいき方が文化にとつて非常に関連があるんじやないかと思います。

岡部（リーダー）　先ほどから、「生活と文化」より「政治と文

化」という問題があるのじやないかということが出ておりますが、それは確かに大事なことだと思います。それから、マスコミの受け手として単にこれを受け取るだけでなくて、それに働きかける、それも単に自主的な一人の力では弱いから、何らかの力で組織づけることが必要である、そういうふうに感じました。

吉村（特オブ）　私は、きのうのデイスカツシヨンからずつと伺つていて、私たちの生活と結びつけて話し合つているのに興味をもちましたが、きようの午後になつて一つのものが生まれてきたことをうれしく思いました。私が申し上げたいのは、この婦人会議が終わりではなくて始まりである、という気持がとても感じられました。婦人会議で考えたことを自分の生活へ持ち帰つて考えていくことだと思います。私たちの生活と文化というように、文化というものを主体的に考えていく。皆様方もそういう問題をずいぶん話し合われましたが、戦後二十年間たつた問題の考え方としてはいい発展の仕方だと思いますし、同時に自分の考えや思想というようなものを、その中から高めていくことをしないと横に広がつたままである。ずいぶん幅広くいろいろな問題について発言されましたけれども、せいぜい自分の所見以外に出なかつたことを非常に残念に思います。たとえば、価値感の問題についても、そういうふうに問題意識を女の人が考えるようになつたというだけで女をとめておきたいのじやないか、この上、さらに考えるような女になつてもらつては困るらしい。しかし、ほんとうはもつともつとものを考えて、考えて、考えていく人にならないと、ただ横に広がるだけでおしやべり奥さんになつてしまいます。文化というものはそういうものとは全然異質なものです。きのうからの会議で、文化についていろいろ話し合われましたが、それが新しい文化を作りだすいちばん基本になるものは何か、その心理が何かということをつきつめて考えていたかどうか、また、物質文化だけで精神文化にまでいかなかつたということ、それを今度私たちの課題として掘り下げていきたいと思いました。同じことのプロセスとして社会的な解決とか政治的な解決とか言われ、それも重大なことだと思いますけれども、今の時点で婦人が考えなくてはならないことは、自分というものを深く考えていくことではないか、大阪の藤本さんがお出しになつたように、何を基本として自分が生きるかということを掘り下げて考えなければいけないと思います。文化の基本というものをほんとうに私たちが作つていかなくてはならない。今、日常いろいろな問題、ベトナム問題とかありますけれども、その裏に何があるかということを考える婦人になりたいと思います。また私、たびたび気になつたんですけれども、女性のやわらかさとか、漬物の味とかというものを大事にしたいという気持を表現されて、それに同感される空気がありましたけれども、それをあまり強められると、また昔の女になつてしまうんじやないかと私は考えますがそういつたすべての点について、今度のデイスカツシヨンの中から自分たちの生活を高めていくようないき方というものを、婦人週間が与えてくれたならば幸いだと思います。

岡部（リーダー）　ご意見は尽きないようですけれども、時間がありませんので……。本質的な問題に非常に接近してきたと思います。要するに人間としてのいき方の問題をとことんまで突き詰めてみる、もう一つの方向としては、先ほど申し上げまし

たように、個人の家庭の中で解決できない問題がたくさんあるから、それをやはり政治の問題にまで発展させて考えてみたい。ただこれは組織を作つたり制度を作ればそれですべて解決できるものではない。極端にいえば、組織とか制度というものは人間の敵でもあるから、われわれとしては、さらにとことんまで考え抜きたいということです。はなはだまとまりがなくて申しわけございませんが、僕自身はそれなりに大へんここでいろいろな勉強をさせていただいたことを御礼申し上げて、一応ここで終わりたいと思います。

第四部会

会議員

北海道	吉野愛子	(無職)
福島	古川寿枝	(無職)
群馬	平はな	(無職)
埼玉	城下可能子	(食堂経営)
東京	鈴木萬寿子	(無職)
神奈川	三嶽光江	(陶器販売)
山梨	風間ゆり	(無職)
三重	吉田うた	(無職)
滋賀	牧さかえ	(無職)
奈良	由井艶子	(無職)
広島	原田智恵子	(無職)
香川	紀ユキエ	(無職)
高知	萩野愛子	(炊事婦)
熊本	川本洲子	(無職)
鹿児島	佐藤礼子	(無職)

リーダー　中里恒子（作家）

特別オブザーバー

岸本絅子（日本婦人有権者同盟）

宗像正子（日本基督教婦人矯風会）

原田清子（日本労働組合総評議会）

第一日目　四月十三日　一三・〇〇　一七・〇〇

中里　昨日みなさまの大体のご経歴やおうちの様子を伺つて、私の特に印象に残つた方、特徴あつた方からいちばん先にご指名してよろしいでしようか。

鹿児島の徳の島の方で、昨日のお話もたいへん私、心に残つているのですけれども、笠先生もそのようにおつしやつていらつしやいましたね。徳の島のこと、私はじめみなさま方、よくご存じないと思います。それで多少訂正なさりたいところが、おありになりましたら、どうぞ。

佐藤　私、日本のいちばん南の果ての徳の島から、応募したわけでございます。

徳の島は鹿児島を五〇〇キロも離れておりまして、私も行くまでは何らの知識もなくて、ただ主人のあとについて渡つたのですが、鹿児島県の人でさえも、徳の島について正しい認識をもつていらつしやらなかつた。主人が学校に勤めております関係で県の教育交換、派遣制度によつて、昭和三十七年の四月に島に渡りました。徳の島は、私が渡りました当座は、一部分ですけれど、共同水道、共同便所、屋根は低くて町は不潔で、ほんとうに目をみはるくらい。そこで私が島の人たちとどういうふうに溶け合つていつたか、苦心したその方法、私が歩いた道を感想文にまとめたのでございます。

笠先生は、私がつむぎ織りという伝統的な産業の中に飛び込

んでいつて、そこから島の人々との気持の疏通の鍵を抱つたということを買つて下さつたようす。しかし先生のお話を承つておりますと、徳の島というところはとてもひどいところで、ほんとうに片田舎の離島の、貧しい島だという印象をみなさまにお与えしたのじやないかと感じたのでございます。ところが私が渡つた当座の徳の島と、三年経つた今の徳の島とは、目をみはるようなちがいがございます。徳の島はほんとうに人情も厚く、砂糖きびとつむぎ織で豊かな島です。私は実際、うしろ髪をひかれる思いで引き揚げてまいりましたから、どしどしこれから優秀な方が離島にお渡りになつて、ご自分の力を、島の精神、文化の開発のために惜しみなく発揮していただきたいということをこの席で一言付加えさしていただきたいと思います。

中里　どなたかご発言なさりたい方、手をおあげになつて。

由井　つむぎ織りというのは昔から徳の島にあつたのでございますね。

佐藤　はい。

由井　それをよりいつそう盛んになさつたのですか。

佐藤　そうではございません。大島つむぎというのは徳の島だけでなくて、大島本土がもつと盛んです。徳の島もずいぶん織られていたのですが、それが戦後生糸が不足して一時とだえていたらしいのです。それで私が渡つた翌年から、工場があちらこちらに出来まして、盛んになつたのは私が渡つて二年目からです。大体親方さんがいて、それは鹿児島の人が資本を注ぎ込んでやつていらつしやる。織り子さんは機械を一切借りて織つて出していらつしやる。私がやりましたのは、その産業を盛んにするという目的じやなく、またそれができるはずのものでもございません。ただつむぎのお話をする時の島の方々の表情を見た時に、ほんとうに目の色がちがうのです。ほかの話ではなにか疏通しないものがあるのですね。お化のほうは私が及ばずながら教えてあげるという立場で、向こうは習う、それがつむぎ織となつたらてんとうしてしまつたわけです。

向こうの人は本土の方を「ヤマトンチュ」といつて一段階級の上の人というような、へんな劣等感をもつていらつしやる。そこへわたしが、なにも知らない、教えてくださいと言つた。そこで島の人々が、自分たちでも教えてやる立場になれるのだという自信と親しみをお感じになつたのじやないかと思います。それで私は、それを習得してアルバイトにしようという考えでなくただ島の人と話し合いたいという目的で始めたのです。

三嶽　佐藤さん、ご主人が先生で、辺地教育におつきになつてたいへんだつた思いますが、先日も紙上で見ますと、校長先生が自殺をなさつたりして、たいへんなことですが、三年とおつしやいましたが、それはご希望でいらしたのですか。

佐藤　いいえ、鹿児島は派遣制度がはじまつてもう十年ぐらいになるのじやないかと思います。希望すれば四年でも五年でもおられますが、大体新卒は四年、普通でしたら三年という様で、最近になつて校長は四年という線が出ておりますけれども、私たちまでは三年でかえつたんですが、現地の先生方も本土に渡るし、本土からまた島のほうに行つて、物資文明のほうはとにかく目をみはるような進歩を遂げておりますけれども、精神文化のほうは遅々として進まないといつた状態ですね。私たちの小学校は、

あらゆる官公署が集つていて町も大きくて、こんな離れ島にこんな大きな町があつたかとちつとも淋しい気持を抱きませんでした。鹿児島の一部にいるような感じですね。ところが田舎にまいりますと一校に一人という先生もいらつしやいますし、言葉も全然ちがつておりますからとても淋しくてある奥さんはノイローゼぎみになられたというお話も聞いております。

それで私はご主人が、島にお渡りになる前に、奥さんにどれだけの自覚があるか、その自覚のもちようで、ノイローゼになる心配もないと思います。行く人たちがみんな知識欲にもえていらしつたら、淋しいということなんかちつともないと思います。

大体主人は希望して行つたのではございません。すでに本土で校長になつておりましたから、現職校長という線ではとても人選がむづかしかつたのでございます。こちらで校長になつていたらなにも離島して僻地まで行かなくていいという考えが底のほうにあります。ところがうちの主人は、どんな片田舎でも、よろこんで行くという主義でおりますので、徳の島といわれても私もびつくりしませんでした。子供ももう大きくなつたから鹿児島のほうで学校には出しておりますし、八十近い老母を田舎に残しておりますが、わたしは四、五年死ぬことはないから安心して行けということで、私ども勇躍して戻つたわけでございます。

中里　お一人の方であまり時間が長過ぎますと、全体の方のお話伺えませんので、お話しになりたい方、お手をおあげになつてくださいい。

それではね、滋賀県の牧さん、いろいろ問題をおもちのようですので、なにかご発言ございますか。

牧　この頃の家庭の母親としてのいろいろと考えなければならない問題点がたくさんございまして、この頃教育ママといわれて、知識だけを子供に注ぎ込んで、社会性を忘れられた、利己主義な子供に育て上げて、将来一流の会社に勤めさせるための準備教育にお母さま方が必死になつていらつしやるようですが知性ばかりでなくて、人情と義理と混ぜたような豊かな子供たちに育て上げてゆかなければならない。

滋賀県でもこの頃社会教育大会を催して、大津市の市民憲章に基いて、衛生都市にしようとか健康都市にしようとか話し合いましたが、結局は、母親が家庭の中心になる、子供の母親であるわれわれがいちばん教養を積んで心をみがいてゆかなければならないというところに落着きました。そんなわけでみなさまのお知恵を拝借して、おみやげに持つて帰りたいと思います。

鈴木　東京の地方婦人会議でも、青少年の非行化は、経済的に余裕のある家庭にあるという問題が出ましたけれども、地方のほうはいかがでしようか。

牧　貧しい家庭のお母さんが家に置いてゆかれる子供さんばかり非行になるのではなくて、物もみたされて文化生活をしている家庭に非行の方が出ているのはなぜかということで、結局心のつながりがあるかないか、愛情の注ぎ方がどういうふうになつているか、子供の心の隅々が満されているかいないか。そのことから非行ができてゆくのじやないかということをお話し合いいたしましたけれども、ほんとうにいつも子供がお母さんを尊敬するように、親子の間が愛情でつながつてゆくようにしようと思つたら、朝

出掛けでも、小さい子供なら「おとなしくしていらつしやい」と肩の一つも叩くとか、頭をなでるとか、手紙で、子供が喜んで留守番するようにということばを残すとか、そういう愛情が行き届いていたら、そんな非行になることは考えられないのですが。

風間　その点に関連しまして、私こんどの所感文で幼稚園の園児のおべんとうのことを出したのですが、やはり愛情の表現の仕方が、ただお金に換算されているところに問題があるのじやないかという気がいたしております。私、甲府市内の二千人近いお母さんを対象にアンケートをとりましたけれども、おべんとうつくらないお母さんが七〇%、パンと牛乳だけ幼稚園に頼んで、それに副食を持たせるお母さんは一〇%しかおりませんでした。それで音楽教室や絵画教室に子供を連れて行つているお母さんがいるので、そういうところを見ても愛情の表現の仕方がちがつていると思う。

最近、赤ん坊に母乳を飲ませるのは心を飲ませるといわれているが、体をつくらなければならない時期におべんとうがなおざりにされている。せめておひるのごはんだけでも、親の手で作つたものが食べられるようにしてあげたいという考え方をもつたわけでございます。

紀　私、子供の教育に三十年あまり従事させていただいたので、また自分も四人の子供を育ててきましたから、子供の教育に関心をもちまして、真の家庭教育を、という題で書かせていただきまして、教育水準は世界一に高まつていますが、それに引きかえ道徳教育がものすごく低下している。その原因をつらつら考えましたところ、世のお母さん方は、私もその中の一人ですが、なにごとも干渉しないで、放任主義の家庭が多い。それが不良化いわゆる子供を非行に導く第一歩と思います。犯罪少年の統計を見ましても八〇%が放任主義の家庭から生まれています。

それから次に、なんでも子供の欲求を満たす甘い親、欲求不満は不良化のもと、というお母さんの考えが非常に害を及ぼすのです。ある西洋の人は、いちばん子供を悪に導く手近なものは、子供の欲求を満たすことであると言つています。結局不自由にさせている子供は非行化しない。ところが今のお母さんはなんでもかんでも欲求を満たすので、それによつて子供はもつと願うようになり、その結果欲求が満されないと悪のほうに走つてゆく傾向がある。

その次に、また中には封建的なお母さんがあつて、自由主義でも放任主義でもいけないしつけをしなければならないと、がみがみ叱るのがしつけと考えるお母さんがありますが、それも考えなければいけない。

それからお話合いとか講習会、読書などによつて得た知識を、自分の頭の中で整理しないで、さて子供の教育はどうしたらよいだろうかといらいら迷つていられるお母さん、これもたいへん問題をつくる。

それからお父さんお母さんの意見がいつもくいちがつて、子供に対処している親、これは非行少年の生まれる家庭の芽生えでございます。

それでいちばん考えなければいかんのは、家族同士がお互に

人格を尊重し合つて、小さい子供でもやはり一人前として信じ合うこと。それから子供のしつけは両親の共同責任においてやつてゆく。それからある教育者の言葉では、子供は五才までに道徳的な価値判断の基礎が培われてゆくということですから、その五才までの間にいわゆるよしあしの判断を養うために親自身が、言葉でなく態度とか身を以て教えることが大切だと感じたわけでございます。

平　母親としての常識問題として、なるほどと伺つたわけでございます。それと共に、私ども婦人が今までのように家庭にだけ自分を閉じこめないで、広く社会に視野を広げて、お隣りの人と手を握ること。ほんとうに家族が円満になり、お父さんもお母さんも家族が揃つて手を握り合つたら、お隣りの奥さんと、おはようのあいさつができたら……そういうことから発展してゆくのじやないかと思います。

吉田　いまおつしやた方々の地域は、わりにまだおだやかだと思うのです。私どもの四日市の町は郊外で、急速に進歩したところで、上海といわれるような町ですから、その非行は個人々々でなくて、グループの非行が多くなつております。その場合に、自分の子供を一人だけ抱え込んでいたつて防ぎきれるものでない。学校で、お金をくれといわれて、いやと言わずに、そこでつながりができて、非行のグループが生れたり、万引もずいぶんたくさんできております。この頃出ている薄いレコードなんか、デパートでずいぶん取られるわけです。それからスーパーマーケットが、セルフサービスになつておりますがチヨコレートとかチユーインガムが誰も見ていないところにいつぱい積んである。そういうのは小学校の生徒が来てツツツと取るという。この間消費者協会で私ども、店屋にあの子が取つていつたじやないの、と言うと、ああ、あのくらいは勘定に入れてます。と一人の非行少年を平気で見逃している。社会全体が、将来どんな子供に育ててゆくかということを考えたら、見過ごすことができないのに、非常に子供に対して全体がルーズになつている気がする。

中里　伺つていて、大体ものをとる子供が悪いのじやなくて、非行少年ができる原因、たとえば店屋でも、とりやすい状態にしておくのがいけないというようなご意見ですが、とりやすい状態にあつても、人のものと自分のものの区別をはつきりつけることにするほうが先決だと思う。たとえば芝生に入つてはいけません。なにをしてはいけません。という立札がたいへん多い。そういうふうにしなければそういうものを守れない人に、私は問題があると思う。

　私はアメリカに行つただけですが――あんなに、立札で、禁じてないんです。それからものを売つている場所でも、日本よりかもつと売り場の人が少なくて、とろうと思えばいくらでもとれますけれども、ものをとる子供は、私が聞いた限りでは日本のように多くないんですね。どんなものでも、人のものをとつたらそれをたいへん恥じるというしつけができているように思いますので、私どもも、ものをとられないような施設にするよりか、とらないような生活になりたいと思います。

萩野　そのことでうちではこうしているのです。姑は八十でした。私がなにかもつていると、私のいない時にタンスをあけて、こ

んなものを買つてかくしている。と言う。大事な子供を私が育ててゆく限り、強くならなければならないと思いまして、子供に、自分のもの人のものの区別をするように、チョコレートをお母ちゃんの分、子供の分と分けておきます。すると、出先に、電話をかけてきて、チョコレートを食べてしまつたが、お母ちゃんの食べてもいい、と聞きます。

それからうちの子供は一日二十円やつていますが、近所の子供が映画に行つて取り上げたというので隣りの奥さんに話して、学校にいつてゆきました。学校から、お母さんも共に呼ばれて注意されたので、その後そういうことはしなくなりました。それにその子のお母さんも一応詫びに来まして、うちの子はかねがねくせの悪いことは親も自覚しているから、と言つてくれまして、いま仲好くしておりますが、共稼ぎしておりますと、やはり子供のめんどうを見かねる時が多いから、近所の奥さんに、悪いことをしていたらおこつてくださいと頼んでいます。お互にみんなが、よその子供も共に注意してゆくのが大切ではないかと思います。

原田　非行化の問題出ているのですが、やはり三才児までの教育のあり方とか、胎教ということが関係してくると思います。

それで私たち、四十過ぎますとすでに手おくれのわけですから若いお母さん、今から結婚なさる方に、PRしていただきたいと思うのです。やはり結婚をなさつた時に、保健所にみんなを集めて、三十分でもいいし、パンフレットでも配つて知らせてもらう。また成人式の時に、女の方だけ残してお話ししてもいいと思う。婦人会などでも、お年とつた方が多いが、若いお母さんたちが出られやすい、三才児の教育にも関心をもたれる場を作つてあげて、お母さんにお勉強をしてもらうあり方になつてゆかなければならないと思う。

川本　昨年一年、直接自分の子供のことではないが、悩んだことがございますので、みなさまに考えていただきたいと思います。実は私の娘は、いま男女共学の高校二年に行つておりますが、男の子に交際を求められたわけです。この方ならいいじやないかと交際を許したら、その坊ちゃんが、お話を聞きますと、お母さんと言葉を交すのは、ごはんの時だそうです。そういう状態で、お父さんともお話しなさいませんし、弟さんともなさいません。結局お母さんはいつもおうちにいらして、ご自分の子きなお花、お茶はなさいますが、世間に出たり、時代の風潮とか、扱いにくい年頃の高校生の男の子の心理を、つとめて理解しようとしないのじやないかと、私なりに考えたわけです。そのご家庭は物質的には恵まれてはいますが、精神的に満されないのか、どんどん成績も下つてきたわけです。気になつて仕方がなかつたので、クラスの先生にご相談しまして、なんでも話したいことがあつたら来てくださるようにと申しまして、それからも遊びに来ていただいたりしましたが、やはり家庭的に満されない気持がおありで、私なんとかしてさしあげたいがどうしたらいいのかととても悩みまして、お友達にも相談しましたが、そこは限度があるから、それ以上口出ししたらいかんと言われ、そつと見ている状態ですが、気持はもつていても行動に移すこと自体、たいへんな努力と決断がいるとつくづく感じたわけです。

中里　大体お子さまのお話が多かつたように思うのですよ。すこしほかのことにしましようね。いまのお話伺つていても、子供ばかりでなくおとなでも、ただお金とか物質だけ満足させておけば文句言うなということを旦那様が勝手なことをなさる時、奥様方にいうことがありますが、充分物があるからそのことが仕合せだと思うほうがたいへんまちがいです。それより、自分が関心をもたれているという気持をもたせることのほうが大事だと思います。

三嶽　地方会議の時に、青少年問題に関連して、悪書追放という問題が出ました。ただいまのところ手をこまねいて、話し合うだけでございますけれども、そういうのは本屋さんが申し合わせて販売禁止令とか……方々の地方でどういうふうにしていらつしやるか知りたいと思いまして。

平　あれは児童相談室が、各県ごとにやつているのじやないでしようか。

風間　甲府市内の本屋さんが、自分たちから進んで、頽廃的な週刊誌などを売らないことにしようという運動ができたのですが、本屋さんがやつているわりあいに、一般の人たちには盛り上りがないのです。

中里　悪書追放といつても、結局読む方がいて売れるから出すわけで、読む方のほうにもたいへん責任がある。悪い本のほうばかり売れる。そこのところが、やつぱりただ追放しただけでは片付かないと思うんです。

城下　この間浦和の会議で問題になりましたが、絶対親が決める本しか読ませないという方もあるし、きびしく言つたつて読むから、自由にさせているというお母さん方もありましたけれども、私たちの場合そういう格式張つた家庭で子供を育てたこともないから、子供たちが見ようと思つたら、好きなものは充分読めたと思いますが、そのわりに、そうした本に気を使うことがいらなかつたのは、家も小さいからでしようが、子供たちが灯下親しむ頃などと、秋になると自然本を読み出す。時にあの子はなに読んでいるということがわかる。親の目の前で読むのにそんな悪いものも読まれへんのやろと思います。

吉野　中里さんがおつしやつた、公徳心の問題ですが、ああいうことでは社会的しつけもできないと思う。自分の家の中はきれいにしますが、家の中をはいたごみを川に捨てたり、ごみ箱があるのにそこら辺に捨てたり、運動会でも親の座つたあとを子供たちに片付けてもらつているという恥しい状態が、いまのお母さん方だと思う。ですから子供たちに要求する前に、親がそういうくせを身につけて、子供にしつけてやるのが私たちの責任じやないかな、と思つたものですから　。

紀　読書の問題ですが、鹿児島で、母と子と二十分読書、というのが成功して長続きしている。一日に二十分時間を作つて、その間、お母さんが聞いてやつている。東京でもやつていると聞きましたが、子供もお母さんが聞いてくれるということで情操教育が養なわれてゆく。そういうことが全国各地で行われているようです。

古川　北海道の方のお話に関連してですが、根本的には、相手の身になつて考えるということになりますと公徳心も欠けたりしませんし、他人に迷惑をかけることが少なくなると思う。他人

の子供が非行していても、結局人の子だからという気持が強いものですから、なかなか救えない時間の余裕を見出して勉強しようとしているところへ押しかけてきて、じゃましたりということがなく、常に相手の身になつて考えることがいちばんの根本ではないかと思つております。

牧　悪書追放に関連して、テレビについても同じことがいえると思う。滋賀県では、どんな悪い本でもテレビでもかまわず見せて、いい悪いの分別をつけさせるように親は努力してゆかなければならない。あれはいけない、これはいけないとかくしても見ようと思うものは見るから、いい悪いの分別をつけさせる教育が大切ではないかとお話し合いしております。

中里　やはり自主性をもたせないと。人から言われた通りにすることでなくね。

佐藤　読書について、私は子供には一応いい本を選んで与えておりましたがいちばん小さい子が大変読書が好きで、私が与えた以外にたくさん読んで、小学校の頃から恋愛小説などを読んでおりましたが、子供はその年に応じて吸収していつたような気がします。

　読書について小さい時、なるべく多くのものを与え、それから自分に応じた判断を自ら養わせてゆくこと。この批判力が欠けておりますために問題が起るので、それはおとなの場合でも言えることではないかと思います。

　実は地方の婦人会議のあとで、新聞にとてもめいわくな記事を載せられて困つたのです。私が言つたとは書いてないが、離島の問題について、派遣制度が形式的だと頭から非難したような記事でそのあとにわたしの名が大きく出ていましたから、結局読んだ人はわたしが言つたというふうに考えられるのではないかと思う。新聞記者がみんなの話合いを聞いて、自分の考えで記事になさつたと思います。マスコミにたずさわつている方の判断力を疑いたくなる。

中里　子供にいい本を読ませたいと思うのは、どこのお宅でもそうだと思います。これは申し分ないというものは、子供が喜ばない。私自身の経験を申しますと、私なんかも、本だけは小さい時からあらゆる種類のものを尋常小学校の頃から、やさしい童話を読んでいながらむずかしい恋愛小説も翻訳もなんでも読んだ。私の育つた環境が、本だけは、これが読みたいといえばどんな本でも買つてもらえたので、普通のおうちと比べたら図書館のように本が多かつたので手当り次第に乱読しました。その本がいいか悪いかということも注意しない、悪い本読んでその影響がすぐ出るということは、私はあまりないと思うんですね。いい本を読んだからすぐいい子になるはずもございませんし、それはその方自身の吸収力と理解力によつて、よくも悪くもなる。あまり、いいものばかり与えますと、人間形成の上で弱くなる。いいものも悪いものも一応知るべきだ。その上で判断がつくようなお子さんにしつけたり育てたりなさる必要があると思う。悪いものを見ても誘惑されない判断力と強さがほしいと思う。

鈴木　いろいろな例もありますけれども、やつぱりその子の性格にもよりますし、性格はやつぱりわたしたちがみんな与えたわけでしよう。そうしたら子供を非難するよりも自分を反省して、

お隣りのお子さんはいいがうちの子にはできない。やつばりわたしもそうだつた、こういうふうに思いたい。

一つのことが起こつた時に、そのことばかりやいやい言うよりも、いつも心の中に自分の温いものをもつていたら、どんな場合でも子供は曲つたりしないように思います。

私は学校出ないけれどもどうかこうか歩いてきたのは、今考えて、親からいただいたような気がする。文化と共に伝統も、いい意味でも悪い意味でもずつとつながつてゆくから、母親が子供の気持を大きくなつても考えてやれば、それが自分の子供に対して、自分たちより優つたものに、大きくしてゆくと思う。

中里　ここでオブザーバーの方にお考を伺いましよう。

岸本　いろいろな問題が出まして、なにを取り上げて申し上げたらいいか迷いますが、最後におつしやいました読書のこと、私もやつばり普通の主婦で子供も一人育てている。読書についてはやはり環境がかなり支配することは、みなさんおつしやつたとおりです。悪い本を見て困るとか、いい本を読めというお話がありましたが、やつばり一番土台は、環境がすべてその子のものの考え方なり受取り方なり判断というものを育ててゆくのじやないかということをいちばん強く感じております。

結局は、これとこれと二つある場合にどつちをとるかというものの考え方は、親のやり方を見ていていつの間にか自分の身についているとか、日常の食事の時の話の中からすべて育てられているので、気のつかない、なにげなくやつている中で子供が育てられているということをいつも思つています。

家像　私は六人子供を生みまして、全部成人して、それぞれが社会人になつておりますけれども、やはりこれはおなかの中にいる時から、お母さんの心掛けというものがいちばん大事じやないかと考えます。ですから母子手帳を渡す時に、三十分ぐらいお話ししてあげたら、ということ、とても賛成です。もしそれが家庭であれば、姙娠していらつしやるお母さんに、姙娠中の心得といつたものを書いたものを渡していただく、その時にお話をちよつとしていただいたらと思います。たとえば、体が重いからとごろごろしておつたり、この頃つわりがひどいと、お薬飲んだりしてサリドマイドのようなことが起こつてきますが、お薬などでおさえるべきものでなくて、自然がそれを変えてゆくように、お母さんが確信をもつて克服してゆくという努力が必要と思う。

それで妊娠中の生活態度というものを、もうすこし母親自身が気をつけていつたら、さらによい子供ができるということに関係があるというような気がする。

それから人格の尊重といいますが、やつばりその子供を重んじるということが大切だ。それから子供は見てないと思うが、非常に鋭どい感覚で親の一挙一動を見ています。だからなにげなくやつていることが、子供にどんどんしみ込んでいつているということを母親は考えて、自分の生活を常に律してゆかなければならないと思う。

公衆道徳の話が出ましたが、日本ほど公衆道徳の低いところはないと思う。ある立派な弁護士さんが自分のふかしたたばこを、四、五歩向こうに灰皿があるのに、きれいに拭き清められた床に捨てて知らん顔している。またお母さんがキヤラメルの

包紙を電車の床に捨てていますから、子供が捨てるようになるのは当然です。それから、子供なのにおとな一人前の場所を平気でとつているお母さんがいらつしやる。あれは、他人の権利の侵害を子供に教えている。子供は無賃ですから座席をとる必要はない、ひざに乗せなければ一人前払わなければならない。それがスコットランドは非常にきびしい。やつぱりお母さんが日常生活で、自分の行動をもつて子供をしつける、それで子供のいいか悪いかの判断が培われるということを考えていただいて、どうぞ若いお母さんたちに、大いに吹聴していただけたらどんなに日本の国がよくなるかと考えます。

中里　日本ではあまりお子さんを大事にしすぎると思う。と申しますと語弊がございますが、子供のしたいたずらをたいへん大目に見て、あまりとがめないのがいいお母さんだとか、文化的だとでも思つていらつしやるのか、そういう光景をよく見るのです。電車でも汽車でも、子供をまずかけさせる。かけらせてもそこにじつとしていないのに無理してまずかけさせたがる。一時間やそこら子供が立つていたからつて、衛生に悪いわけでもなんでもない。子供をいたわりすぎて、甘く育てすぎるという気がする。外国ではあまりああいうことは見かけませんでした。

紀　日本では幼児教育が甘すぎる。小さい時に大事にしすぎて、大きくなつて急にきびしくする。それを反対にしていつたらいちばんいい。外国はそうですね。

風間　乗り物の中のしつけの問題は若いお母さんだけでなく、側の者も含めて言える。私は子供を訓練する積りでかならず立たせようと思うと、誰かが席をあけてくれる。この子を立たせる訓練しなければなりませんから立たないでくださいと言つてもへんなお母さんが乗つているという調子で、とても工合が悪いことがあるのです。

中里　小さい子供を甘やかすのはいい気持じやありません。お母さんをいたわるのはようございますがね。

川本　同感です。私は、小さい子供が乗つていても、そういう気持から、快して席は譲るまいと頑張るのです。そうしたらほかの方が、あの人は席も譲つてくれんと妙な目で見られる。私たち自身がその線をふんぎらないといけないと思います。

紀　それを老人の方に向けてね。

平　短かい場合はいいですが、たとえば熊谷から東京に出る時にも、小さな子供三人も四人もちやんと席をとつていらして、一人くらい譲つてもらつたら、という気があるのですね。

由井　子供のことについてこれだけ話のはずむところを見ると、なんとか言いながら、私たちはいちばん子供に関心をもつているのではないかと私自身反省させられたが、ほんとうは子供について無関心で、悪く言いますと放任主義かもしれないです。と言いますのは、上二人は結婚しましたし、いちばん下は高校二年生です。長男から、お母さんこれから自分の勉強に力を入れなさい、といわれたのをきつかけに、この頃勉強しかけたのですが、この年になつては専門的にできませんから、ちようど婦人会のグループ活動の文学クラブというのに入つて、はじめのうちは、本や新聞を読んで井戸端会議式にお話ししていたが、ひとつなにかつくり出しましようということになりまして、十

七文字の俳句に取り組みました。そうしたら、こんなにいろいろなことを勉強しなければならないかということをつくづく感じたのです。

第一が文字でございます。先生に見せますし、同じようにやつている方に見せますから絶対に誤字は書けませんので、一遍々々字引を引きます。それから小鳥などの名前をある程度勉強しなければなりません。それから景色のいいところとか名所旧跡、お寺なんかに吟行に出かける。明日は嵯峨野の寂光院に行くのよ、と申しましたら、それなら平家物語を読んでいかないとだめですよと子供に言われ平家物語のさわりでも読んでみる。するとほんまの平家物語読んでみようということになりお勉強の範囲がとても広くなつたのでそうしたら、子供の読むものとか見るテレビの番組なども変つてきまして、なにげなしにやりかけたことが、うまい方向に広がつたな、と思つているのです。

鈴木　理想像ということについて、外国ですとはつきり、ジョージ・ワシントンとかリンカーンとか、たいへん身近にそういつた方の像が浮かぶそうですけれども、地方のみなさまの理想像と申しますか、どういつた方を理想としてお子さま方教育していらつしやるか、この機会に伺わせていただけたらと思います。

中里　私は、特定の誰々をお手本というふうに考えないのです。やはり自分で人間的になにか親しみがもてて尊敬できる人というのだつたら人間の理想的な形だと思うのですよ。

牧　私の書いた半分のことをご披露させていただきます。

奥さんにも二人の高校生の子供たちにも追い出されてしまつた主人の身内が一銭のお金もなくなつて、いちばん遠い私の家に来ました。子供があるのに生活もぎりぎりな私たちがなぜ遠縁に当る者を引き受けなければならないかとずいぶん悩みましたけれども、主人がいちばん喜ぶことだと思いましたので子供たちにも、おじさんをお世話するのがいちばんお父さんに親孝行なのよ、と仕向けて、私自身もめんどう見てまいりました。

子供にはその頃千円のお小遣いよりいりませんでしたが、その中から三百円ずつ渡して、おじさんコーヒーでも飲んでいらつしやいよといたわつていました。おじさんもこの頃では薬剤士に復帰しまして働いておりますし、子供はそれぞれ社会人となりましたが、この間長男の嫁が「うちの主人が、お父さんお母さんのほかにぼくたちはおじさんの隠居所もつくらなければならないと言つている」と、聞かされ胸がいつぱいになりました。それを主人に話しましたらしみじみと、この言葉は一朝一夕で言える言葉ではないよと、言つておりました。

それぞれの嫁も、とてもやさしく、温い気持で私を迎えてくれますので、結局自分がともしたともしびは自然わが身にかえつてくるのだなと思つてこの体験を書かしていただいたのでございます。

川本　私はこの部会では年少者から三番目で、いま高校二年と、長男は大学二年で、育てている最中で、みなさんに申し上げることはない立場ですが、私は神戸で育ちまして、父はわりと新しい考をもつておりましたので、開放的な家庭でした。それが結婚して封建的な熊本市にまいりまして、自分の考え方と、土地に伝わつている気風との間にとても矛盾を感じ悩み続けてまいりました。

子供が幼ない頃、ＦＴＡに出て感じましたことを卒直に申しますと、突拍子もない変つた意見のようにとられて、学校の先生からでさえ赤といわれた。ともかく人の言わないことを言うと赤とレッテルを張られるようです。先生がそういう目で見られるので、ほかのＦＴＡの奥さんも、そうだろうと思われて、うちわつたお話をなさらない方が多かつた。

そういう経験をしましたので、子供には人がそう決めたから自分も決めなければいけないというような、人任せの考え方、判断を決してしたらいけないと申しまして、小さい時から、教え込んでまいりました。ですから娘なんか小さい時から私の言つたことを感じとつてくれましたので、いま高校生に成長して、私の気持もよく汲んでくれまして、親子の間の共感が生まれ、とても幸福に思つております。

中里　ではすこし話題をかえまして、こんどは自分のことにいたしましようね。大体ここの部会の方々は、お子さん方も大きくなつて、これから老後をどういうふうに生きようかということについて関心をもつていらつしやるのじやないかと思うのですよ。老後も、ただお金があつて、無事に暮していればいいというわけのものじやございませんし、老後こそよつぽどよく生きなければいけないと思いますが、ご主人がおありになる方、ならない方、いろいろだと思いますが、一応女の生活を卒業してこんど自分の生活という意味でどういうふうに生きたいと思つていらつしやるか。どなたからでも。

吉田　みなさま方に一つずつさし上げて、休憩の時に見ていただこうと思つて持つてまいりましたが（本を配る）私、老後は主人と共通の問題をもつて話し合つていきたいと思うのですが、主人はあまり趣味がないのです。で、主人ともいつしよに話し合え、社会にすこしお役に立つ仕事と思つて、精神薄弱児、知恵おくれの子の問題は現在一般にお母さんが卑屈になつていてもつとも社会に浮き上つていないが、実際はとても大事な問題だと思う。そういう児をもつた親御さんを助けながら、精神薄弱児の人権が守られるようにしようと、考えております。

由井　年寄つたら、お金だけの生活じやなしになにか、とおつしやいましたが、先にそのお金の、経済生活について一言お話ししたい。この間私の県で、年金の座談会があるから被保険者として出席してくれ、というお話がありました。その時は、保険を受けている方、保険をかけている方、集金の方、あらゆる層が集まつたがいちばん真剣だつたのは、七十を越して子供と別居している人で年寄つてお金がないことほど淋しいことはないと、切々と訴えられる。

国民年金は、家族に年五十万円の収入があつたら、いただけないという規則があるが、あれは一律にいただきたい。そのわけは、家族からいただく小遣いと、国からいただくお金では、値打がすつかりちがう。家族にいただくお金は、はつきりいつたら、小遣いやるわ、といわんばかりのものだが、国からでしたら大びらだからぜひほしい、いう声があるのです。そうしていい家になりましたら、小遣いさえ与えておいたらいいという態度をされたら辛い、お金があつてもやつぱり年寄つて孤独には堪えられないとおつしやる。わたしは経済面と、年寄りの孤独を救うものを二つ考えてゆきたいので、老後の人生というお話を伺つて帰りたいと思つたのです。

紀　香川県の部会にも老後の問題が出ましたが、年金とか社会保

障が老後のほうはまだ充実してないから、もつとたくさん老令年金がほしい。年寄りのための社会の施設も、もつと整えてほしいというようなことをおつしやつたのです。ところがあるお母さんが、わたしは子や孫と共に二代三代暮らしたらどんなに幸せだろうかとそれを願つて一生懸命働いているのに、年が寄つたら養老院とか施設に入らなければいけないなら、わたしはもう生きる甲斐がないと言つた。わたしもそう思う。自分で食べたらいいのに国からお金もらうのはまちがつているという。片一方の方は、自分の家庭で過ごされる方は過ごしてもいいが、家庭がないか、それから自分を見てくださる方に見ていただけない時に、よりどころとして、施設をもつと充実してほしいということで、意見が対立しましたが、助言者は、どちらの意見もよろしい、親子三代共に生活する。それは昔の封建的家族制度の復活でなくして、新しい家族制度というものをつくつてゆく考えならそれでよろしい。それから施設や年金を増してお願いすることもよろしい。要はその人々のいちばん自分が仕合せだと思うほうに進んでいつたらよろしいというようなことでした。

中里　そうなんですね。経済問題が先に出ましたけれども、それはたしかに、年取つて食べるに困るという状態では、どんなに情ないかもしれないと思う。日本ではそういう社会保障がまだ完全でございませんから、自分で自分の老後を守る以外にないと思うのです。

それで私、ただ生活の保障さえあれば老後はいいかとはじめに申し上げましたのは、私アメリカにまいりまして、そういう養老施設とか福祉施設を見たんです。アメリカでは、大体州なり町なりに一つぐらい、かならず養老院がございます。養老院といつても、日本のように清ない感じを与えるものばかりでなくて、ホテルのように立派な養老院もございますし、有料も無料もあるわけです。大体向こうでは六十五才以上は年金があるんです。ですからある程度の生活の保障は大体どんな方でもつくようになつているように思いますが、それじや、お年寄りがどんなに満足かと思いましたら、養老院に入つていらつしやる方たちが非常に無気力なんです。ただ陽のあたる階段などに腰かけてボカンとしている。そういう方々を見ると、お金があつて、住居、食物一切保証されていても、それだけでは決して老後が完全でないと思う。社会と切り離されているということが、その人の生活を無気力にさせているのではないかと思う。だから年取つてお家のある方はお家の中でなにぶんかの自分の働き場所をいつまでも捨てない。ご隠居然としてなんでもしてもらうということにならないようにしたほうが幸福だろうと思う。何らか社会に関心をもつた生き方をなさらないと、いわゆる経済的に保証されていても、それだけでは満足していらつしやらないように思いました。

萩野　高知県の部部の老人会の話ですが、その方たちは農家で、生活は安定していらつしやるが、田舎の辺びなところで、舗装されていない道路の修理に奉仕している。年取つたがボチボチでもやつてゆこうという会をもつてあちこち公共の奉仕をしている。全体的に日本の人は、若い人も年取つた人も、子供にしても、そういうような奉仕作業が少ない。余つた時間を公けのために奉仕するということは、とても大きな一つの生甲斐と思い

ます。

平　私、未亡人生活二十六年ですから、それこそ老人ホームに入つていないだけが生甲斐です。

私の場合は、長男は東京で孫が二人、次男は大阪で孫が三名です。子供がいないのが私のおります群馬です。わずかばかりの、若い時の教員の涙金がございまして、孫たちのお菓子代ぐらいは自分で買つていけるのですが、長男の家に一ケ月ぐらい、次男の家に一ケ月ぐらい過ごしてまいりますと、孫たちといつしよに折り紙を折つたり、チイチイパツパ歌つたりしますといいおばあちやんですけれども、どこかに息ぬきをする場所がないかと思いながら、また末の子がかわいそうで、群馬に走つて行きますが、その気持は、自分でせのびして、もつと勉強したいためと、それから大学を出ている嫁たちにわたしの古い頭ではどうもついてゆけない。私、英語の先生もしてましたし、やつぱり前に社会教育の仕事をしていたが、自分一人カラにとじこもる性分でないので、お隣りの奥さんたち、若い方の習字グループの中に入つたりしていますが、奈良の方の俳句の勉強

これから平家物語を一生懸命読んで、という、そういつた会がおそばだつたらと思います。私は全く老人ホームに入つている気持ですが、その夢をもち続けるために、お勉強もしたくなりますし、色気の本も読みたくなりますし、男のお茶飲み友達もさがしてみたい。なにかひとつ、老後に花を咲かせたいと思つているわけでございます。

いく多の苦難があつたわけですけれども、子供たちに親の姿を押し売りしたことはございませんが。苦しかつた母親の横顔は忘れないだろうという信念は持つています。わたしはそれこそ月給取りで毎月子供たちからお金を送つて貰つていますが、最高年令でこういう席に出ましたのは、そういう彼氏をみつけたいためでございます。（拍手）

城下　私、この三月で一応考えていたことは到達したし、子供が学校出るまでのことしか考えていなかつたが、これからどんなふうにしたらいいかしらんと気がついた。その頃、ちようど募集がありました。それでわたし、今年卒業した子に生きてゆく張りのあるような仕事ないかしら、と相談して、やつぱり親心気持をついで、尼さんにでもなろうかしら、と大正大学の規則書もろうてきてもらつた。まだ十年ぐらい元気があるから、尼は聴講生になつて、あとは食堂でお手伝いして、と考えて読んでみたら、私は浄土真宗といつて、親らん上人の本願寺派です。やはり京都に行かなければだめかとやめにした。子供のそばにいて、養老院に行つてなぐさめてあげるという仕事に志願しようかと思つて……。

三嶽　親子三代がお互に独立を守りながら巧くやつてゆく方法がないかと考えておりましたところ横浜であるグループの会合にある方がそのいい例の体験談をお話しになりました。その方はたしか六十とかおつしやいましたが、お花の先生でお勤めしているお嫁さんとタイアップして、子供さんを見ながら巧くやつているということでたいへん心強く思いました。別れて暮らすのは気楽かもしれませんが、人間は家庭の中で生まれて家庭の中で死んでゆくものですから、互に独立を守りながら三世代がいつしよに暮らせたら仕合せと思います。

吉田　私の主人が、ちよつと老人学会に関係しているのでいま調べていますが、いまの若い方はだんだん、親といつしよに住みたいという気持が強くなつている。それは、共稼ぎが多くなつてきたので、誰に子供を預けるかとなりますと、やつぱり親御さんということになる。保育施設もできてないし自然にそういう形ができていると思う。

私の経験では、私の娘が恋愛結婚で、二年共稼ぎをしなければならない状態です。結婚して、七十になるお母さまですけれどもいまその方が育てていてくださるが、明治時代のお母さんは、わりにきちんと育てている。私たちは真つ白なおむつを使つたし、かならず消毒したい。そういうふうにお母さんが昔お子さんを育てたことがあるので、へたな人よりずつときちんとする。表面的でなく、自然にそういう形になつて円満にゆく場合がかなりできているのじやないかしら。

原田　私も実は四十過ぎてから主人の母といつしよになつた。八十五才なので考え方もちがいますし、私も年取つていますからわがままが出ますし、一年間ぐらい苦労しましたがお互に気持がわかつたので今は巧くいつている。しかし子供には、お嫁さんもらつたらさつさと出て行きなさいと言うと、ちよと出ていかないかもしれない。おそらく共稼ぎになるから家賃も高いし、というので、いつしよに暮らす方法を考えなければいけないと思う。お嫁さんは家に入つてくるのだから、自分がかわいがられようと思つたら自分から先に相手をかわいがるのが大事だ。そうしたら、長い目にはいつか通ずるものがあると思う。

中里　やつぱり日本の家庭というのは、誰か家族の犠牲において成立つているような気がするのです。ですから、いつしよに暮らすことはどういうふうにしたらうまく暮らせるかということがたいへん必要だと思います。それについてお考えありますか。

牧　私、嫁をもらいました時に、娘がありませんので、嫁を娘のようにしようと覚悟いたしました。したわれるには、まず私から近付いて、嫁の心に溶け込んでゆこうと努力して、とても大切にしました。母からはそんなにまでしたら馬鹿にされて、お姑さんの威厳がなくなると注意された。わたしは、そんなことで嫁に馬鹿にされるのだつたら、わたしが悪いのだ。お母さんとして尊敬されるにはほかの面で私を磨いてゆくからと言つたのです。

平　わたし、嫁が二人おりまして、長男も次男も、お母さんいてくださいとそばに置きたいのですが、末の子がまだ嫁がないので、その子の世話がたいへんだといつて……全然嫁姑の心配はございません。

（休憩）

再開

中里　ただいままであんまり生活につきすぎたお話が多ございましたので、こんどはすこし変えてみましよう。

この頃、レジャーとかバカンスとかいつて、写真や新聞で書き立てるのはひどいですが、みなさま方も遊ぶことがたいへんご熱心なように世間一般が思うんですよ。それで消費について、私は、お隣りがどこかへ行つたから自分も行かなければならないと思うのはほんとうの遊びじやないと思うが、そういうこと

についてどうお考えになつていらつしやるか。

風間　会合の進め方についてお話ししてもよろしいでしょうか。女の人の話は感情的で、壁をのりこえない傾向がある。ほんとうに身近なものを、原則的なものに乗せて、さらに発展させるような形をみなさんで考えていただきたいと感じるんですが、もちろん体験は非常に大切なことと思いますが、発言がこつちにいつたかと思うと、一つ前に言つた方の話を持つてきたりするので混乱してしまう。

中里　私の司会もなれておりませんのでみなさまを思うようにできないのですけれど。

風間　骨組を示していただいて、骨組から離れないように提案するのですが。

萩野　さきほど家庭の話が出まして、(後戻りする憂いはないが)立派な姑であると何人も主張されましたが、私ももう一人の方も反　を感じました。もつと深刻な問題、苦しい問題がたくさんある。きれいな問題ばかりを上べに出して、きたないものをかくすということでなく、いいことよりか実際に悪いことを出すべきではないかと思います。

中里　ただ、今日ははじめですし、なんでもかまわずお話しになつたほうが、気持がほぐれて、明日からはちやんとできるだろうと思つて、お話しになりたいことをみんなお話しさせようと思つていたのです。

それで、精神文化については、さきほど読書のことが出ましたし、前にすこしはその分野に入つたと思うんですよ。それで文化というテーマが出ておりますから、文化といえば物質文化と精神文化と大きく分けて、そういうことについて具体的にお話ししていただきましょうか。

原田　レジャーの問題から入りますか。

中里　どちらでもよろしいわ。精神文化についてでもレジャーについてでもお話しなさりたい方。

原田　レジャーといいますとすぐ自動車に乗つてどこかに出かけるとか、お金を使うということを考えがちだと思いますが、私は自分の家庭に即したレジャーでいいと思う。経済的に困つていれば困つているような、なにかレジャーをみつければいいのじやないか。たとえばハイキングにしても、ただ遊んで歩く、休養面もレジャーにもいいのじやないか。

城下　私、外に出ることはあまりないのですが、一つだけ楽しみがあるのです。お酒飲むのです。仕事しまつて寝る一時間か一時間半前に、一人で静かに飲む。誰かおつしやつたでしよう。「酒は一人静かに飲むもの」それで一人満足して寝るんです。

中里　その方々の生活で、いろいろな方法がありますね。

三嶽　いい意味のレジャーというのは、そのレジャーを生かすことだと思います。慰安や娯楽も含みますが、たとえばお正月の書き初めなども、レジャーとしての有効な生かし方だと思いますが、いかがでしようか。

中里　それはその方のお考で。

由井　このレジャーという言葉は日本に昔からあつた言葉じやなくて、最近どこかから入つてきた言葉と思いますが、まだ自分でレジャーとはなにかと字引いたことも、研究したこともないのですが、この頃は、なにかある言葉が出てきますと、その実際の意味がわからないままに、その雰囲気はこういうものだろうと、みなそつちに走つてしまう。だからほんとうのレジャーという言葉の意味を研究したら、まさか自動車に乗つて遊びに行つたり、温泉旅行したりという意味じやないと思うが、そのレジャーの使い方を考える前に、どなたかレジャーというほんとうの意味を教えていただきたいと思います。

中里　そんな語源的な問題よりか、そういう新しい外来語ですね。レジャーとかバカンスとか、新聞雑誌が書き立てるでしよう。そうするとわかつていてもわからなくても飛びつく。そのほうが問題で、語源はともかくとして、遊ぶことだけがレジャーじやないんです。やつぱり休息、働いたら休息をとる。大体私たちはよく働らく。ことにご婦人方は勤勉でよくお働きになると思うのですが、そのわりには休息をおとりにならない。休息といえば、どこかに遊びに行くことと思うその考え方がどうかと思うのですが、休息もレジャーの中に入ると思うんです。

古川　レジャーを楽しまないのは文化生活でない、というように世間では申しますが、賛成できない。普通のサラリーマンなどは、一週間非常に疲れておりますから、車で遠くに出掛けるよりも、日曜は充分睡眠をとり、休息して、家の中で静かに音楽でも聞いて、また次の月曜から働らく蓄えをしておいたほうが賢明なやり方ではないかと思います。

中里　ところがご主人方に伺いますと、日曜日はどこかに連れて行つてくれと奥様方がおつしやる。それで奥様方は日曜は遊ぶものと思つていらつしやるのじやないかと思う。

私のことを申し上げて恐縮ですが、私たちのような仕事は日曜も祭日も労働時間がどうのこうのということはなにもございません。時間で自分の生活を管理する以外にはない。ですから普通の奥様方は日曜はどこかに行かなければ不幸なようにお思いになるのじやないでしようか。そういうことについてどなたかおつしやつてください。

萩野　おすし屋に勤めておりますが、日曜など遊んだことは全然ない。だから日曜は絶対遊びに行くほうがいいとか思つたことはありません。

しかし、ある程度心の休養は必要と思います。高知市の市民図書館で月一回の読書会があつて、一月は大江健三郎の個人的体験を取り上げ、その前は大原富枝さんの「えんという女」などを取り上げ図書館に勤めている方も出席しますので、いろいろな資料を提供してくれまして、小説のフイクションの面と実際の面を照らし合わせて、討論して、二時間ぐらいして散会する。「えんという女」は高知の政治的な……治水工事をとり扱つているので、それを図書館の移動バスで視察に行こうということになつております。

由井　レジャーも、その人々によりちがつていいのじやないかと

思います。サラリーマンの主人でしたら、日曜日はいちばんのレジャーだと言つておりますのに、奥さんが車に乗せて連れて行けというのは犠牲にすることになる。ごろ寝したい人はしたらいいし、一週間家にいる人は車に乗つて行きたいなら自分で行つたらいいので、ほかの人を引張る必要はないと思う。本を読みたい人は家事から解放されて本を読んだらレジーで、自分に合つたレジャーを楽しむのがいちばんいいと思う。

川本　いまのご意見に同感ですが、それと共に主婦はもつと夫の立場を理解しなければいけないと思います。外に出て七人の敵を向こうに回して働らいている夫は、精神的にも肉体的にも疲れているはずですから、相手の立場を考えるなら日曜まで要求する気持にはなれないと思う。私も若い時は主人に要求しましたが、今は自由にさせておりますが。

牧　いまのお話、私の気持と同じですが、主人の職場を見学したらどんなかということがわかると思います。家に帰つて、えらいな、えらいなと横になつている姿ばかり見ているからそういう要求も起ると思います。

平　私の息子の場合、せつかくの休みだからごろ寝したら、と申しますが、ごろ寝するととつても疲れると言つて、山が好きで、休みの度に重い荷物を背負つてテクテク歩いてきて、きれいな空気を吸つて静かに山の上で寝てものを考えてくると、とてもレジャーになるのだそうです。だからやつぱりそれぞれの自分の生かし方によつて違うと思います。

鈴木　東京地方の婦人会議にも出たがレジャーは、井戸端会議式な集まりで、グループに分れてお話するということで墨田区の方がおつしやいますには、昔の井戸端会議で、あすこの家は四人の家族で三きれお魚を買つたということを今でも話されるそうですし、それは真のレジャーと言えないと思います。また、自分の部屋で読書したり、一人反省の時をもつたほうがほんとうの心の休まりになるという方もあり、井戸端会議式な集りについても、いちがいに悪いと言えないというご意見がございましたがいかがでしようか。

中里　それぞれご自分の行き方があるので、静かにじつとしていればそれがレジャーになるかと申しますと、人によつてはだめなのですね。ジャズでも聞いてがんがんしているほうが休まるという方もございますし、大体私どもの生活は、人の暮らしに好奇心がありすぎると思うのです。週間誌にしろ雑誌にしろ、誰が離婚した、誰が結婚した、月給がいくらだの、それをお読みになるのを奥様方がずいぶん楽しみにしているようです。そういうことがレジャーだと思つている。又、そんなものを全部切り離して静かに休めと一室に入れておいても、ある人にとつてはレジャーではない。だからその方の考え方でどうにでもなる。じつとしている方がいいか、暴れているほうがレジャーなのか、いちがいに言えない。あんまり人の生活に関心をもち過ぎると思うんですよ。

牧　滋賀県のほうもまだ古くて封建的で、人の家庭のことをお茶のお菓子にしたリクレーションが盛んにある。ああいうことがいつまでもやられているのは文化に反していると思います。近所姑といいますか、人の家のプライバシーにまで立ち入つて、ひどくなりますと、言葉の暴力というような目に見えない刃物

でいためつけられて自殺にまでおいやられるというのがありますが、どうやつて防いだらいいか。

中里　私たちの生活に対する態度からまず変えていかなければならないですね。

紀　それには教養を高めていつたらいいのでしよう。結局世の中の教養が高まればそういう小さいことに関心がもてなくなる。

中里　実際にそうなのですが、教養のあるなしにかかわらず他人の噂さや、悪口なんか、いちばん面白いというふうにどなたでも思うんじやないでしようか。それは人間の気持の中にある。ただそれを多く出すか少なく出すかということです。

佐藤　レジャーには、その人々の置かれた環境とか好みによつてろいろな形態があると思いますが、その形態をそのまま認めて、そこから一歩も出ていけないというのは、いけないのじやないかと思う。人のレジャーをいろいろ研究し、聞いて、自分のレジャーを反省して、そこにレジャーの中にも向上が求められるべきじやないかと感じます。

吉田　手をつなぐ親の会も、決して苦しいものじやなくて、私としては、とても楽しいという感じでしております。紙人形を、精神薄弱児に、たくさん作つて一つずつ差上げるという運動を始めたのです。そういうことでも、髪の形とか配色とか着物とかで面白いものができる。同窓会でもあると、東京でも大阪でも持つて行く。そういうことが精薄児のための施設をつくりましようという楽しみにつながつてゆく。自分たちの願いがほかにもわかつていただきながら、嬉しい雰囲気ができてくるのは私のレジャーと言えると思います。

萩野　それに関連して、小学校参観に行きますと、寒い時にシャツなしという子供がある。先生に聞きますと、廃品の中の着られるものを修理して着せているということです。この頃は消費ブームで、服装なんか派手になつて、子供も、つぎがちよつとあたると着ない。けれどもそれさえ着れない子供があると思うと、社会的にもつと目を向けなければならないと考えて、知つている範囲の友達に、子供の古いものがあつたらくださいと呼びかけています。

地方で婦人会がありました時、ある人が子供がみんな成長し手をかける必要が全然なくなつたから、子供たちの本を全部開放して、自分の部屋を改造して、私立図書館をつくつた、自分の趣味を社会に貢献すべきだ、というお話をしました。そういうふうに時間的にゆとりがあれば、自分たちがお金を出し合わなくても、要らないもので生きる子供たちがあるということを考えて、協力して社会に尽すべきだと思います。

中里　ではレジャーについてはこのくらいでよろしいですか。

牧　きれいごとかもしれませんが、短歌をみなさんと学ぶのは、上手になるためだけではありません。主人へのぐち、お嫁さんへのぐち、そういうものが、野菜をきざみながら、つき当るものがある。という歌がありますと、そういう場合はどうしたらいいかというところから、婦人学級のほうに進んで行つて、みんな赤裸々にお話しするようにしております。そうして、すこしでも、短歌を通してお友達がふえていくことを自分の喜びとしております。

萩野　これは吉田さんからさきほどいただいた本ですが、私ども

が精薄児の問題についてこれくらいの本を配りました時に、一万円ぐらいのお金が要りまして。みなさんが寄付を集めるのに苦労しました。それは吉田さんが自分でされたと思いますが、この実費だけ、三十円なり五十円なり出したらどうでしょう。

吉田　これは精薄児のことをすこしでも理解していただくために差上げてくるように、このお人形のほうはお志のある方に、といわれたわけです。

中里　そのお金を出す出さないは、またあとで。

この頃は昔とちがつて自分の家が文化的になつたと思うことおありですか。「文化」というこんどの論文の選をいたしました時に、電気器具のことがたいへんに多いのですね。電気器具をたくさん使えば使うほど文化だというように多少思つていらつしやるような論文もございました。それは文化にはちがいありませんが、ちよつとちがうと思うんです。

それからお話が戻るようですが、私たちの生活の中に迷信がまだずいぶん残つていると思うんですよ。迷信についてはどういうふうにお考えになつていらつしやるのですか。

城下　文化の低いところほど迷信が多いという例がございますが。この間いただきました中に迷信のことが書いてございましたね。それで私も考えていたのですが、来年丙午だといつてえらい心配していらつしやる。なんぼそんなことは迷信だと言つても、日本人には拭いきれないものがあるということは事実だと思います。

この間鹿児島に行きましたら、宮崎県の日向の図に天孫降臨があつたと私たちは習いましたがその先祖が鹿児島県にあるのです。日向の図にあるのと同じ名前がつけられていて土地の人たちは、迷信であろうが伝説であろうが、とにかく強い信念をもつていやはるということがわかつた。七、八百年前書いた絵巻物などがある関係かもしれませんが、そこらあたり一帯の方々がいちばん日本の先祖はおれたちだと思つている人たちが多いらしい。心の美しい人たちが寄らはつたら、同じ迷信でもこういう迷信は続いたほうがいいと思つて帰りましたけれど。

吉野　私どものところは五四キロの海岸線の　ぶつちにしがみついている部落が集合して町という形になつておりますが、昔はビクニから嫁をもらうな、というのですね。里帰りしましても十日も二十日も帰つて来られないというような僻地だからでございます。今は小檜、色丹、ニセコ、国立公園になつて観光道路が開けて、それこそ電気器具なども入つておりますけれども、精神的な文化は、都会よりも十年ぐらいは遅れていたのじやないかと全道大会で話し合われました。

私の町では命にかかわること、人権に関するような迷信も行われているのです。私たちの地域のあるところで、お金が盗まれたことがありました。犯人をさがすのに、コックリサンを使つたのです。するとある人の名前が出てきまして、当人が知らないうちに泥棒にされたことがありました。それから結婚のお仲人した時、女の方は占いに見てもらつたら、この話はうまくいかないから進めない方がいいといわれたからと拒わり、男のほうも占いに見てもらつたら、このお話はたいへんいいから進めるようにということで、おかしな話になりましたが、未だにそういうことが行われているのです。ここに来るのに髪結さんに

まいりましたら、若いお母さんが赤ちゃんが夜泣きして困つたが、ホツケさんの出切りに行つて、お礼を枕の下に入れておまじないをしてもらつたら治つたとか、それよりも刀物を布で巻いて枕の下に置いておくといいということを話しておられました。私どものところは僻地ですからお医者に行くよりも神様、きつねさん、そういうものに取りすがる傾向が強い。また漁師はその年の漁の占いをやるんです。水産試験所で、今年は水温が高いからプランクトンがどうだからニシンが来ないだろうといつても、親方が昔からの迷信で、今年はとれるというので借金をして出漁し、どうにもこうにもならなくて、昔の親方衆がひどい貧乏に陥つている。丙午の娘さんにつきましても、二月だが、結婚しましたら里の親が、今年は三月以後は絶対娠しないようにといわれてきて、家庭争議にまで発展しそうになつたという経験談を発表された方もございました。ドイツ辺りでも、食物に対する迷信の一掃運動ということを、これからやるというようなことを朝日新聞で見たわけですが、やはり外国にもあるようですね。

迷信でいいものは残してゆく義務がございますし、まちがつた迷信は私たちの代で、子供には伝えないという義務と責任があるのじやないかということを作文に書かせていただいたわけです。

城下　迷信はまじないとはうんとちがうでしようか。

中里　私にはおまじないというの、よくわかりませんが。

城下　いまのお話、ミコさんの言うようなこと、おつしやつたが……。

吉野　おひかりさんの護符を買つてきて、近眼の方はめがねかけないで……目が治ると真剣に思つていらつしやる方がある。笑い草みたいですが、めがねかけないで下水に落ちたという話がある。

中里　ですけれど、いけないから絶対おやめなさいと言つたところで規則やなにかみたいに、ピタリとやめさせられるものじやないんですね。

牧　それはいつの頃から出たんでしよう。女だけでしよう？丙午。

城下　丙午にかかわらず、干支の中で、子年生まれの人はチョコチョコし、牛年はどつしりして動きやへん、そういうことは、そう思つてみるせいか……。

結婚式でも、こんな文化の進んだ日本でも昨日あたり、結婚式に仰山見えまして、日がいいとかということになつているのじやないですか。

中里　結婚ですと、大安とかを選びますね。わざわざ仏滅を選ぶことないということでしようね。

城下　そういうことを絶対なくなしてしまうこともできず。

中里　別段これは、やめなければいけないといつて、誰か命じたり、誰がやめさせるという性質のものじやないんですね。めいめいの心の中にあることですからね。

風間　いま、日とかなにかがありましたが、そのもとをただしてゆくことは大切だと思います。なくするためには、なぜこういうことがあつたかということの裏付をはつきり、つかんで私たちの生活に全然必要ないと納得した時にはあつさり切り捨てなければならないというのが私どもの態度だと思います。ことに暦に

仏滅とか大安とか、全部消してしまつてもそういうものが印刷してあるのでどこからかさがし出します。

中里　私は迷信とか、日が悪いとかは昔から気にいたしませんから大体知らないのです。けれどもまあ一生懸命それに頼つて、生活の基準を暦みたいのもので決めていらつしやる方はやつぱり多いんでしようね。絶対悪いといつて、全然わからない者がそれをとめるなんのあれもないんですね。

原田　私の家では子供に、夜、爪をつんだらいけないとか、口笛を吹いたらいけないと言いますが、子供が信じない。そういうことがあるわけはない、あるなら説明してくれと言う。だから、そういう考えをもつている子供たちが多くなつたら自然にすたれてゆくのではないか。

牧　迷信は中国から伝わつてきたもので、十二支、十干、それから六曜ですね。あれをただ組み合わせて順次しているだけであつて、それを強く信ずるということはまちがつているのですが、人間というものは科学が発達すればするほど、それにつれて幸せになりたいと思う。ところが科学と幸せになりたいという心の溝ができる。その溝が迷信になつてゆくのです。だから病気になつた時にお医者さんに診てもらつて、ガンでどうしても命は助かるまいと言われた時に、お医者、科学の力ではどうにもならないが、なにかほかに道はないかと切実に感じた時に、あらゆることをしてこの人を助けなければいけないというまごころから迷信が発するようになる。

城下　昔の電気計算機のようなものじやないですか。

紀　家を焼いたりし、幼児の死体を白焼にしたら結核が治るという犯罪につながる恐ろしい迷信なら大いに是正しなければいけないが、この間岡山の娘のところに行つて電子占いというのでちよつとしてみたが電子の時代にやはり迷信の占いが出てくる。それはすこしでも自分が幸せになりたいという人間の欲望をみたしてくれるものがあるからです。それでわれわれがそれにのつてしもう。それから、今日の迷信は、たとえばお薬ですね。よくテレビで宣伝するでしよう。それでいつも、お薬ばかり集めて飲む人があります。化粧品でも同じです。それは迷つて信じている、すなわち迷信です。結局社会に害毒を及ぼしている。人の迷惑になる迷信はいけないと思うが、自分がそれで満足するものであれば決して悪くないと思います。たとえば結婚の場合で仏滅よりは大安を選ぶのはみんな幸せを好むからです。病気になつた時は誰も治りたい。そういう切実な願いが迷信を生んだと思う。それを全部否定できないと思います。

風間　迷信で別に害がなければ悪いことじやないというお説ももつともだと思いますが、結婚式の式場を何カ月も前から決めておかなければならないというのは非常に不合理なんです。会場があとがつまつていてゆつくりできないということだけ取り上げても、害がないでは済まされない。だからあくまで合理的でないものは排除していかなければいけないと思う。

もう一つは、たとえば花占いというやわらかい情操的なものまでもだめとは申しません。残す余地はあると思いますが、自分たちの生活の中に不合理をもたらすものは、捨ててゆく気持がなければ、世の中は進歩しないので、そこらはほどほどに考えていかなければいけないと思います。

平　みなさんが、自分の息子と娘に、仏滅の日に果して結婚式を挙げるかということをお考えになつてください。私は日曜日を選んだのです。日曜でないと招待する方に差支がございますから、あとで調べてみたら仏滅でしたけれども、それに対して親も娘たちもなんとも考えていません。お互に人のことのように考えていますが、ご自分が真つ先に実行しなかつたら、消すことはできないと思います。

吉田　私、迷信を打ち消してゆく方法を実践中です。精薄児の親がひつそり過ごしているのは、精薄児があると、兄弟の縁談にさわるからです。ですから精神薄弱というものは遺伝は非常に少なくて、おなかの中にいる時の影響とか、出産後の小児麻ひとか後天的に起こるのが多い。そういうことを親自体にはつきりさせて、それから手をつなぐ親の会でもそれをかならず取り上げてお母さんたちに訴えさせるわけです。わかつてくださる方ができてくると、社会的な雰囲気ができその人たちを見る目が変つてくる、親御さんも出やすくなつてくる。四日市では、ずいぶん精薄児の問題については理解ができてきたと思う。昔は女の人は遠慮して言わないのが上品なようだつたが、正しいことは思いきつてPRして、みんなで改良してゆくようにしたい。

牧　私の家でも、出席する人の便宜を考えて日曜にしたら仏滅です。そしたら式場も、宿も静かでした。大安の日ですと、鯛の大きさを揃えるにも、三割も高くなるそうです。

中里　こんど仏滅が混むようになるかもしれません。

牧　滋賀県では、お茶を差上げたら結婚が流れると聞きましたが、九州では、おめでたい時にはお茶を上げる。なぜかというと、お茶は樹令が二千年にもなるし、形も円いし、とてもいいということを聞き、卒先して差上げようと思います。

川本　私もうしろ向きの仕来りについては、自分でこれはよくないなと思つた時には、どういう原因でそれが練いてきたか自分なりに考えてみる。いけないと判断したら勇気をもつて、断ち切ることを実践しないといけないと思います。

　都会から農家の長男の嫁になりました時も疑問をもちましたが、勇気だけはもち練けてまいりました。私の交際の仕方なんかも実家では理解してくれて、ほんとうに勇気をもつてよかつたと思つております。

中里　徳の島なんかはそういうことが多いのじやないですか。

佐藤　徳の島では、迷信に類するものはいろいろ聞きます。妊娠中に写真を撮つたら子供が死ぬということで、家族会で慰安遠足に行きました時に、妊娠していらつしやる奥様がどうしてもお入りにならない。今の若い方にしては意外な感じをもつたのです。

　それから鹿児島県には、特殊部落がございます。エタ部落といつて、昔屠殺を業とした人たちで士農工商のもつと下のほうに見られていたのですね。そうしてことごとに一段下の人としていやしめられてきた。それが歴史的にお互の感情をとても悪くしていたのです。こんど主人が赴任します大口市のある部落はそういうところです。今はそういう意識がすこし改められているのじやないかと思いますが、ある婦人会の席でお母さん方に、もしエタ部落からお嫁さんをもらうとしたら、なんの抵

抗も感じませんかとお聞きしたが、みなさん口を揃えて「ちよつとね」とおつしやつた。ただ、子供同士お互に好き合つた仲ならば許せるけれども、お見合という形でしたらわざわざ好きこのんでそこからはもらいたくないというようなご意見のようでした。

それからもう一つ、徳の島で、これは迷信でなく一つの因習と申しますか、年の祝をお正月のお祝以上に非常に盛大にやるのです。六十一がはじまりで、七十三、七十五、八十五、八十八というように。それこそ一家中挙げてのお祝いで、よそに出ている子供さんも呼び返して、そのおみやげがたいへんです。一人一人に配つて、その量が多かつたほど名誉です。それが最近ではいつしよに学校でやることになつておりますが、それでも足らずに、また家に帰つてから盛大な祝をやつているという現状です。中には年の祝を廃止してそのお金を積み立てして旅行をして楽しんでいらつしやる目ざめたご家庭も時々見受けられます。

こういう悪い、見得を張るという風習、あるいはエタ部落への迷信は、私たちこれから先の人が考えなければいけない問題だと思います。

中里　私、つい二、三日前まで、岡山から倉敷のほうに旅行しておりまして、倉敷から児島市というのを通つて、鷲羽山のほうにドライブした。その時に倉敷の土地の運転手が児島へぬける山あいの切り通しみたいなところで、この辺は昔は追はぎの名所です。そこは追はぎの部落として今でもそこからはお嫁さんはもらわないと言つておりました。旅行者として聞く場合は、そういう話、たいへん面白いんですね。私はたいへん興味があるのですが、そういう中に住んでいらつしやる方はたいへん迷惑だろうと思います。

城下　風間さん、迷信と宗教はどういうふうに……

風間　宗教にならないと思つております。

城下　この頃新興宗教の中に迷信、まじないと混同したような教が入つていますが……

風間　宗教自体にだつて割りきれないものがたくさんありますし、科学をやればやるほど、信仰的なものに染まつていく人があるから、どこまでがこうと割り切ることができないと思います。しかし自分の理性で、信ずるのは仕方がないが、それによつて人にまで迷惑を及ぼすことはいけないと思う。ある宗教では、三月も四月もかかつて人を説き伏せる。

城下　もしもあなたが勧誘されたらどうなさいますか。

風間　私はことわります。自分の信仰するものをもつている。その中に無理にふみ込もうとするものは拒否したくなると思います。でも、ほんとうに正しい人で、その人のようになりたいと思う人がある。その点では、人間のあり方は非常に大事だと思いますね。つまずいて、人によつては宗教に救われる場合もあると思います。

中里　この辺で、オブザーバーの方のご意見も伺つてみましよう。

岸本さんいかがですか。

岸本（特別オブ）　私も一つは被害者の一人で、今日ここに出ることをなつていたので家に人が来てくれちや困るのですが、建増を頼んでおいた仕事師がおとといになつて、十三日の今日く

るという。聞きましたら友引だという。ほかの日にかえてほしいと言つたら、帰つて相談しましようといつて私が出ようとしている時に来てガタガタやつている。おまじないに柱一本でも今日建てておきたいらしい。それは根強く、どうしようもない。

でもやつぱり、みんなで話し合う機会に、すこしずつでも訴えて、手をつないで好ましくないことには、手を打つていかなければならない。新聞に投書するとか、そういう会議をやつた時には報道の方たちと連絡をとつて記事で知らせるとか、マスコミを利用することを考えていつたらと思います。

それからレジャーの持ち方について、余暇に、暗い谷間に目を向けて、すこしでもなにかやるというお話がありましたが、私どもがやれる範囲で解決のつくことと、行き当つてしまつてどうにもならないこととあります。これはやつぱり政治が巧くいつているかいないかということがあると思うので、ただ奉仕の形でなくて、社会全体をよくしてゆくという形で、一歩でも二歩でも、進んでゆくようにしたらと思います。

宗像（特別オブ）　迷信には全面的に反対するようにしております。大安でも仏滅でも友引でも自分の都合のいい時がいちばんいいと実行しております。しかし人さまが友引の日だから葬式やりたくないとおつしやるのに、そんなこと言わないで出しなさいとは申しません。それはその方のご自由ですから。

それから迷信についてご参考にお話ししたいと思いますが、私の母は今生きておりますと九十いくつですけれども、迷信を全面的に排除する人間でした。私が娘の時代でしたが父が亡くなつて母が一人子供の教育に専念するために、極度に低い生活をいたしました。そのために、できるだけ安い家賃の家をさがしましたら、幸いに立派な家があつて、相当大きい家でただなのです。お家賃は、というと、ただで結構ですという。どうしたのかと思つたが、ただより安いものはないから入つた。そうしたらあとで近所の人が、よくそこに入つていますね。こわくありませんか。と言う。なにがこわいかと聞いたら、あすこには毎晩幽霊が出るんですという。前に住んでいた人が首をくくつて死んだので幽霊が出るというので空家だつたのです。「いいえ、さつぱり出ません」と、そこでまる三年、ただでいた。あとはちやんと家賃をとつたのですが、大家さんも家の厄が払われたというので喜んでくれた。という話がございます。

迷信とはそういうものじやないでしようか。やつぱり日本の今までの仕来りで悪いことがあつちや困るというのでおそれるのです。自分に確信がありさえすればおそれる必要はないと思います。

ですからこれからは婦人が特に確信をもつてものに当るという方向にもつていかなければ、ほんとうの文化国家の住民とは言えないと思います。

もちろん迷信は外国にもございます。アメリカにだつて、ずいぶんおかしな迷信があるのです。ですからこれは絶対なくなるということは言えないでしようが、すくなくとも文化国家の国民ならば、つまらない迷信はやめたほうがよろしい。十二支なんてなに年に生まれたからいいとか悪いとか、生まれ年によつて人の運命をきめるのは迷信だと思いますからやめなければいけないと思います。

それからレジャーは余暇という意味で、リクリエーションとどうもまちがえていらつしやると思う。レジャーということは、働いて時間を余分につくるという意味です。ですから余暇は、自分の今までの仕事とちがつたことをする時間です。読書でもいいし、お遊びに行くのもいいでしよう。でも、できるならば、三重県の方のおつしやつた精薄児、あるいは身体障害者、その他ほんとうの谷間に住んでいるかわいそうな人たちに奉仕する時間に利用したらどんなにいいかと思います。私は吉田さんに満腔の敬意を表し、そのお仕事に、かげながらご成功を祈る一人でございます。

（オ一日　了）

四時五十五分

才四部会才二日目

四月十四日　一〇・〇〇～一七・〇〇

一〇・〇〇～一二・〇〇

中里　昨日は作文にお昏きになつた問題から発展して、いろいろ掘下げていきましたが、この会議で問題を出して解決するというわけにはいかないと思います。しかし、いろいろお話合いをしているうちに、それぞれ関心の深い問題はお帰りになつてからも続けてお考えになるでしようし、それでいいと思います。

それで精神文化ですが、精神文化というと読んだり見たり主に内面的なことになりますけれども、むずかしくお考えにならないで、どういうふうに、どういうものを心の支えにしたり栄養にしたりしていらつしやるか……。

鈴木　昨日の理想像のことは、精神文化にも関係あると思いますので考えてみたのでございます。具体的には誠実な心をもつ人、二番目には寛容な心をつくること。三番目が、素直な心をもつこと。そうして四番目には、人の幸福を心から喜べる人が世の中に多くなつたらたいへん仕合せではないかと思います。人の不幸は同情し易いのですけれど、兄弟、他人の幸福を心から喜ぶことはなかなかできません。そういつた人が多くなれば、世の中に犯罪もなくなるし、争いもなくなるのではないかと思います。かならずしもなにからなにまで聖人のような人が、人間として果して理想像かどうか。やつぱり、悪いところもあつてしかるべきだと思う。ただ、どの程度それをおさえられるか、全然悪いところのない人なんかいないと思うんです。

由井　それは今まで大分話されてきましたけれども、どの程度物質文化と精神文化とのバランスをとつていつたらいいか、それがやはり大事なことだと思う。その精神文化の一つとして、具体的には、私は今後できるだけものを読まなければならない、ものを

食べると同じに、できるだけ活字を食べて生活をしなければならないと思う。といつてそう本を買えるものでもないし、読めるものでもないが、新聞を隅から隅まで読んだらかなり主婦にとつては心の栄養になると思うんです。それもただスツと読んでいるだけでしたら、すぐ忘れますし、とりわけもの忘れをする年令ですから、私は台所にも茶の間にも寝室にも、自分のいるところすべてにメモ帳と鉛筆を置いておくんですよ。そういう細かいことで毎日お勉強したいと思つているんです。

牧　婦人学級でも、お母さま方にかならずなにかを書いていただくメモしていただくという訓練をしております。

私自身も、十年前からそういう訓練を受けてだんだん書くようになりました。それから移動図書館というものがあつて、各学級を回つて歩きます。それで成功した甲賀郡では、移動図書館でお百姓がみな本を読み、一生懸命勉強して楽しんでいます。生意気だと最初は反対しておられたご主人が、奥さんの考え方やり方が合理的になつてきたので、だんだんと感化されて、自分も読みたいが借りに行くのは恥しいから借りてきてくれといつて、お百姓仕事に出てお昼御飯のあと十分ぐらい読む方ができてきたそうです。

古川　私は福島県の郡山市ですが、新興都市で非常に活気がありますけれども、いくぶん精神面で欠点もあつて、殺伐な事件などもあるものですから、読書グループを市でも奨励しておりますし、また婦人会でも、地域ごとにずいぶんたくさんつくりました。最近は移動図書館に市で自動車を買つてくださいました。それから郡山市からただ一人の女性の市会議員が一昨年理想選挙で当選いたしまして、その方が非常に読書について熱心で、市からバスの古いのをもらい受けて改造し、自分の家の庭に取りつけて図書室にして解放しています。付近のお子さんがたいへん喜んでいます。それから病院長のお嬢さんが体が弱いので、離れの部屋を私設図書館にして、地域の子供さんにサービスしていらつしやいます。

秋野　地方会議に出席して感激したお話をしたいと思います。それは既製品の裁断をする方で、朝裁断したものを、ひるから下請している近所のグループに全部渡し、夕方出来上つたものをバイクに乗つて持つて行かれる。それを年がら年中くり返している。夜も昼も、新聞読む時間もなく、子供さんもいられるのですが、たいへん意欲的な方で、これでは勉強する時間が全然なく、後退してしまうというので、下請の人たちがトランジスターラジオにイヤホーンをつけて仕事しながら聞いて、夕方仕事をおさめたあとで、ラジオの放送を話題に反省会をしている、ということでした。その人はまず新聞などに投稿されたり、いろいろな文章を書く。結局やる気があればなんでもできるということをつくづく感じました。

私も共稼ぎでゆとりがないが、電車の中で本を読んだり、原稿の清書を電車の中でする。そのために時間を有効に使おうと思えばいくらも有効にできる。

中里　たしかにおつしやるとおりですが、あなたは体がたいへんお丈夫なのでしよう。夜昼働いてなおかつ電車に乗つたりする間も読んだり書いたりできるというのは特別な方で、それをしない方が怠けているわけじやなくて、体質とか体の問題があると思うん

んですよ。

萩野　わたしのまわりにはそういう意欲的な人が多い。うちの家主さんは後家さんで子供が三人いるが、朝新聞配達をするんですよ。ごはんぬきで。

中里　そういう方はそういう方でえらいんです。

由井　さきほど移動図書館の話が、お二人から出ましたが、私も一度移動図書館やつて失敗した。本がよく紛失したのが失敗の原因です。それから日限を守つてくださらない。それともう一つ、みなさんが読みたいとおつしやる本がわたしらにはつきりわからなかつたのでしようか、あまり利用されなかつたのです。成功なさつているお話をぜひ聞きたいのです。

古川　移動図書館が地域々々に参りますと、そこのグループでかならず責任者を決めておきます。それからお当番があります。本を集める当番、それから日誌をつける係りと決つております。自動車がまいりますと、サークルが三つぐらい集まつたところに、図書館の方がお借りしておいた家でその控えをとつて本を受取つて、みなさん集まつていただきます。一度に三冊ぐらいお借りして、期限は一週間。本を選ぶのは図書館審議会というのがありましてふだんアンケートをとつておきまして……。

城下　この間福島の方じやなかつたですか、朝日新聞に、県の婦人会議に出やはつた方の例をとつて、一人はたしか移動図書館のことを取り上げて……

事務局　あれは宮城でございます。

城下　その方は雑貨屋さんでしたね。車で持つて回るのではないが、雑貨屋さんの一部を図書室にあてて、近所の人たちが、読みたいという本を前もつて聞く機会がありますから円滑にやつているということでした。

牧　自治会でやつておりますが、やつぱり守られなかつたのが、最近はだんだん守られるようになつてきました。

三瀦　地方会議に出た意見ですが、横須賀の方で、余暇を共同学習にうまく利用して、横のつながりをもつてみなさんで勉強していらしやる。

さきほどラジオを通じて勉強しているというお話も出ましたが、私もNHKの婦人学級に入つておりますが、商人で忙しいものですから、トランジスターをいつも離さないでNHKの資料によつて勉強さしていただいております。

吉野　北海道にも移動図書館がございまして、私たちは学校単位に回つております。学校内で、部落ごとに班を作り、一月ごとに回りますので、班で交換し合つて、一月目には学校へ当番が持つてまいります。図書の選択は、アンケートをとり、希望の多い本を持つてきてくださるわけです。本のなくなるようなこともないようで、うまくいつているようです。

佐藤　みなさんのお話、伺つていますと、すくなくとも読書に関心をおもちの方にどういう方法がとられているかについてお話しになつているようですが、私はそれ以前のところにはどういう手を打つていらつしやるか、どういうふうにしてそれを開発してゆかなければならないかということを考えているのです。徳の島では母親学級に読書グループとお料理とお花と音楽とかいろいろなグループがございますけれども、読書グループはとても希望者が少いのです。最初の年にその読書グループに入つたので、すけれども、誰もお見えにならない。読書に対する関心がまだまだ低いのではないかと思うが、なにかいい体験を持つている方がありまし

たらお伺いしたい。

一つは、昨日の親子二十分読書というのはとてもいい方法で、県の図書館長さんが提唱されてみんなに呼びかけて大きな力になつたのじやないかと思うが、その経験を持つているお方がいましたら伺わせていただきたいと思います。

中里　それに関連して、この間厚木の奥の中津川の半原に、読書のすすめというお話で伺つたのですよ。ところがそこでは移動図書館もしじゆう回つていて、学校でお子さんに、この本はお家の方に読ませるように、無理に渡すのだそうです。一週間後にそれを回収する。ところが持つて行つてもおうちで読まない。どうしたら本に親しませるか話してくれということで行つたんですけれども、様子を見ますと、生活に困るという村じやないんです。土地があかつて景気がいいようなところで、みんな自動車買つたりして暇があればどこかに出掛けたり、ほかの物質的な楽しみに溺れている。本を読むには一応孤独な時間に入るわけですが、たとえ一時間でもお天気がよければ外へ出て行きたいという気が、この方たちに多いと思う。そういう人たちに自発的に読みたい気持を起こさせなければならない。それで病気した時とか、なにか不幸があつたりした時にはひとりでに人間は本を読みたい気が起こるので、あまり幸福だと本が読めない。端からこれをお読みなさいといつても、牛を水のところまでは連れて行けるが、水を飲ませることはできないと同じです。

それでちようどその時集まつたご婦人たちも同じくらいの年配の方で、若い時はなにもしないでもきれいですけれども、年取ると、お化粧だけの美しさはたいしたことはない、結局その方の内面的なことが顔にも、体にも全体に出るので、四十からの顔は自分の責任だと申しますね。それじや年配になつて美しくなりたいと思つたら、やつぱり精神的な内容を豊富にする以外にお化粧の方法がない。だからもつと美しくなろうとお思いならクリームを買うお金で本をお読みなさいというお話をしたんです。

川本　私も鹿児島の方と同じことをお尋ねしたかつた。婦人学級などで呼びかけても、お料理、お茶、お花ならいらつしやるが、読書とか消費者教育のグループはなかなかいらつしやらない。そういうことについて悩んでいたのです。

牧　家の前や路地で立ち話はいくらでもしていらつしやいますが、いざ婦人学級に呼びかけても、そんな暇はありませんと、お出でにならない。そういう方を婦人学級に誘うことに何年来努力してまいりました。最初は親子とか人情物語の映画を持つていきまして、みんな涙で、電気がついて恥しい、そういうところから、主人公の悩みを自分が主人公になつた積りで、どう解決したらいいかという話を進めてまいりました。最初から講師を招いてもとても集つていただけない。映画で一年ぐらいしたらだんだん婦人学級の内容がわかつてきたので、それからはちよつとした先生をお願いしましたけれども、この頃はみなが先生であり、聞くほうだとお話合いにもつていつております。お茶も短歌もお花のグループもありますが、みなお花、お料理で終つてしまわないで、お料理いただきながらでも、一時間はかならずお話にもつていこうということで、婦人会でもなるべく教養のほうへ引つ張つてゆくようにしております。

萩野　私は市民図書館で読書グループに入つておりますが、高知市内のグループが何万といる中で読書会に集まつた人は十八人でした。それで淋しく、いやな気持になりました。市民図書館を利用

する方は熱心で、一般の家庭にないものを求めてくることが多いわけですが、それでもそれだけですから、都部ですとなかなかたいへんだと思うのです。

それで、結局幼児期に子供に本を読んでやることは、大きくなつて読書に関心をもつようになるのではないかとしみじみ感じました。

地域の婦人会で読書会をはじめた動機は、学校の問題でPTAの役員やお母さんたちに会つたとき、脱脂粉乳の放射能の問題が出て、子供を守るために集まつた。そこで栄養価値は生牛乳のほうがずつとあるのに、なぜアメリカの粉乳を飲ませなければならないか、そのことを知るために勉強するという形で発達してゆきまして、最初の出発点は、自分たちの子供をどうするか、婦人会のあり方をどうするかということでした。

紀　私の住んでいる小豆はものすごくおくれているのです。テレビの普及率は九〇%以上ですが、この頃はインスタント的な勉強を非常に好むのです。たとえばテレビで林美美子の原作ものは見るけれども、作品を読んで味わうとかいう勉強が足らないのです。世の中が進歩してくるとすべてインスタント的にちよつと取り入れた知識で話している。私のところでは、読書は全然しておりません。

それからこういう会にお出でになる方は、その地方での代表者ですけれども、末端の文化を向上させようと思つたら、頭になる方が動くことが大切ですが、いかにしてすべての方に浸透させてゆくか、これが私どもの一番大きな課題です。もつと掘り下げて全体に通してゆくにはどういう手段をとつてゆくか基礎的なことを伺いたい。

城下　どうして牛に水を飲ませるかということがこれからの私どもの役目になるわけですね。

紀　文部省で、母親の合同学習ができましたね。PTAでなくて、私どもの小学校長が巡回してお母さん方を集めて教育してくださる。最初はたくさん集まる。この間終了式にまいりましたら、総代でまいつた人だけが全部出席して、あとは……ちよつと速記やめていたたきたいのですが――。（速記中止）

中里　お母さまがどんなに賢こくて教育があつて申し分なく子供を育てた積りでいても、親が立派だから子供が立派だというわけにいかないです。それで人の心を引つ張つてゆくこと、つまり読書なんかも、なにかその方に求める気が多少でもなければ読ませるのはたいへんむずかしいことですね。本は図書館に行つて読めばいいというふうになつておりますけれども、やつぱり本は自分で買うべきだと思うのです。買えないから図書館に行つて読む、それも結構ですけれども、一冊でも自分のお金で本を買う気持がないと、本を愛する気も起こりませんし、読書欲が起こらないと思うんですね。読みたいと思う時に身近に本がある状態が理想的ですが、どこのご家庭にも本がむやみにあるというわけにいかないと思うんですよ。

風間　いま読書の問題が出されているのですが、なんのためにそれほど本を読ませなければならないかということをもつと考えなければならないと思うんです。この間県の会合の時に、わたしはみなさんのようにいろいろな家庭用具、電気製品なんか買えないと若い人が言う。それで精神修養しているという話があつたが、それじや金がある人がほんとうに文化生活をしているかというと非常に問題だと思う。精神文化といいますけれども、どん底の生

活を見た時に、本を読ませるより先にもつと生活指導をしなければならないではないか。消費の技術、生活の技術を指導してあげて、一通り人間らしい生活ができるようになつた時に、精神的なものを求める人もでるのじやないか。貧しさだけでなく、そういう意味合いの問題もずいぶん残つていると思う。

一つの例を挙げますと、私は主人の給料が非常に少ないので、どうにかして自分の栄養の最低の線は守らなければならないのでこれだけの金額でどれだけの栄養がとれるかを勉強したいために本を見たりする。それから、冷蔵庫がないから一日の食品の必要量だけ買う。そのために必要量を表にかけて見ながら、今日はこれだけ食べているから晩食はこれだけとお献立の見当をつけるということが、私にとつては一つの文化生活になつてきたなと思つています。冷蔵庫がなくても、天火がなくてもできるということを考える中に、生活の文化性を求めていつています。生活自体の技術的な文化も高めていかないところには、精神的文化を求める気持は起き得ないのではないかという気がする。

佐藤　お話をお伺いしておりますと、生活文化が一応安定し、次に読書というふうに……。

風間　かならずしもそうとは限りませんが。

佐藤　そういう印象を受けたが生活技術を学ぶことも読書の一分野だと思います。しかもそういう現実的なものの勉強が先行するのじやないかと思う。それは必要に迫られた知識を吸収するためのもので、わりに勉強し易いが、それだけに止まつてはいけないと思う。尊敬している先生が、人間は恋愛することと本を読むことによつて人間性が深まつてゆくといわれた。人間性を培うという意味で、いろいろな文学作品を読むことはいいことだし、お菜を少々切りつめても本を買うことは大賛成です。生活に追われているから本を買えないというのは、暇がないから勉強ができないというのと通ずるものがあると思う。わずかな小さな本でも、何回でも読んで自分の血とし肉として、人間性を高めてゆくことがほんとうの読書の意味ではないかと思う。

風間　必要なものはすぐ勉強する、たしかにその通りと思います。但し生活の中でその必要性のバランスが崩れているように感じるのです。実生活をなおざりにしている傾向があるのです。食べることには全然無関心で、絵を習わしたり音楽を習わしたりという傾向が強い。基礎のない生活の中で、エセ文化がはびこつている状態だと思う。

小学校へ入るまでは、体をつくらなければならない。子供には重点を置かなければならない時期がある。そういつたものをしつかり把握した上で考えなければならないと思う。さきほど幼児の時に読んでやることが大事だというお話がありましたが、三年から四年になる時は、文章の長いものを与えなければ、漫画だけに興味をもつようになるということを聞きました。地についた生活をぬきにして読書だけではどうしようもない。

佐藤　読書に対しても生活技術に対しても、母親としてどういうふうにして取り入れてゆくかということに、ほんとうに母親の勉強があるのじやないですか。

由井　結局わたしたちが読書をしたり、読書に花が咲くのは、こういう消費文化の忙しい世の中ですから、もうすこしほかの楽しみを求めたいという心が、いわゆる読書したらどうかというお話になつていると思います。その意味から、結局わたしは、毎日楽しい生活をしたいというのが究極の目的ではないかと思います。そ

の点でなにも、みなを読書に引つ張らなくてもいいと思う。電化製品を整えたことで仕合せになつたと思つている人はそれでよろしいし、今まで着られなかつたものを着るようになつて仕合せだと思つている方はそれでいいのじやないですか。それを卒業して、これからは精神文化に走らなければいけないという人は本を読む楽しみをみつけたらいいので、全部が全部本を読んで精神文化を高める方に引つ張つていかなくてもいいと思います。

吉田　それと関連して、人は心の糧を求める場合に、本を読んで求める人と、話合いの中に求める人と、ものを書く場合とその人々によつても違うのじやないかと思いますね。

それから本を読むくせは、やはり小さい時につけておかないと大きくなつてからは無理な気がする。

紀　小さい島のささやかな体験を話させていただきます。

私のほうではまだ読書が進んでないので、結局文化というもののほんの初歩ですが、精神的に、心が豊かに楽しく生活するということが根本だろうと思いまして、主人がちよつと公民館のほうのお世話していますので。

ある部落で、島全体がよくならなければいけない、とにかくみんな忙しいから、心のうるおいを与えようということになつて、私のいとこに高校二年ぐらいで踊りの名取りになつているのを連れて部落に行き、みんなに見せて、そのあとでお話ししたりして帰つてきたら、部落の特に年寄りに喜んでいただけた。公民館も参加していますから、次にその老人会を招待して、立派な先生をお呼びして、嫁と姑とか……とにかく心のもち方で仕合せになるというお話をして頂きました。

中里　ちよつと申し上げますが、大体この部会の方々は四十以上の方が多く、生活の経験豊かな方々だと思うんです。ですからご自分の生活を肯定なさるほうが多くて、断定的なお話がたいへん多いと思うんですよ。それも結構だと思いますが、やつぱり人のいろいろな生活がございますから、ほかの方の状態も伺つたほうがお互に利益になると思うんです。

紀　それで、そういうことからはじめていかんと、高い文化―本を読むとかに進んでいかんから、家に呼んでお話ししていただいたら、だんだん心にうるおいができてきた。そこから本を読みましようというように進めてゆく。その立ちおくれた土地で小さいところから進んでゆきつつあるわけです。

平　私、孫が一年生に入りましてその本を読んだ時、明治の本とちがつているのでひつくりしましたが、お母さん方に、学校からでも、あるいは婦人会からでも、子供たちといつしよに勉強するお母さんになりましようと呼びかけてはいかがでしよう。一年生の時には一年生の本が、二年生になつたら二年生の算数、国語がわかるような子供と共に伸びてゆくお母さんになるように、農村でもお母さん方におすすめしたらいかがでしようか。

中里　作家の由起しげ子さんが傍聴に来てくださつていますので、ちよつとお話伺いたい。

由起さん、ご迷惑ですが、お聞きになつてお感じになつたことをおつしやつてちようだい。

由起　遅刻してまいりましたが、本を読むお話のようでしたね。ご意見があまりにも根幹に入りすぎていてね、育児とか……

中里　どうしたら読書するようになるかということね、みなさんが本をお読みにならない。

由起　そうして映画をしたりいろいろなことで問題を引つ張り出す。

私は自分の経験で、病気するのがいちばんね。

中里　病気するか不幸ね。幸福な時にはなかなか本を読まない。

由起　赤痢になつた時、遣いずり回つて本をいつぱい荷物につめていた。どこに行くのですかと言われましたが、かき入れ時だと思つた。クラシックを何冊、新しいのを何冊ときめてね。退院しかかつたのですが、ぶり返して長い間ー　やつぱり孤独な時間というのは人間の生活の中に必要だと思いますね。

中里　ところがいい状態で暮している方には、ただ一人でいることが孤独だとお思いになるらしいのね。それさえなさらないのよ。一日の中で寝る時間は孤独ですね。起きていて孤独になる時間がほしいですね。

牧　孤独というのは自分だけの、支配されない時間ですね。

中里　読書というのは否応なしに孤独になつて、一定の時間なにも断ち切つて、することで、いちばん私はおすすめしたい方法なんですね。

由起　なにか出来事を心の中で一遍現像しないと…

牧　末端まで浸透させて、というのは無理でございますね。

中里　みんなに全部本を読ませようといつてもほんとうに無理なんです。それでどういうふうにしていらつしやるか伺つているわけです。そういうふうにしたからいいとか悪いとかでなくて。

原田　やはり読書しようという気持がない人には、いくらお誘いしてもだめだと思います。

うちの子供の場合ですが、「路傍の石」という映画を親子で見てきましたら、それがちようど吾一が上京するところまでした。そうしたら次がどうなつているか、原作と映画はどう違うかとお友達のところから本を借りてきて読んで、映画でああだつたが本ではこうよ、と説明してくれる。自分から本を読んでみようという気持がない人はいくらすすめても、長続きは決してしないと思う。

中里　それからさきほど、なんのためにそんなに本を読まなければならないかというお話がございましたけれども、本は必要で読む方もあるでしようし、ご自分で、これは名作だから読みたいという趣味的な場合もありましようし、本を読むということでものを考える習慣もつくと思うんですよ。いまの方はただ忙しいからとあんまり考えないでなんか簡単にできるような生活を文化と思つている傾向がございますが、早くできることが決して文化でもなんでもないんです。

由井　本の読み方ですが、私は違うんです。本を買つてきて、読みたいと思つたら、朝、家族を送り出したら、掃除もなにもせんでそこら中ほつておいて読むんですよ。お客さん来たら妨たげられると思つて錠落としておく、本読んで、満足した心で掃除にかかるんですよ。よく朝御飯も片付けんと読んでいるといわれるが、なにもかも片付けてさあ読みましようといつたら読めないんです。

中里　地方なんかに行くと、若いお嫁さんがじつとして新聞なんか読んでいても怠けているように思われる。洗濯なりお針なり、たいしたことをしていなくても、目に見えることをしていれば、いかにも働いているという観念がある。なにもしないで本読むのは罪悪だというお気持が多少どなたにもあるのじやないでしようかね。

紀　そんなことはない。

中里　じやあみなさま方はたいへんいい状態ですね。

萩野　そうじやないですよ。うちなんか、姑が全然字が読めない。わたしが新聞取つても、お前はこんなもの取るならたばこ買え、という。夜、なにをごそごそ書いているのだ。そういう中で読みたいというのは、大きな努力が要るのですよ。

城下　ちようど先生方二人いらつしやいますから、ちよつと関連しているように思いまして―　ちよつと前、平林たい子先生が、こんどの三人の例をとつてなにか書いていてくださるのですが、その中に私が入つているのですが、批評してくれはつた。これ自体がわたしのほんとうの人間性じやないような気がするのですが、ほかの方もどういうように感じていらつしやるか……

三橋　産経新聞に「生活の中の文化とは」と、いうのが出ていました。ちよつと読んでみましよう。

「その感想文は発表されていないけれども、およその話を聞いただけでもなかなか面白いものがあるらしい。その一つにこんなのがある。この人は、生活の設計ということを考えて住宅をととのえ、文化的な生活用具を揃えたあとで子供を生んだ。ところが苦労して揃えたそれらの用具が相当使い古されてから子供が生まれる順序になつて、生まれた頃には買いかえなくてはならなくなつた。しかしもう経済が許さない。そこでこの人は、自分一人だけで新しく買うよりも、できるだけ地域の人々が集まつて、共同施設としてととのえることにしたらどうかということを考えたというのである。

もう一人のは生活保護を受けている家庭の主婦が、家中で短歌をつくるようになつたらたいへん生活が明るくなつたという。

またもう一人は、四人の子供を大学に入れた未亡人である。今も駅弁の仕出しをして働いているが、自分は犠牲になつても子供たちに文化を享受させたことで満足している。

これらの例でまず感じることは、文化ということが家庭の電化、教育の高度化といつた身近な部面では捉えられているけれども、それが現代の文化全体を見下ろす視野から見られていないことである。一人は電気器具とか自分の家とかいう問題として考えているし、もう一人は、大学さえ出せばと、自分自身を忘却するほどの犠牲を払つてもその子に文化の順応性があるものと信じて疑わないかのようである。むしろそういう現代的な主体から遠くとも、短歌でなごんでいる貧しいもう一人の考え方の中に、私は西洋薬と比べた漢方薬のような、弱いながらも文化の本質に迫つたものがあるような気がした。

それにしても、文化という一つの言葉を縁にしていながら一人だけはそれを享受する者の立場にいるけれども、他の一人はその名の犠牲になるものの立場にあり、もう一人は文化に遠いところにいる。人間の文化に対する自らなる風刺となつているような第三者的立場をとつている。ほんとうに文化と名のつけられる生活の報告をしているのは、実はその中のたつた一人に過ぎないという貧しさが、企図せずにこの三つの例で示されていることに私はおどろいている……。（下略）」

中里　それは平林先生のお考えですから。

城下　けれども私自身の場合、子供を育てることだけが文化ということにつながつている、自分を全然犠牲にしてしまつているように思われているのかしらんと思つて……これじやわたしはみじめにみえる。

中里　山や田まで売つても大学に上げたいというお話を聞きますね。大学に上げればそれで完全な人間になるなどと決して私は思つていないのです。親御さんは自分は犠牲になつても学校に上げたいというのは、大学を出ないと今の社会制度では、勤める場合にいろいろ不都合があるからということにつながるのですね。かならずしもその子が将来生きる上で幸福だから大学に上げたいということじやなくて。

城下　大学に上げることが絶対の文化だと思わなくてもそれにつられてなにか希望をもつて生きてこられた。ですから、全部わたしを無いものにしてきたのではないということを申し上げたい。

中里　平林さんにお目にかかつた時に申し上げましよう。

城下　どうぞよろしく。

吉田　それに関連して、マスコミの取り上げ方というのはたいへんいびつにされていることがあるのですよ。たとえば私の原稿でもこんど入選したのは、どこかに取り入れていただけたものがあると思うのです。ところがこういう問題は私が言つたことでなく、何年来と言つている。けれどもマスコミは、ほかの会合で言つた時には全然取り上げてくれない。私はいま、四日市の母親大会の実行委員長をしているが、命を守り育てることを願つて精神薄弱児のためにやつている活動にすら、新聞はとても非協力的です。それでいてこういう時になつてくるとなかなかあおつてくれる。

原田　同感です。

吉野　全道大会で一つの新聞だけ読んでいたら片寄りすぎるから、二部以上読まなければいけないのじやないかと話合つたんです。一つの問題についての論説でも、各社がちがいますからね。それだけを受取つて、うのみにすることがないように私どもが批判する。そのためにももつと読まなければならないのじやないかと。

中里　マスコミの問題は、私どもみんな接触が多く暮していますがみんなたいへん不満なのです。決してマスコミのいまの状態に満足しておりません。

秋野　吉田さんのお話に関連しますが、私も前からちよつと書いていまして、二年前に新聞社の関係の婦人会というようなもので読書グループを作つてもらいたいというと、全然取り上げてくれないが、私が県代表になりますと、さつそく話してみましようということになる。バックがあつたり、有名人であると大きく取り上げる。一読者は抹殺される。

中里　バックというか、個人的なことより公的なことになつた場合にはマスコミは取り上げる。そうかといつて、いまのあなたのような場合に、自分の本意でない受取り方をされるとご不満でしよう。

城下　読んでくれはつた方々は、べんとう作つているおばはんがね、とにかく子供を学校出せばいいというくらいにしか見えへんやろと思うんですよ。

鈴木　由起先生もお揃いですから、読書はほんとうになんのためにするかということが、さきほどからちよいちよいお話が出ておりましたが、先生方のご意見を私考えますと、結局反省とか社会に対する知識もですが、自分の行動が周囲の方にどういつた影響を及ぼすかとか、思いやりの心を育てるのではないか。私、視野がせまいものですからそんなに考えておりますけれども、それはごくせまい部分だと思いますが、お二方から読書の真の意味とか効果、そういつたことをお教えいただければ。

由起　私はやつぱり自分を広げてゆきたいという欲望がありますの

で、なににでも好奇心をもつて、読書もそういう意味で、その中にはあなたがおつしやつた高尚な意味がありますし、もつと低い好奇心のようなものもありますし、まりとあらゆる要素がその中に入つていて、申し上げにくいけれども、結局自分をもつともつと広げてゆきたいということが土台になつていると思います。

中里　職業のためにとか必要のためにとか、はつきりした目的もあるでしようが、なんのためでなくても、本が読みたい気というものはあるのですね。戦争中、いくさに出た兵隊さんたちが、包み紙のきれはしでも争つて読んだというんですね。でも食べるか食べられないか、生きるか死ぬかという状態で活字を見たいという意欲がある。なんのためにという合理的なことだけで私たちは本を読むのじやないと思う。

三嶽　神奈川地方会議の時に助言者の三人の先生に、社会的に文化を迫害するものはなにかという質問が出て、それは戦争と暴力と、文化文化といつている人間だというふうに一つずつおつしやつてくださいました。これは隣人愛にも通ずると思いますが、文化を阻害する戦争ということは、いまのベトナム問題にも通ずると思います。ベトナムでは同じアジアの民族が南北に分れて、両方のベトナムの人たちが苦しんでいる。そんなことはないと思いますがもし自衛隊でも派遣されるようになつたらとても心配だと思いますが、そういうことも先生に教えていただきたいと思います。

中里　教えるなんてものじやないですね。戦争絶対反対ですけれども。

三嶽　それをみんながどういうふうに盛り上げていつたらいいかということを、文化と関連してお話していただきたいと思います。

中里　文化と政治とたいへん関係がありますけれども、戦争をいつたいどうするかというようなことはこの婦人会議の当面の問題としてはいま取り上げないんです。もちろん戦争に日本からも手伝いに行つたらいいと思う方は一人もいないと思うんです。

吉田　どこかの機会で結構ですがお願いがあるのですが、いま一般に、婦人のほうが政治面では非常に高いと思う。同じ政治家を比べた場合だつたらね。ところが婦人が立候補して婦人がたくさん出たら、もつと私たちの精神的な面が豊かな国になるのじやないかという感じもするのです。

それでオブザーバーの方に日本有権者同盟の方がいらつしやいますので―。そういう面について、政治と文化と人間的に通ずるでしよう。

岸本（特別オブ）　おつしやるように、国の政治が男子だけではいけないことは誰が考えてもわかります。それで有権者同盟でも、出たい人より出したい人を、ということでやつています。婦人の声と男の人と両々相俟つてしつかりしたものが出てくると思うので、どうしても婦人を出さなければならない。日常の生活や子供のいろいろな問題はすべてどれも政治につながつていることですから、そういう問題を下げていつて政治に実現してもらわなければならないわけですが、選挙の現状はみなさまご存知のとおり都議会の汚職があつたり、腐敗選挙があつたりで、年ごとに選挙の度に悪くなつて非常にお金もかかる選挙になつている。婦人が出てこないのは、結局お金のかかる選挙だからです。戦後婦人がかなり参議院あたりに出たが、だんだん出られなくなつた。前は五百五十万でできたものが、こんどの参議院選挙では公定費用ですら六百三十万だという。そんなお金がどこから女の人に出るか。結局お金で政治票が買われている。政治はつまり派閥でなされて

いるという現状で、婦人が出て行くのはむずかしい。私どもの候補者は理想選挙を謳つていますから、この人を出したいという意思で百円、二百円のお金を集めてやるわけですけれども、そういうやり方が私たちだけでなく、いろいろなところに広がつてゆけば、婦人も出て行くと思います。

私、東京のある区にいるのですが、そこで痛感させられるのは、女の人がそういう人を出すためにちつとも努力しない。そればかりか逆に人の足を引つ張ることが非常に多い。各区に婦人団体の連絡協議会があるわけです。有権者同盟も入つていますし、私はこの地域で小さい勉強会もしていまして、連絡協議会でされることを見たり聞いたりしているわけですが、たまたまこの間の地方選挙にこういうことがありました。そこの連合協議会の会長をしていた人が地方選挙に打つて出た。するとその団体はそのために利用されちや困るという態度をとつたわけです。さつそく次の総会で、規約の中に役員をしている者は選挙に出ることはできないという言葉を入れてしまつた。婦人団体が手をつないだ機関ですから、そういう中からほんとうに出したい人を出してゆくという気分にならなければならないと思う。そういう点で手をつなぐことができたらすこしは婦人を出してゆくことができるのではないかと思います。

宗像（特別オブ）読書のことですけれども、たしかに日本の婦人は読書が足りない。またむずかしい本を読もうとしない。そうかといつて、毎日追われている人に読書しようといつても無理な話ですから、まだまだ仕事のほうをやりなさいといつたほうが手つ取り早い。

ですから読書欲のある方は、小説も結構ですが、私はもつとむずかしい本を読んでいただきたい。政治に関する本も読んで、もつと政治経済に関心をもつことが必要と思う。家事の時間を三十分でも省いて読むようにしていつたら、ずつとわれわれの思想そのものが高まつてくるのじやないかと考えます。男女同権になつたのですがまだ女は男と比べますと劣りますね。思想の面でも、ものを考える力の面においても。ですからやつぱり目覚めている婦人が男に負けないように、そういう意味で勉強することが大事だと思います。

それからこんどの参議院には婦人を出したい。そのためには、婦人が結束しなければだめですよ。出したい人をお金を出して出すという力の結束を婦人がしたらということをしみじみ思います。

古川　理想選挙のことですが、私どもの地方ではじめて理想選挙をして、一昨年女性の市会議員を出しました。

十二時十五分（休憩）

再開　午後一時半

事務局　午前の会議で、政治と文化とのことが若干問題になつたようですが時間がなかつたので先生が端折つておつしやつたと思います。婦人週間は政治に云々というご発言で気になさつた会員もあつたように感ぜられましたが、いうまでもなく婦人週間に婦人参政権を獲得したことを記念していたしている行事でございますが、お役所でいたしている行事でございますので、現行政治の批判というようなことはここでは取り上げないというように私どもは解しておりますし、先生もそういう意味でおつしやつたと思います。政治学の範疇に入る政治を取り上げないということではないと思います。そういうことでございますので、その点誤解がな

いようにしていただきたいと思います。

中里　それでは隣人愛についていたしましょうか。どこかの都市に災害があると物を送るとか寄付をするとか、組織的にいろいろそういうことをいたしますね。そういうこと以外にも、みなさま方の生活のまわりに、自分だけでなく、ほかの社会との関連と申しますか、助けたり助けられたりすることがおありになると思うのですよ。そういうことについてなにかお話がございましたら。

吉田　隣人愛というのは個人と個人の愛情というふうにとられがちですね。私の娘が信州で保母をしておりますが、保育している子供のお父さんが刑務所に入っていて、帰ってきたら、お母さんは子供をおやじさんに渡してすぐ行ってしまったそうです。そこでお父さんと保育園と小学校に行っている子供の生活がはじまったので、娘は一生懸命励ましていた。すると、お父さんが出張することになつて二人の子供が置き去りになるので、娘が預かったそうです。その後どうなつたかというと、そのために娘は被害を蒙つたという。しばらくしてそのお父さんが娘の留守に来て、どうしても食べられないからお金を貸してくれときて仕方なく近所の人が二千円貸してあげた。そのうえ娘の主人のところに行つてまた千円貸りて行つた。それでその人は行方不明になつたそうです。子供たちはすぐお母さんが来て育てているが、気の毒で取れないという。主人は、そういう措置をとつたことはまちがつているというんですね。お父さんがいなくなつた時には子供を連れて児童相談所の一時預けにするべきだつた。それを自分の家に持つてきて解決したところにまちがいがあるという。個人的に手をさしのべる前に、公共機関で利用できるところは利用する、隣人愛の探め方にもそういう方面があるのじやないかと思いまして。

坂下　隣人愛ということ、わたしたち、電車に乗る時うしろのほうに押されてしまう。それを無理に乗つたら人さんに迷惑をかけるという気分があるさかい、乗られへんと思う。そのうち電車たつてしまう。

まあひとつ、うちは食べもの商売ですからお客さん、ごはん食べる時ありまつしやろ、その時お客さん、ごはんつぶつけて、普通にお話ししてはるでつしやろ。誰かが言つてくれはれへんかと思うと、やつぱり知らん顔していやはる。しようことなしにお店に出やはるまでに「ついてまつせ」と言うてしまう。こういうことは隣人愛なんて大きなものじやないかもしれへんが、こういう気持はやつぱり父からもらつた気がする。父はたいへん信仰家で、ごはんつぶを粗末にすることをもつたいないといつて、そういうことを教えてくれた。てんで貧しかつたですけれども、毎朝ごはん食べる時はいつでもお乞食とか尼さんとか託鉢僧がお客さんになつて朝の膳に並ぶ。子供心に寂しかつた。その実、母は朝のごはんでも借りに行つたことがあるらしい。それである人が、村でも税金なんかいちばんびりつこしか出せへんくせに、そんなことしいへんでもいいじやないの、と言うたら、父がわたしは十人も子供をもつて、次から次に外へ出してしまつた。子供がよそへ行つたらかならず人さまの世話になつているにちがいないが、その方にお礼できへんので、旅で難儀している方見たら、一膳の飯でも泊めるのだと言つた。わたしは学問できなかつが、親からいい

ものをいただいてきたとこの頃感謝している。

隣人愛というのはそういう形で受取つて結構でしようか。

中里　どういう形でもそれで結構てすよ。

萩野　私は共稼ぎで、子供が五人の時から十年間働いているので、いつもみなさんのお世話になる。いつか雨が降る間ぎわに、全部雨戸を閉めて出掛け、職場に着いてから炊事場にお魚かけてきたと気がついたのがすでに一時間経つている。火事になつているかわからんと慌てて近所の人に電話かけようと思つたら、電話が一軒しかない。実はその奥さんから保険の勧誘されていてうるさいのでつきあいせん積りでいたが、しかたないので電話をかけた。その時、友達がいかに大事か近所の人を大事にしなくてはいけないと痛切に感じた。

その当時のことでしたが、一軒を二つに仕切つた家に住んでいた。ベニヤ板の境で隣りのことが全部つつぬけだ。十二時頃子供がぎやあぎやあ泣くが、共稼ぎでお母さん疲れているし、一向おこらない。うちも朝起きなければならないのに眠れないからカツとしまして「コリヤツ」と言いますと、子供がびつくりしてやめました。翌る日隣りのお奥さんもケロツとしている。その晩、おひつを見ると全然ごはんがない。困つたわと言つていると、隣りの奥さんが、うちごはんたいてあるから上げましようと持つてきてくれた。その二つのことから、ほんとうに家を外に出ている者は、近所の人を大事にしなければならないと、つくづく感じました。

三嶽　子供を交通事故から守ることも隣人愛に通ずると思います。外にいる子供は、みんな自分の子供と同じように、危ない時は注意してやるということも大切だと思います。事故の原因もいろいろあるでしようが、事故の社会的原因を見きわめてただしてゆくようにしたら、子供の事故も少なくなると思いますが、いかがでしようか。

中里　隣人愛というと、すぐ近くのお隣りのことと考えますが、もつと大きくお考えになつて。

佐藤　地方会議の時も出たのですが、わたしたちはいろいろな面で個人的に不便を一人々々持つているが、それを個人の力でなく世論に訴えて解決しようということを話題にしたいと思います。

徳の島は五〇〇キロも本土を離れておりまして、一例をとると、子供の教育の面でとても不便を感じているのです。離島の人は自分の子供を、ちよつとでも鹿児島のいい学校に出したいと経済的に恵まれた人は鹿児島に家を作つてそこで子供を学校に通わせるとか、あるいは立派な下宿をさがして子供を預けるという方法をとつていらつしやるか、底辺にあえいでいて、しかも知能のすぐれている子供を救い上げることは、個人の力ではできないと思う。そういうのを世論の力によつて、たとえば大島の子供たちが安心して勉強のできる寮みたいなものを作つて、そこに島から出てきた子供を収容して勉強させるとか、あるいは航路ももうすこし船の数をふやすようにして解決してもらいたい。自分の子供だけでなくて、それのできかねる子供たちにも手をつないでやつてゆこうという隣人愛の自覚というものが、島だけでなく県全体にも、そういう心構えがほしいと思います。

由井　高校進学のことに関する隣人愛の問題を考えたのですが、わたしの町に普通高校、農業高校が並設になつた高校があります。地元の方は、農業高校も並設だしレベルが低いからと、成績のいい方は全部といつていいくらい進学率のいいほかの高校に入れなさる。す

すると中学校の先生は進学の話の時に、成績の好い子供をどんどん出してもらうと、肝心の地元の高校がますますレベルが下るから、よく考えて、優秀な子供を地元の高校に入れるようにとおつしやる。その時はなるほどと聞いているが、さて進学の希望出す時になつたら、やつぱりほかのいい高校にみな出しなさる。そんなことで地元の普通科に希望者が少なくなつて、去年くらいですか、普通科が廃止になつて農業科ばかりになつてしまつた。そうしたら成績があまりよくなくていい高校に行かないうちの方は、農業をするのじやないので行くところがなくなつてしまつた。自分の子供をいい高校に行かせたいばかりに、もつとたくさんいらつしやるほかの方の行く場所がなくなつた。これは考えなければいけないことだと思つたのですが。

鈴木　北海道の夕張炭坑の惨事など、いまもつて私どもの胸の中にいたましい思いがいつぱいでございますが、こういつた悲惨な方たちを、まだ虫けらのように扱われている方がいらつしやる。大きな炭坑の下で組夫として働いていらつしやる方たちが、退職金も、お見舞金でもわずか十万円くらいのお金しか頂かないそうで、さつそく家族の方たちの生活がお困りになるわけでございますが、一方都会を見ますと高速度道路はできる、レジャーだと婦人たちが自動車を乗り回している。同じ日本の国であまり開きが大きいこれで文化国家ということができないと思いますが、そういつた場合に、国家の補償は得られないのですか。

中里　ある程度得られるでしよう。その場合に国家がどういう条件でどういう補償をするかわかりませんが、オブザーバーの方でそういうことにお詳しい方がいらつしやいませんか。

原田（特別オブ）　一応労働災害補償から出るのと、こんどのような場合には労働組合が自分たちの問題として補償を国家または会社に要求しております。それがどの程度できるかということは、隣人愛の中にも、社会的な連帯心によつて解決しようとして運動していると思うんです。

鈴木　新聞記事によれば、百五十万円から二百万円のものが（会社の見舞金、退職金といつたものを含めて）支給されるそうですが、子供さんが多いらしいので、教育資金にさつそくあてなければならない。そうすれば生活のほうはさつそく内職なりなんなりでやらなければならないので、悲しんでいる暇もない状態だ。もし私ども婦人の手でいくらかずつ……十円ずつでも集めて、善意銀行のような形で、生活の見通しの立つまでも保証してあげることができればたいへんいいと思いますが、なかなか世の中はそう巧くゆきませんでしようが、みなさまの広い意見とか知識を伺いたいと思います。

事務局　労働基準法の中に、業務上事故で死んだ場合には平均賃金の千日分が支払われることが規定されております。

牧　昔の婦人会はずいぶん奉仕生活に徹しておりましたけれども、いまの婦人会はややもするとリクリエーションだけの婦人会のようになりまして、奉仕精神が欠けているように思いますけれども、みなさんのほうの婦人会なんかどうでしようか。いまのような問題なども、婦人会の手を通して、たとえすこしのお金でも、集まれば大きなお金になるから、団体で話し合うということは必要だと思います。

もう一つは、隣人愛と愛情をお互に向け合うより、まず先にこの頃は、自分の家さえよければ、お隣りはどんな人であろうと無関心で、個人々々のつながりがなくなつてきておりますので、ま

ずお互が親しみ合うということから、お早うございます、お帰りなさいとこちらから呼びかける勇気を出しましょう。どちらかが言葉をかけたらそれから親しくなつてゆくが、子供が朝登校する時は、行つていらつしやい、お帰りなさいと、近所のお母さんがやさしい言葉をかけてあげることを実践するという話合いにもつていつていますが……。

中里　助けることとか、助けられることばかりが隣人愛じやございませんから。

紀　隣人愛といつて大人になつて急にさわぐのでなく、子供の時からそういう心を培う。私の例ですが、昨年小学校の二年生の男の子が海に溺れたのです。黄色の帽子が浮いたり沈んだりしていた。ちようど海にごみを捨てにいつた二人の中学校の生徒がそれを見て、あれはたしかに子供だろうと担ぎ上げたのです。それを主人が聞きましてさつそく表彰しようと警察署に頼んで表彰してもらうことになりまして、中学校の校長先生に一応お伺いしたところが、中学校としてはありがたいが、小学校に申しわけないから表彰されては困るという。小学校の先生が宿直に、海の中をよく見て、どんなお魚が浮いているか調べてみなさいと言つたら、子供はすぐ海に行つて落ち込んだから新聞に出たら、小学校の教員の落ち度になる。先生の面子を保つて表彰しないでくれ、ということだつたが、駐在所の巡査が先に聞いて手続きをとつた。しかし新聞社の方は、絶対に新聞に出さぬことにした。そうして表彰したのです。小さい子供が人の命は大切だから助ける。助けられたほうはもちろん人工呼吸までしたのですから非常に感謝されたのです。

それからもう一つ。昨年の十二月ですが、老人会の会長が、ぜひうちの孫を表彰してほしいというのです。小さい部落ですけれども毎日、四十五日間、小学校一年から四年までの子供が、火の用心といつて八時までの間にまわる。それは児童福祉法から考えてちよつといかんのですけれども、その行為が非常にまじめで、四十五日続いた。ほかがそのとおりしてくださいというのでなしに、その子の善行に対してというのでお願いしたところが警察署長から三月二十六日の終業式の終りに表彰されて、子供の一生にとつて非常にうれしい思い出になるし、示唆になると思つて主人も帰つてきたのですが、小さい時から人の命とか、人を愛するという気持を培つておくことが大事だと思います。

風間　私は隣人愛を阻むもののお話しをしたい。

山梨県で、北海道の冷害の時に、救援したというので、荷物を日通に持つて行つたら二千いくらお金がかかる。みなさんの善意を集めたのだから、なんとかただでできる方法はないものかというと、知事の認可がいるという。知事のところに行くと社会課だという。社会課に行つたら、日赤支部でやつているという。支部に行つたら、山梨県で災害があつた時、北海道からはもらつてないから必要ないという。結局みんながまた送料を工面して送つた。せつかく連帯感をもつて、向こうの同じような組織から、こういう家庭があつてこういう子供たちがいて、それに合うものがほしいという要求がきた。それに応えた隣人愛がちつとも実を結ばない。お役所が集めて十ば一からげ、どこに行くかわからない。それから二月もおくれて、婦人会を通して集めにくる。隣人愛はみんながもつている。そういうものを阻まれるのはほんとうに悲しいし、辛いことです。こういつたことは、七めんどうくさい杓子定規の法規じやなく、血の通つたやり方で、行政に当る人たち

が取扱つてもらいたい。折があつたらそういうお願いを関係のところに出していただきたい。

中里　何日までは無料で取扱いますとか、災害の度に出ますね。何日までにできない場合があるのですね。そういう場合に、もうすこし融通をつけて、災害地に送るものは特別考えていただけるといいですが、いまのところそういう措置がないように思います。どこでも。

城下　小さな親切運動が短かい期間に、日本全国でみんなが気持をもつようになつた。ああいう方法でみなさんの気持をお互に感じ合うような方法がございませんでしようか。

中里　あまり、人を助けましよう、なにを上げましようと言うと、中には反撥する人ができるでしよう。これはやつぱり、ぜひなにか送らなければ、寄付しなければということでなく……。

風間　センチメンタリズムと隣人愛を混同しちやいけないと思います。幸せな自分たちが、不幸せな人にゆとりをやつて自分を満足させるという気持でなく、きびしい言い方をするならば、当然政府なりなんなりがしなければならないことを私たちが肩がわりしている場合も生じてくるわけです。ですから、最初吉田さんがおつしやつたように、子供たちを児童相談所に回すべきだつたというふうに、第一に制度をはつきり知つてそれを利用することを学ばなければならない。それから労働組合の人たちは連帯感が非常に強いので美ましいと思う。私たちは隣りの人たちと仲好くするだけの連帯感でなく、社会に対しての連帯感を充分もたなければならない。公人としての意識、特にここに集まつた方たちの中に薄いように思う。そういつた面をすこし強調しなければ、隣人愛も根なし草に終つてしまうような感じがいたします。

紀　傷痍軍人の方が今もずつと、なにか弾いたりしているでしよう。若い人はその前をスツスツと通つている。あれ見たら涙が出てくるが、今の人は割り切つていますね。ああいう人は、政府の保障はあるのでしようか。ああいう人たちを見た場合に、どういう態度をとつたらいいでしよう。

吉田　傷痍軍人はある程度守られていますが、それがうすくて、それがまた自衛隊を育てている日本の姿かしらと……。街頭に立つている人の中には、ほんとうの傷痍軍人よりは、職業的にしているのがずいぶんあるらしいのです。ですから人の善意を逆用するような商売については、もうちよつと厳重に取りしまつてもらつて。それがほんとうに気の毒な人ならいいですが——。

中里　あれは不愉快な問題でございます。

平　こちらには団地に住んでいる方はいらつしやらないが、私は二月から入つて、団地の生活は長くないが、みなさん隣りへ、お早うと声をかけるとか、自分の危機を隣りの方が救つてくれたということをたいへん感慨深くお聞きしましたが、私の団地では、私が年少者ですが、若い方と年代の方の相違とかで、非常にしつくりしないところがある。朝昼晩団地に住んでいて、ごあいさつもしないという方が多いので、今日のみなさんのお言葉は非常に胸にこたえるところがございましたので、そのように善処してゆきたいと思います。ありがとうございました。

原田　先日私のところで、隣組の組長さんの選挙の話が出た。ところがうちの前は、お二階をアパートにしている。その方たち今までずつと組に入つていただいて、出て行かれる時にはおせんべつを上げてきた。慶弔費はいつしよにしていたわけですが、こんどは、慶弔の分はのけてほしい、組長とかのお役はのけてほしいと

言う。向こうからおつしやるならばそうしましようということになつた。ところがその中に一人年寄りがいらつしやる。死んだ時にはどうなるのですか、ということになつた。組に入つているからいないからという問題ではないから、その時はお手伝いはみんなで協力しましよう」「それなら安心しました」と。ふだん留守にして迷惑かけているから、いつかお手伝いでもして、という気持はさらにない。目と鼻の先にいらつしやる方ですから、お早うと声をかけて接近しようと思つていましても、現実は離れようというような格好になるわけですね。そこら辺が、団地とかアパートというところは、大きな問題になると思います。

中里　戦争中隣組で苦い経験がおありで、隣組はごめんだという気持が大分方々にあるのですね。女のつきあいと申しますと、つい生活の中まで立ち入つたようなことになりがちですね。それを煩わしいとお思いになる方があるのですね。こんにちは、さようなら、おはようくらい言うのはなんでもないとしても、それから家の中まで世話をやいたり、この家ではどういうようにしているといわれることを懸念している方も多いと思います。

佐藤　婦人が利巳的で隣人愛にうすいということで、婦人会の役員をけむたがる。なんとかして避けたい。そのために婦人会の運営がうまくいかないという例が方々に起こつているのです。それは結局は婦人会の恩恵は得たいくせに、その下積みの役はしたくないというほんとうに利己的な考えがひそんでいると思う。それについてどなたか、これはよかつたという手の打ち方をおやりになつた方、ございませんでしようか。みんなが進んでやるという方法。

原田　うちの地域にあつたのは自由な婦人会だつたわけです。ところがみんな協力者がなくなつてつぶれてしまつた。そのあと、連合会長さんから町会会長さんのところに作るようお話があり、私にやれということで、会長改選までのお膳立だけをお引受した。結局会長選挙になりましたら、今までしたんだからということになりましたが、私の時にはずいぶん協力してくださつた。毎月役員会をもちましても、十人のうち欠席されるのはたいかい一人なのです。だからみなさんの協力が有難かつたと思うのですが、やつぱりしつくりいつていたらそういうことはないのじやないでしようか。

平　私、前の仕事の委員やつておりました時に、民主団体に非常に公共団体からの圧力が大きかつた。日赤募金でもやりますと、その利潤は婦人会にかえつてきますけれども、結局は幹部の方が非常にいろいろなことをやる。それから奉仕団体にしてもさつそく婦人会長に命令一下で、あまりに役所関係の圧力が大きかつたので、次の婦人会長を選挙するのに、私も仕事の面で困つたことがあつて役所とも取引したことがありましたが、そういつたところいかがでございますか。

原田　そういうことはなにも婦人会がしなければならないことはないでしよう。どこがしてもいいということでしたから、私は町内会でしてください、できない時はお手伝いしますということにした。それから婦人会の上に立つたら、自分の言うとおりに動くのではなく、総意にしたがつて私は動くというふうにしたのです。だからしよつ中みなさんの意見を聞いてきて、幹事会の時はみなさんのご意見をせいぜい聞いてきてください。こういうことについて、お話ししたいからといつて、その中の希望の多いものから取り上げてゆくという運営の仕方をしました。

三徹　先日の地方会議の時に私たちはいまの婦人会のあり方をどういうふうにしたら有効か、それを聞いてきてください、という宿題をもらつてきたのですが、いろいろお話を聞きますとどこでも困つていらつしやる問題が多いと思いますが、これをいちばん大きく阻んでいるものはなんでしようか。

紀　阻むという問題でなく、私たちは、こうゆう婦人会、農業婦人会、敬神婦人会、それから婦人会とあるので役員もものすごく多くつて全部会長がちがうのです。入つている人は重複しても。区のPTAの研究会があつた時、全部動員するのです。小中学校のPTA、婦人会全部動員して、その中で案を練る。するとわりあい、いい意見が出るし、協力する人が各方面から出て来て、わりあいにスムースに盛大に行われる。婦人会の発展策としては役員を多くして、順番別にしていることです。そうすると役員の苦労が自分でしてみてわかるので、出なければいけないという気持が起こつてくる。

風間　私のところでは、やつぱり婦人会が、ほかの婦人会と折合いがつかない場合が多い。それで地域的に全部を網羅した婦人会が内容にみるべきものがない。結局、資金を得るためにしよつ中ものを売るとか、行事のためになにかするとか、そういうことしかしない。なにかするといえば民謡の踊りとか旅行しかない。会長は村なり町なりのボスの奥さんがなる。地域の婦人会でいちばんとりえは、どんなわからんお姑もみんな出て行くということ。今後婦人会がどんな人でも出してもらつて、これをもつと上手に、民主的な方向にもつていくように意識した人が中に入つて高めてゆく工夫をしていくのがいちばんいいのじやないかと感じております。

吉田　地域婦人会がずいぶん利用されているのです。一つはおかみの出先機関になつている。それにリベートもらう関係上どうしてもしなければならないという関係になつてくる。

中里　リベートもらうんですか。

吉田　だから悪くいえば県なり市なりの人件費を節約して、ちよつとやつておけば、婦人会貧乏だからよろしく、そういうようなこともあると思うんです。

もう一つは、わりあい自主的なことをやりますと圧力がかかる。自治会のものが、やはりどちらかというとある程度大きな流れにそうて、大きな力の下に働いているでしよう、だから動きがとれない。それをすこし進歩的にもつてゆこうとした場合に、どうしても圧力がかかつてくるのです。ですから公明選挙とか、私どもの代表を出そうという時の圧力のかかり方はものすごい。

市会議員選挙の時、私たちは女の人を二人立てた。私は大きな地域の婦人会長をしていた。候補者は隣りから立つた。すると私の地域からも男の方が立つた。私は婦人会長の立場から隣りの婦人を推すことになつた。そうしたら隣りを推すのはけしからんということで圧力をかけられる。

わたしは、あんまり大きな期待を地域婦人会にはもたずに、地域がみんな仲好く行くことをモットーにして、人道的に見て誰でも納得できる問題、たとえば精神薄弱児の施設をつくりましようということなど、抵抗の少ない問題から仲間づくりをもう一遍考え直してみようなどと思つてやつているのです。

もう一つは老人クラブの問題があつて、信州にいい老人学級をもつているところがあつたので行つてみた。この老人学級は全然

補助を受けずに、自分たちが会費を出し合つてしているので、どこからも圧力を受けない。堂々と県や市の補助を受けると、老人クラブはなんとなくゴタゴタする、という話を聞きました。

紐付になつてはいけないと思うけれども、地域の全体の問題は、やはり自治体との関係も仲好くしていかなければならないから、地域婦人会は独自なものであまりそれにすごい期待をかけるほうがまちがつているのじやないかと考えているのですが。

由井　婦人会の活動を阻むものの問題ですが、奈良は大阪と近うございますから、この頃は大阪の工場が奈良に進出してくるのです。それで工場の下請を家内工業でやりなさる人がふえてきたのですよ。婦人会に行つて人の世話をするより、家で仕事をすると、たいていの人が月に一万円ぐらいは楽に儲かる。そういうことが広がつて、婦人会活動よりも金儲けるほうが楽しいということになつて、婦人会の役員をする人がなくなつてしまつた。そういうことがこの頃目立つてきたのです。

牧　滋賀県も観光都市ですので、旅館へ下働きに行くと一日に二千円ぐらいになつて、そこでお喋りするとリクリエーションになつて婦人会に行くより楽しいというので、だんだん婦人会に参加する方がなくなりました。お休みの時間に話していましたら、ここと同じことをおつしやつて、指導者がボス的存在で何年も何年も同じ方で、同じやり方でその方を引きおろそうとしても誰も猫に鈴をつけに行く役がない。みな心では反撥しながら、おそろしさでその方に協力する。

中里　なにか婦人会の会長さんになるとか指導者になると得なことがあるのですか。それとも名誉心ですか。

牧　名誉心ですね。

平　役員の順番制はいちばん婦人会の円滑な運営に必要ですね。

中里　ただでさえ女の方の集りはむずかしいですね。だから婦人会の会長さんは、やつぱり一人の方が独占しない方がいいでしようね。

平　勇気をもつてそれを引きおろす人がなければ旧態依然としていつまでも女性の地位は向上しない。そういう方に阻まれているからら。

中里　それで婦人会の会長さんはえらいとか、権威をある程度みなさんお感じになるのでしようね。だから婦人会の会長になることが嬉しいのかもしれませんね。

吉田　まわりがもたせるのです。民生委員とかみなもつてくる。そんなことをできる人はよつぽど暇で、やりばりあの方でなければできないわね、ということになつちやう。

中里　すると、ある程度暇がないとできないですね。

吉田　まわりがしちやうんですね。

風間　だからこれは婦人だけの問題でなく、ほかの人たちのやり方にも問題がある。婦人会を利用したい人たちが、そこにいろいろなものを押しつけてくることに問題がある。

原田　それは払いのけたらいいと思う。民生委員だつて、立派な候補ございますでしよう。町内会長をかねている人がある。うちの後援会に入つてくださいとくる。私は政治にはタッチできないとおことわりしている。はつきりおことわりしましたが、圧力は全然感じないできた。

中里　町内会長とか隣組とか婦人会とか、今でも方々の都市にございますか。

一同　あります。

中里　私、逗子ですが、私のところは、町内会がどうしたとかはございません。ただチブスの注射をするとか紙がまわつてまいりますけれども、そういうのは市役所から住宅のある区域の方のところにくるのでしようね。私のところはいつもおしまいに回つてきますから、とんでもないところに返しに行きますが。

牧　私たち、保険の集金から、みんなしております。

風間　リベートをもらうと、私どもの婦人会は新聞の集金もやる。それから国民年金、国民健康保険、ですからいろいろなものの下請をやる機関になつて、またその仕事をしなければならない人が出ますし、当然市役所がしなければならない仕事をしているわけです。この間も県内の会合で私は、人件費を払つてもいいから専門にやる人を雇つてもらわなければならないと言つた。

中里　そんなに婦人会が利用されるのはいけませんね。

牧　それでは煩雑です。

由井　それで婦人会に市役所から補助金をもらうのです。

牧　人件費が要らないからそれを婦人会に割り当ててくる。それでリクリエーションに行くのです。

吉野　私、前におりました婦人会では、会長さんはそんなに忙しくなかつた、というのは、文化部とか、厚生部とかに分れておりますので、グループ会合は、部長さんがいらして責任をもちますから、会長さんがいらつしやらなくても運営できる。赤い羽をやれば、社会部が中心になつてやりますし、リクリエーションもそうです。役員も多いほどいいとおつしやいましたが、私のところも、三百五十名の会員で七十名からの役員がいた。それが各班ごとにおりまして、毎年改選します。それで国民年金の集金の問題もやれたらやるので、一年の事業目的を決める場合に、奉仕を何パーセントにするか、教養とかお勉強をどのくらいにするか、決めまね。俳句も短歌もお花もあります。ですからみんな出ようと思つたら一月に十何回あるのですけれども、その一月の中で、役員会はぜひ出なければならない。出たいのを二回か三回にして、その中で一日の計画を立てる。そうしますれば、婦人会の会長さんが忙しいなんということはないんですよ。みんなが分担するから、偏ることがないわけです。ですから読書グループなんかでも、初め十人位からだんだん会員がふえて、読むばかりでなく、感想文を書くまで発展した。はじめ少なくてだんだんふえてゆくほうがいいと思う。

中里　オブザーバーの方はみなさん組織をもつていらつしやるようですから、婦人会について伺つてみましよう。

原田（特別オブ）　やはりこの頃働いている婦人も、家庭をもつている方が多いですから、労働組合の仕事なり婦人部の会合に出てくるのは困難が多い。それをどういうふうにして引き出したらいいかということが下部のなやみの種です。そのことは婦人自身の意識の点と家庭婦人の育児とか家事に対する社会的な施設や保障が少ないこと、婦人自身が社会的な自覚がない、自分個人の家庭のことにかまけている、意識の低さ、自覚の低さ、そういうことが家庭の奥さん方にもひとつ共通の問題としてあるんじやないかと思う。

岸本（特別オブ）　婦人有権者同盟は目標がはつきりしているのでその理解をされた方、婦人の選挙権に関心をもつ方がやつておられるので、人数としてはそう多くございません。一部の人の働きじやなく、婦人全体の問題だから、みんなが入つてほしいのですが、そうするには今までやつた運動だけだとある程度専門的にな

り一般とつながりにくいので、別な面の動き方をしなければならないのでないかと考えているわけです。私、世田谷で勉強会をしておりまして、役所の圧力がかかるとか、地域の選挙の場合に圧力がかかるとかは感じたことはないのです。地域とか町内ぐるみの団体ということになりますと層が広くなりますので、目標をある一つのものにもつてゆくことはできないと思う。そうすると会としての性格が弱くなると思います。私がやつている勉強会は、PTAから発達したもので、子供が卒業したお母さん方が四、五人集まつて呼びかけているうちにだんだんふえてきた。今、毎月一回定例座談会みたいなものをしていますが、そのほかに一月に三回くらい講座をもつている。日本史の講座は二カ年計画で毎月一回ずつ、二百人くらい集まつている。文学の講座なども長期計画でやつたりしている。組織としたらピラミッド型の会長をおく組織では全然なくて、私がただ形だけの中心で、みんな責任をもつている。

私いつも感じるが、会は組織そのものよりも中の人による。入つている人が自覚がない限りは、どんな会でも巧くいかない。結局は組織といえども人だ、と思つております。

宗像（特別オブ）矯風会は特殊な会で明治十九年に発会された非常に古い会ですが、婦人の人権を守るということを第一にしたもので、つまり国から売春をなくす、純潔、青少年の性の勉強、それから平和と排酒ですが、青少年を酒たばこの害から守るということも続けてやつておりますから、ほんとうに自分でやらなければならないという自覚をもつて集まつている人たちなので、人数ははあまり多くございませんが、なかなか活潑でございます。

しかし、やはり家庭の主婦が多いので、子供さんがあつてててこられない人が多いのが、一つのなやみでございます。それで、子供さんを預かる方法を講じようじやないか。誰かがお守りを受持つて、なるべく出ていらつしやれるようにしようと考えておりますけれども、なかなか会合に引つ張り出すことがむずかしい。地域々々において、みなさんに働いていただくのでございます。

それから、すこし高級なことを言うものですから、生活から離れてゆくきらいがあるわけです。それで実生活に即したことをしてゆかなければいけないと、一生懸命やつております。

私はまた文京区の未亡人会の会長でございますが、これは未亡人が手をつないで、余裕のある未亡人が余裕のない未亡人を助けてゆこうという相互扶助もやつております。東京は地方とちがいまして、私のところは全然町会はうるさいことはございません。まことによそよそしいといえそうな状態でございます。

原田（特別オブ）　みなさんのお話伺つておりますと、大体婦人会というのは地域婦人会だと思いますが、その場合に地域的組織というのは、網羅的な、どなたでもその会の目的がわかつていてもいなくてもお入りになる組織だと思う。そういう組織は、団体は大きくても、会員の一人一人が自覚して賛同して入つたのでないから、やりにくい。それから圧力の問題は、そういう組織を作つたのが戦前の隣組を作つたように、町の顔役とか権力者がある目的のために利用しようとして作られた面もあるし、利用し易い、無目的なものですから圧力だけがかかつてくるのではないかと思いますので一言。

中里　ほんとうにそうですね。婦人会というのは、はつきりした目的があつた場合は別ですが、ただ住んでいるからまわりの人たちにお入りなさいというのは困りますね。入らなければ自分だけ仲

間外れになつたようになるわけでしょう。

吉田　関連して。総評の原田さんがいらつしやるので教えていただきたいのですが、労働組合の婦人がやつぱり地域婦人会と手をとらなければならない。地域婦人会というよりいろいろな婦人団体と手をとらなければならない問題があると思うのです。保育所の問題なんか、私どもは労働組合の婦人といつしよにやりたいのですが、たいへんやりにくいのです。それと労働組合の中にも、総評とかいろいろありますでしょう、それが一つにまとまつて、婦人の立場で団結していただけないものか。

原田（特別オブ）　いまおつしやつた意味は、総評とか同盟とか別々だということですね。それはほんとうになにかやる場合にはなやみの種です。ただ、労働組合の目的や行動にも当面の方針があつて、それが、同盟と総評ではちがうことがあります。具体的にいえば、同盟が賛成した問題であつても、総評では、労働者の目的に反するものだつたらいつしよにやれない場合もある。ところが、地域に保育所を作ることについては利害は対立してないからやはり地域でやる時には婦人会の方も総評の方も、いつしよにやらなければならないのだと私は思つております。

吉田　なにかお流しになる時に、全国的にそういう団体と手をつなげる問題は超党派じやないが、すべて乗り超えて、母親として、子供のために団結しましようというようなことを打ち出して、いただきたいと思うのですが。

風間　私が言いたかつたことは、いま幼稚園という名の下に子供を預つている施設が、食事の代りにパンと牛乳をやつている。九〇％のお母さんが、おべんとうをつくらない。どうしてかというと回答をくださつたお母さんの六〇％が内職に追われているという実情にあるわけです。子供たちが充分な栄養をとつてないという事実がはつきりしたならば、なんとかしなければならない問題だということを感じていたわけです。みんながただそれを幼稚園に押しつけているが、幼稚園の限界を超えて、完全な保育をしなければならないという問題です。しかも、お母さんたちの労働力がそれだけ社会に必要となつている。一方こういうふうに子供が栄養も充分にとられていないような状態だから女の人たちが家庭にかえれといわれることは非常に危険だと感じている。女の人の能力を伸ばせるところは伸ばさなければならない。実際労働組合も必要とされている事実ははつきりみつめなければならない。その際、お母さんたちの要求が少ないと思う。社会に労働力を提供している限りは、子供を完全に育てるために社会でなんとか見てもらいたいという要求が充分出されなければならない。そのために連帯感を大事にしたい。私が研究をある園で発表しましたら、私の家ばかりそうしているのかと思つたら、と言うお母さんがたくさんある。給食が始まつて学童の体位がよくなつた反面、脱脂粉乳とかいろいろな問題が出ている。それに対して賢こい対策がなされなければならない。母親の手で作つたと同じ愛情のこもつたものが作られなければならない。監視の目も光らせなければならない。その場合、ことに労働者の場合、時間もありませんし、職場で要求している問題とくつつかないが、どうしてもやつてゆかなければならないと考えます。

ここには子供を育て上げた、お孫さんの代の方が多いと思いますが、ぜひ連帯感をもつて解決の道をみつけていただくようにお願いいたします。

中里　ほんとうにそうなんですね。そうしますと共稼ぎのお母さん

たちが多いから、働くためには子供を見てくれということでしょ中には食べられないから共稼ぎしているのじゃなくて、自動車も買いたい、旅行もしたい、電気器具も買いたいために共稼ぎしている方もある。そういう場合、自分はそういうものを買いたいために働いても、子供の世話はお願いしますというのはちよつと虫がいいという気もしますね。

風間　そういう事実もたくさん私、見ております。ただやつぱりここで、女の人たちに自主性がない。消費の問題も、やつぱりそれが出ていると思う。お隣りがなにを買つたからうちも買うということで、月賦に追いまくられるから働らかなければならない。

それから、簡単にとびつける下請工場がずらつとあるのです。行けば何百円かにはなる。安い労働力を使おうとしている傾向がはつきり出ていますし、一旦間口を広げた家計をつめることはたいへんだということもあるので、お母さんたちに、家に帰つて子供を見ろということは言えないし、言うべきことではない。もつと自主的な生活をする方向に、そこで読書やなにかの内面的な精神文化の問題が重要な地位を占めてくるのじやないかと考えております。

中里　働くということが、外に出てお勤めをするのでなく、家の中で黙々と働いている人たちがどんなに多いか、それが大部分だと思う。ですから、ただ施設がないから働らくお母さんたちが不幸だとか、そういうことばかりじやなくて、私たちが言う隣人愛というのはやつぱり人の生活を思いやるということですね。

風間　私は育児だけじやなくて、レジャーを楽しむためにお金がほしくて働いている人も、黙々として家庭で働いている人の子供も同じようにこういう栄養的危険な状態にさらされているという事実は隣人愛に通ずると思う。現われた事実を摑んだ場合には、それに対して手を打つことを考えたい。そういう意味合いも含めています。子供たちを仕合せにするという意味ではずいぶん別な立場からも手をさしのべられるということも考えていただければと思います。

萩野　私も子供の問題で、施設、遊び場の少ない問題が出まして、その時、現在の社会はそれこそピアノとかオルガンに情熱を注ぎながら、その子供はかまわない、その異常さ。もしその情熱を施設に注ぐなり、学校を建てるという運動に注いだなら、一県に一つの学校が新しくできるということを話していました。

私たちが婦人会とかいろいろな集まりにかなりたくさんの意見を活潑に出される、そして代表者が、たとえば学校にこういうことはしてもらいたくないとPTAの役員会に行つて意見を言いますと、異議を言つている、非協力的という目で見られます。そういうふうに運動すると赤だとか、出しやばりすぎるというように全体的に見られます。それで会には行くが、先頭に立つて交渉に行くのはいやだというお母さんが多い。連帯的な社会感が薄い。だから結局みんながいいと思うことは団結して、社会的に通用するところにもつてゆくべきだ。ただ会合だけでガーガー言わないで、上に言つていかなければなんにもならないと思う。

鈴木　さきほど婦風会の宗像先生から未亡人のことについておつしやいましたが、そういう会があることすら知りませんからー。

中里　それは個人的にお尋ねになつてください。

ほかの話題に移りたいと思うのです。私たち、戦後は、なんでも古いものは悪いと思つて、なんでも捨ててきた傾向があるのですが、古いからいいということじやございませんが、伝統をもう

一度見直す必要があるのじゃないかと思うのです。

川本　最近、古い伝統の中では、ひな祭とか七五三、五月節句と、地方中央を問わずマスコミなどでもずいぶん盛んになつてきましたが、その反面、ローカル色のある地方行事はだんだんすたれてゆくと思います。結局そういうマスコミとかメーカーに踊らされて無批判に偏つてゆくのじやないかと思いますが、そのことについてみなさんのお考を伺いたいと思つております。

吉田　道路のいいのは結構ですが、そのために文化財、いろいろな遺跡などを掘り返して、あとで問題になるでしょう。なにが大事か国のリーダーたちが文化財を大事にしてほしいと思う。

中里　ほんとうにそうです。こわしちやつてから……。

三嶽　伝統というの、私、視野がせまいので、家の仕来りとか行事とか、子供のしつけに小さくまとまつて考えたのですが、それを文化財とか工芸品とかに大きく広げて、それはどういうことがいいか、その伝統をどう存続させてゆくかということはいろいろの考があると思いますが、先生でも……そういうふうなところを、例を挙げてお話ししてください。

中里　無形文化財とか、いろいろ技術をもつた方がありますね。あるいう方は、生活的には成立たないらしい。精魂こめても、量としたらたくさんできない。一日に一寸彫れるか彫れないかという技をもつた方がいらつしやいますが、今の生活でしたら無形文化財の名誉をもつても立つてゆかれない。やつぱり機械かなにかで大量生産で安く売らないとあれなんですね。

いいものを保存しにくいと地方なんか旅行した場合にほんとうに感ずるのです。たとえ保存してあつても、そういうものはそういうものとして保存してあつて、その地方の人の生活とはなんの関係もなく、ただ保存だけされているという場合をよく見ます。これは私たちの力でほんとうにいいものだから保存したいといつても、なかなか個人だけではできません。それこそ政治力で解決しなければならないでしようね。政治力だけでもないんですね。いいものはたくさん出来てたくさん売られて、はやつているものがいいと思い込みがちのようですけれどもそうじやないということを考えていただきたい。

由井　奈良はご承知のように古文化財の宝庫で、国宝とか古文化がたくさんございます。それが工業化によつてあちこち掘り起こされて、古墳とか古社寺がどんどんこわされてゆくのです。県のほうにも古文化財保護委員会とか、奈良を守りましようとかいう会がございますけれども、横のつながりがないのです。都市計画で毎日ブルトーザーが入つておりますが、そういう会がありながら、何らの手も打たれない。だんだんこわされて、こわされてから問題が起こつてくるのです。

それともう一つは、その古文化財を保護するのに、財力のある寺なら自分の力で付近の土地を買い占められますが、財力のないお寺でしたら、古文化財の五重の塔の下に団地が建ち、工場が建ちという有様です。そういつた時に、普通地主さんが直接その工場なり団地なりに売る地価と、国が買い上げる地価とでは数段の差がある。そのため業者に土地が売られてゆくのですが、そういつた意味でこれはなかなか大きな問題で、政治の援助も大事ですが、その前に祖先が何千年という前から残してくれた大事な日本の国の宝物ですから、大事にしようという個々の心がけがほしいと思う。

そのはつきりした例が、東京の高校生が奈良に旅行にきて、東

大寺の戒壇院の持国天の剣を折つて捨てたことです。それから大問題で、お母さんや先生が奈良に呼び寄せられて尋ねられた時に三人のお母さんが、あんなのが大事なものですか、とおつしやつた。親子の話合いにおいて、こういうものがあるから見ていらつしやい、大事な国の宝ですよ、ということを一言おつしやつておけばあんなことはなかつただろう。失なわれてから惜しいと言つているのですが。

中里　鎌倉でも古墳をどんどん団地にするので問題になつて、鎌倉の文化人が会を作つて陳情したりしているようですが、個人の地所をどうすることもできないらしいんですね。まことに矛盾した不思議だと思うことがたくさんあるのですけれども、個人ではちよつと守りきれないんですね。

それから京都の駅の前にすごい塔が建つてとても問題になつて反対してはしいと、私みたいな京都に住んでない者にも回つている。よく見ると、京都の方は反対してないんですよ。地方の作家やなにかは全部反対ですけれども、地元でこれはと思う方はあまり介入していらつしやらない。先達も京都に行つた時聞いたら、地元の有力な方がやつたことらしいですね。それで地元にいる人が真向から反対すると摩擦があつて困るので、とんでもない私たちのほうに回つてきたというわけです。文化財の保護には、生活する上で摩擦になるような障害が入つているのですね。

牧　私のすぐ近くに団地がたくさんできました。こんども団地を作るのに掘りましたら、布に包んでやいた瓦がたくさん出てきて、すぐ近くが近江の二千年前の国府跡だということがわかりました。

私どものところも奈良県と同じで、古文化財がたくさんあります。三井寺とか石山寺とか。だから私たちが身近な文化財をもつと研究し、また他府県から来られた方にも、傷つけたりしないように、積極的に勇気をもつて言う勇気をもちましようという話合いをしましたが、まだそういうものに対する研究が私たちには足りないと思います。

中里　それから名所旧蹟に行つた場合に、自分がここに来たという印をつけたがる心理が誰もあるのですね。あれはやつぱりある程度おさえなければいけませんね。

牧　それからたばこのマツチをなにげなく捨ててゆかれるということ。

萩野　私、東京に来て二重橋や外濠を見て、あれだけ広い土地を遊ばせておくのもつたいないと思いました。あすこに住宅建てるということがありましたが、

中里　私はそういう場所が一カ所ぐらい東京の真ん中にあつていいと思います。合理主義で押してゆけば、宮中のものだけにしておくということはないでしようが、やはり国として考える場合に、そんなに一寸の土地も余さず家を建てるなど、ちよつとケチな根性ですね。

鈴木　実は昨日の老後の人生に続くかもしれないのですが、親子三代うまくゆきたいとか、いける方があるとかいうようなことを伺つたのですが、こちらはわりあい年令層が高いせいですか、みんなうまく、ことに希望も、もつております、可能性も感じていますが、ほかの部会は若いので、頭から拒否なさる方があつたそうでございます。ですから日本の伝統としては、そういつた大家族制、そういつた伝統を守ることはどういうふうにして……。

中里　守ればそこの家は守つてもかまいませんけれども、みなさんどこのおうちでもというわけにはいかないでしようね。

由井　わたしたちの年令になりますと祖先から続いて使つてきた道具とか建物にものすごい愛着を感ずる。柱の傷一つにも、どんなにした時の傷だつたと、これから心の安らぎを求める年令です。ところが若い世代の人たちは少々薄つぺらでもきれいなところに住みたい。年代の相違ははつきりしているから、そこは話合いで、いつしよに暮らすもよいし、勉強するのもよいし、ということじやないでしようか。

萩野　私の家は姑と私と子供、結局三代いるわけです。姑が八十です。高校に行つている子供が腰かけて勉強している。おばあちやんは自分の机がありまして、骨董品で、私たきものにしようと思いましたらとてもおこられて、いわくのある机だからと、お兄ちやんがいやがるのを無理に使わせとく。子供とおばあちやんは、六十年の開きがあるが、その子供をふところに入れるように大事に育てかわいいはずですが、意見は衝突する。特にうちの姑は古い人で、わたしは後妻でもあつたし、姑とうまくいかなかつたほうです。

最近になつて、姑も一度弟の家に行つたが、うちよりもまだ住みにくくて帰つて来て、ここで辛棒しなかつたら行くところがないと私にも言いましたが、結局その血のつながつた孫とさえ意見が合わない。家でも広かつたら、きれいにゆくと思いますが、うちのように貧しくて、二間しかなくて、おばあちやんと孫といつしよにおりますと、しよつ中けんかしている。ラジオでも、子供はジヤズが聞きたい、下の子供はテレビをかけると、おばあちやんは年中がらがらいわれて面白くない。よくわかりますよ。

中里　そういう問題は多いですね。

萩野　だから一軒の家に三代おるというのは、経済的ゆとりがあれば成立する。

中里　ですからそれはいいとか悪いとかの問題じやないんです。

古川　私は一軒の家の中の伝統についても、いいものは残してゆきたい。たとえばお正月に〆をかざり、お鏡をかざる。節分には豆まきをしたり、お盆とかお彼岸などいい行事だと思うので、きちんと守つて、子供にも守らせて、子孫にも伝えてゆきたいと思います。

中里　おうちの中で、いいと思つてなさる方はそれでいいでしようね。かならずしなければお前は悪いのだというようにならないようにね。

吉田　私の場合、お母さんがクリスチヤンなのです。すると、お盆などの問題が分れてくるわけです。

古川　私も実家は神道ですからお盆なんかしたことないので、知つてはおりますけれどもピンとこない。毎年お盆になると、何日かしらと一生懸命見てぬかりのないように心の準備をしてやります。

城下　そういう場合、信仰の伝統というつながりはなくなるのですか。

古川　私のは、実家といまの家です。節分など、迷信かもしれませんが、なんとなく気分的に、冬から春になるということで、さわやかに心が温まつてくると思います。子供に大きい声で豆をまかせますが、最近ご近所ではなさらないところが多い。

中里　だんだんとああいうことがなくなりましたね。

吉田　そのかわり子供の日とか母の日とかね。

古川　古いことでも、いいことは心豊かになるし、残してゆきたいと思いますね。

城下　父がほんとうの信仰家でしたので、伝統的な教を受けて、な

にかそういう態度とか行動は私には表面的には表わすことができなかつたけれども、わたしが捨石になつて子供についでもらつたような形なのです。つないだものを見てはじめて伝統ということになると思います。

中里　あなたの場合はそうだと思います。それで親が仏教だから子供も仏教だというわけにいかないですね。今は、子供はカトリックとか、いろいろになつておりますね。

城下　別に神教とか仏教とか、信仰心に差別はなくても、血の流れといいましようか、心の流れを途中でせきとめられた形だけを見て一つの流れと見られたらそれは伝統でなくなつちやう。

紀　結局初老に近い私たちの、子供たち孫たちといつしよに過ごしたいとか、自分の気持をついでもらいたいという気持をよく考えてみると、自分が嫁の立場の時にやはり祖先を尊ぶ、自分の舅、姑を大切にして見てゆく、それがうけつがれるのが一つの精神的な伝統であろうと思う。

それを考えると、今からの人が、親子別居でもいいし、同居の場合でも、老人を尊ぶとか祖先を尊ぶという精神的な伝統、家庭のよい風俗習慣をしつかりと家庭の主婦が身につけて、それをゆずつていかなければいけないと思います。

中里　今日お話伺つて、別段これといつてまとまりませんけれども、あとでめいめいの環境なり性質で、そこに残るものは残りますし、また問題が起こるだろうと思うのですよ。まとまりがないようですがずいぶんいろいろ伺いましたから、これで一応やめます。

宗像（特別オブ）　伝統のことについてちよつと一言しておきたいのです。

日本くらい歴史を粗末にする国民はないと思うんです。外国は非常に歴史を大切にするのです。古い古墳はたいへん大切にして、そこに行つたらとても自分のもののように大切にして、たとえばシエークスピアの遺跡は昔のままに残されている。ああいうものを見ますと、日本は歴史がたくさんありすぎるのでみんながありがたいと思わない。奈良の事件なんか、自分のことのように悲しかつた。ですからお母さんたちが子供に、歴史を大事にすることをどうぞ教えていただきたいと思うのです。

岸本（特別オブ）　ちよつと付加えたいと思うのは、日本人のものの考え方とか人に接する方法とか、とかく悪い面を多くおつしやつて、外国のように合理的にいかなくてはならないという声が多いが、去年スイスからお客様がいらつしやつて一月ぐらいごいつしよにいて、ごくあつさりおもてなししたのですが、それに感銘され、日本のそういうものをたいへん好きになつてくださつた。娘がスイスに行つているので、手紙で向こうの様子を言つてくる。あちらは、ものの考え方が非常に合理的なので、人対人の感情がとても冷たい。こつちですと、はるばるお客さんがいらつしやると、駅に迎えに行くが、向うでは一切しない。事故があつたり気の毒なことがあつても、日曜でしたら奥さんは決してご主人を外に出さない。日本でしたらなにをおいても行つてあげるので、うるおいを感じられるということで、スイスに行つてからそういうやり方を取り上げていただいた。

ですからいちがいに合理的なのがいいわけではなくて、日本にも、いい面と非難される面があるということを考えてゆきたいと思つております。

原田（特別オブ）　伝統の存続という点でお話が出たと思いますが、特に日本はこの二十年間、明治以後の百年間で、外国と比べよう

がないほど生活が変つている。ということは、結局生活手段が変つている。以前は農業を生活手段としている方が多かつたが、現在では三割近くなくなつている。そして工業が発達して、電気釜を使うようになり、この頃はモノレールを使うというふうに変つている中で、思想も変つてゆくと思う。

生活を変えてゆく推進力になるものの中に、創造と進歩があると思う。新しいものを作り出してゆく過程で古いものがこわされる。否定される問題も出てくるが、それが無選択にこわされているところに、いまの問題があるのではないか。奈良の古社寺のことなど出ましたが、自然にしてもそうだと思う。そういうことはこれからの教育政策と、もう一つはもつと身近かに自分の親から子に伝える気持の中に受けつがれてゆく、親の態度なり考え方をしつかりさせてゆく、この二つの面から、新しい創造、選択して残してゆくものをお互に勉強して、はつきりもつてゆきたいものだというふうに思つております。

以上